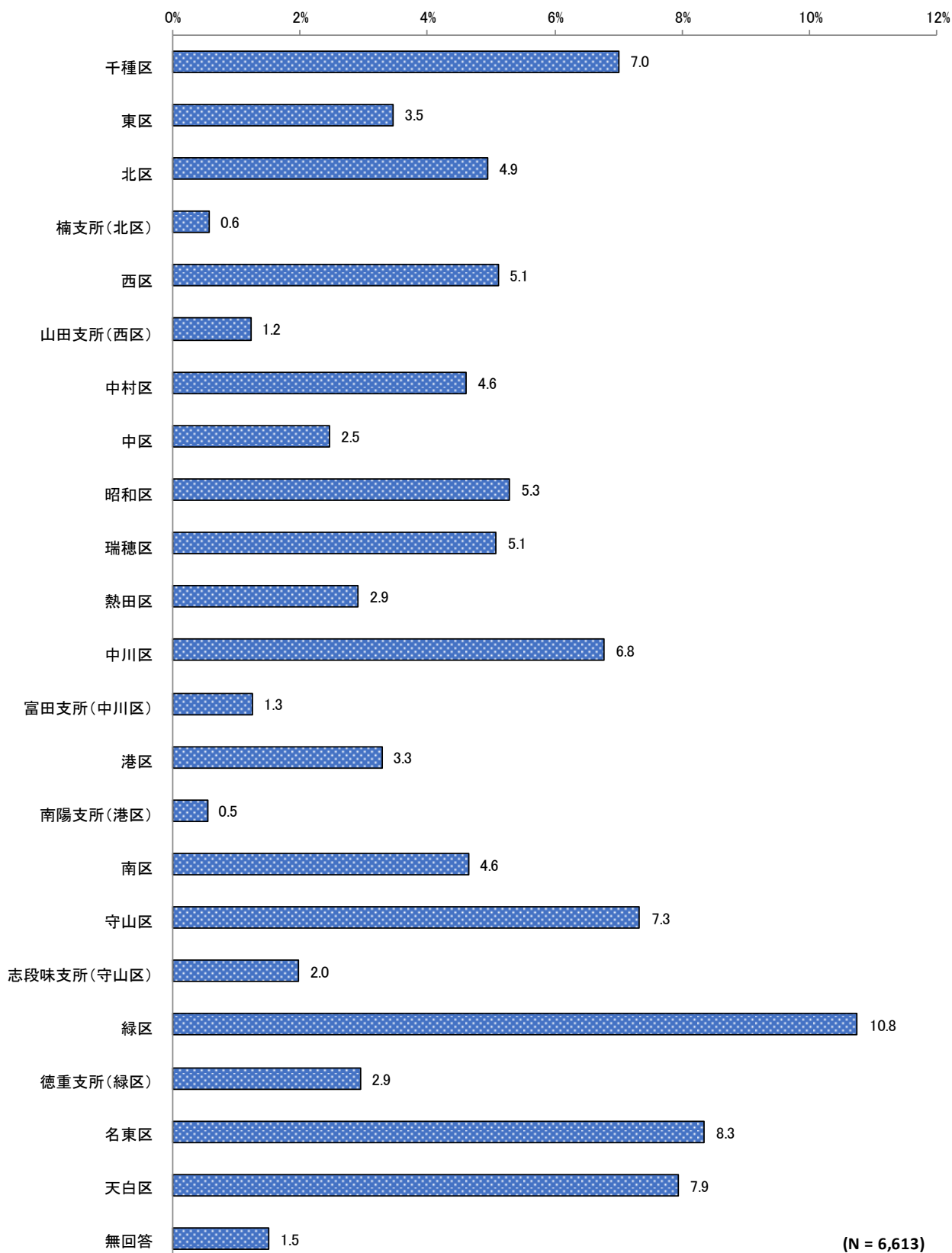


Ⅲ 子育て家庭調査

第1章 回答者属性（フェイス項目）の概要（就学前、就学後）

お住まいの区 【就学前 問 86・就学後 問 59】（ F1 ）

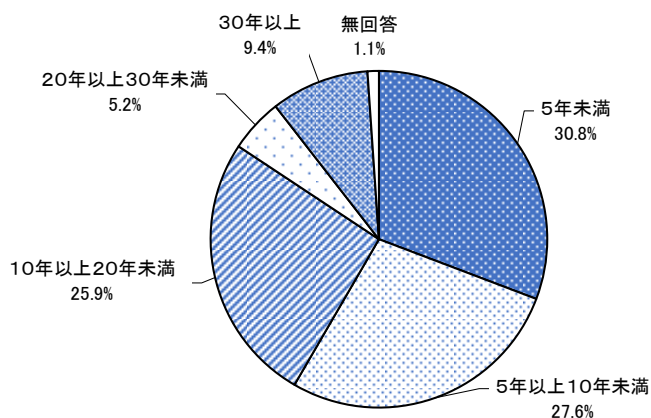
■あなたのお住まいの区または支所をお答えください。



お住まいの区での居住年数 【就学前 問 87・就学後 問 60】（ F2 ）

■あなたは現在お住まいの区に、何年居住していますか。（1つ）

	回答数	構成比
5 年未満	2,035	30.8%
5 年以上 10 年未満	1,825	27.6%
10 年以上 20 年未満	1,715	25.9%
20 年以上 30 年未満	342	5.2%
30 年以上	624	9.4%
無回答	72	1.1%
全体	6,613	100.0%

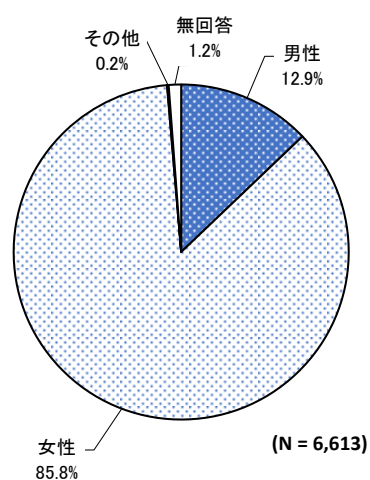


(N = 6,613)

性別 【就学前 問 88・就学後 問 61】（ F3 ）

■あなたの性別をお答えください。

	回答数	構成比
男性	852	12.9%
女性	5,672	85.8%
その他	10	0.2%
無回答	79	1.2%
全体	6,613	100.0%

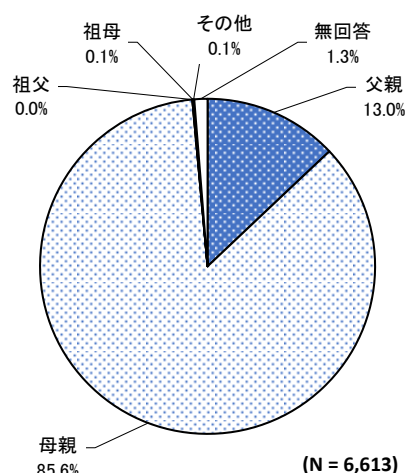


(N = 6,613)

お子さんから見た続柄 【就学前 問 89・就学後 問 62】（ F4 ）

■あて名のお子さんから見た続柄をお答えください。

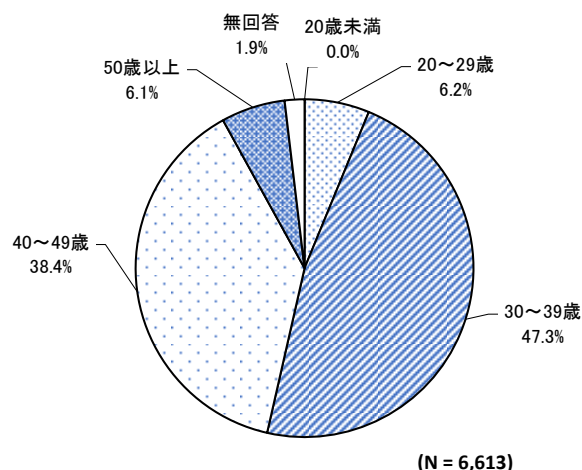
	回答数	構成比
父親	857	13.0%
母親	5,660	85.6%
祖父	0	0.0%
祖母	4	0.1%
その他	8	0.1%
無回答	84	1.3%
全体	6,613	100.0%



年齢 【就学前 問 90・就学後 問 63】（ F5 ）

■あなたの年齢をお答えください。

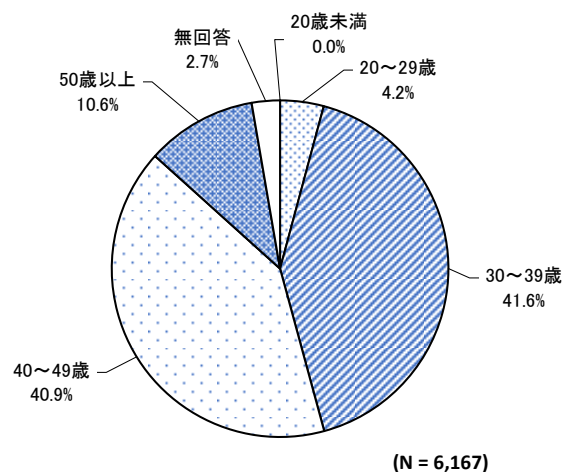
	回答数	構成比
20歳未満	1	0.0%
20～29歳	410	6.2%
30～39歳	3,131	47.3%
40～49歳	2,541	38.4%
50歳以上	405	6.1%
無回答	125	1.9%
全体	6,613	100.0%



配偶者の年齢 【就学前 問 91・就学後 問 64】（ F6 ）

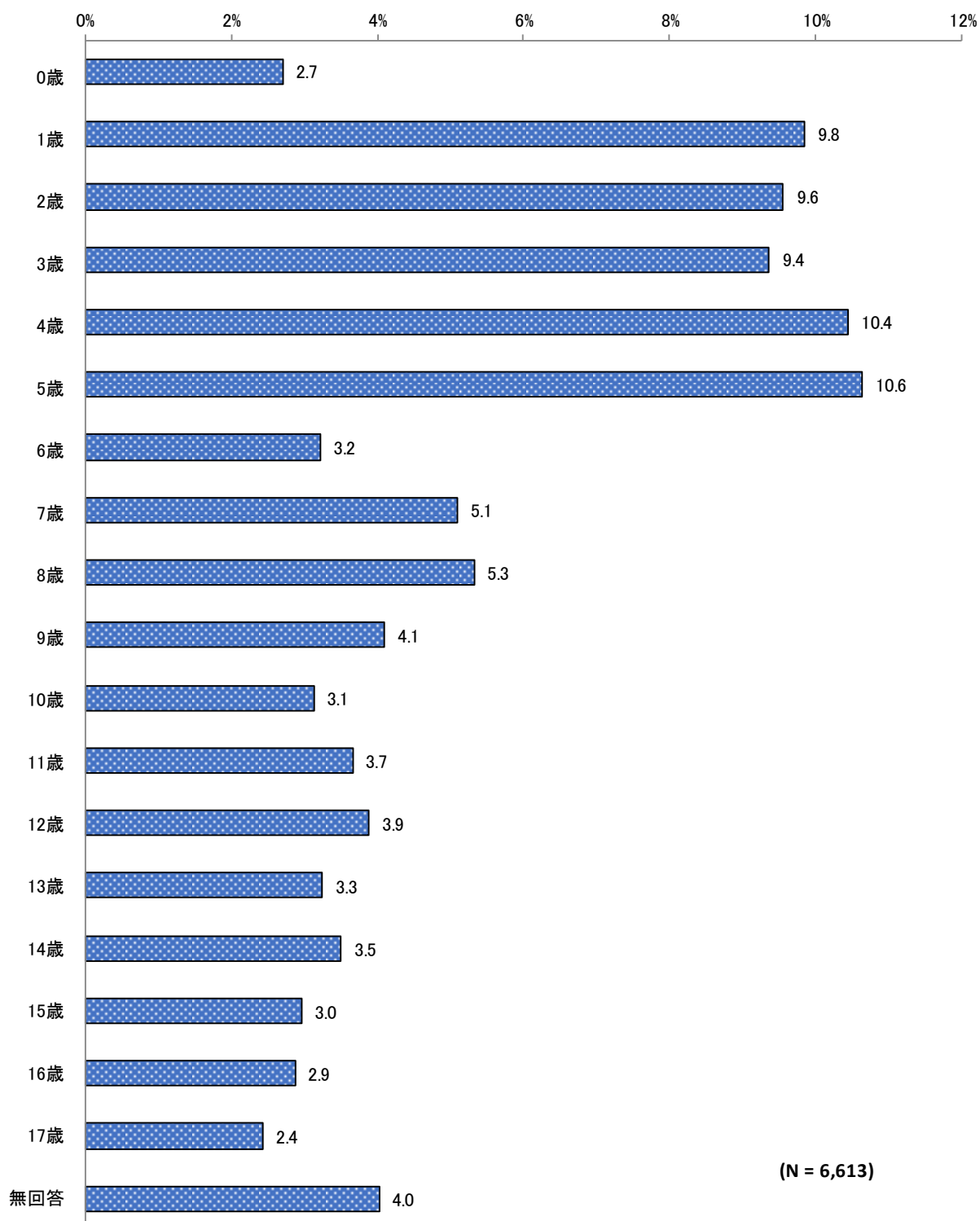
■あなたの配偶者の年齢をお答えください。

	回答数	構成比
20歳未満	0	0.0%
20～29歳	258	4.2%
30～39歳	2,565	41.6%
40～49歳	2,522	40.9%
50歳以上	655	10.6%
無回答	167	2.7%
全体	6,167	100.0%



お子さんの生年月日 【就学前 問 92・就学後 問 65】（ F7 ）

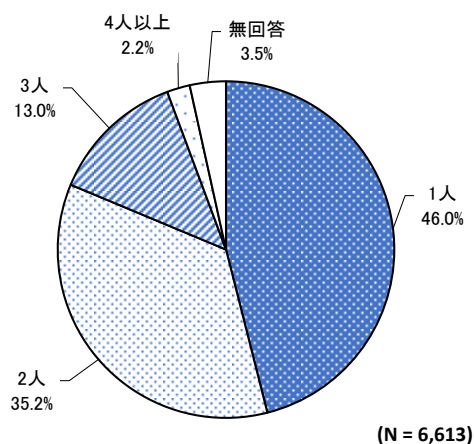
■あて名のお子さんの生まれた年と月をお答えください。



17歳以下のきょうだいの人数 【就学前 問93・就学後 問66】（F8）

■あて名のお子さんに17歳以下のきょうだいは何人いますか。（あて名のお子さん含む）

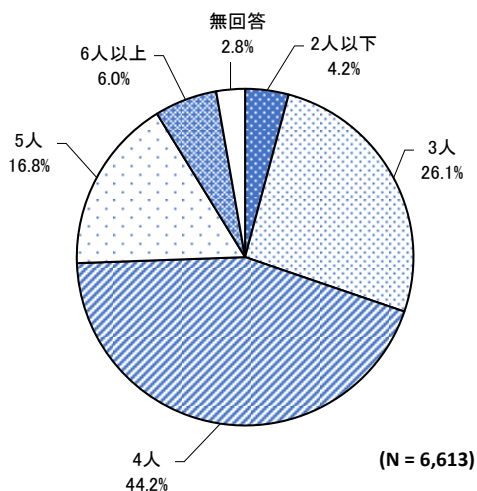
	回答数	構成比
1人	3,045	46.0%
2人	2,331	35.2%
3人	862	13.0%
4人以上	146	2.2%
無回答	229	3.5%
全体	6,613	100.0%



お子さんと同居されている方 【就学前 問94・就学後 問67】（F9）

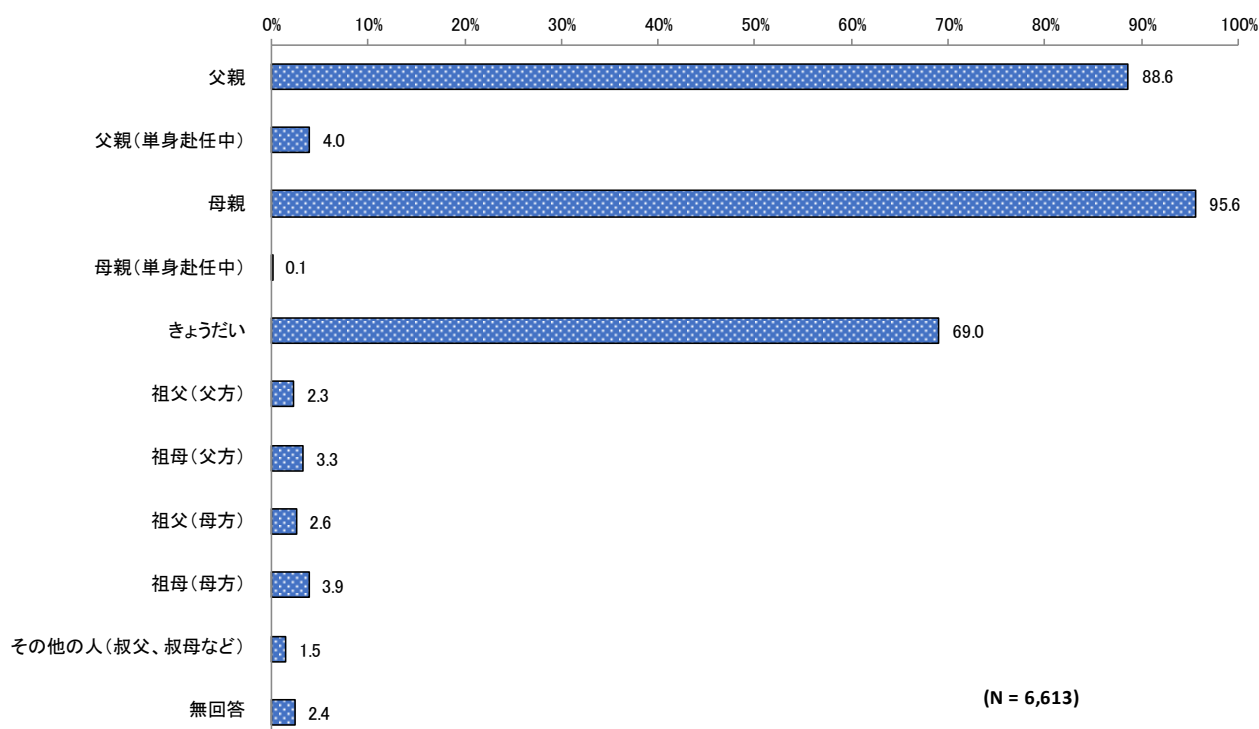
■あて名のお子さんと同居されているのは、合計何人ですか。

	回答数	構成比
2人以下	276	4.2%
3人	1,724	26.1%
4人	2,922	44.2%
5人	1,111	16.8%
6人以上	398	6.0%
無回答	182	2.8%
全体	6,613	100.0%



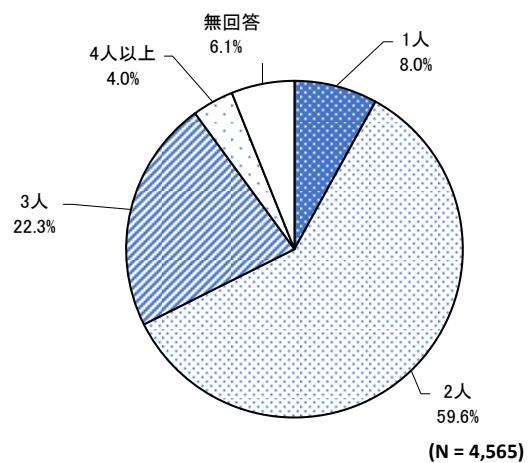
お子さんの同居人数 【就学前 問 95・就学後 問 68】（ F10 ）

■現在、あて名のお子さんと同居されている方をお答えください。（複数回答）



【同居しているきょうだいの人数】

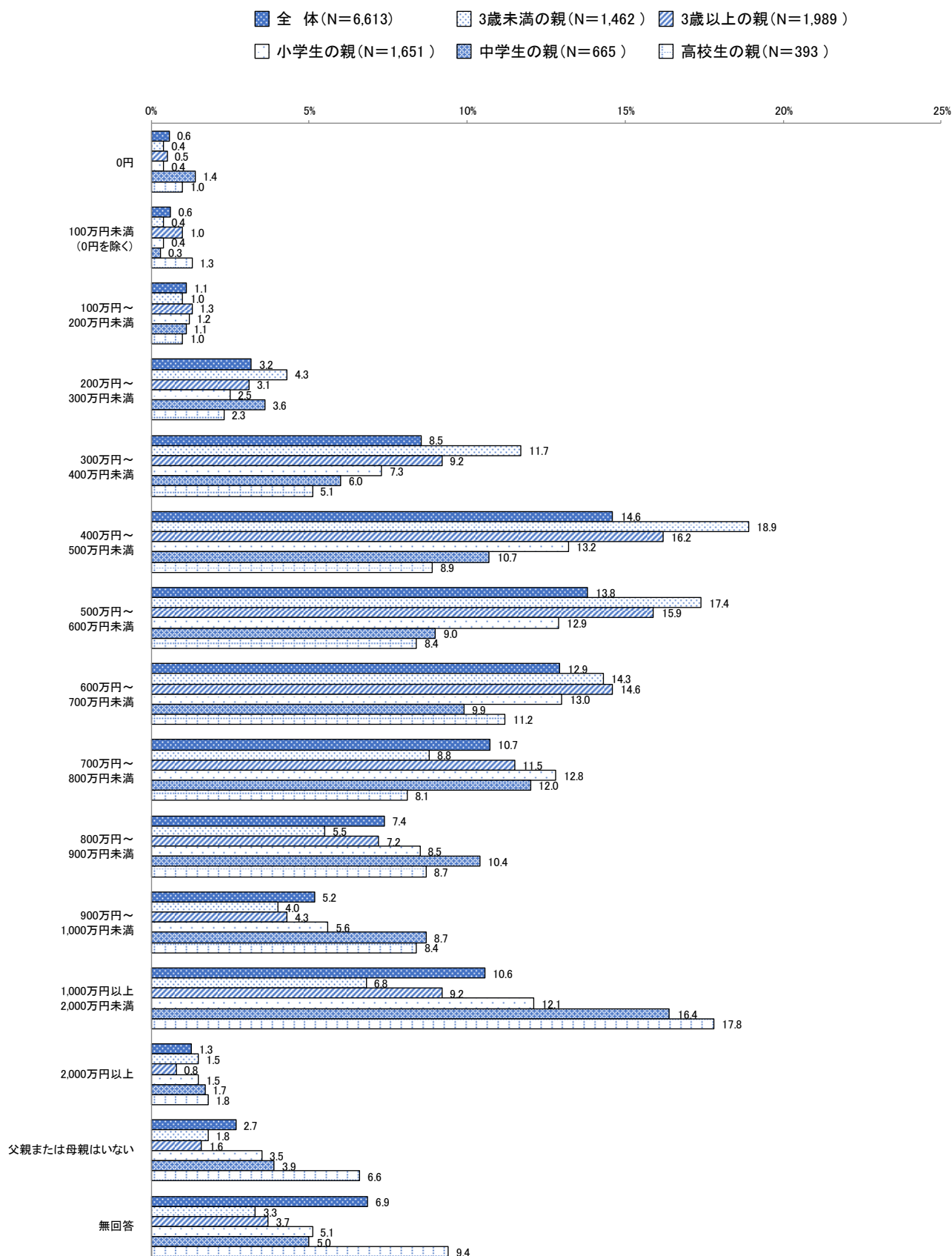
	回答数	構成比
1 人	365	8.0%
2 人	2,722	59.6%
3 人	1,019	22.3%
4 人以上	182	4.0%
無回答	277	6.1%
全体	4,565	100.0%



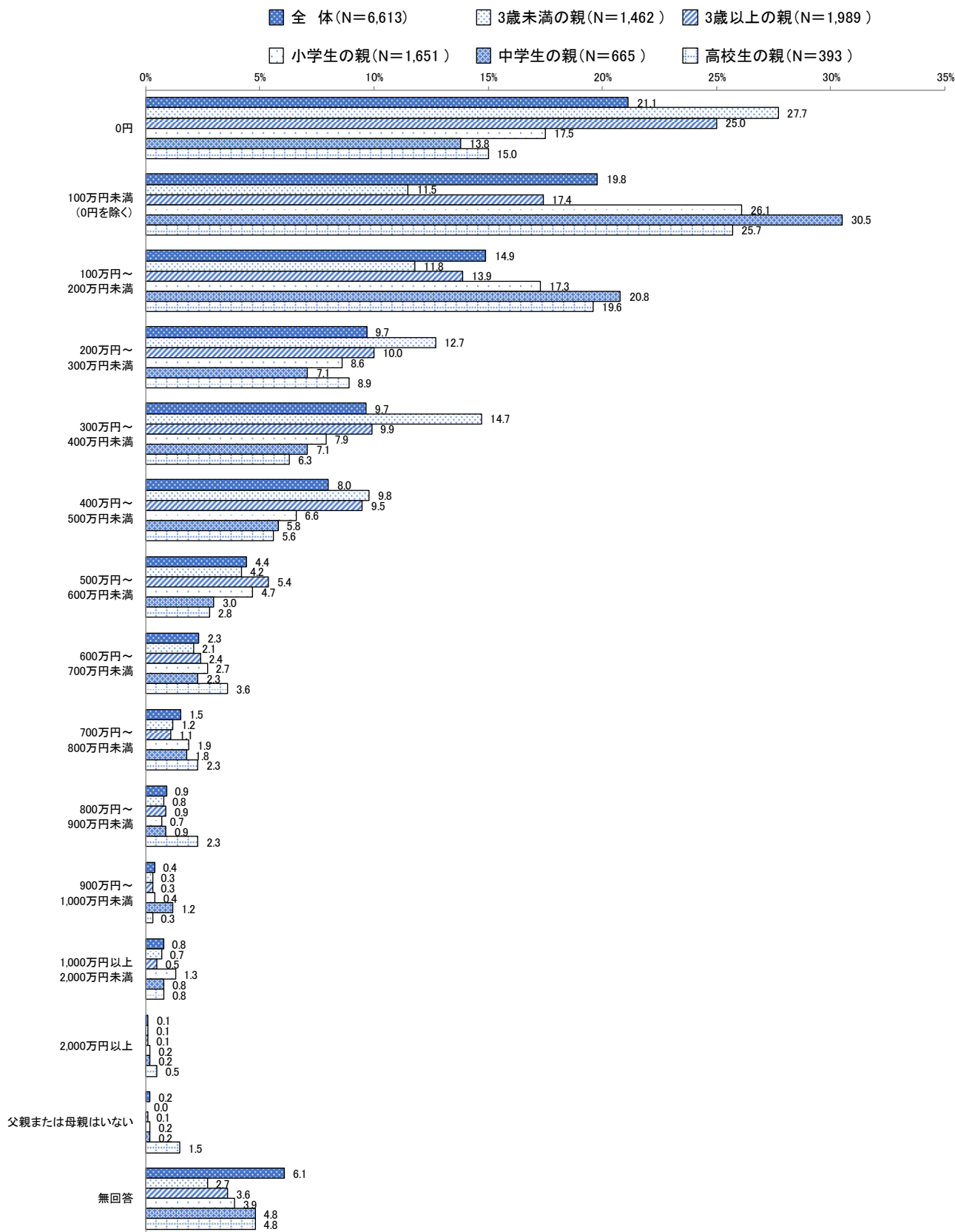
保護者の年収 【就学前 問 97・就学後 問 70】（ F11 ）

■あて名のお子さんの保護者のかたの年収についてお答えください。

（１）父親



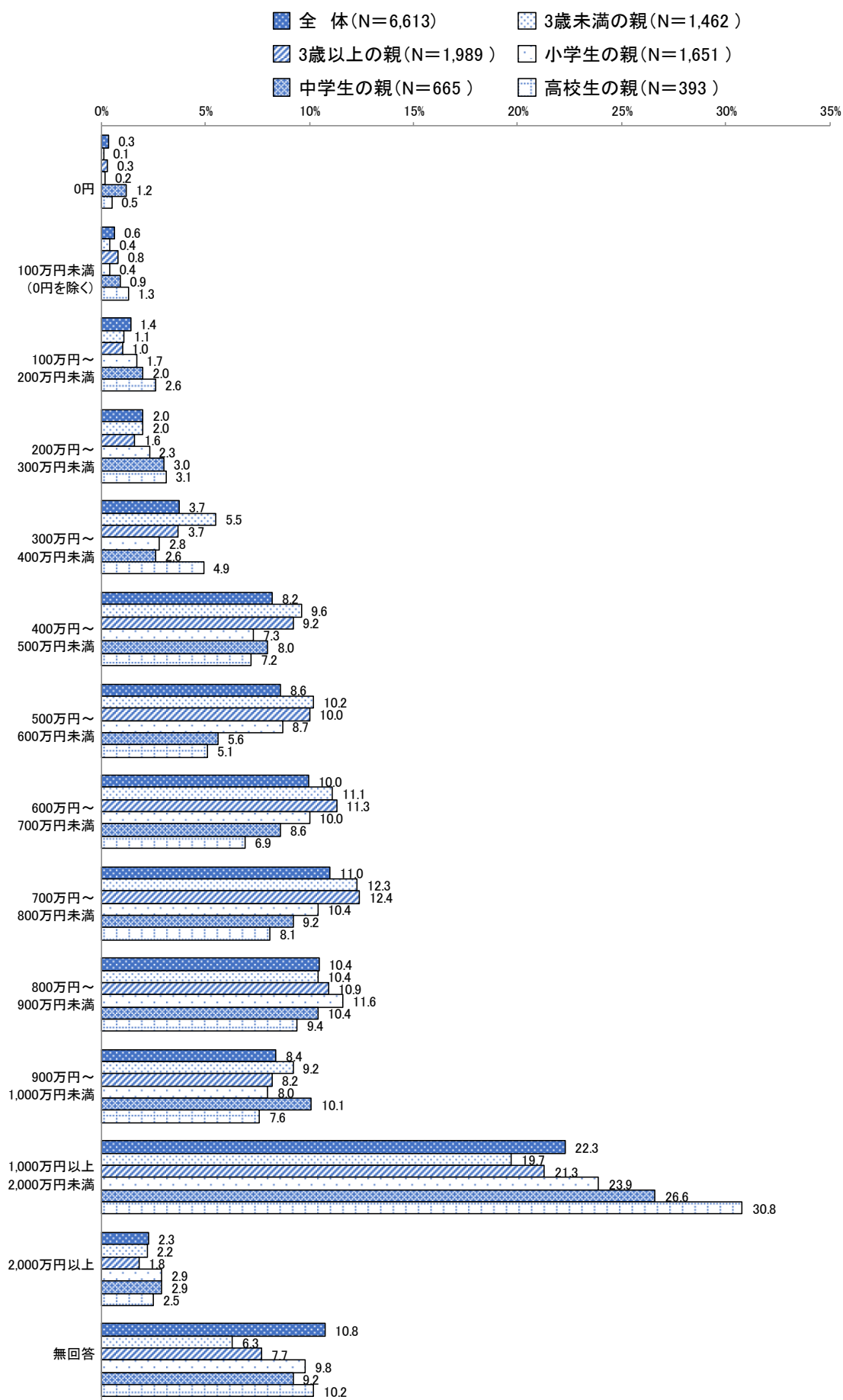
(2) 母親



※ (3) その他の保護者は、回答がなかったため割愛。

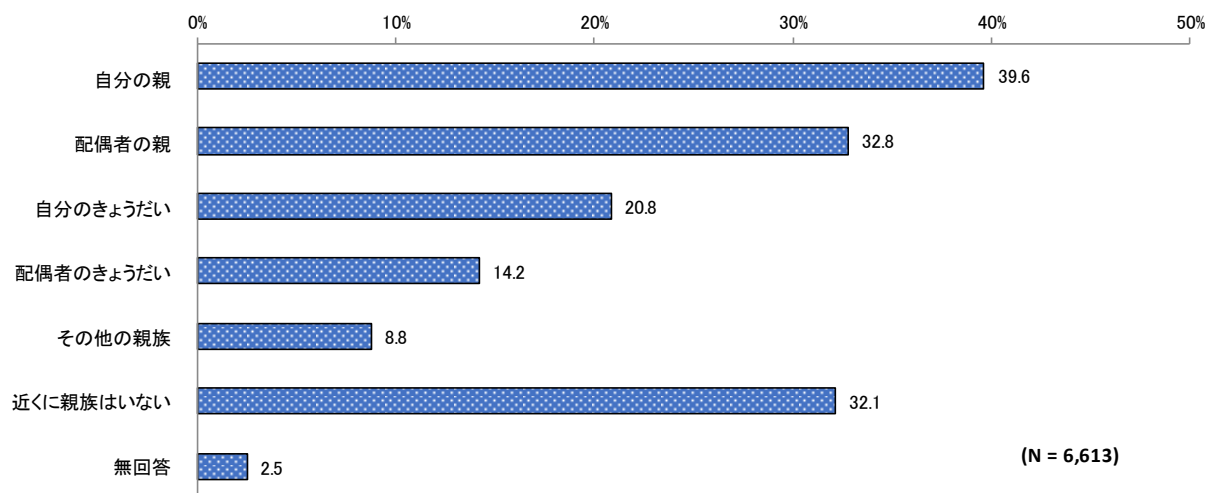
保護者の世帯年収 【就学前 問 98・就学後 問 71】（ F12 ）

■あて名のお子さんが属する世帯全員の年収の合計額についてお答えください。



近くに住む親族 【就学前 問 96・就学後 問 69】（ F13 ）

■ あなたのお住まいの近くに親族はお住まいですか。（複数回答）

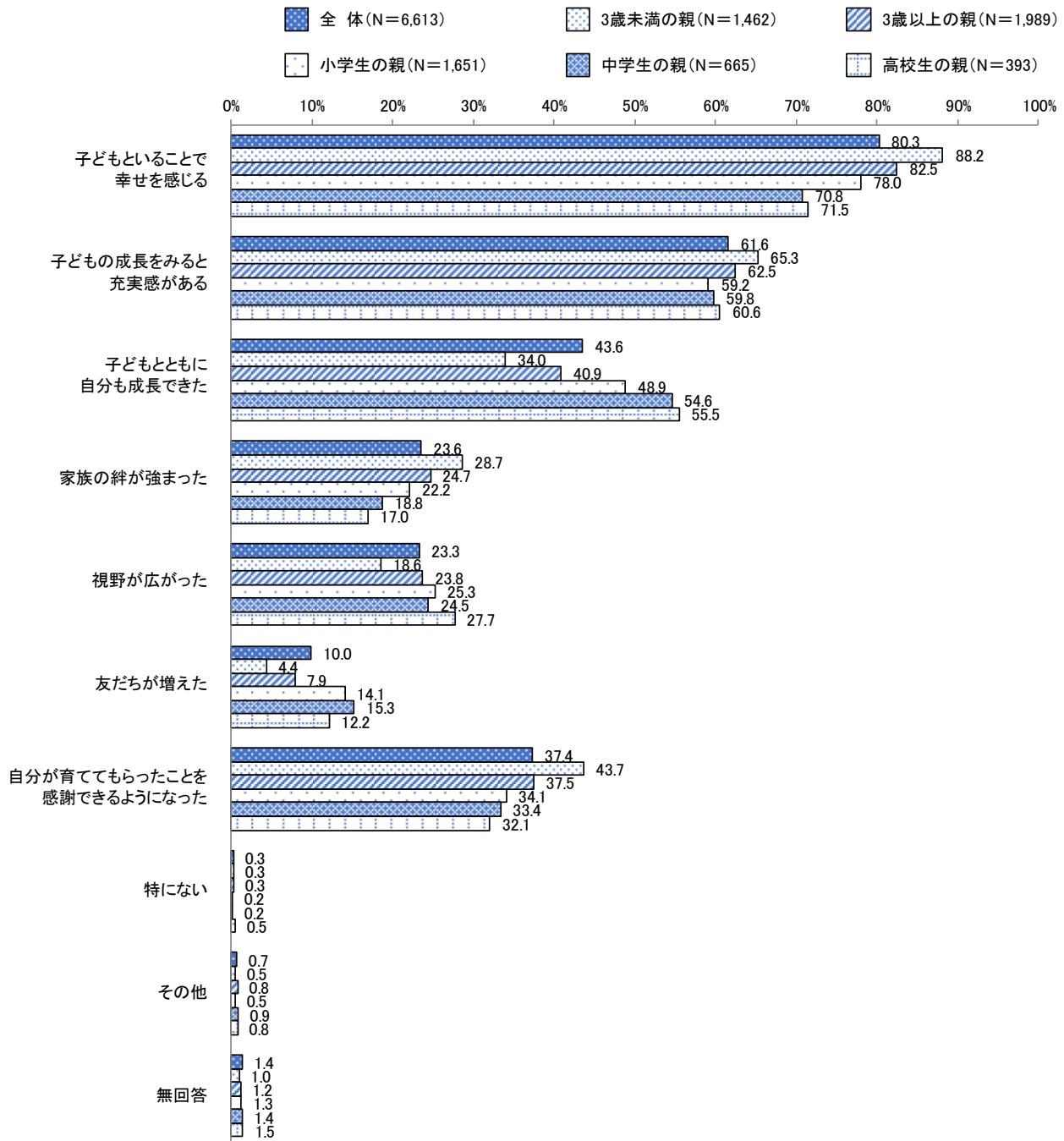


第2章 共通の質問（就学前、就学後）

子育てを通じて良かったと感じたことについて 【問1】

■子育てを通じて良かったと感じたことについてあてはまるものを選んでください。
（3つまで）

◇ 全体では、「子どもといることで幸せを感じる」が80.3%と最も多い。次いで、「子どもの成長をみると充実感がある」61.6%、「子どもとともに自分も成長できた」43.6%である。



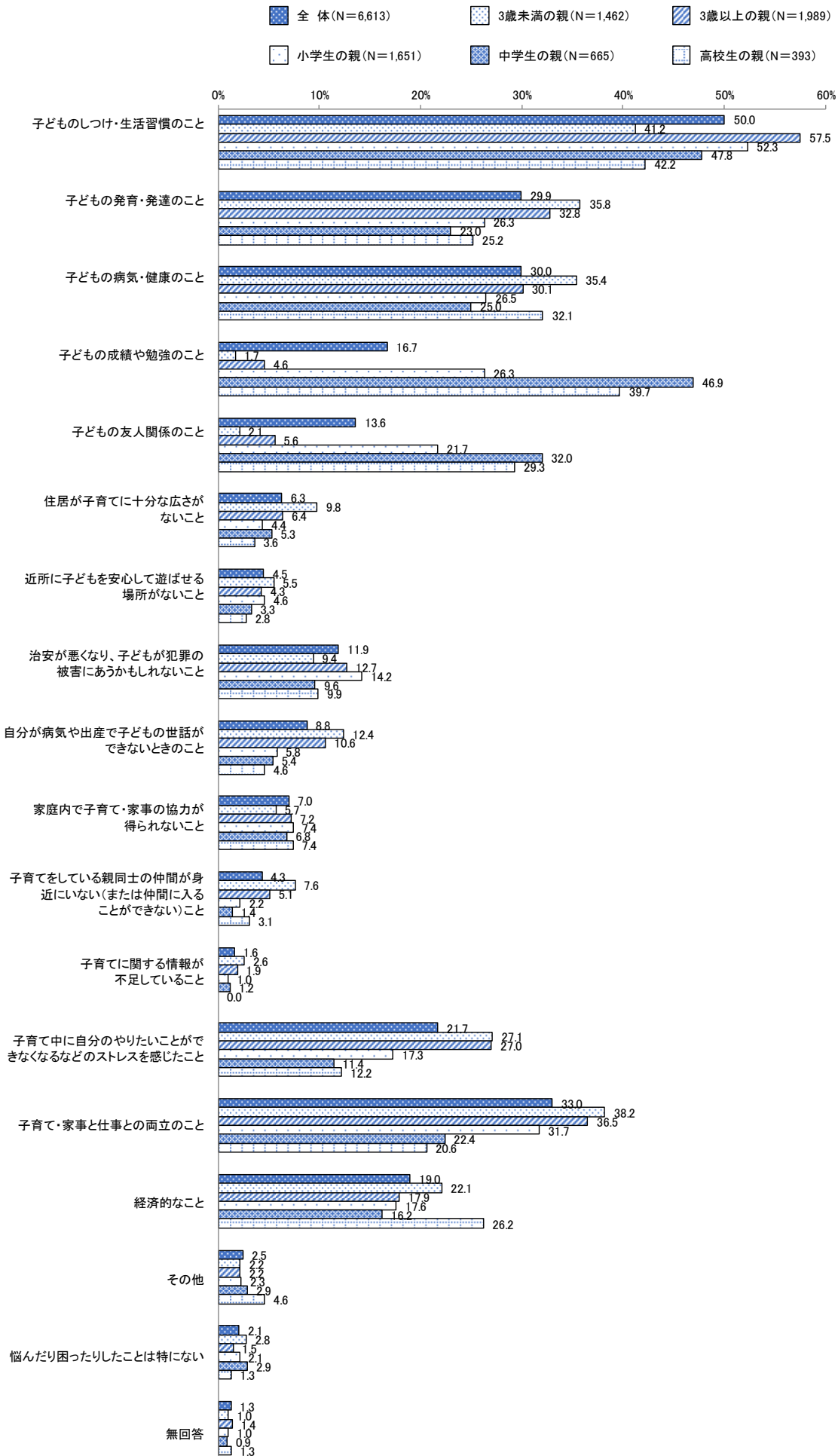
【前回調査との数値比較】

	全 体		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
子どもといることで幸せを感じる	76.4	80.3	3.9
子どもの成長をみると充実感を感じる	54.0	61.6	7.6
家族の絆が強まった	26.8	23.6	▲ 3.2
友だちが増えた	15.2	10.0	▲ 5.2

子育ての悩みや不安について【問 2】

■あて名のお子さんを育てている間に、どんなことに悩んだり、不安に感じたり、困ったりしましたか。（3つまで）

- ◇ 全体では、「子どものしつけ・生活習慣のこと」が 50.0%と最も多く、次いで「子育て・家事と仕事との両立のこと」が 33.0%である。
- ◇ 「中学生の親」と「高校生の親」では、「子どもの成績や勉強のこと」が高くなっている。



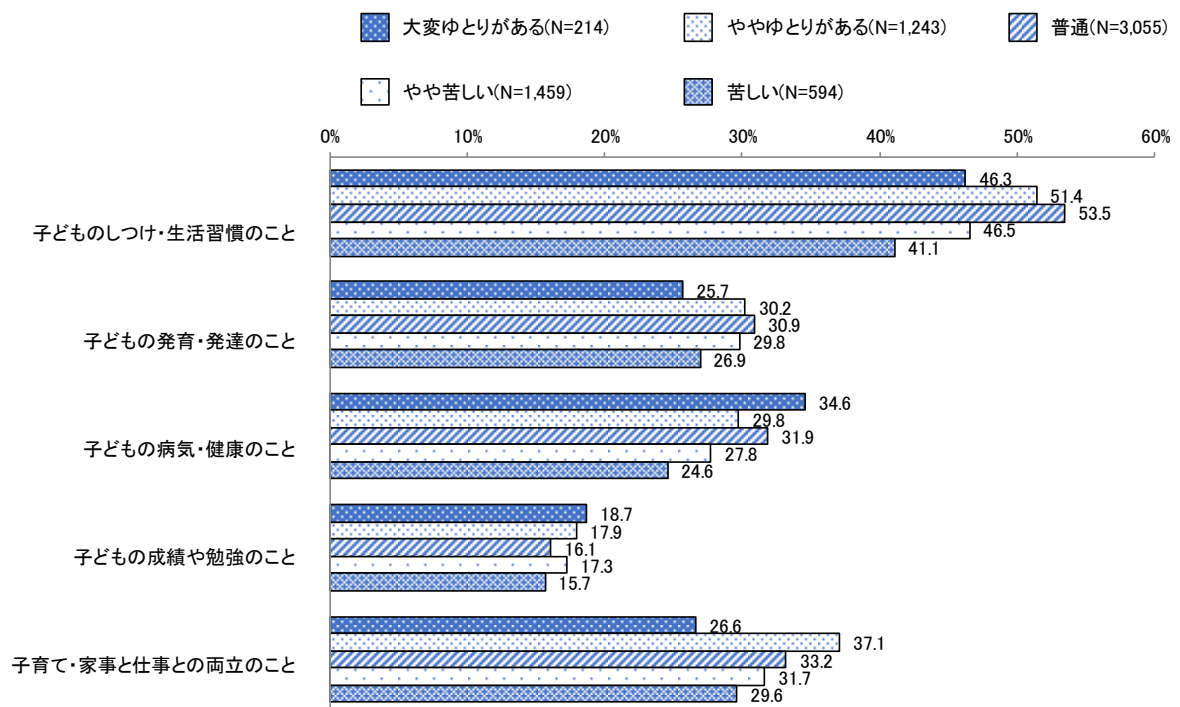
【前回調査との数値比較】

	子どものしつけ・生活習慣のこと			子どもの発育・発達のこと		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	57.3	50.0	▲ 7.3	23.8	29.9	6.1
3 歳未満の親	52.6	41.2	▲ 11.4	31.0	35.8	4.8
3 歳以上の親	64.6	57.5	▲ 7.1	24.5	32.8	8.3
小学生の親	58.1	52.3	▲ 5.8	20.3	26.3	6.0
中学生の親	46.6	47.8	1.2	18.5	23.0	4.5
高校生の親	47.0	42.2	▲ 4.8	13.6	25.2	11.6

	子どもの病気・健康のこと			治安が悪くなり、子どもが犯罪の被害にあうかもしれないこと		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	27.4	30.0	2.6	17.7	11.9	▲ 5.8
3 歳未満の親	32.6	35.4	2.8	13.4	9.4	▲ 4.0
3 歳以上の親	26.1	30.1	4.0	18.0	12.7	▲ 5.3
小学生の親	23.9	26.5	2.6	22.3	14.2	▲ 8.1
中学生の親	26.2	25.0	▲ 1.2	17.8	9.6	▲ 8.2
高校生の親	30.2	32.1	1.9	13.6	9.9	▲ 3.7

『子育ての悩みや不安（就学前・就学後 問 2）と世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後 問 32）』

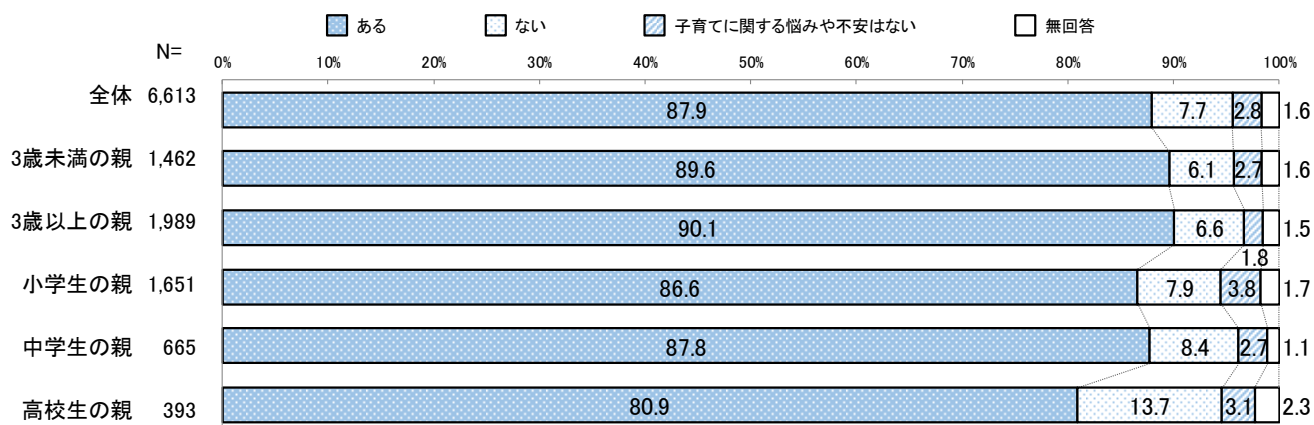
◎ 子育て中の悩みについて、世帯の暮らし向きの意識に関わらず回答の割合が 1 番高いのは「子どものしつけ・生活習慣のこと」である。



悩みや不安を相談する相手の有無について 【問3】

■子育てに関する悩みや不安などを相談する相手や場所がありますか。(1つ)

- ◇ 全体では、「ある」と答えた割合が 87.9%、「ない」が 7.7%である。また、「子育てに関する悩みや不安はない」と答えた割合は 2.8%である。
- ◇ 「3 歳以上の親」は、他の年代の子どもをもつ親と比べ、「ある」と答えた割合が 90.1%と最も高い。一方、「高校生の親」は「ある」と答えた割合が 80.9%と最も低い。

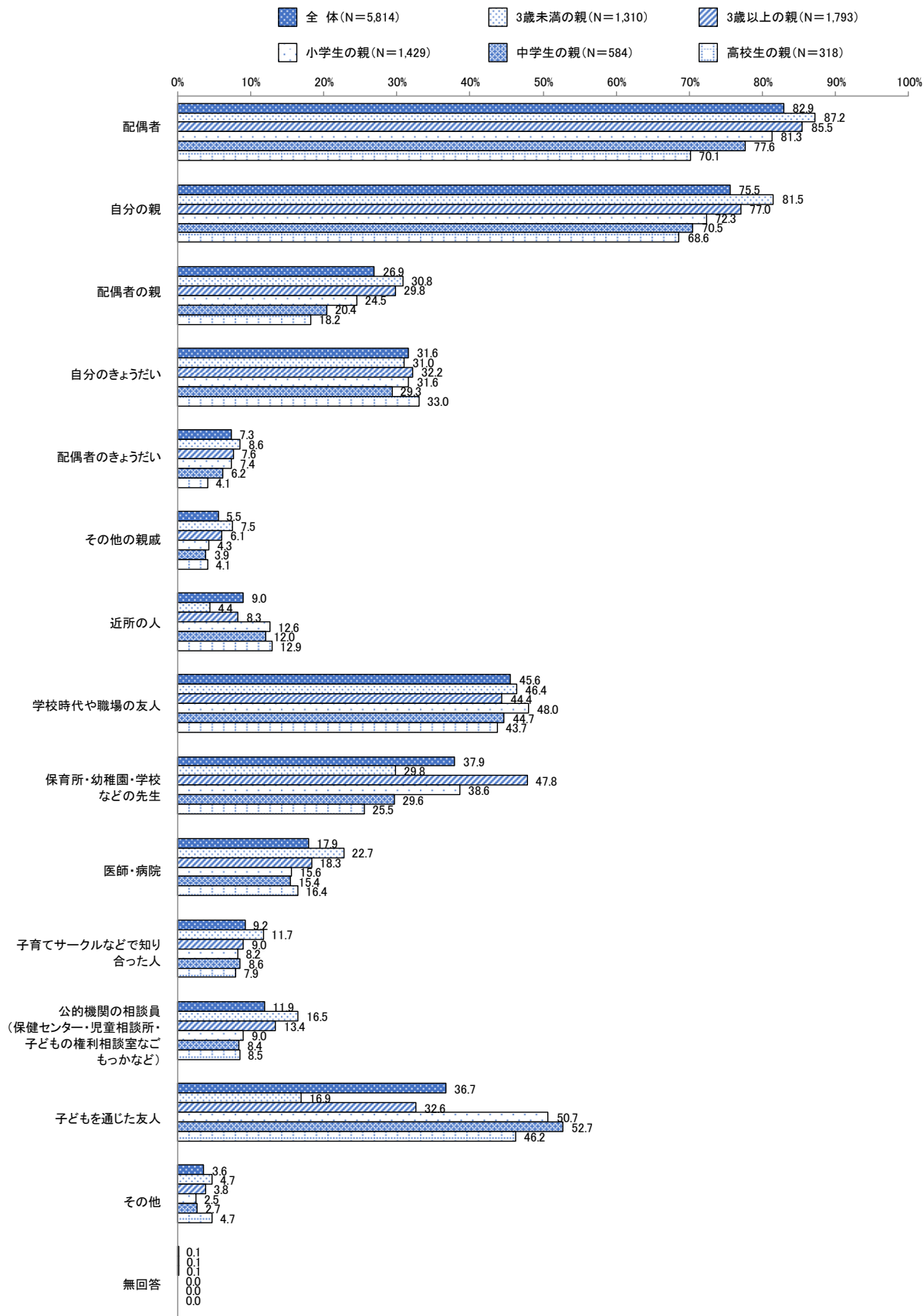


悩みや不安の相談相手について

【問 4】

■これまで、子育てに関する悩みや不安などを誰に相談してきましたか。(複数回答)

- ◇ 全体では、「配偶者」が82.9%と最も多く、次いで「自分の親」が75.5%である。
- ◇ 「小学生の親」と「中学生の親」は、「子どもを通じた友人」に相談する割合が過半数を占めている。



【前回調査との数値比較】

	配偶者		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	83.3	82.9	▲ 0.4
3 歳未満の親	88.3	87.2	▲ 1.1
3 歳以上の親	85.3	85.5	0.2
小学生の親	81.8	81.3	▲ 0.5
中学生の親	74.4	77.6	3.2
高校生の親	74.3	70.1	▲ 4.2

自分の親		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
74.1	75.5	1.4
80.8	81.5	0.7
77.4	77.0	▲ 0.4
69.8	72.3	2.5
66.5	70.5	4.0
60.9	68.6	7.7

	近所の人		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	16.6	9.0	▲ 7.6
3 歳未満の親	11.5	4.4	▲ 7.1
3 歳以上の親	16.5	8.3	▲ 8.2
小学生の親	20.0	12.6	▲ 7.4
中学生の親	20.3	12.0	▲ 8.3
高校生の親	18.6	12.9	▲ 5.7

子育てサークルなどで 知り合った人		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
20.3	9.2	▲11.1
24.8	11.7	▲13.1
21.9	9.0	▲12.9
16.9	8.2	▲ 8.7
17.1	8.6	▲ 8.5
14.5	7.9	▲ 6.6

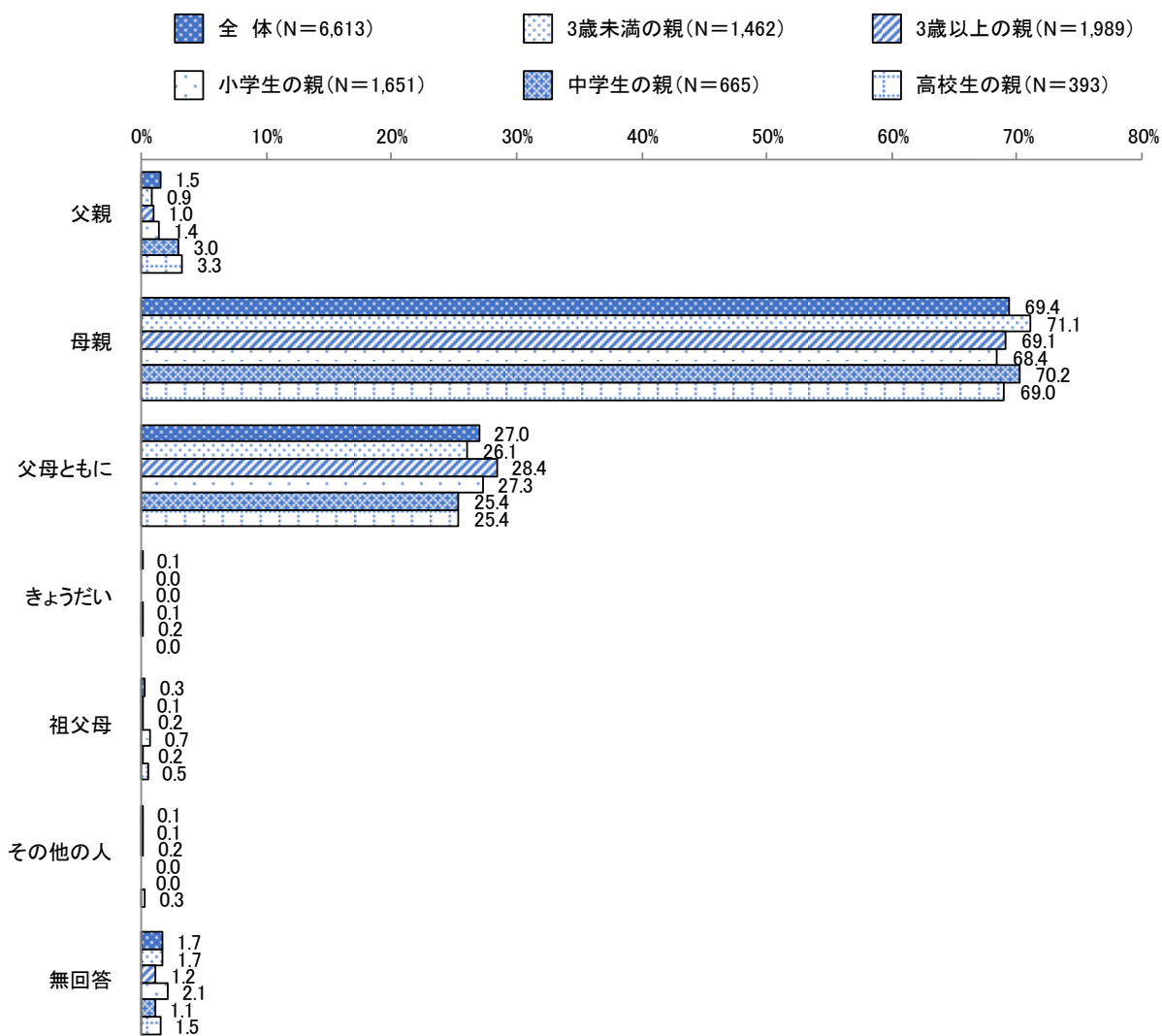
お子さんの育つ環境について【問5】

■あて名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。

（1つ）

◇ 全体では、「母親」が69.4%と最も多く、次いで「父母ともに」が27.0%、「父親」が1.5%となっている。

◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、「母親」が最も多く、6割以上となっている。



【前回調査との数値比較】

	父親		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	1.7	1.5	▲ 0.2
3 歳未満の親	1.1	0.9	▲ 0.2
3 歳以上の親	1.1	1.0	▲ 0.1
小学生の親	2.0	1.4	▲ 0.6
中学生の親	3.7	3.0	▲ 0.7
高校生の親	1.8	3.3	1.5

母親		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
78.9	69.4	▲ 9.5
79.1	71.1	▲ 8.0
80.7	69.1	▲11.6
77.2	68.4	▲ 8.8
79.0	70.2	▲ 8.8
77.5	69.0	▲ 8.5

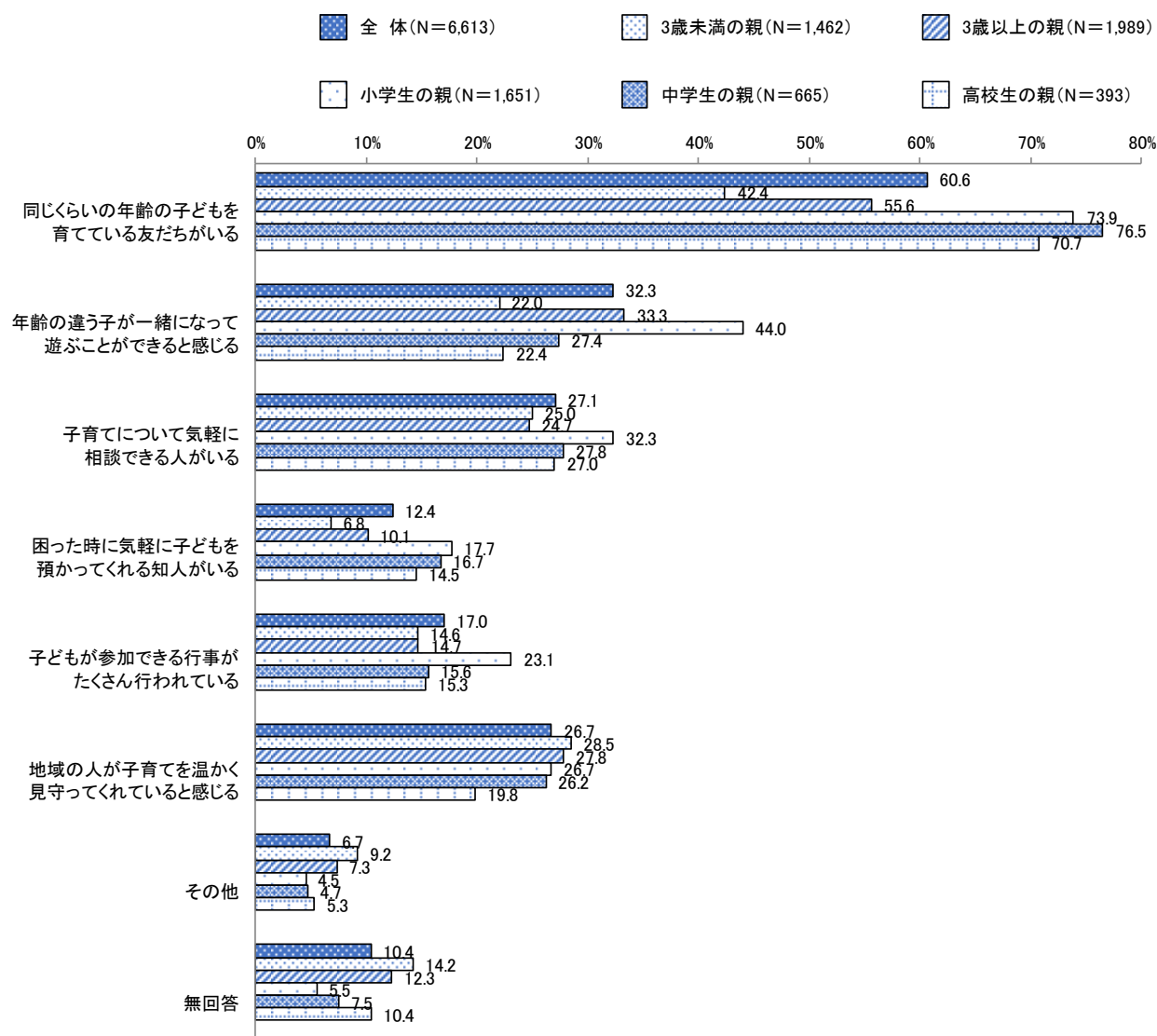
	父母ともに		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	14.9	27.0	12.1
3 歳未満の親	15.5	26.1	10.6
3 歳以上の親	14.4	28.4	14.0
小学生の親	15.6	27.3	11.7
中学生の親	13.0	25.4	12.4
高校生の親	17.2	25.4	8.2

地域の子育ての状況について【問6】

■子育てについて、あなたのお住まいの地域にあてはまるものを選んでください。

(複数回答)

- ◇ 全体では、「同じくらいの年齢の子どもを育てている友だちがいる」が 60.6%と最も多く、次いで「年齢の違う子が一緒になって遊ぶことができると感じる」が 32.3%、「子育てについて気軽に相談できる人がある」が 27.1%となっている。
- ◇ 「同じくらいの年齢の子どもを育てている友だちがいる」では、就学後の親の割合がいずれも 7 割以上である。



【前回調査との数値比較】

	同じくらいの年齢の子どもを育てている 友だちがいる		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	67.2	60.6	▲ 6.6
3 歳未満の親	54.7	42.4	▲12.3
3 歳以上の親	65.7	55.6	▲10.1
小学生の親	75.9	73.9	▲ 2.0
中学生の親	78.3	76.5	▲ 1.8
高校生の親	72.2	70.7	▲ 1.5

子育てについて気軽に 相談できる人がある		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
35.5	27.1	▲ 8.4
29.7	25.0	▲ 4.7
35.5	24.7	▲10.8
41.4	32.3	▲ 9.1
35.2	27.8	▲ 7.4
32.0	27.0	▲ 5.0

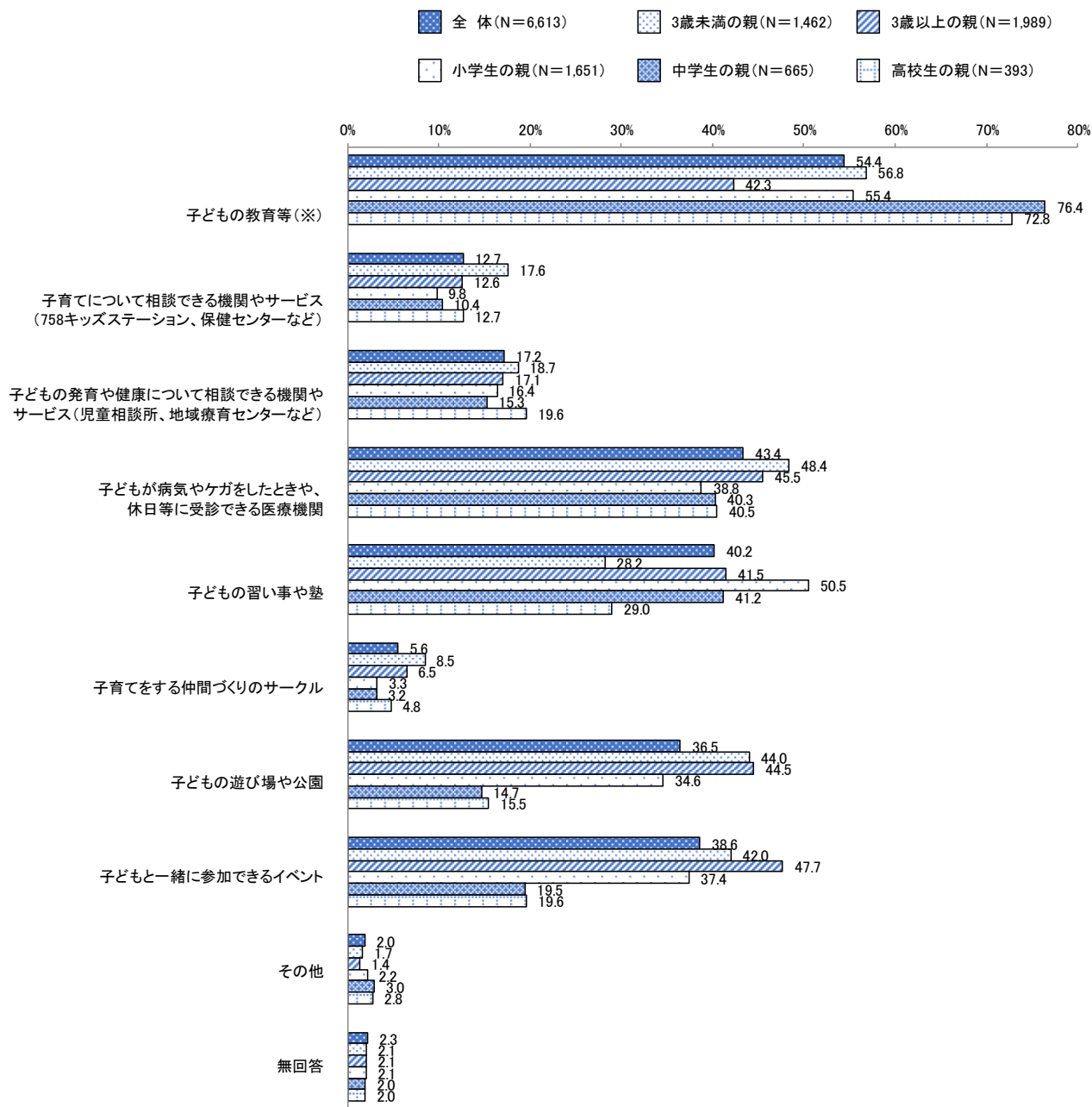
	困った時に気軽に子どもを 預かってくれる知人がある		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	19.4	12.4	▲ 7.0
3 歳未満の親	10.1	6.8	▲ 3.3
3 歳以上の親	19.0	10.1	▲ 8.9
小学生の親	26.8	17.7	▲ 9.1
中学生の親	21.5	16.7	▲ 4.8
高校生の親	23.7	14.5	▲ 9.2

地域の人が子育てを温かく見守って くれていると感じる		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
31.5	26.7	▲ 4.8
30.2	28.5	▲ 1.7
29.9	27.8	▲ 2.1
35.9	26.7	▲ 9.2
33.1	26.2	▲ 6.9
28.7	19.8	▲ 8.9

子育てに必要な情報について【問7】

■子育てするうえで、知りたい情報は何ですか。（3つまで）

- ◇ 全体では、「子どもの教育等（※）」が54.4%と最も多く、次いで「子どもが病気やケガをしたときや、休日等に受診できる医療機関」が43.4%、「子どもの習い事や塾」が40.2%、「子どもと一緒に参加できるイベント」が38.6%となっている。
- ◇ 「子どもと一緒に参加できるイベント」を見ると、「3歳以上の親」が47.7%と最も割合が高い。



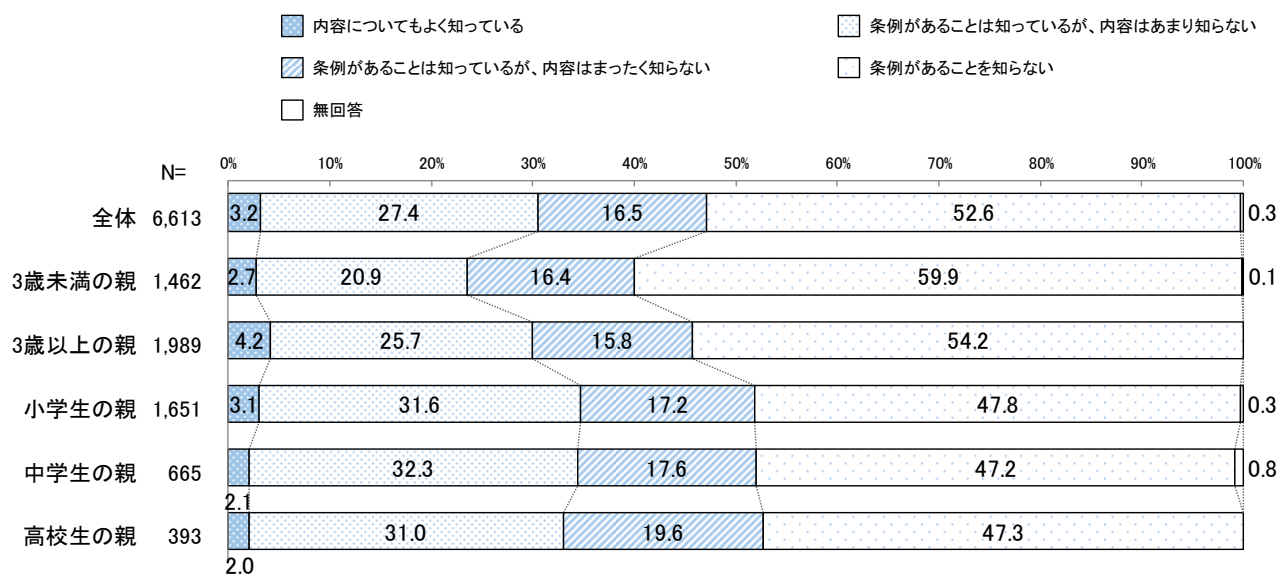
※ 就学前：幼稚園や保育所など、子どもの教育・保育、子育て支援の事業
就学後：子どもの進学先（高校や大学など）

なごや子どもの権利条例について 【就学前 問8・就学後 問9】

■あなたは、「なごや子どもの権利条例」を知っていますか。（1つ）

◇ 全体では、「条例があることを知らない」が 52.6%と最も多く、次いで「条例があることは知っているが、内容はあまり知らない」が 27.4%、「条例があることは知っているが、内容はまったく知らない」が 16.5%、「内容についてもよく知っている」が 3.2%である。

◇ 子どもが就学前の親の過半数は、条例があることを認知していない。



【前回調査との数値比較】

	条例があることは知っているが、内容はあまり知らない			条例があることを知らない		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	15.9	27.4	11.5	70.3	52.6	▲17.7
3歳未満の親	11.7	20.9	9.2	77.5	59.9	▲17.6
3歳以上の親	12.1	25.7	13.6	76.5	54.2	▲22.3
小学生の親	19.7	31.6	11.9	63.2	47.8	▲15.4
中学生の親	23.7	32.3	8.6	58.9	47.2	▲11.7
高校生の親	25.7	31.0	5.3	55.3	47.3	▲ 8.0

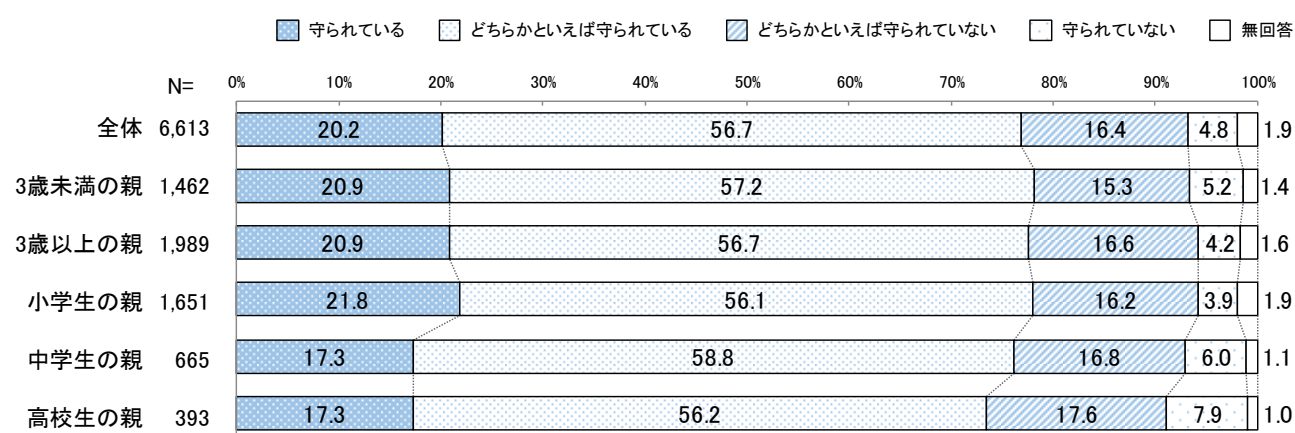
なごや子どもの権利条例で権利が守られているかについて

【就学前 問9・就学後 問10】

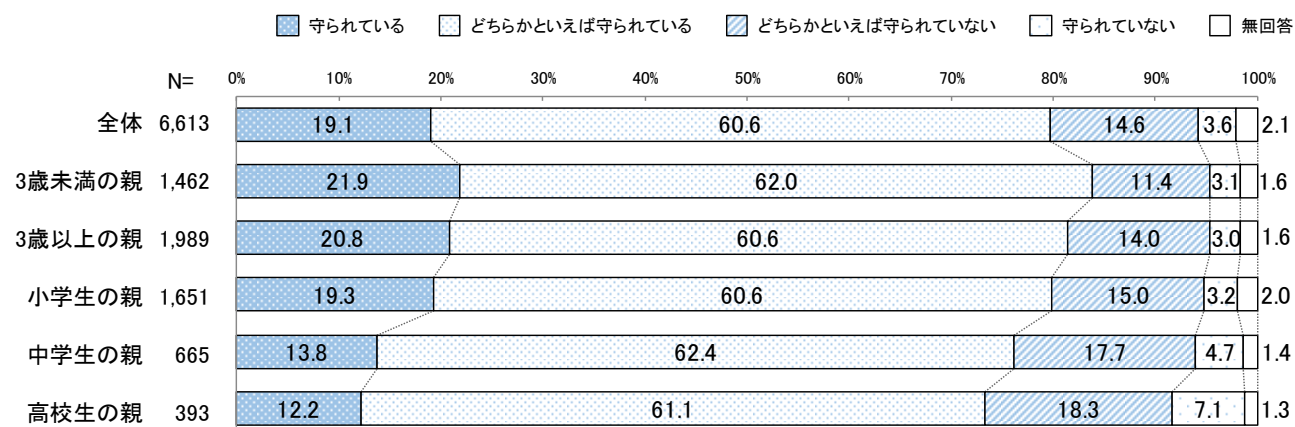
■あなたは、「なごや子どもの権利条例」で決められている次の権利が守られていると思いますか。(各1つ)

- ◇ 全体で、「守られている」と「どちらかといえば守られている」の割合の合計が最も高いのは、「のびのびと豊かに育つ権利」(80.3%)である。
- ◇ 「守られていない」と「どちらかといえば守られていない」の割合の合計は、いずれの年代の子どもをもつ親も、「主体的に参加する権利」が最も高い。

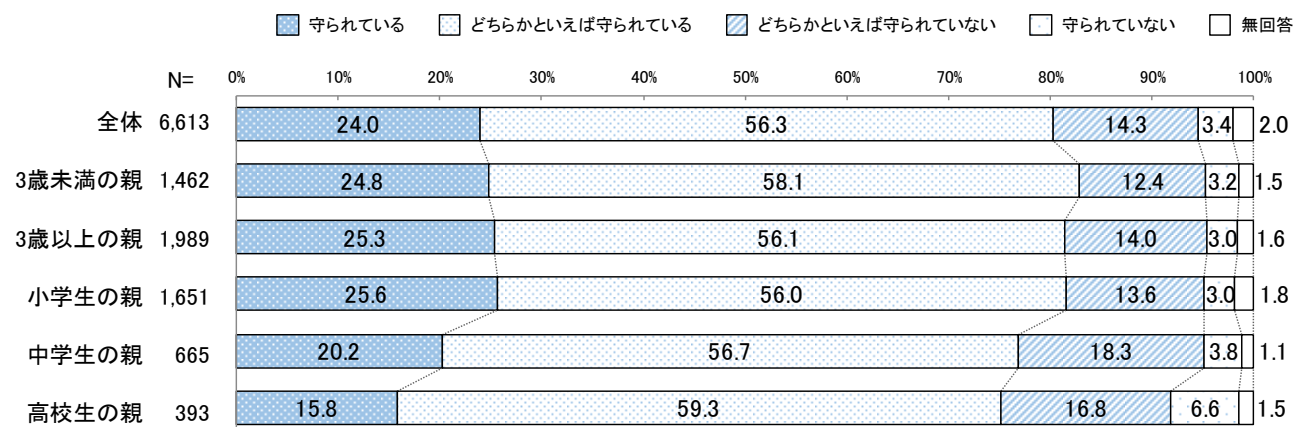
ア. あんぜんに安心して生きる権利



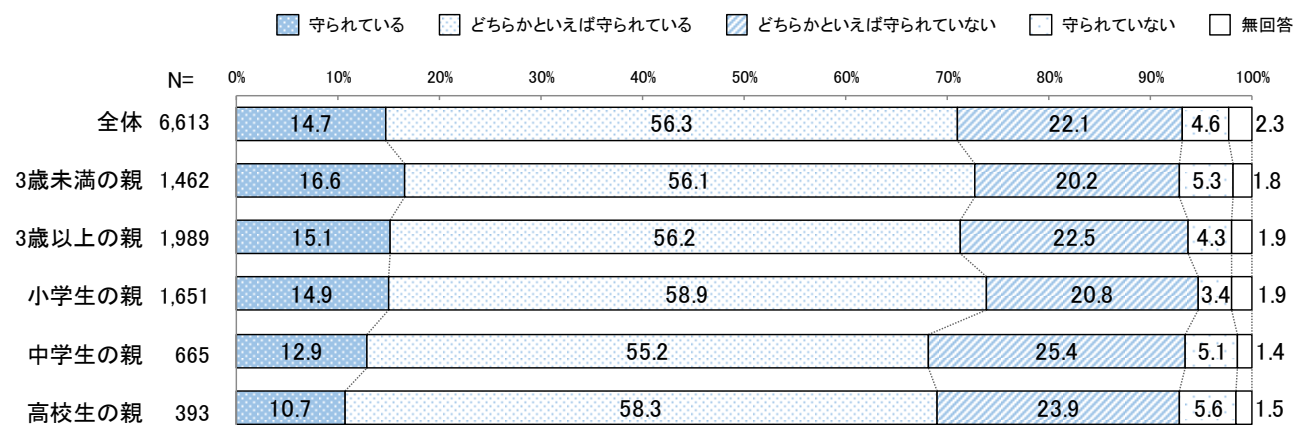
イ. 一人一人が尊重される権利



ウ. のびのびと豊かに育つ権利



エ. 主体的に参加する権利



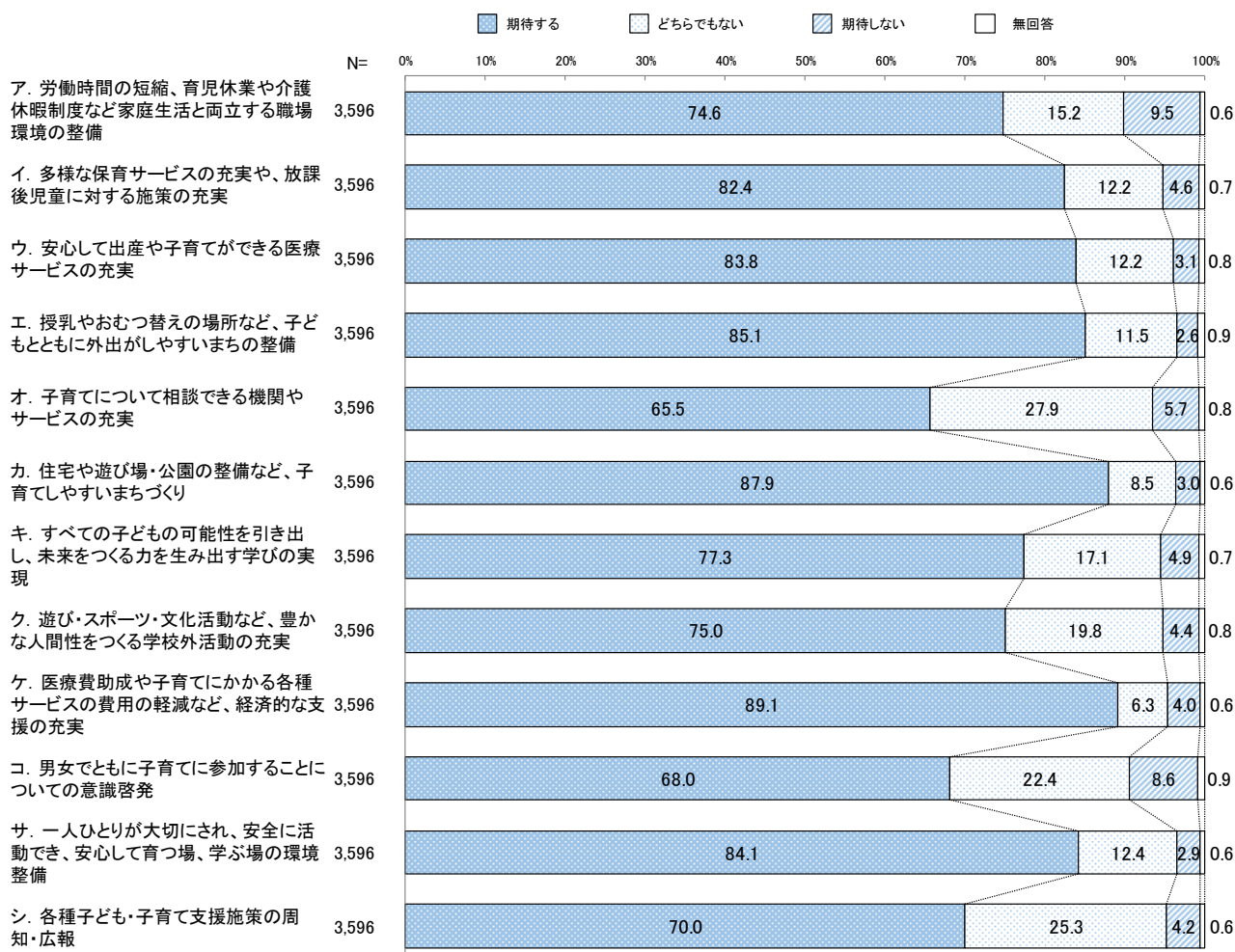
名古屋市の子育て支援の取り組みについて 【就学前 問10・就学後 問11】

■名古屋市の子ども・子育て支援への取り組みについてあてはまるものを選んでください。(各1つ)

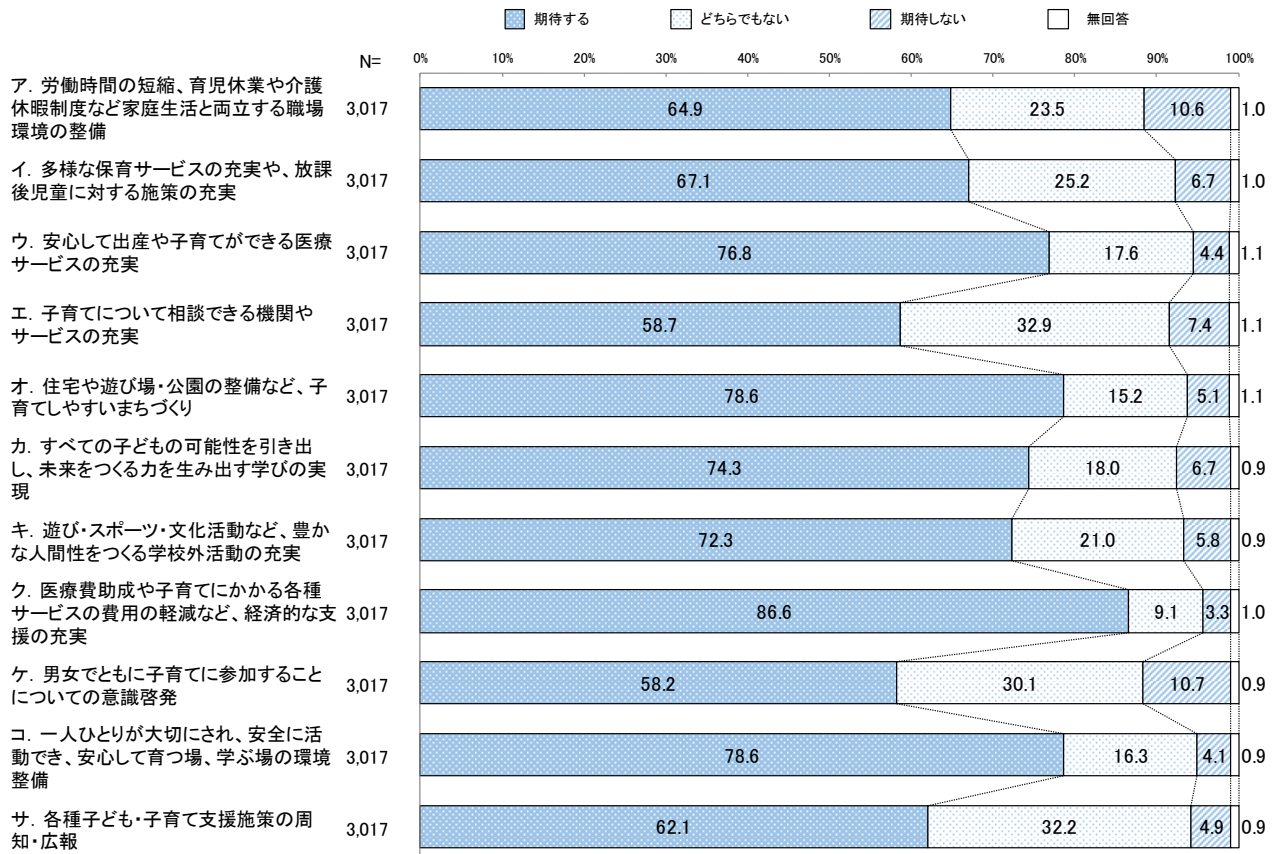
(1) 期待の有無

- ◇ 子どもが就学前・就学後の親がともに「期待する」の割合が最も高いのは、「医療費助成や子育てにかかる各種サービスの費用の軽減など、経済的な支援の充実」である。
- ◇ 子どもが就学前の親が「期待しない」の割合が最も高いのは、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備」である。子どもが就学後の親は「男女でともに子育てに参加することについての意識啓発」である。

<就学前>



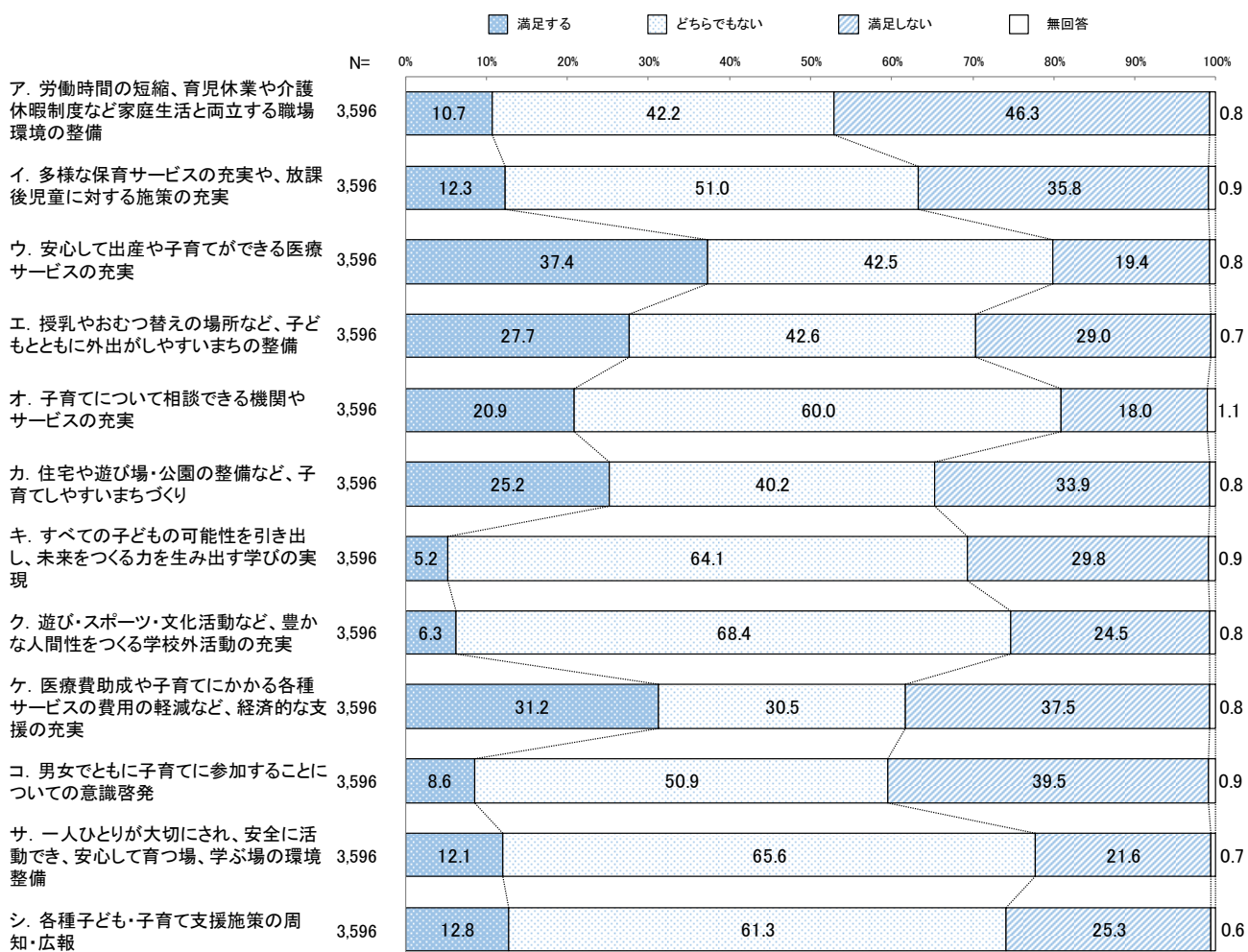
<就学後>



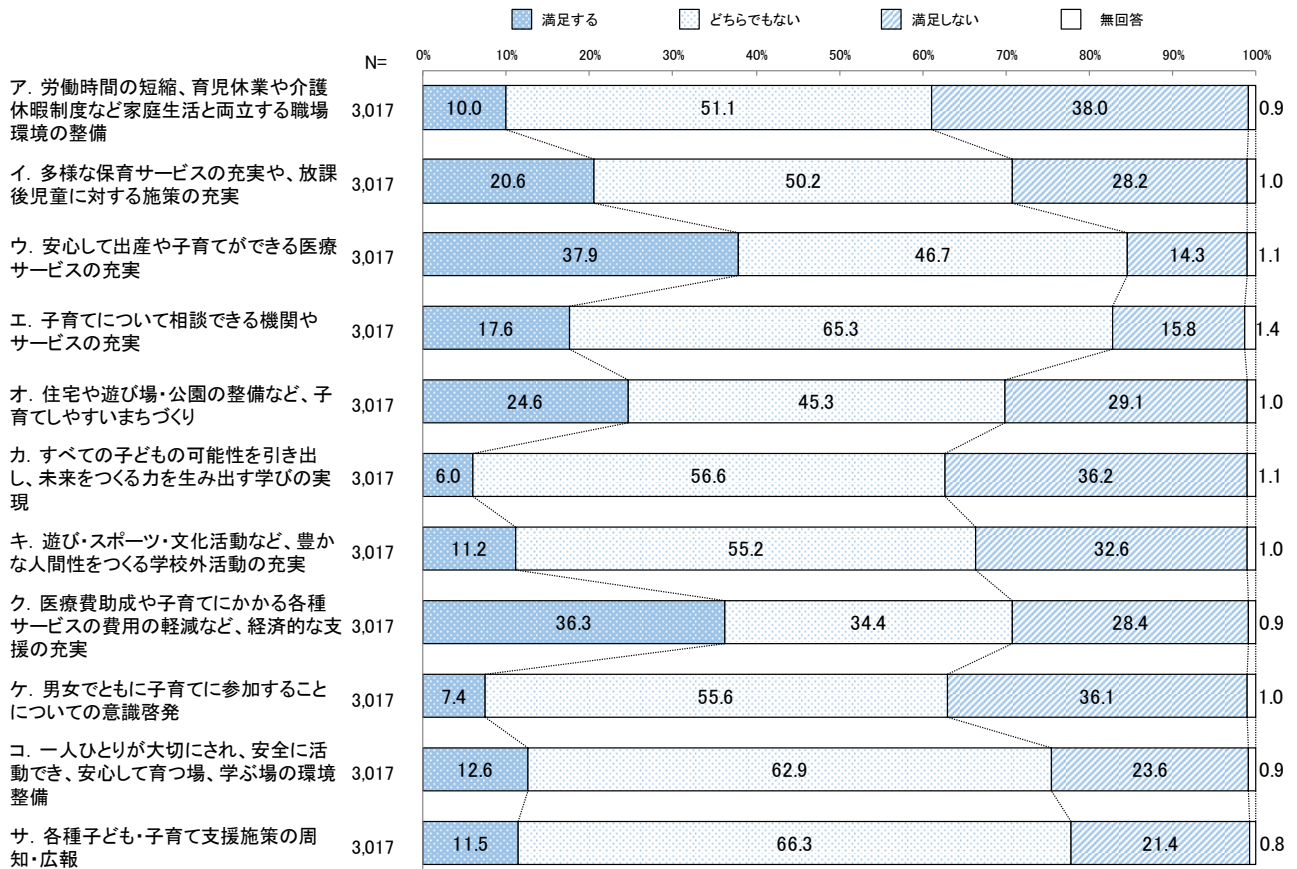
(2) 現状の満足度

- ◇ 子どもが就学前・就学後の親がともに「満足する」の割合が最も高いのは、「安心して出産や子育てができる医療サービスの充実」である。
- ◇ 子どもが就学前・就学後の親がともに「満足しない」の割合が最も高いのは、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備」である。

<就学前>



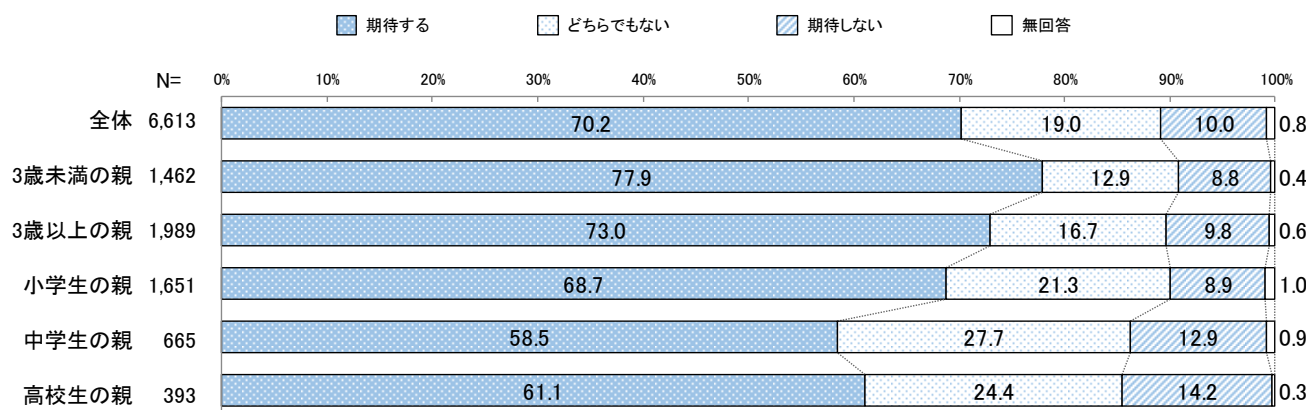
<就学後>



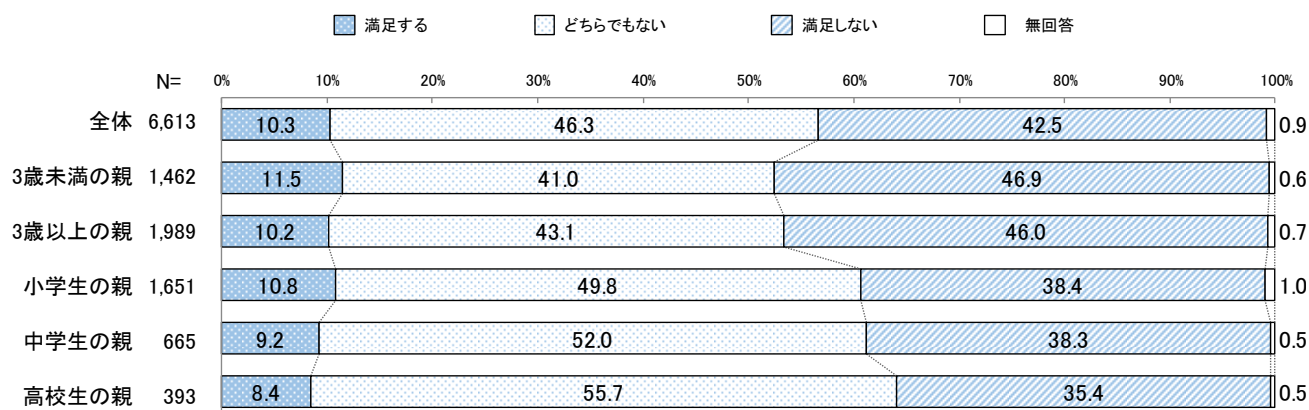
【労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備】

- ◇ 全体では、「期待する」の割合は70.2%、「満足する」の割合は10.3%である。
- ◇ 就学前の親は、「期待する」が7割台、「満足しない」が4割台と、いずれも就学後の親よりも高くなっている。

（１）期待するかどうか



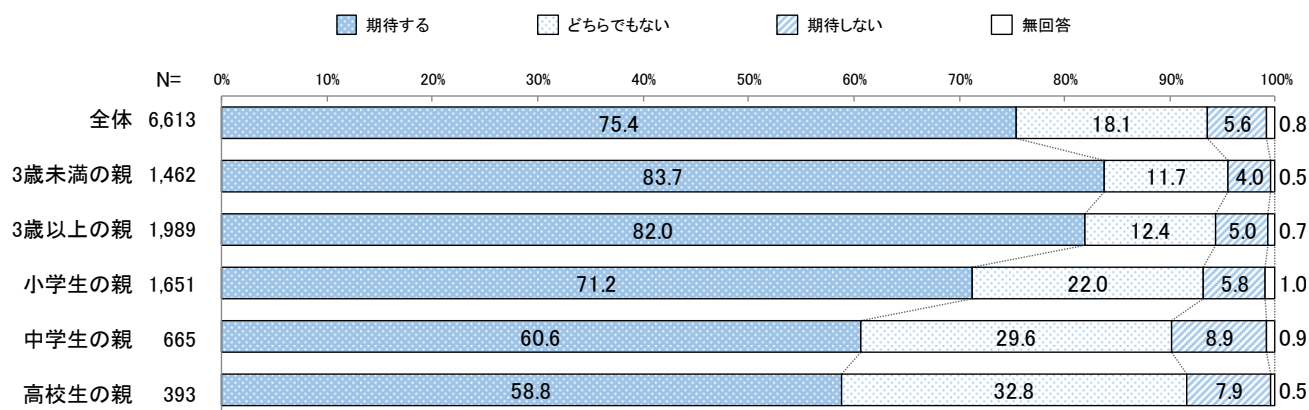
（２）現状に満足しているかどうか



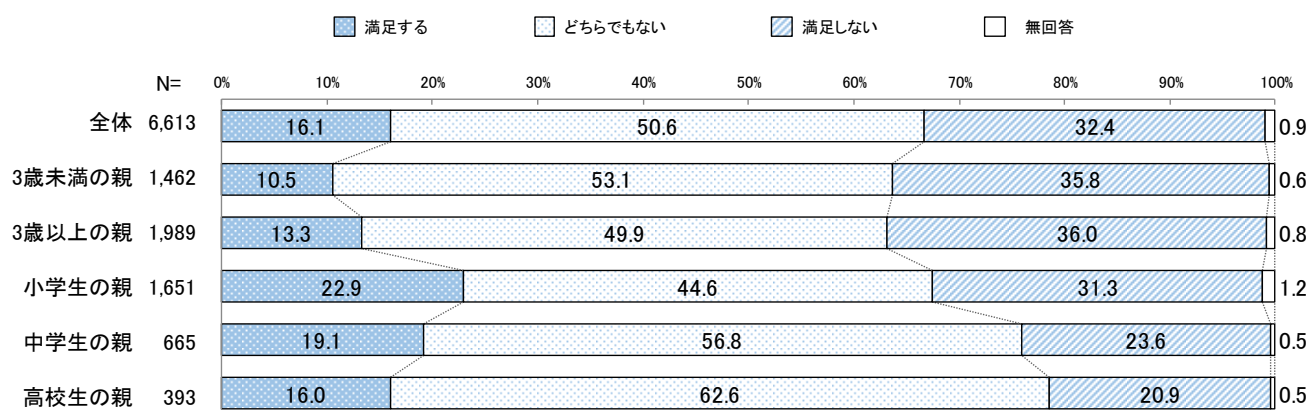
【多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実】

- ◇ 全体では、「期待する」の割合は75.4%、「満足する」の割合は16.1%である。
- ◇ 就学前の親は、「期待する」が8割台、「満足しない」が3割半ばと、いずれも就学後の親よりも高くなっている。

（１）期待するかどうか



（２）現状に満足しているかどうか

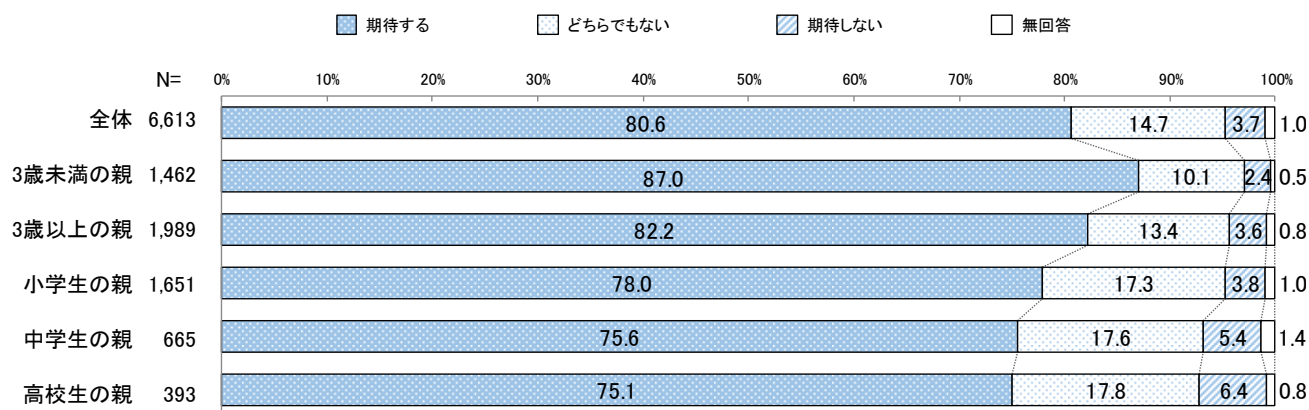


【安心して出産や子育てができる医療サービスの充実】

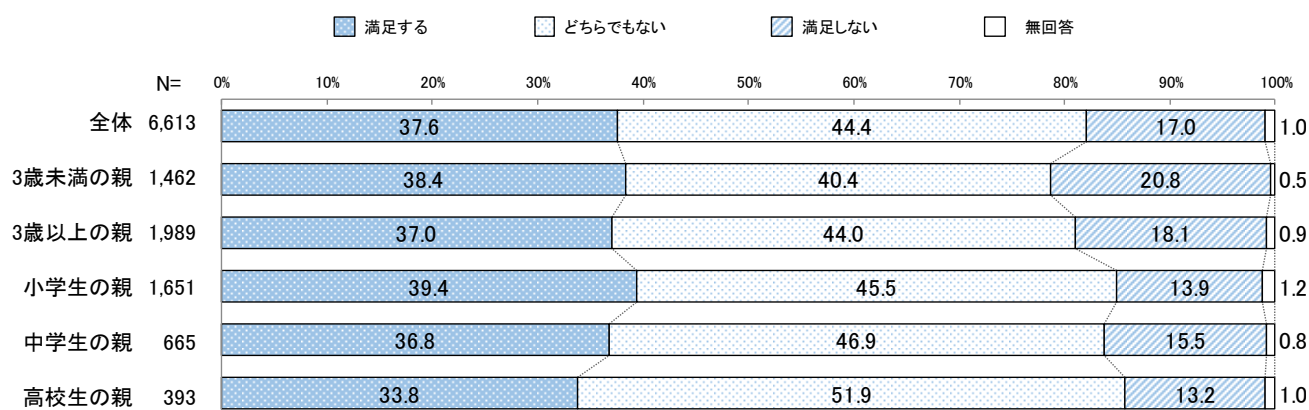
◇ 全体では、「期待する」の割合は80.6%、「満足する」の割合は37.6%である。

◇ 「満足しない」の割合は、「3歳未満の親」が20.8%と最も高い。

（１）期待するかどうか



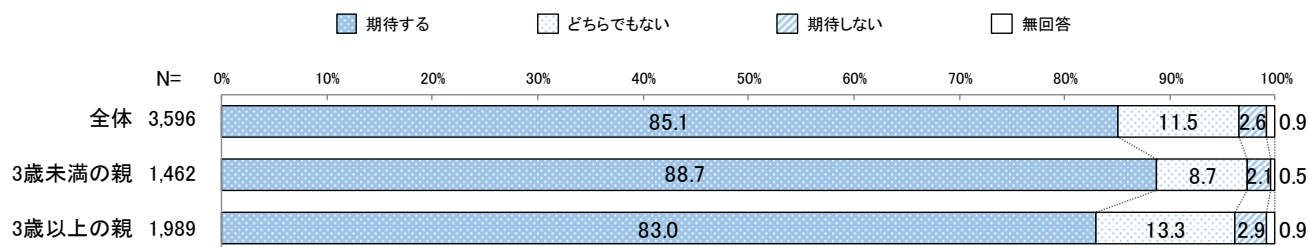
（２）現状に満足しているかどうか



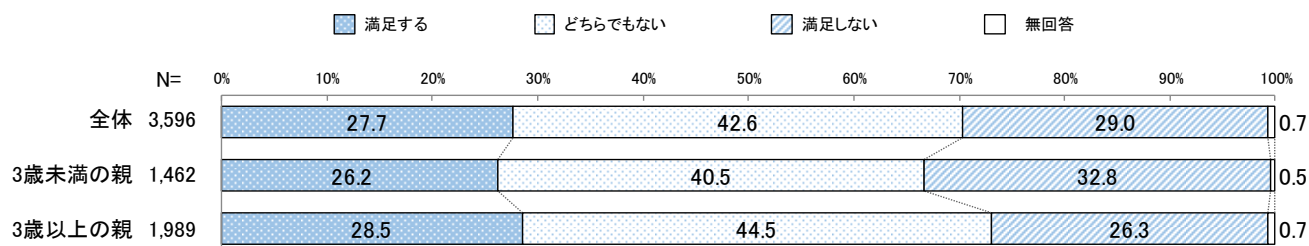
**【授乳やおむつ替えの場所など、子どもとともに外出がしやすいまちの整備】
(就学前のみ)**

◇ 全体では、「期待する」の割合は85.1%、「満足する」の割合は27.7%である。

(1) 期待するかどうか



(2) 現状に満足しているかどうか

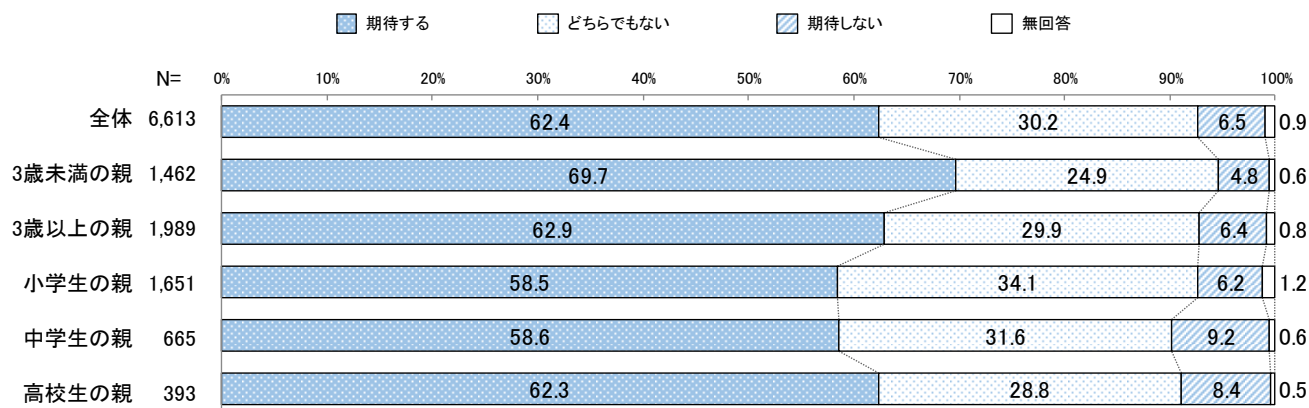


【子育てについて相談できる機関やサービスの充実】

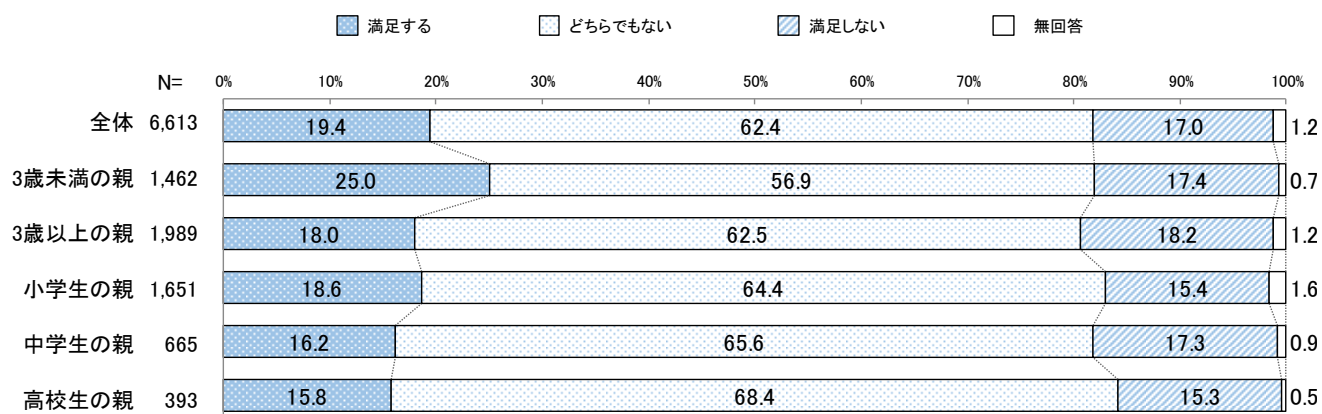
◇ 全体では、「期待する」の割合は62.4%、「満足する」の割合は19.4%である。

◇ 「満足しない」の割合は、「3歳以上の親」が18.2%と最も高い。

（１）期待するかどうか



（２）現状に満足しているかどうか

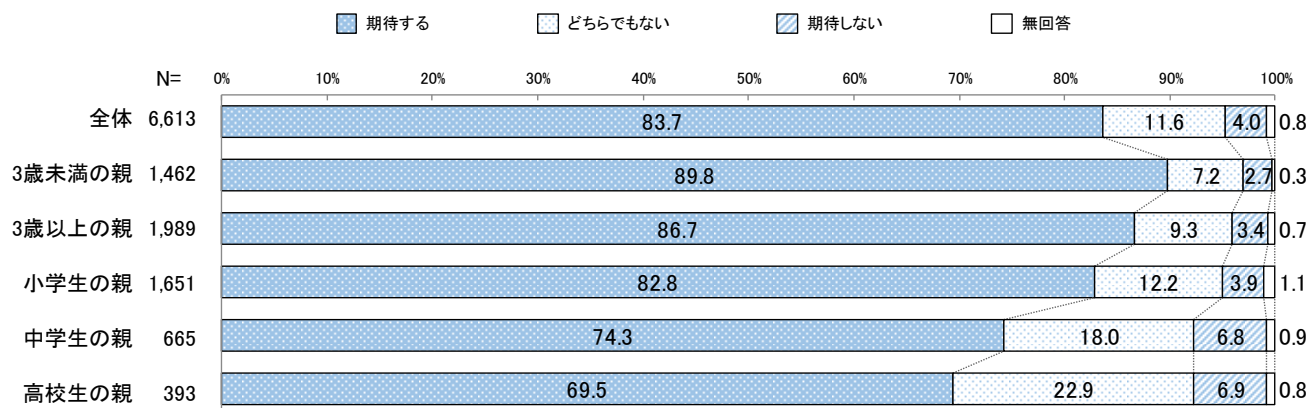


【住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり】

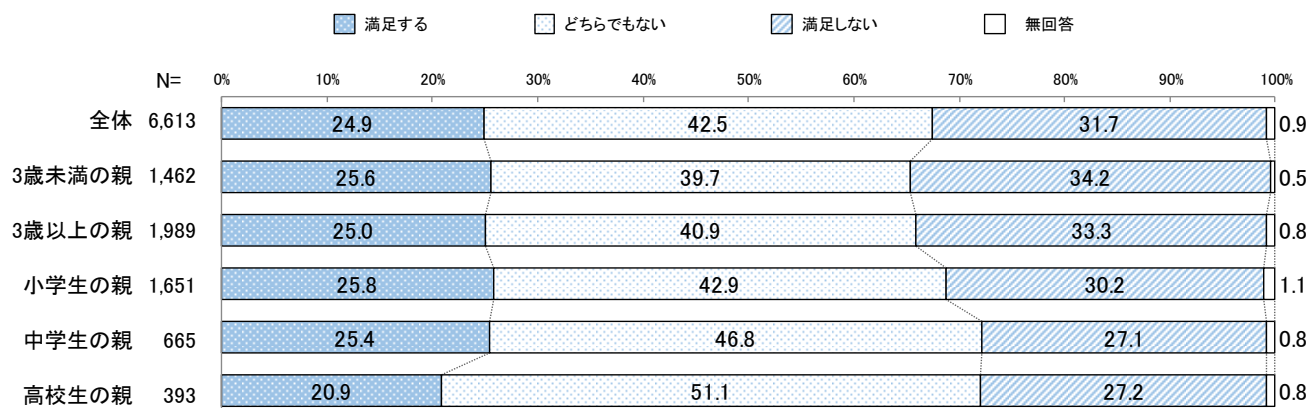
◇ 全体では、「期待する」の割合は83.7%、「満足する」の割合は24.9%である。

◇ 子どもの年代が上がるにつれて、「期待しない」の割合が高くなっている。

（１）期待するかどうか



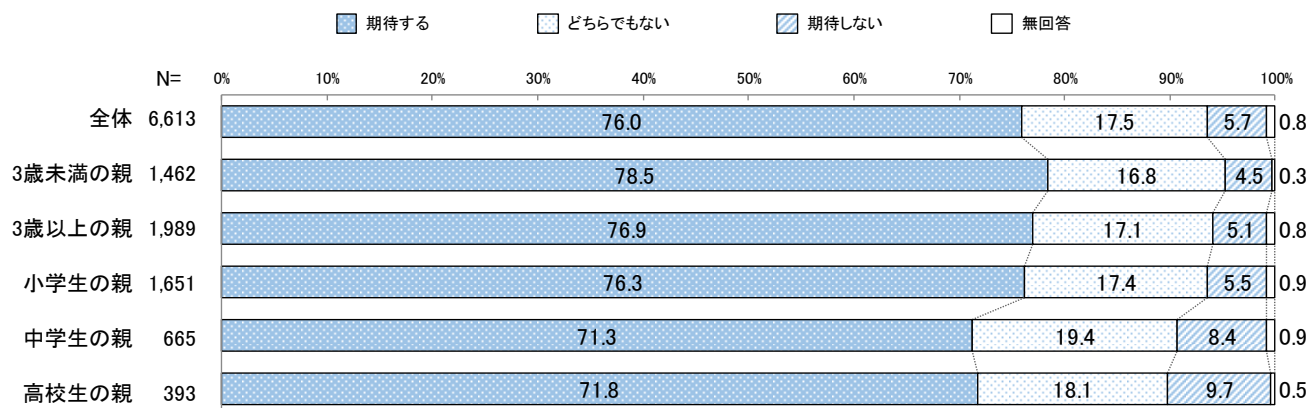
（２）現状に満足しているかどうか



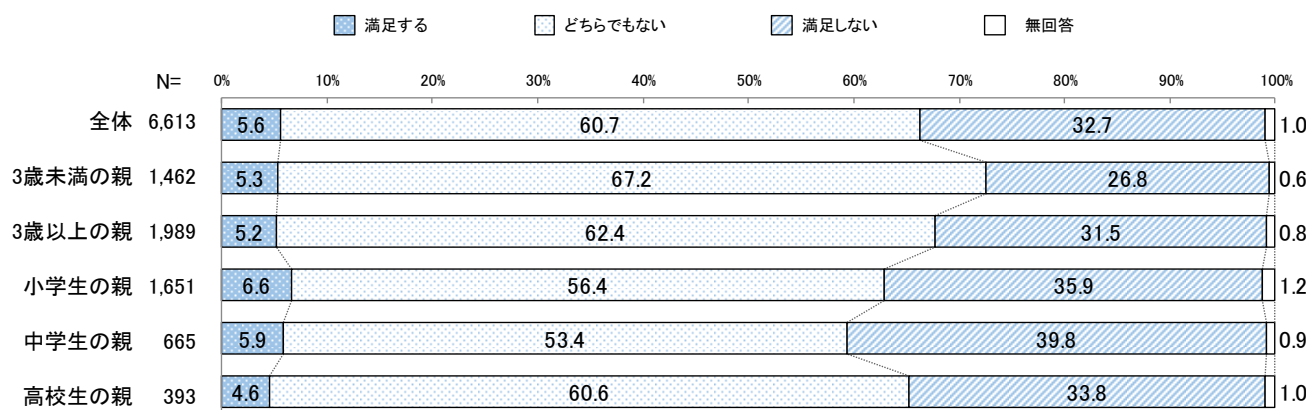
【すべての子どもの可能性を引き出し、未来をつくる力を生み出す学びの実現】

- ◇ 全体では、「期待する」の割合は76.0%、「満足する」の割合は5.6%である。
- ◇ 「期待する」の割合は、いずれの年代の子どもをもつ親も7割以上となっている。

（１）期待するかどうか



（２）現状に満足しているかどうか

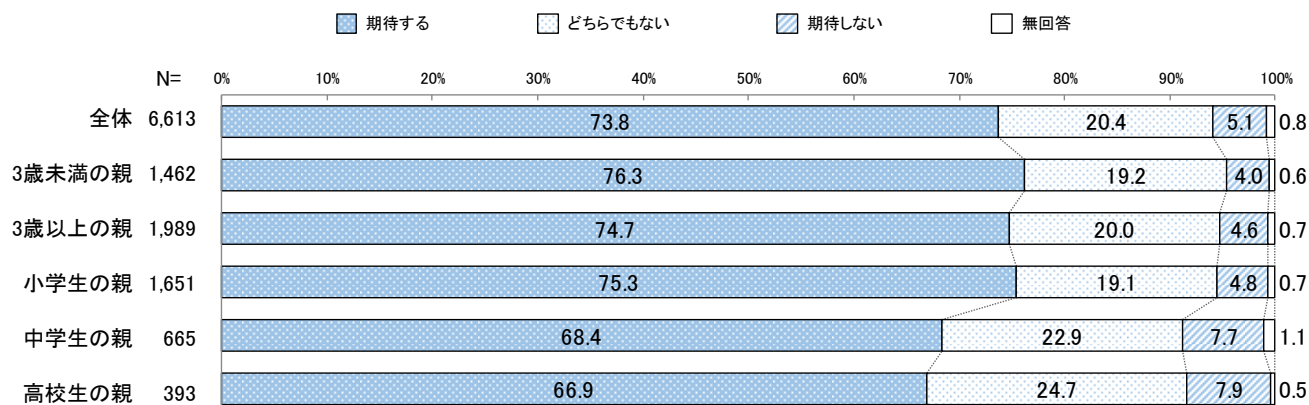


【遊び・スポーツ・文化活動など、豊かな人間性をつくる学校外活動の充実】

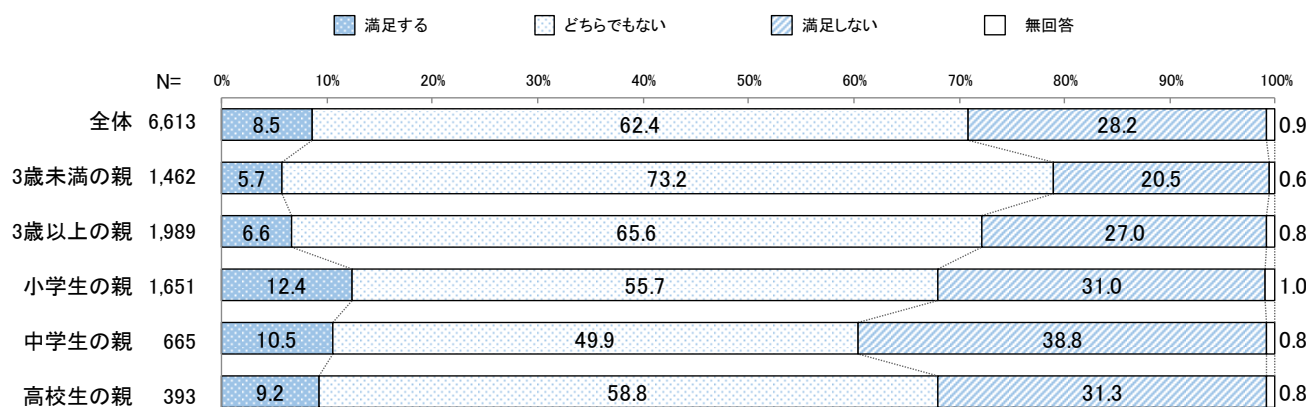
◇ 全体では、「期待する」の割合は73.8%、「満足する」の割合は8.5%である。

◇ 「満足しない」の割合は、「中学生の親」が38.8%と最も高い。

（１）期待するかどうか



（２）現状に満足しているかどうか

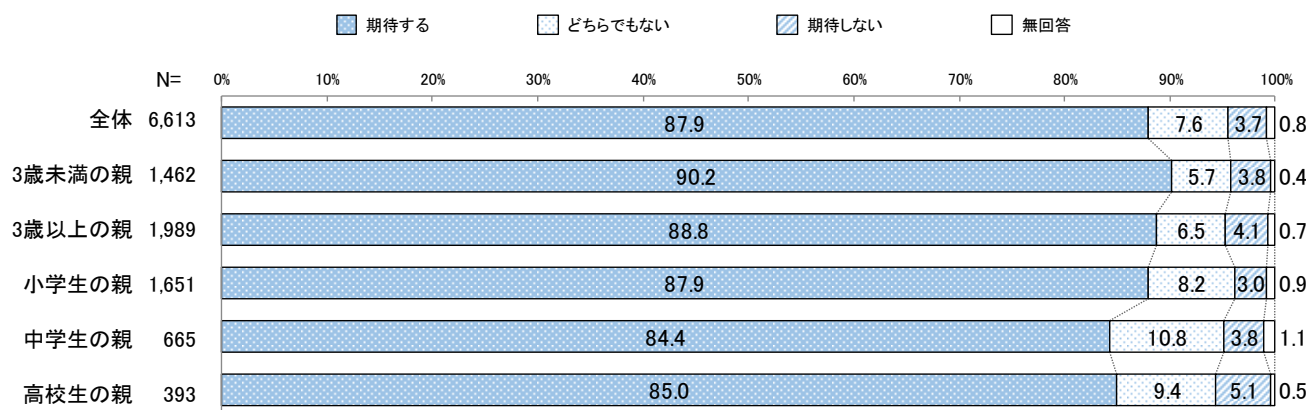


【医療費助成や子育てにかかる各種サービスの費用の軽減など、経済的な支援の充実】

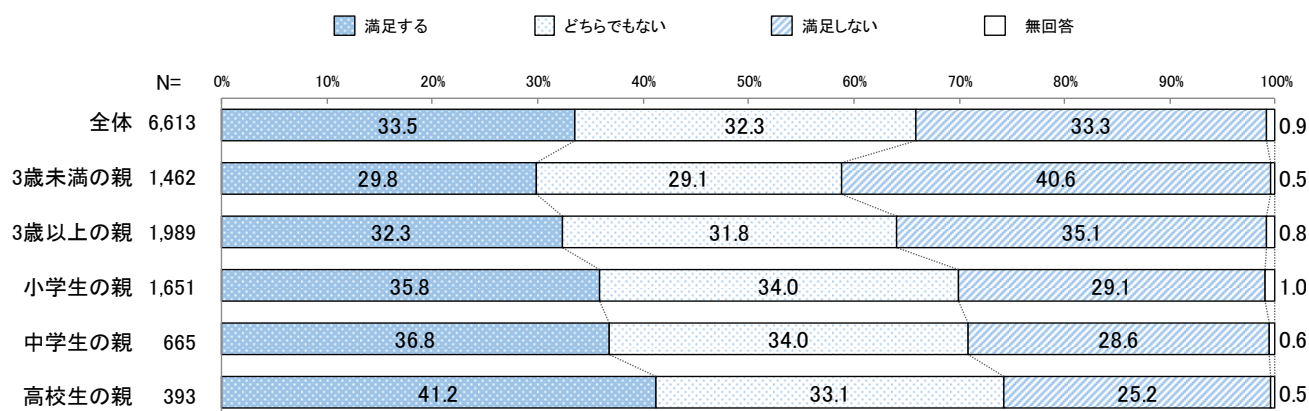
◇ 全体では、「期待する」の割合は 87.9%、「満足する」の割合は 33.5%である。

◇ 「満足しない」の割合は、「3歳未満の親」が 40.6%と最も高い。

（１）期待するかどうか



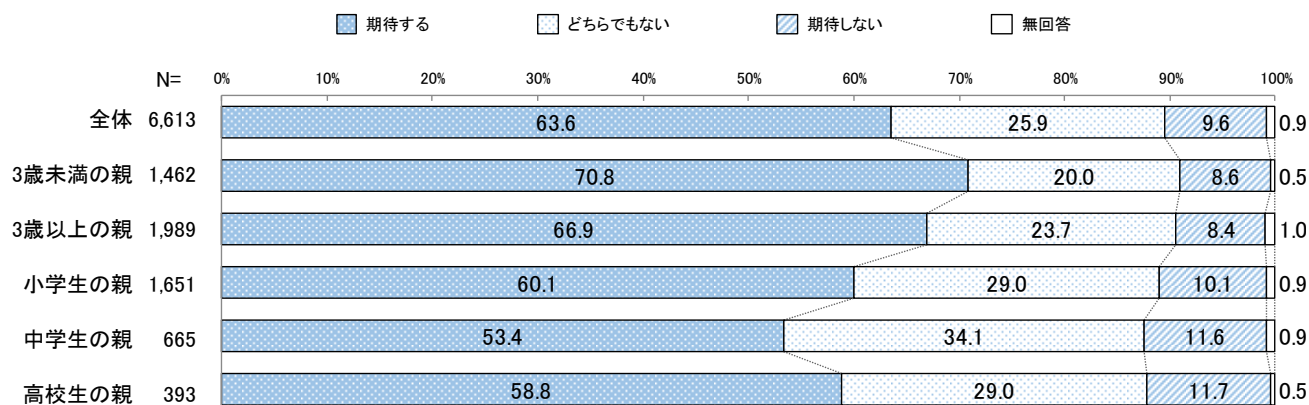
（２）現状に満足しているかどうか



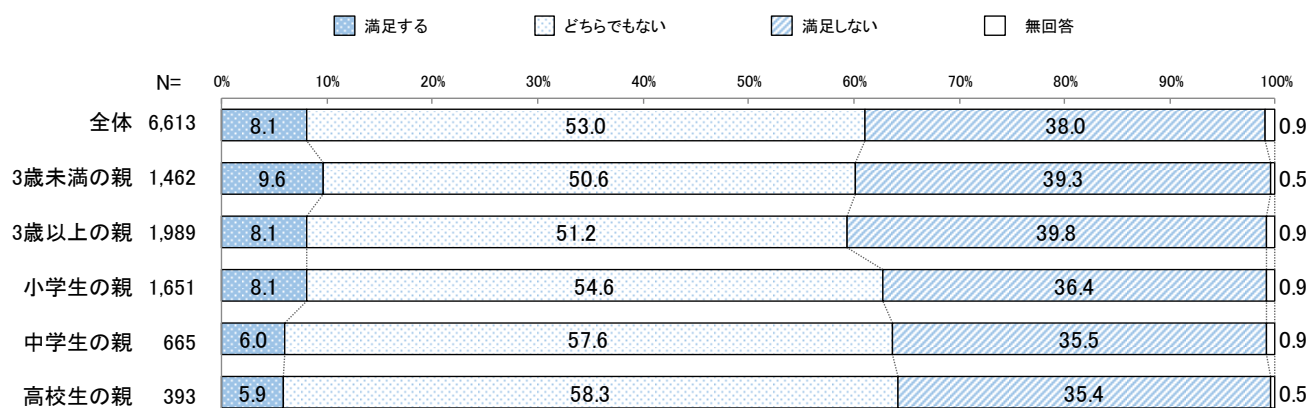
【男女でともに子育てに参加することについての意識啓発】

- ◇ 全体では、「期待する」の割合は 63.6%、「満足する」の割合は 8.1%である。
- ◇ 「満足しない」の割合は、いずれの年代の子どもをもつ親も 3 割半ばから 4 割弱と高くなっている。

（１）期待するかどうか



（２）現状に満足しているかどうか

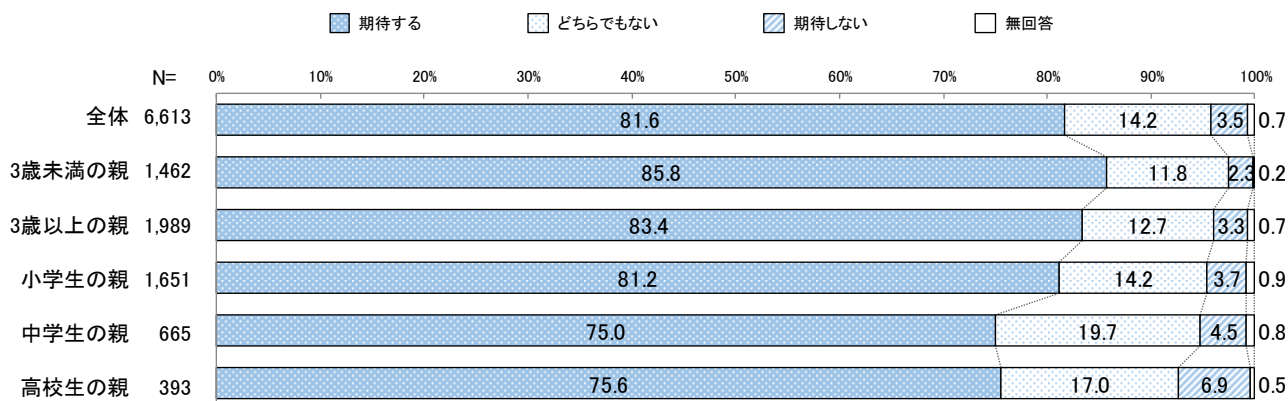


【一人ひとりが大切にされ、安全に活動でき、安心して育つ場、学ぶ場の環境整備】

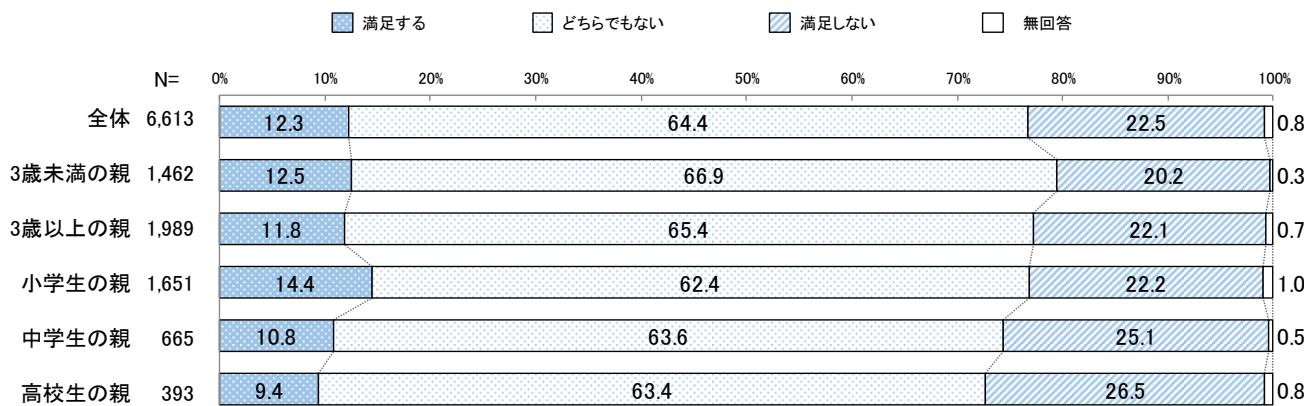
◇ 全体では、「期待する」の割合は81.6%、「満足する」の割合は12.3%である。

◇ 「満足しない」の割合は、いずれの年代の子どもをもつ親も2割台となっている。

（１）期待するかどうか



（２）現状に満足しているかどうか

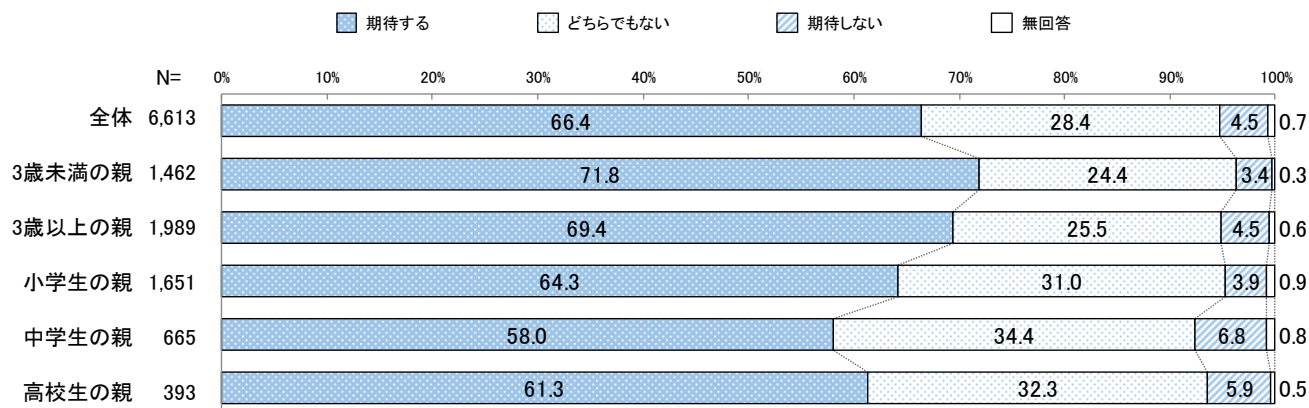


【各種子ども・子育て支援施策の周知・広報】

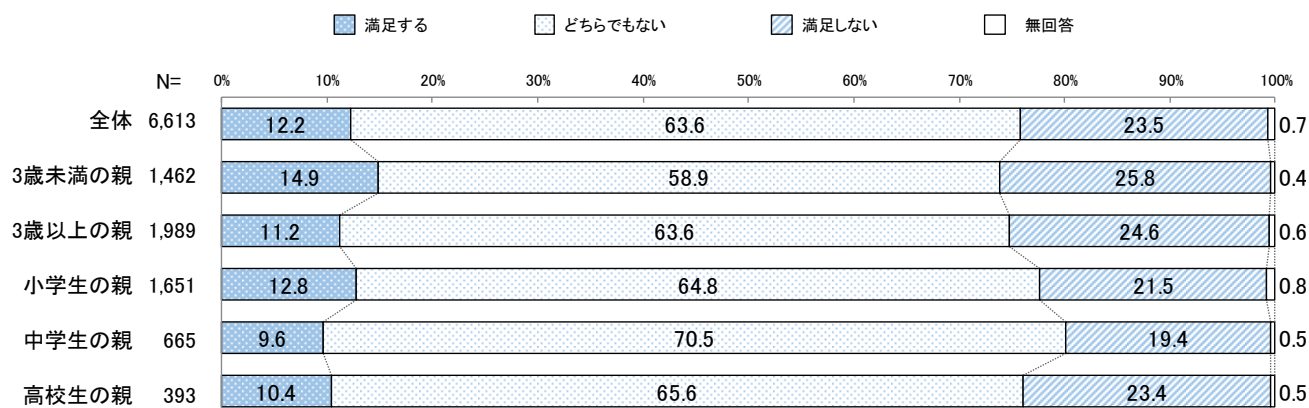
◇ 全体では、「期待する」の割合は66.4%、「満足する」の割合は12.2%である。

◇ 「期待しない」の割合は、いずれの年代の子どもをもつ親も1割未満となっている。

（１）期待するかどうか



（２）現状に満足しているかどうか



【前回調査との数値比較】

<満足しない>

	ア. 労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備			オ. 子育てについて相談できる機関やサービスの充実		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	32.6	42.5	9.9	14.1	17.0	2.9
3 歳未満の親	33.8	46.9	13.1	13.6	17.4	3.8
3 歳以上の親	34.2	46.0	11.8	15.5	18.2	2.7
小学生の親	31.3	38.4	7.1	11.8	15.4	3.6
中学生の親	30.3	38.3	8.0	13.3	17.3	4.0
高校生の親	28.9	35.4	6.5	18.4	15.3	▲ 3.1

	ク. 遊び・スポーツ・文化活動など、豊かな人間性をつくる学校外活動の充実		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	23.1	28.2	5.1
3 歳未満の親	14.8	20.5	5.7
3 歳以上の親	22.0	27.0	5.0
小学生の親	28.3	31.0	2.7
中学生の親	27.8	38.8	11.0
高校生の親	29.8	31.3	1.5

<「満足している」割合と「期待する」割合の関係>

(%)

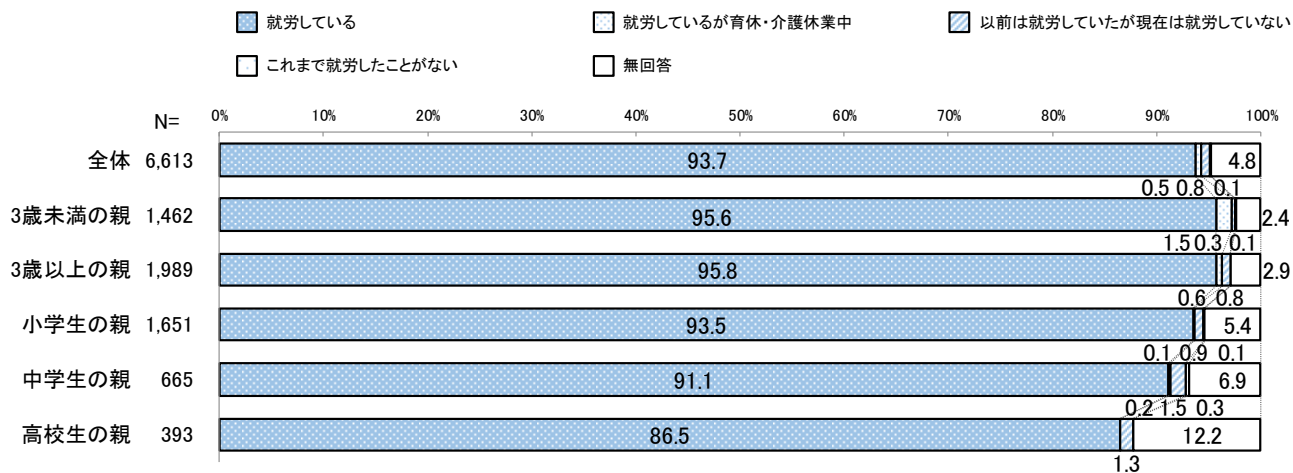
施 策 項 目	満足する	期待する
労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備	10.3	70.2
多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実	16.1	75.4
安心して出産や子育てができる医療サービスの充実	37.6	80.6
授乳やおむつ替えの場所など、子どもとともに外出がしやすいまちの整備（就学前のみ）	27.7	85.1
子育てについて相談できる機関やサービスの充実	19.4	62.4
住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり	24.9	83.7
すべての子どもの可能性を引き出し、未来をつくる力を生み出す学びの実現	5.6	76.0
遊び・スポーツ・文化活動など、豊かな人間性をつくる学校外活動の充実	8.5	73.8
医療費助成や子育てにかかる各種サービスの費用の軽減など、経済的な支援の充実	33.5	87.9
男女とともに子育てに参加することについての意識啓発	8.1	63.6
一人ひとりが大切にされ、安全に活動でき、安心して育つ場、学ぶ場の環境整備	12.3	81.6
各種子ども・子育て支援施策の周知・広報	12.2	66.4

父親の就労状況について 【就学前 問 11・就学後 問 12】

■父親の就労状況について、あてはまるものを選んでください。(1つ)

◇ 全体では、父親の就労状況では「就労している」が 93.7%である。

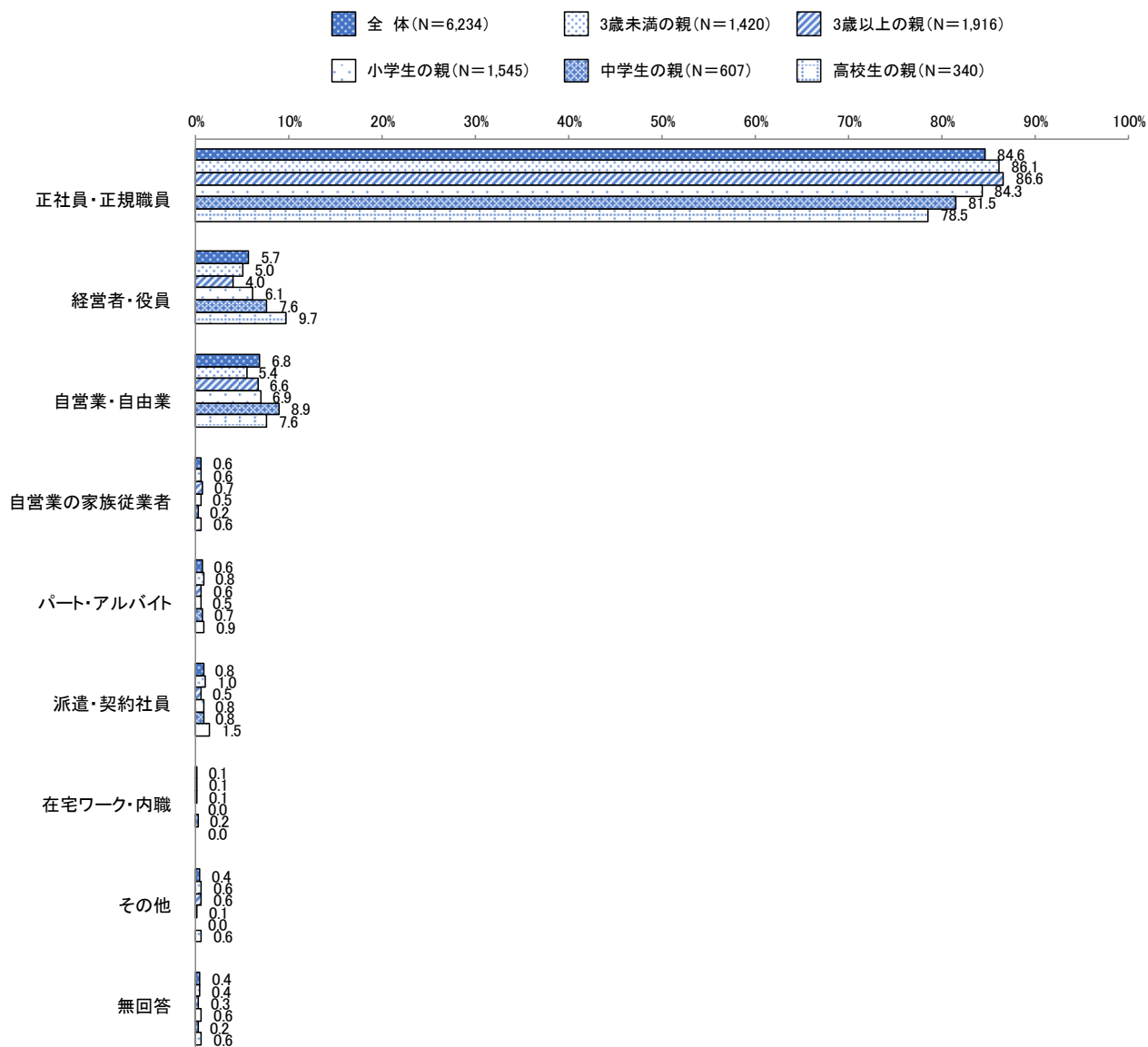
◇ いずれの年代の子どもをもつ父親も、9 割弱から 9 割半ばが就労している。



父親の就労形態について 【就学前 問 12・就学後 問 13】

■父親の就労形態について、あてはまるものを選んでください。(1つ)

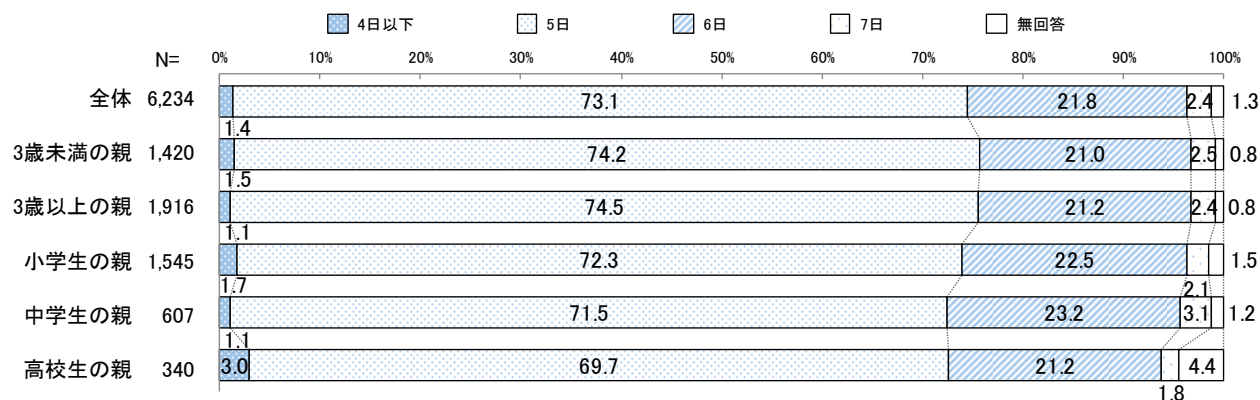
- ◇ 全体では、「正社員・正規職員」が 84.6%と最も多く、次いで「自営業・自由業」が 6.8%、「経営者・役員」が 5.7%となっている。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、7 割以上が「正社員・正規職員」として就労している。



父親の就労日数について 【就学前 問 13・就学後 問 14】

■父親の平均的な1週間の就労日数を数字で記入してください。

- ◇ 全体では、週に「5日」が73.1%と最も多く、週に「6日」が21.8%、週に「7日」が2.4%となっている。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ父親も、週に「5日」が最も多く、「高校生の親」を除き7割以上となっている。

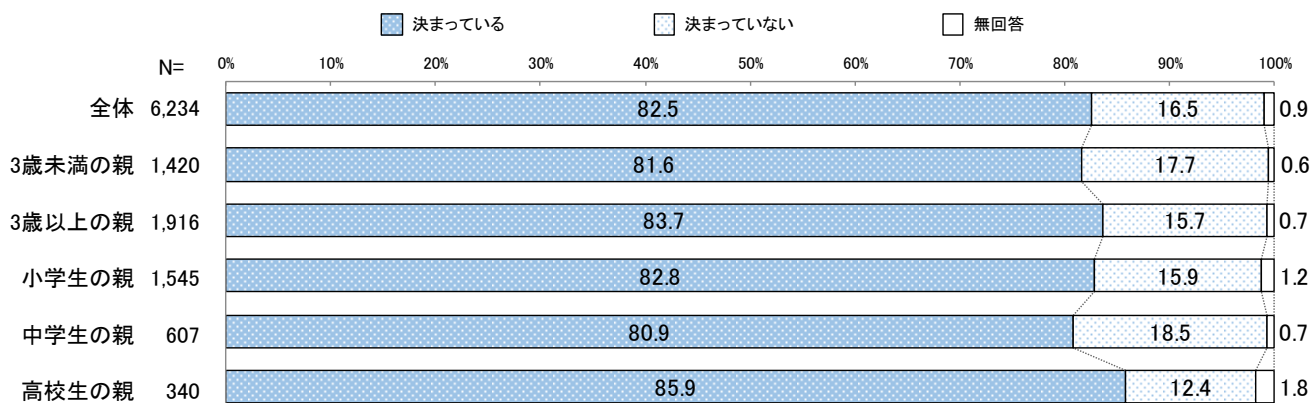


父親の勤務形態について 【就学前 問 14・就学後 問 15】

■父親の平均的な1日の就労時間と、平均的な家を出る時間と帰宅時間について記入してください。

【勤務体制】

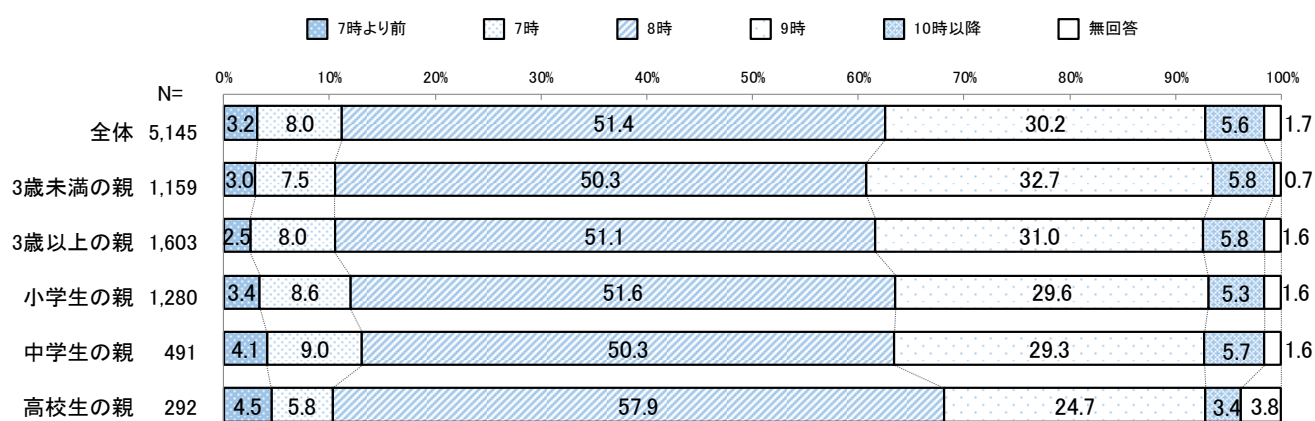
- ◇ 全体では、就労時間が「決まっている」と回答した人が82.5%、「決まっていない」と回答した人が16.5%である。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ父親も、「決まっている」と回答した人の割合は8割台となっている。



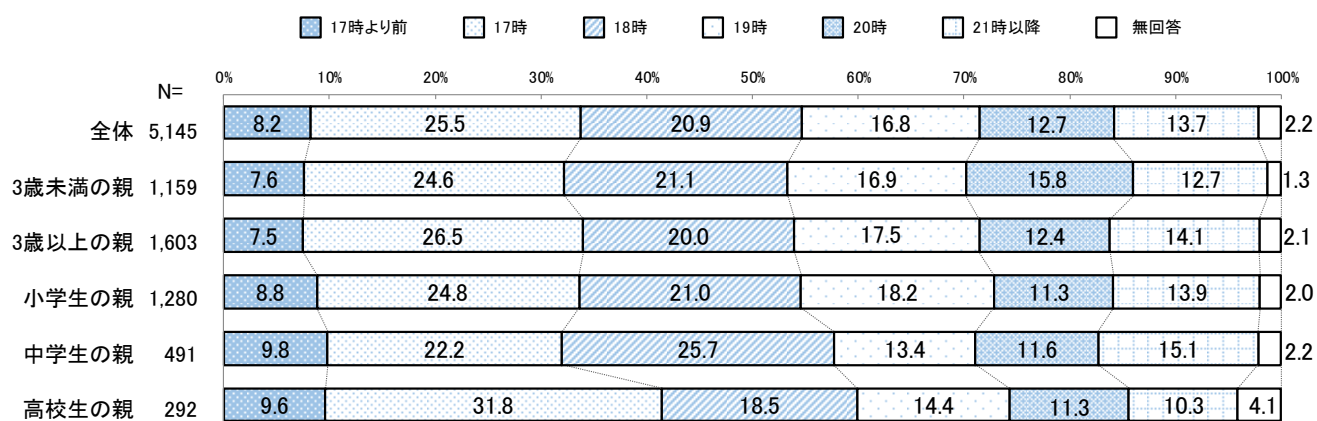
【就労時間】

- ◇ 始業時刻の全体では、「8 時」が 51.4%と最も多く、次いで「9 時」が 30.2%である。また、終業時刻の全体は、「17 時」が 25.5%と最も多く、次いで「18 時」が 20.9%である。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ父親も、始業時刻の割合は「8 時」が過半数を占めている。

<始業時刻>

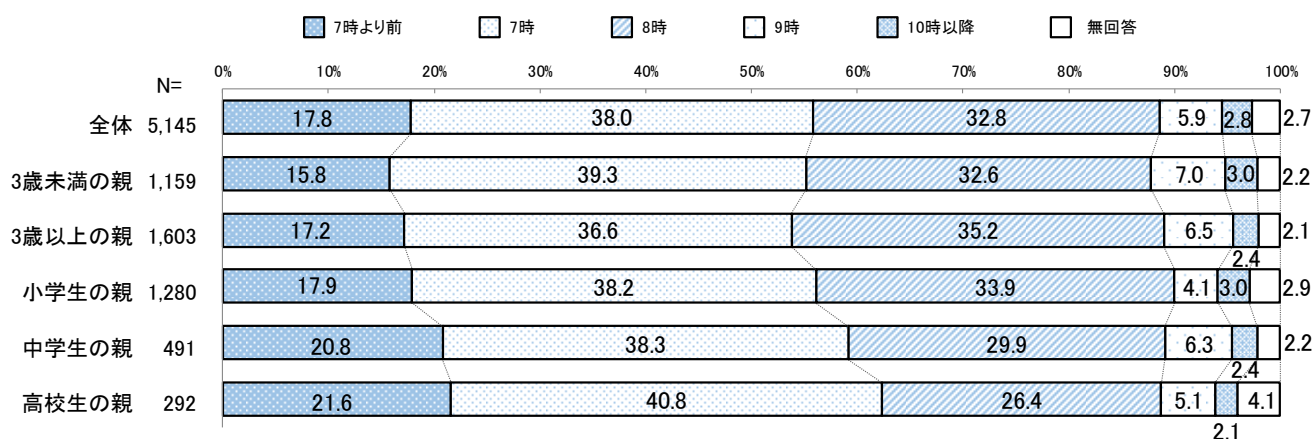


<終業時刻>



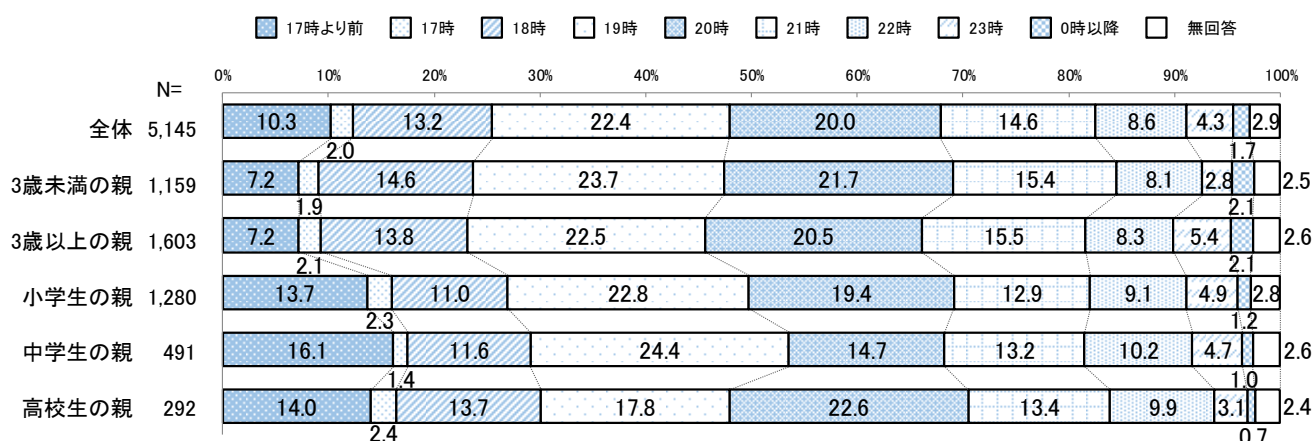
【家を出る時間】

- ◇ 全体では、「7 時」が 38.0%と最も多く、次いで「8 時」が 32.8%、「7 時より前」が 17.8%である。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ父親も「7 時」と「8 時」の割合の合計は、7 割前後となっている。



【帰宅時間】

- ◇ 全体では、「19 時」が 22.4%と最も多く、次いで「20 時」が 20.0%、「21 時」が 14.6%となっている。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ父親も「19 時」と「20 時」の割合の合計は、4 割弱から 4 割半ばとなっており、最も多い時間帯である。

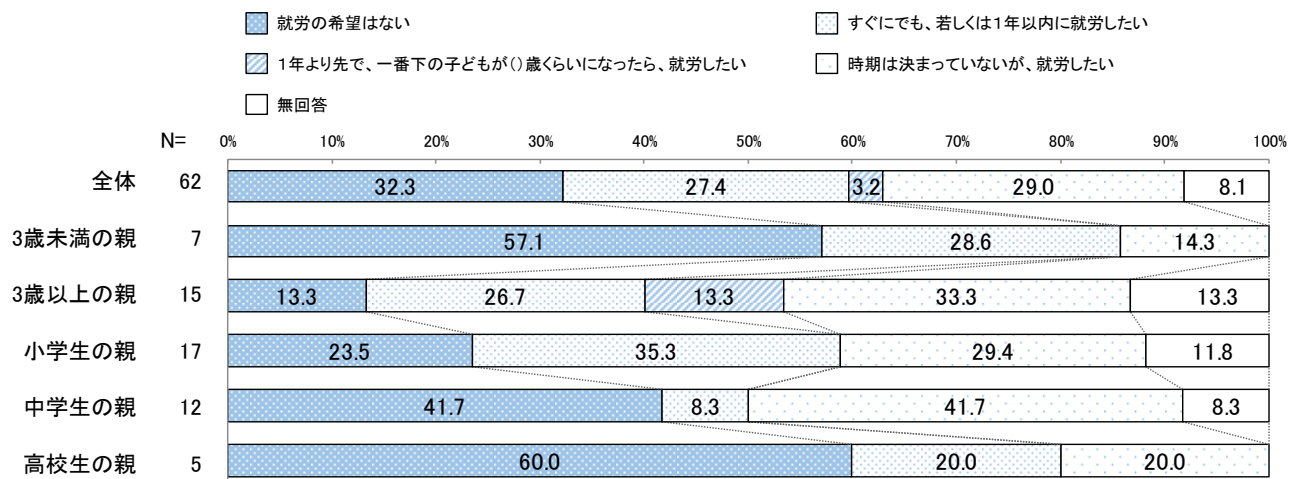


<就労していない父親>

父親の今後の就労の希望について 【就学前 問 15・就学後 問 16】

■父親は、今後、就労の希望がありますか。(1つ)

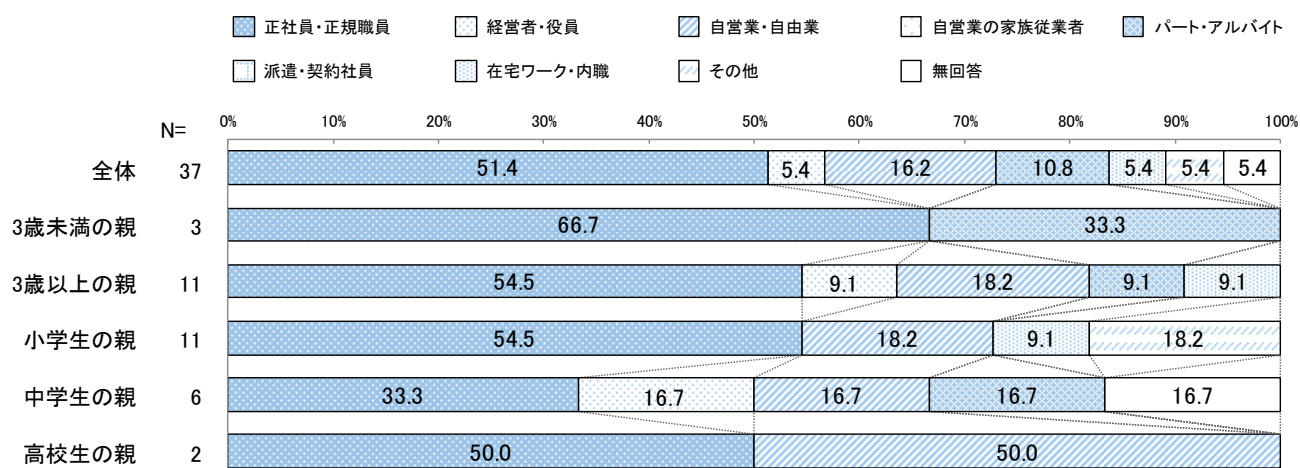
- ◇ 全体では、「就労の希望はない」が 32.3%と最も多い。
- ◇ 「すぐにでも、若しくは1年以内に就労したい」を見ると、「小学生の親」が 35.3%と最も割合が高い。



父親の今後の希望する就労形態について 【就学前 問 16・就学後 問 17】

■父親が今後就労する場合、どのような就労を希望しますか。(1つ)

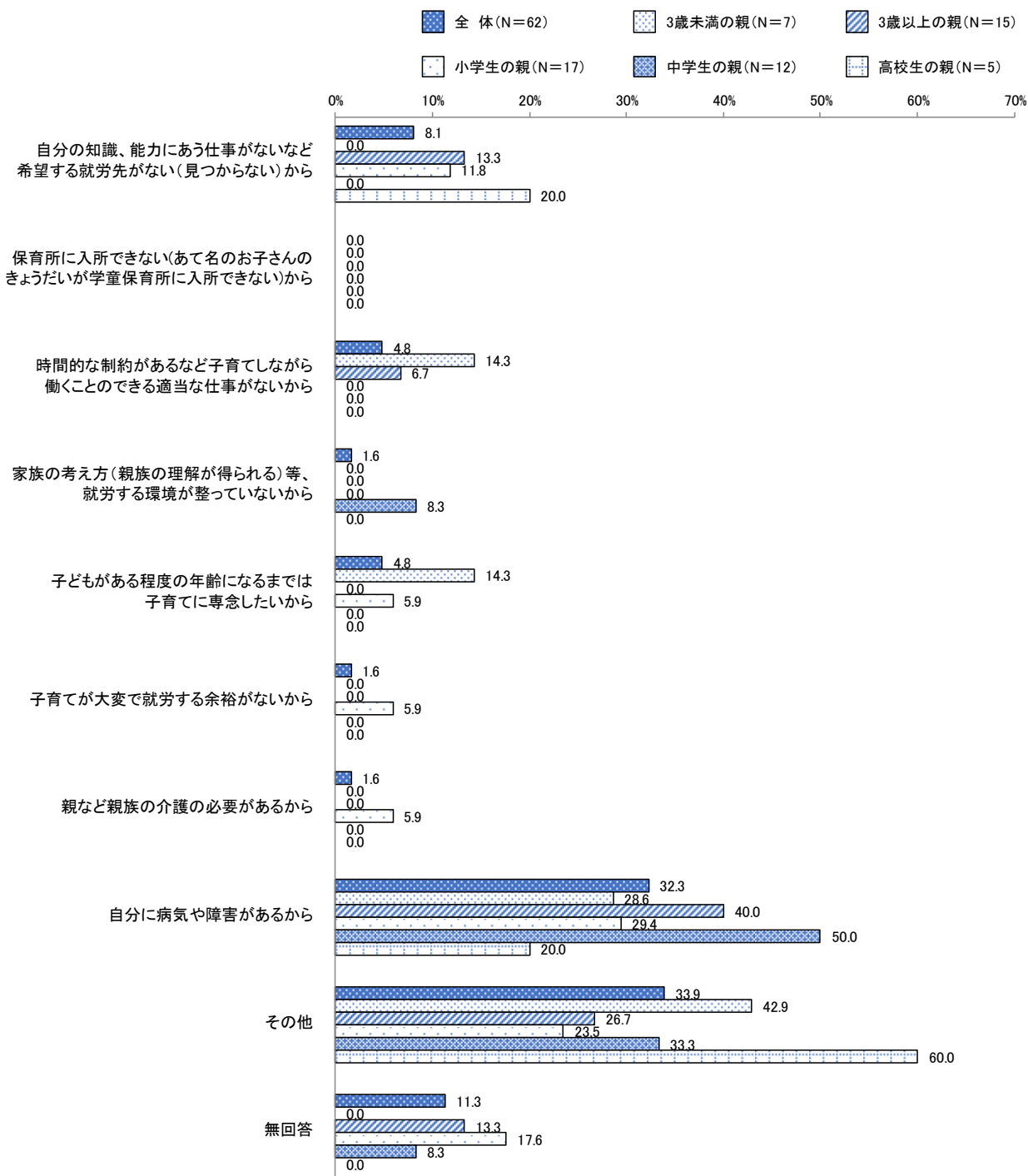
- ◇ 「正社員・正規職員」が 51.4%と最も多く、次いで「自営業・自由業」が 16.2%である。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ父親も、「正社員・正規職員」の割合が最も高い。



父親の就労していない理由について 【就学前 問 17・就学後 問 18】

■父親が現在働いていない理由は何ですか。(1つ)

- ◇ 全体では、「その他」を除き「自分に病気や障害があるから」が32.3%と最も多い。
- ◇ 「高校生の親」を除き、いずれの年代の子どもをもつ父親も「自分に病気や障害があるから」と回答した人が最も多い。



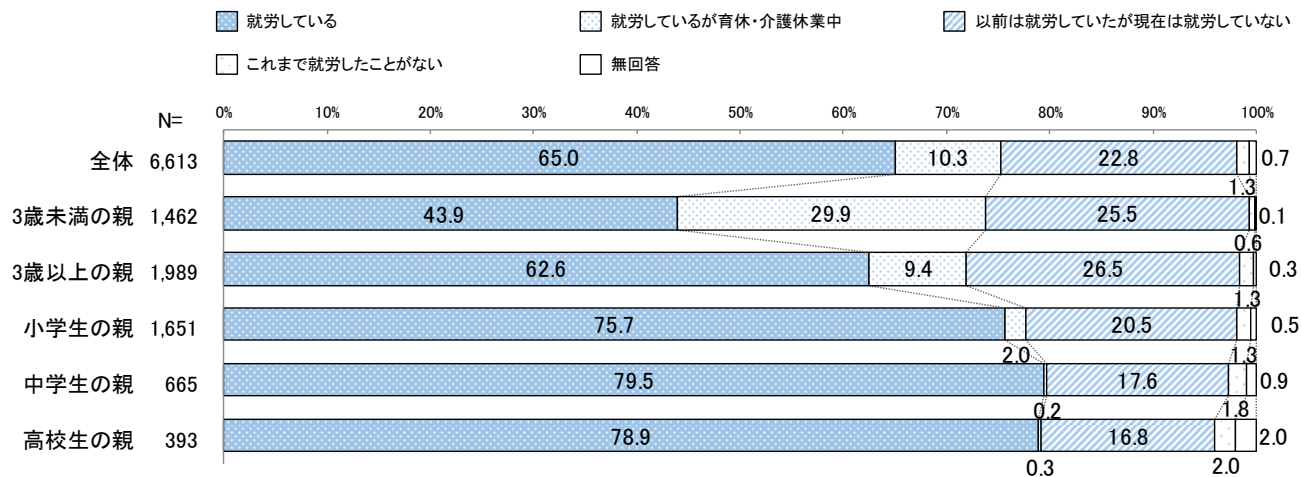
母親の就労状況について

【就学前 問 18・就学後 問 19】

■母親の就労状況について、あてはまるものを選んでください。（1つ）

◇ 全体では、母親の就労状況では「就労している」が 65.0%である。

◇ 「就労している」の割合は、「3歳未満の親」が 43.9%と最も低くなっている。



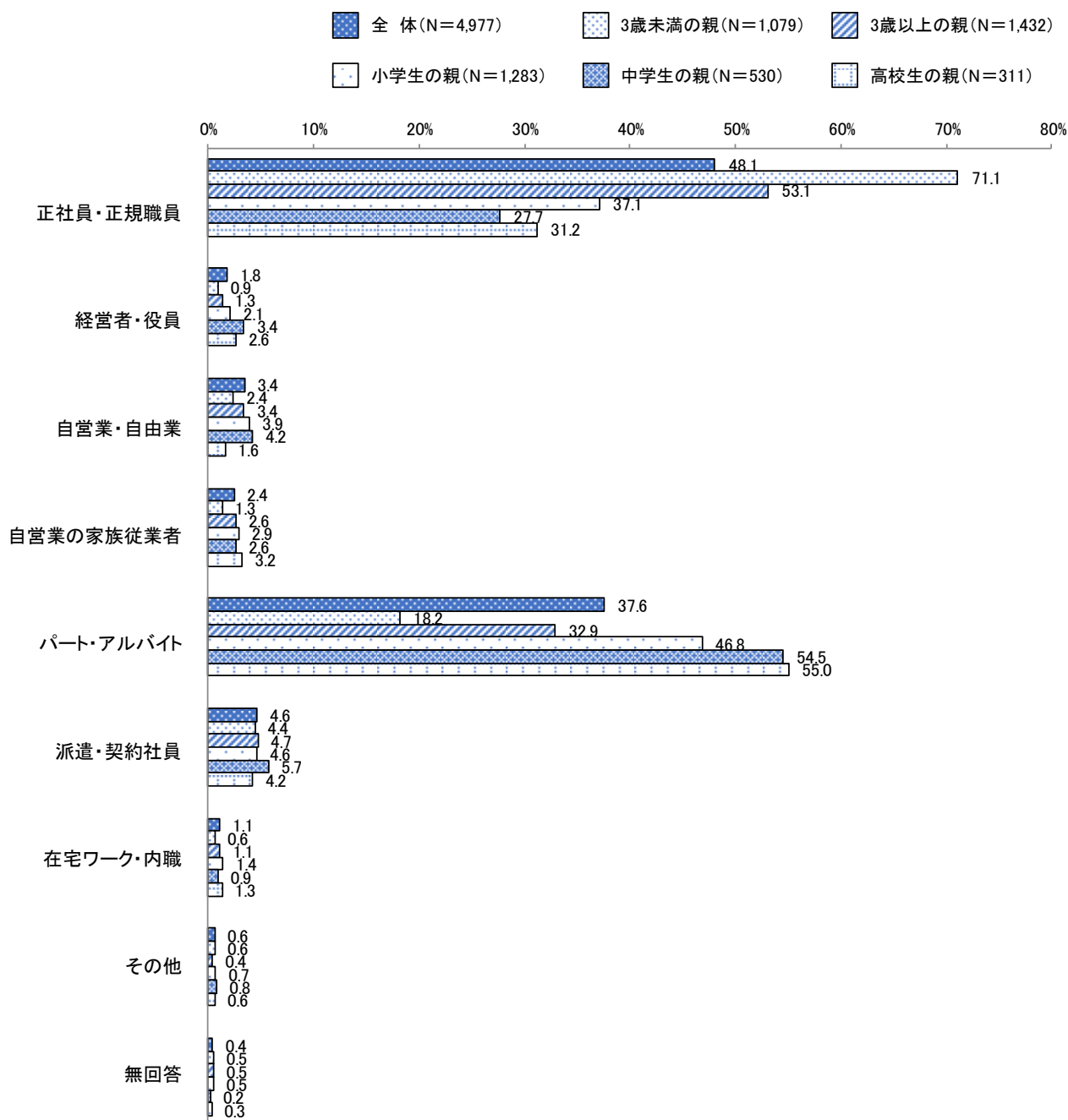
【前回調査との数値比較】

	就労している		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	58.7	65.0	6.3
3歳未満の親	39.9	43.9	4.0
3歳以上の親	54.7	62.6	7.9
小学生の親	70.7	75.7	5.0
中学生の親	75.6	79.5	3.9
高校生の親	81.7	78.9	▲ 2.8

母親の就労形態について 【就学前 問 19・就学後 問 20】

■母親の就労形態にあてはまるものを選んでください。(1つ)

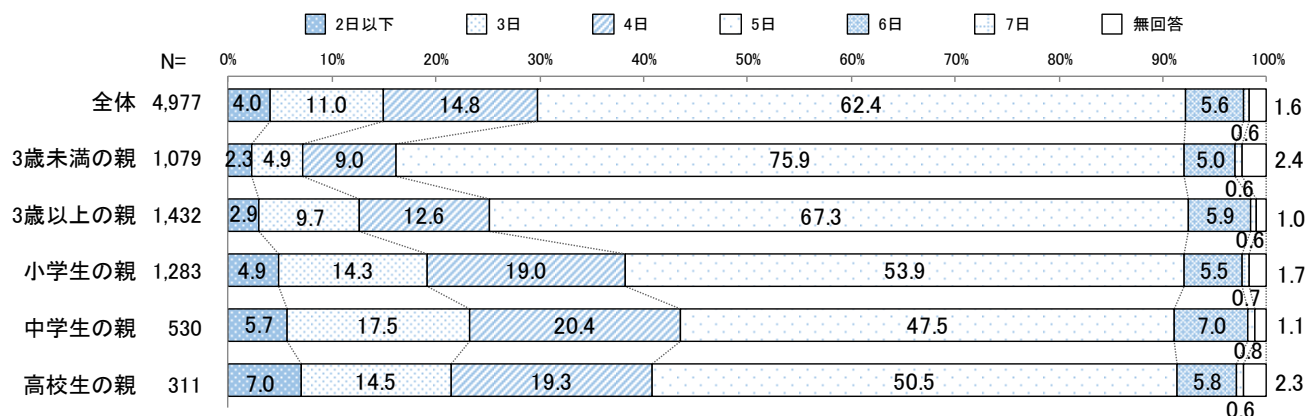
- ◇ 全体では、「正社員・正規職員」が 48.1%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 37.6%、「派遣・契約社員」が 4.6%、「自営業・自由業」が 3.4%となっている。
- ◇ 就学前の母親は「正社員・正規職員」の割合が高く、就学後の母親は「パート・アルバイト」の割合が高い。



母親の就労日数について 【就学前 問 20・就学後 問 21】

■母親の平均的な1週間の就労日数を数字で記入してください。

- ◇ 全体では、週に「5日」が62.4%、週に「4日」が14.8%であり、週に「3日」が11.0%となっている。
- ◇ 週に「5日」と回答した割合は、就学後の母親よりも就学前の母親の方が高くなっている。

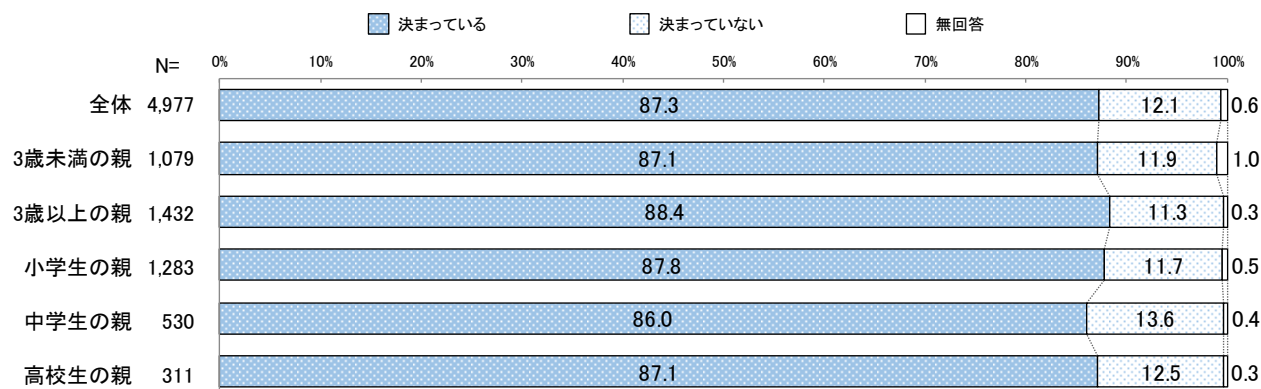


母親の勤務形態について 【就学前 問 21・就学後 問 22】

■母親の平均的な1日の就労時間と、平均的な家を出る時間と帰宅時間について記入してください。

【勤務体制】

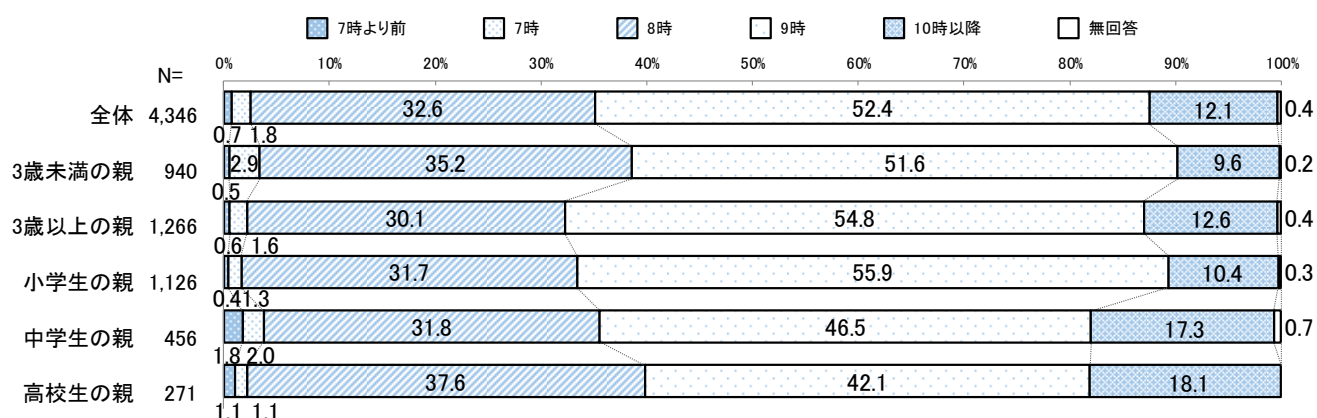
- ◇ 全体では、就労時間が「決まっている」と回答した人が87.3%、「決まっていない」と回答した人が12.1%である。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ母親も、その割合は同等である。



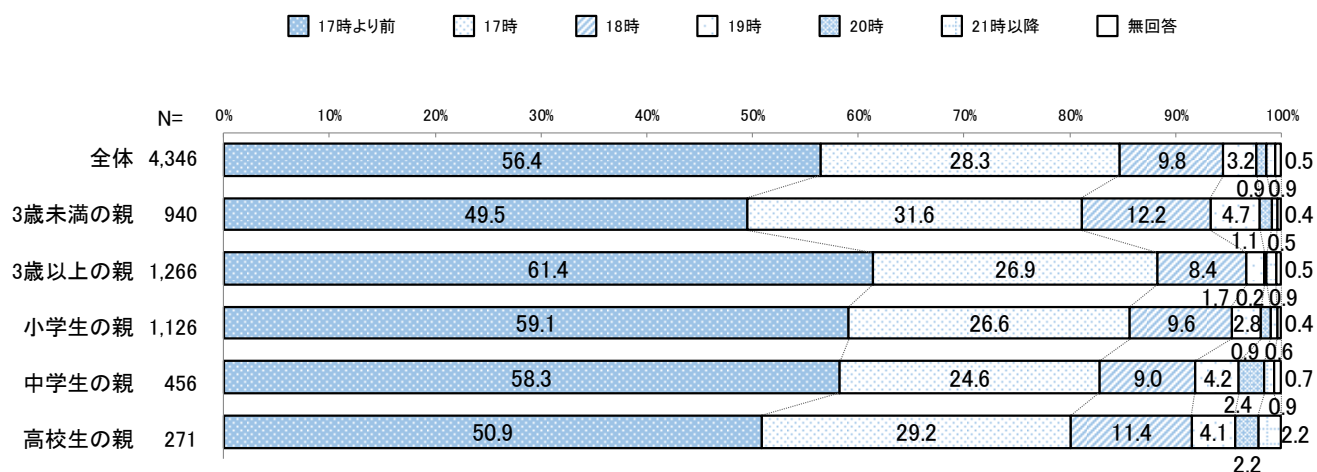
【就労時間】

- ◇ 始業時刻の全体では、「9 時」が 52.4%と最も多く、次いで「8 時」が 32.6%である。また、終業時刻の全体は、「17 時より前」が 56.4%と最も多く、次いで「17 時」が 28.3%である。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ母親も、終業時刻が「17 時より前」と「17 時」の合計割合が 8 割以上を占めている。

<始業時刻>

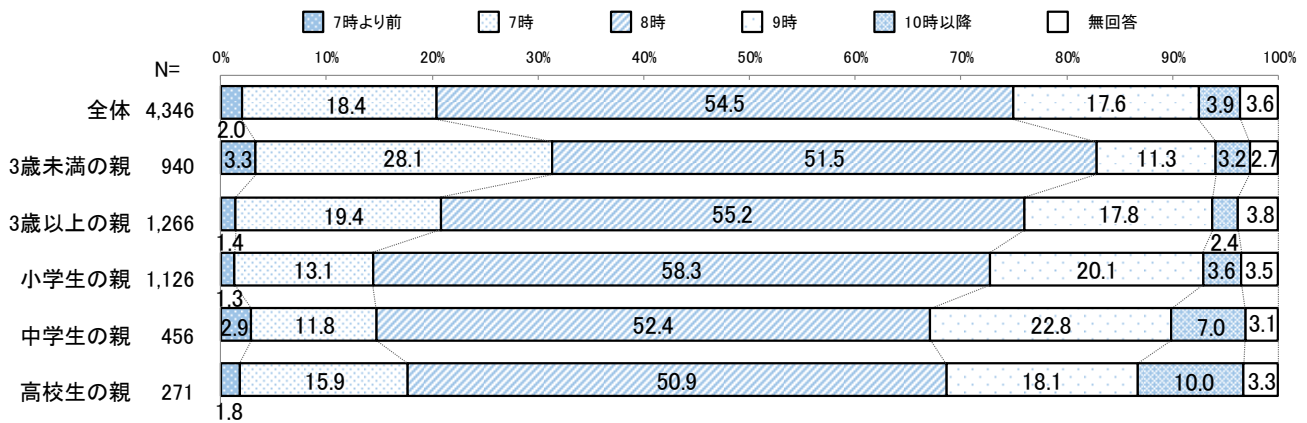


<終業時刻>



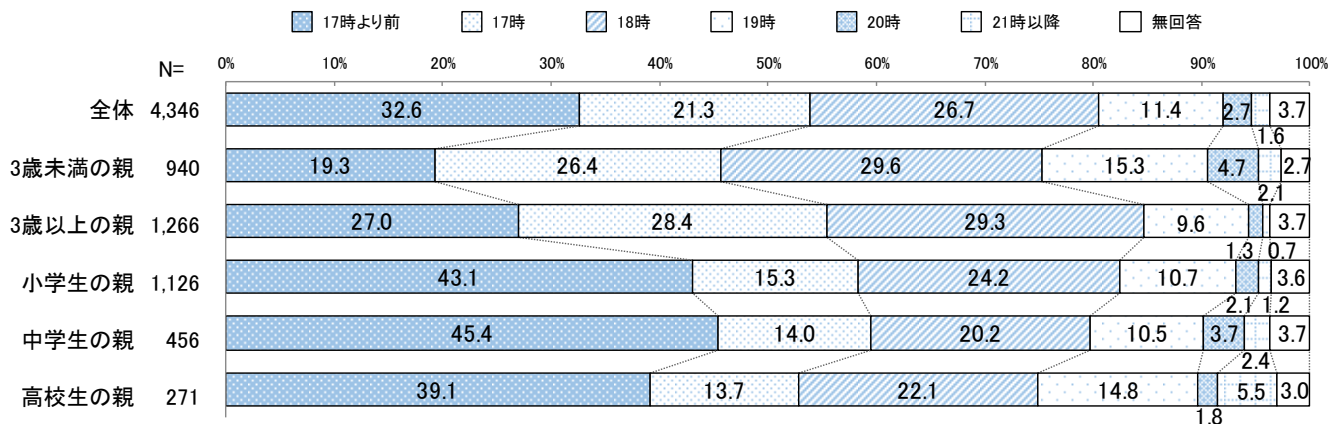
【家を出る時間】

- ◇ 全体では、「8時」が54.5%と最も多く、次いで「7時」が18.4%、「9時」が17.6%、「10時以降」が3.9%となっている。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ母親も「8時」の割合が過半数を占めている。



【帰宅時間】

- ◇ 全体では、「17時より前」が32.6%と最も多く、次いで「18時」が26.7%となっている。
- ◇ 「小学生の親」と「中学生の親」は、「17時より前」が4割台と高くなっている。

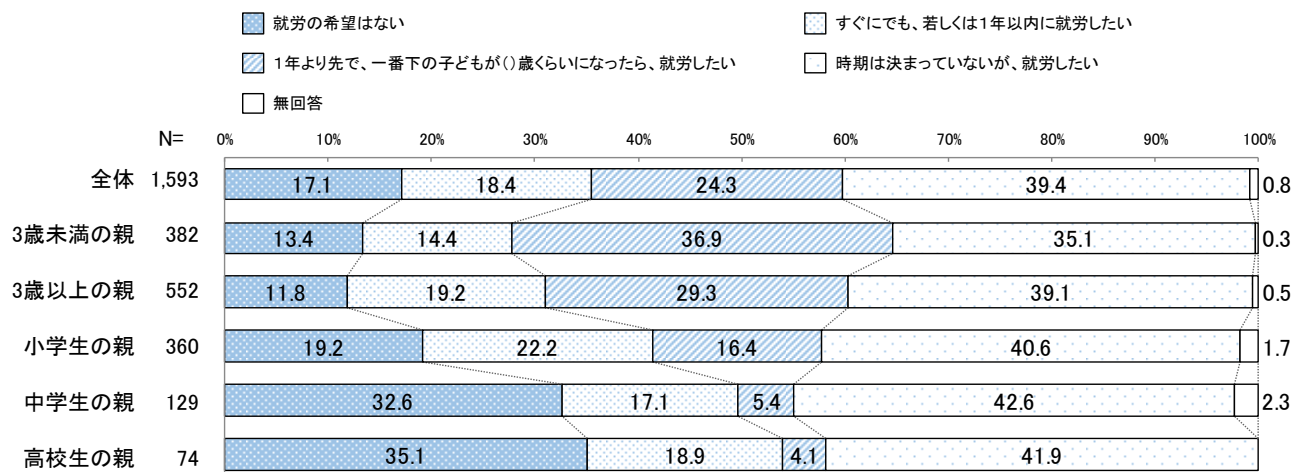


<就労していない母親>

母親の今後の就労の希望について 【就学前 問 22・就学後 問 23】

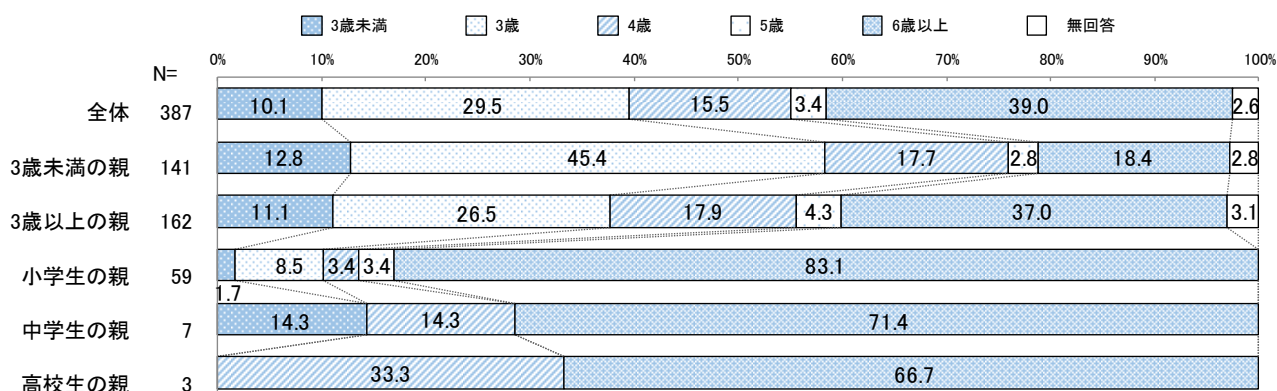
■母親は、今後、就労の希望がありますか。（1つ）

- ◇ 就労希望は全体の8割以上である。
- ◇ 「すぐにでも、若しくは1年以内に就労したい」の割合は、「小学生の親」が22.2%と最も高くなっている。



【子どもの年齢】

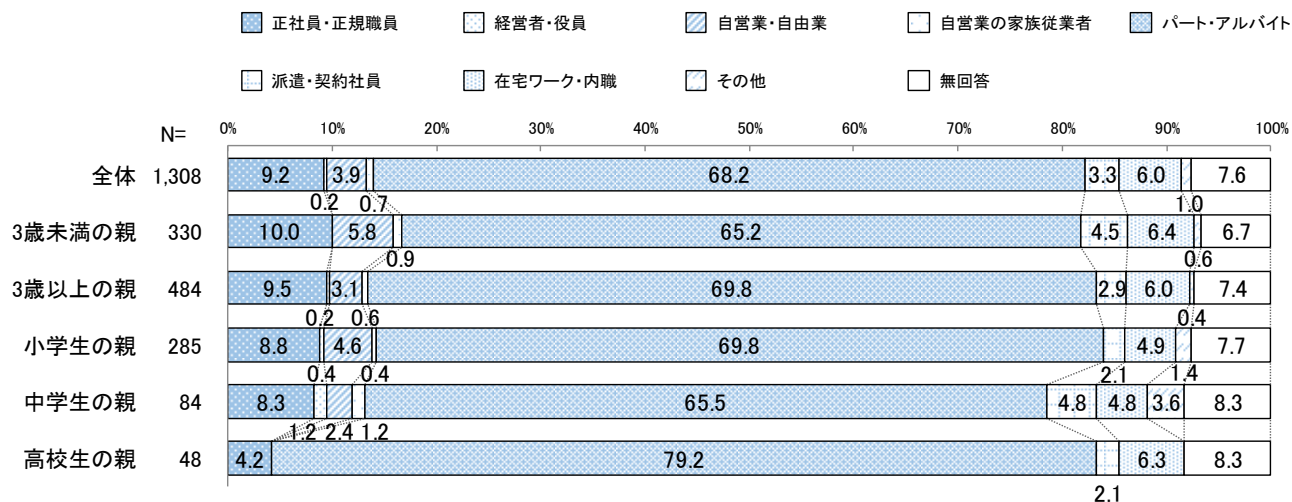
- ◇ 全体では、1年より先の就労を希望する場合の子どもの年齢は、「6歳以上」の割合が39.0%と最も高く、次いで「3歳」が29.5%となっている。
- ◇ 「6歳以上」の割合は、「3歳未満の親」では、18.4%であるのに対し、「3歳以上の親」では37.0%と15ポイント以上の差がみられた。



母親の今後の希望する就労形態について 【就学前 問 23・就学後 問 24】

■母親が今後就労する場合、どのような就労を希望しますか。(1つ)

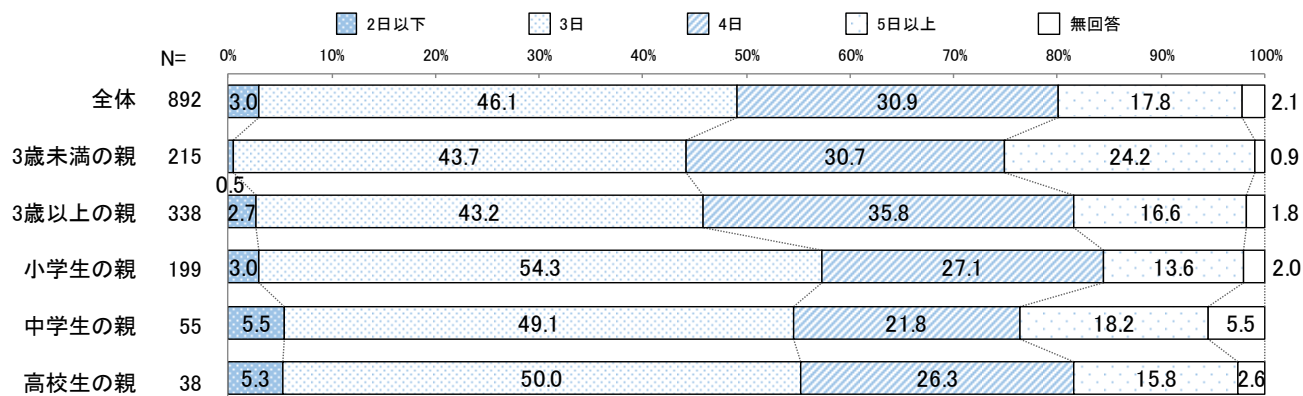
- ◇ 全体では、「パート・アルバイト」が 68.2%であり、次いで「正社員」が 9.2%である。
- ◇ 子どもの年代が上がるにつれて、「正社員・正規職員」の割合は低くなっている。



【就労日数】

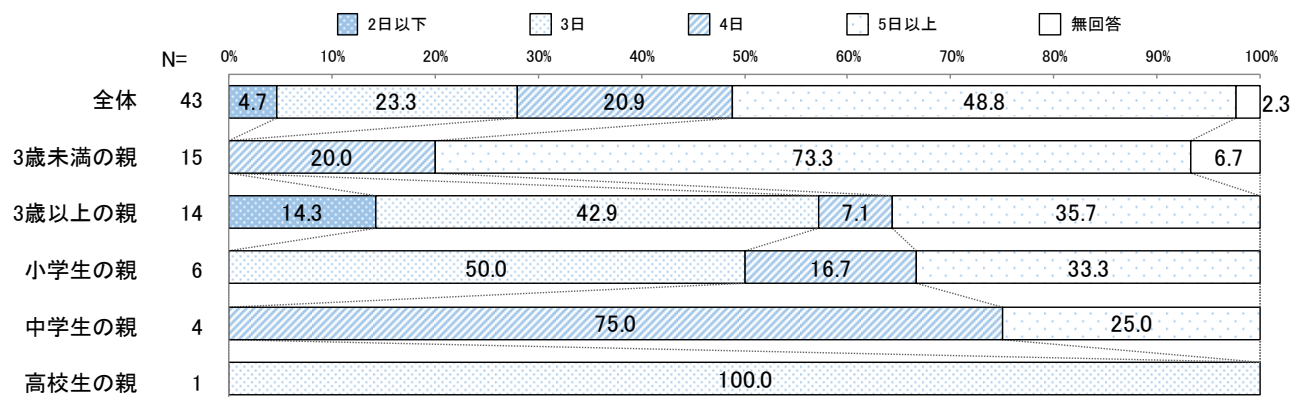
<パート・アルバイト>

- ◇ 全体では、「3日」が 46.1%と最も多く、次いで「4日」が 30.9%、「5日以上」が 17.8%となっている。
- ◇ 「小学生の親」では、「3日」の割合が 54.3%となっており、他の年代の子をもつ母親に比べて最も高い。



<派遣・契約社員>

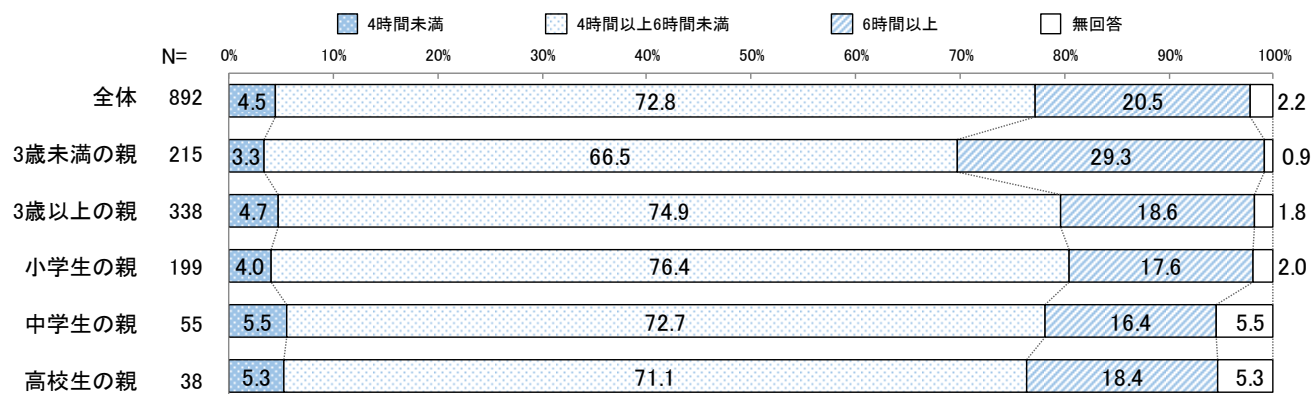
- ◇ 全体では、「5日以上」が48.8%、「4日」が20.9%と最も多く、次いで「3日」が23.3%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」では、「5日以上」の割合が73.3%となっており、他の年代の子をもつ母親に比べて最も高い。



【就労時間】

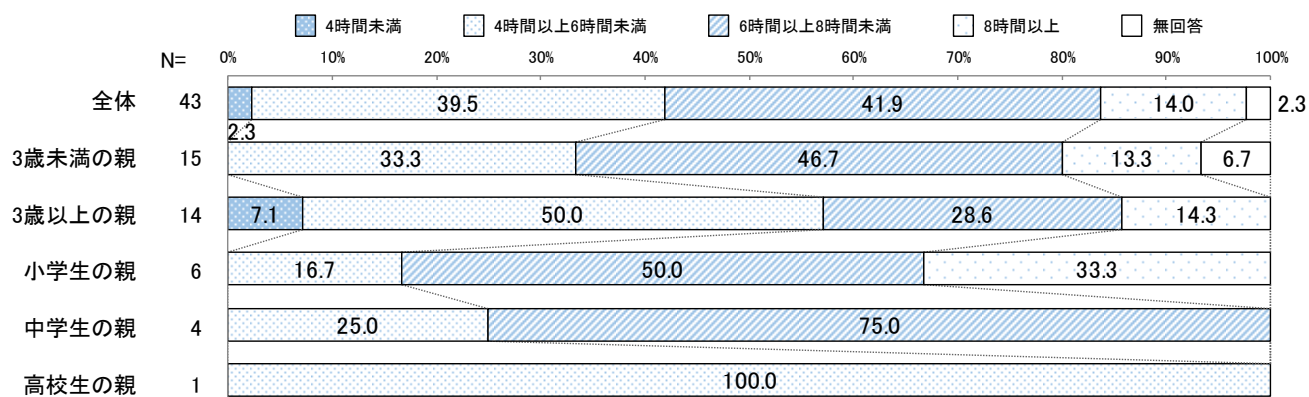
<パート・アルバイト>

- ◇ 全体では、「4時間以上6時間未満」が72.8%と最も多く、次いで「6時間以上」が20.5%、「4時間未満」が4.5%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」では、「6時間以上」の割合が29.3%となっており、他の年代の子をもつ母親に比べて最も高い。



<派遣・契約社員>

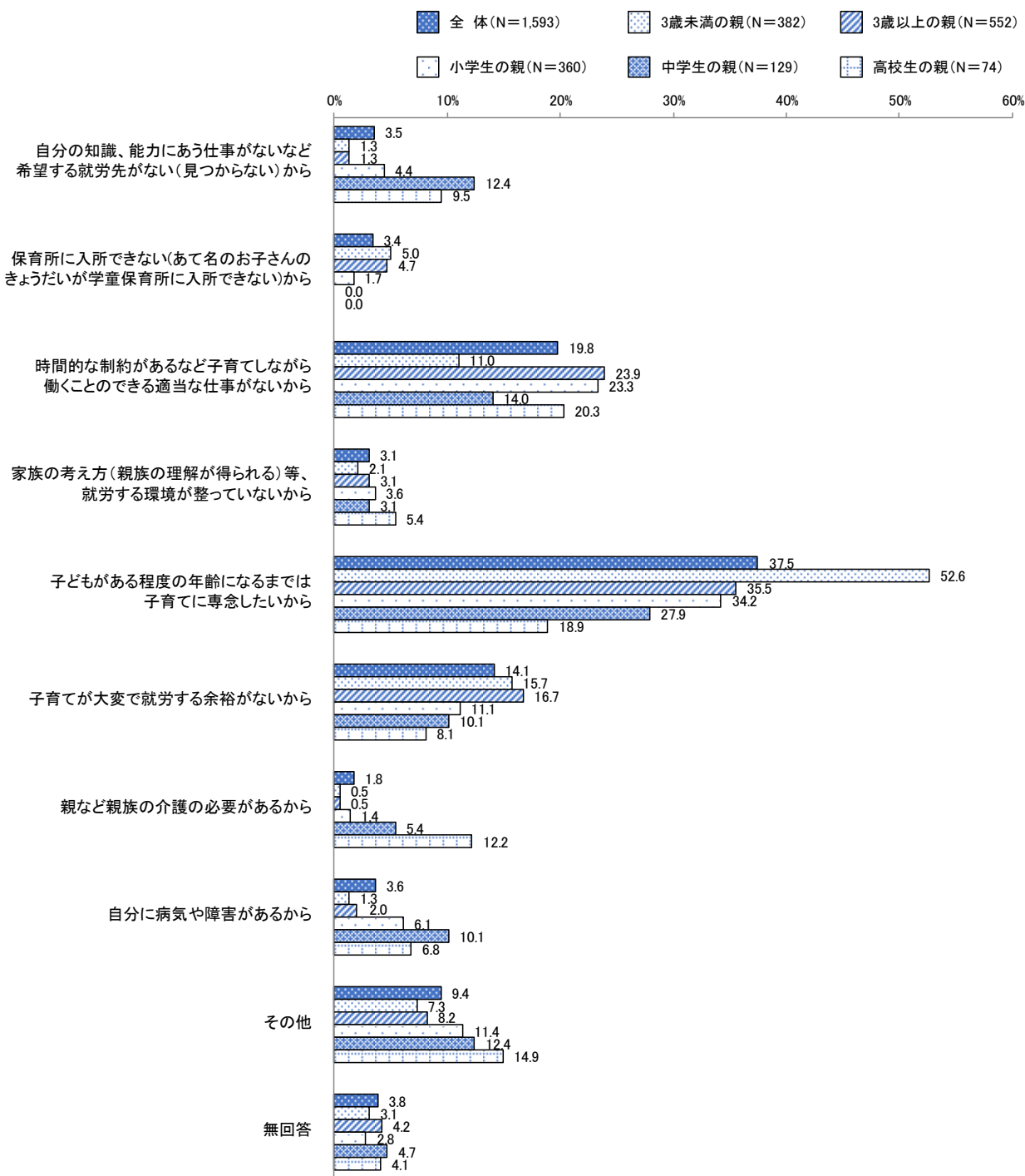
- ◇ 全体では、「6 時間以上 8 時間未満」が 41.9%と最も多く、次いで「4 時間以上 6 時間未満」が 39.5%、「8 時間以上」が 14.0%となっている。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ母親も「4 時間未満」を希望する人は 1 割未満となっている。



母親の就労していない理由について 【就学前 問 24・就学後 問 25】

■母親が現在働いていない理由は何ですか。（1つ）

- ◇ 「子どもがある程度の年齢になるまでは子育てに専念したいから」が37.5%と最も多く、次いで「時間的な制約があるなど子育てしながら働くことのできる適当な仕事がないから」が19.8%、「子育てが大変で就労する余裕がないから」が14.1%となっている。
- ◇ 子どもの年代が上がるにつれて、「親など親族の介護の必要があるから」の割合が高くなっている。

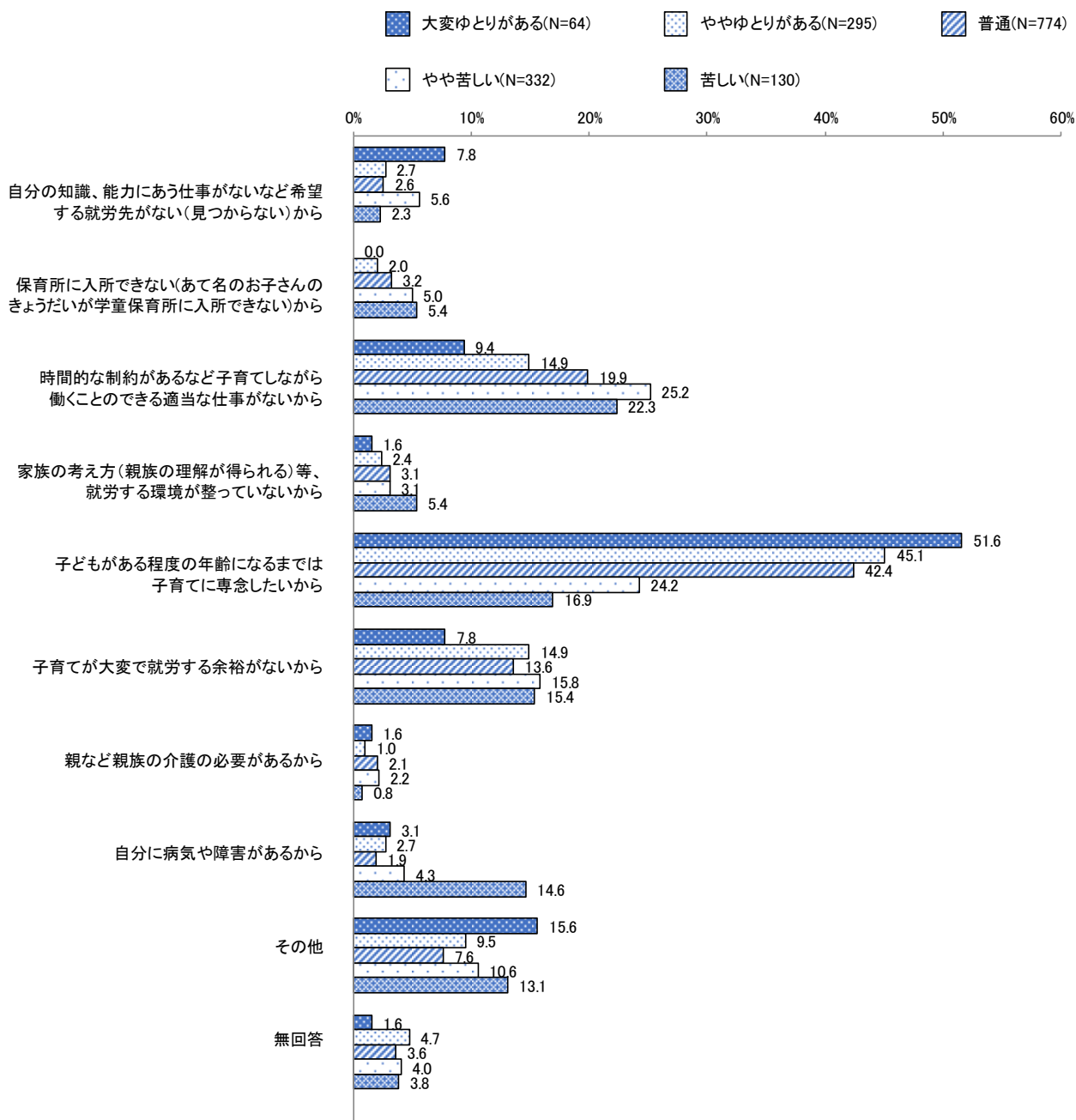


【前回調査との数値比較】

	就労していない理由		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
保育所に入所できない（あて名のお子さんのきょうだいが学童保育所に入所できない）から	5.4	3.4	▲ 2.0
時間的な制約があるなど働きながら子育てできる適当な仕事がないから	19.1	19.8	0.7
子どもがある程度の年齢になるまでは子育てに専念したいから	45.2	37.5	▲ 7.7
子育てが大変で就労する余裕がないから	11.0	14.1	3.1

『母親の現在働いていない理由（就学前 問 24、就学後 問 25）と世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後問 32）』

◎ 就労希望があるが就労していない理由は、世帯の暮らし向きの意識に関わらず、「子どもがある程度の年齢になるまでは子育てに専念したい」が最も多い。

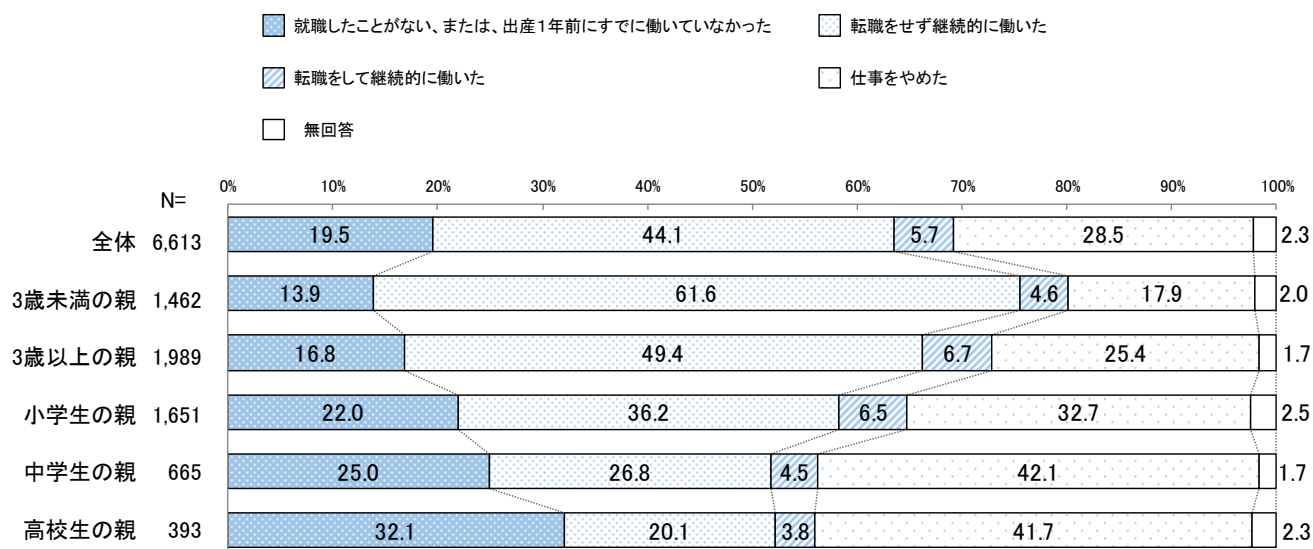


出産にともなう母親の退職や転職について 【就学前 問 25・就学後 問 26】

■母親は、出産前後（それぞれ１年以内）に仕事をやめたり、転職をしましたか。

（１つ）

- ◇ 全体では、「転職をせず継続的に働いた」が 44.1%と最も多く、次いで、「仕事をやめた」が 28.5%、「就職したことがない、または、出産１年前にすでに働いていなかった」が 19.5%となっている。
- ◇ 「３歳未満の親」では、「転職をせず継続的に働いた」の割合が最も高く、61.6%となっている。

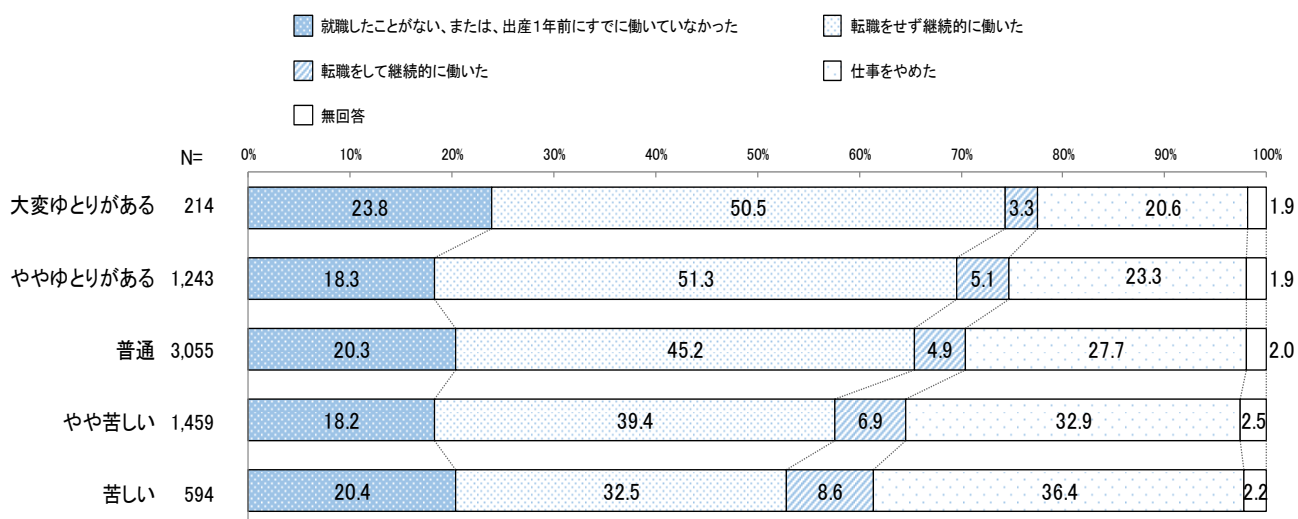


【前回調査との数値比較】

	転職をせず継続的に働いた			仕事をやめた		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全体	30.8	44.1	13.3	43.7	28.5	▲15.2
3歳未満の親	41.8	61.6	19.8	36.5	17.9	▲18.6
3歳以上の親	33.4	49.4	16.0	42.9	25.4	▲17.5
小学生の親	25.6	36.2	10.6	47.2	32.7	▲14.5
中学生の親	17.3	26.8	9.5	50.4	42.1	▲8.3
高校生の親	18.3	20.1	1.8	53.0	41.7	▲11.3

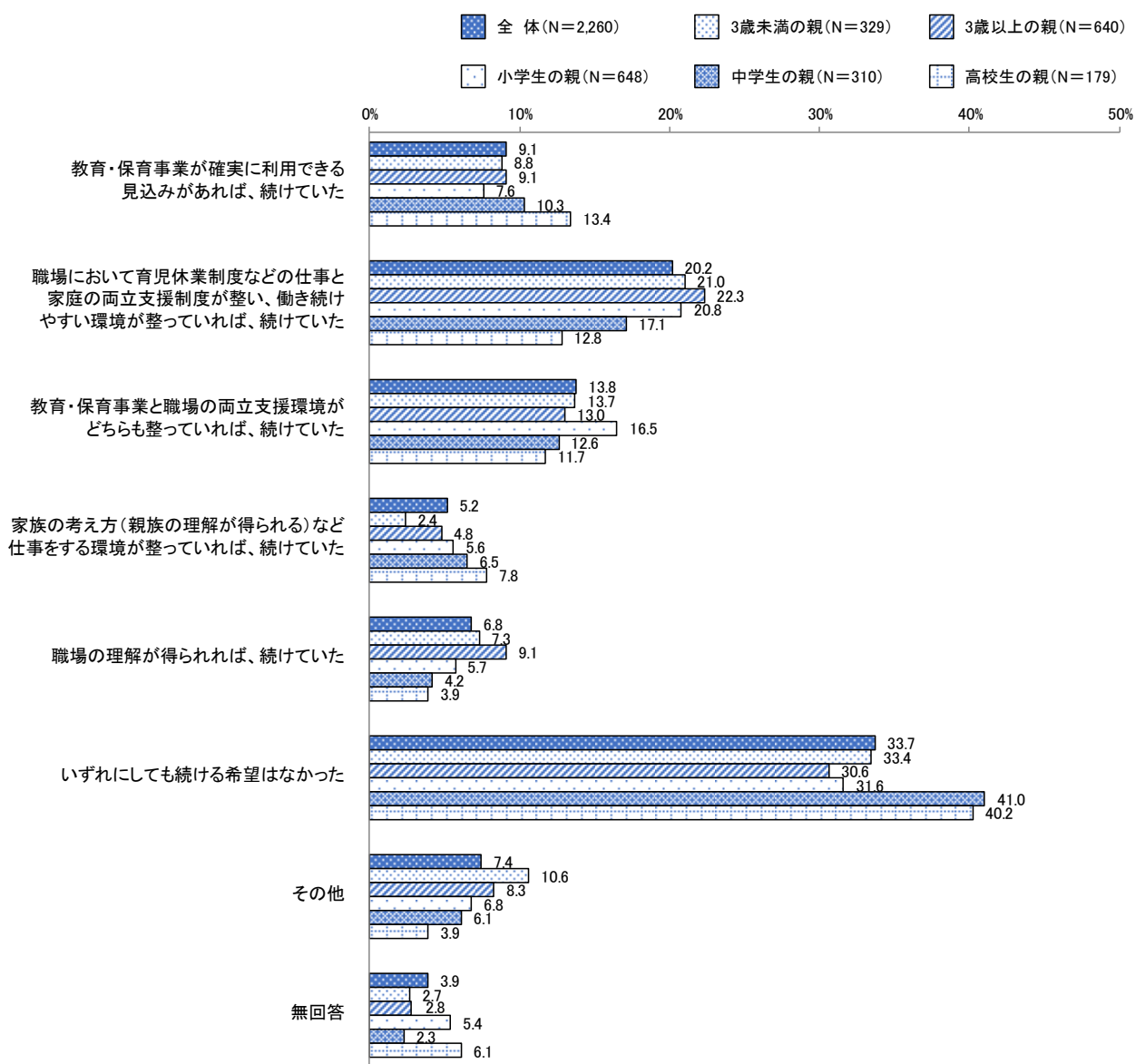
『出産にともなう母親の離転職（就学前 問 25、就学後 問 26）と世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後 問 32）』

- ◎ 出産前後の母親の離転職について、家庭の経済状況が「やや苦しい」「苦しい」と回答した母親の方が、「仕事をやめた」割合が高い。



■母親は仕事と家庭の両立を支援する教育・保育事業（幼稚園や保育所など）や周囲の環境などが整っていたら、出産前後にしていた仕事を続けましたか。（1つ）

- ◇ 全体では、「いずれにしても続ける希望はなかった」が 33.7%と最も多く、次いで「職場において育児休業制度などの仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、続けていた」が 20.2%、「教育・保育事業と職場の両立支援環境がどちらも整っていれば、続けていた」が 13.8%となっている。
- ◇ 「教育・保育事業と職場の両立支援環境がどちらも整っていれば、続けていた」では、いずれの年代の子どもをもつ親も 1 割台となっている。

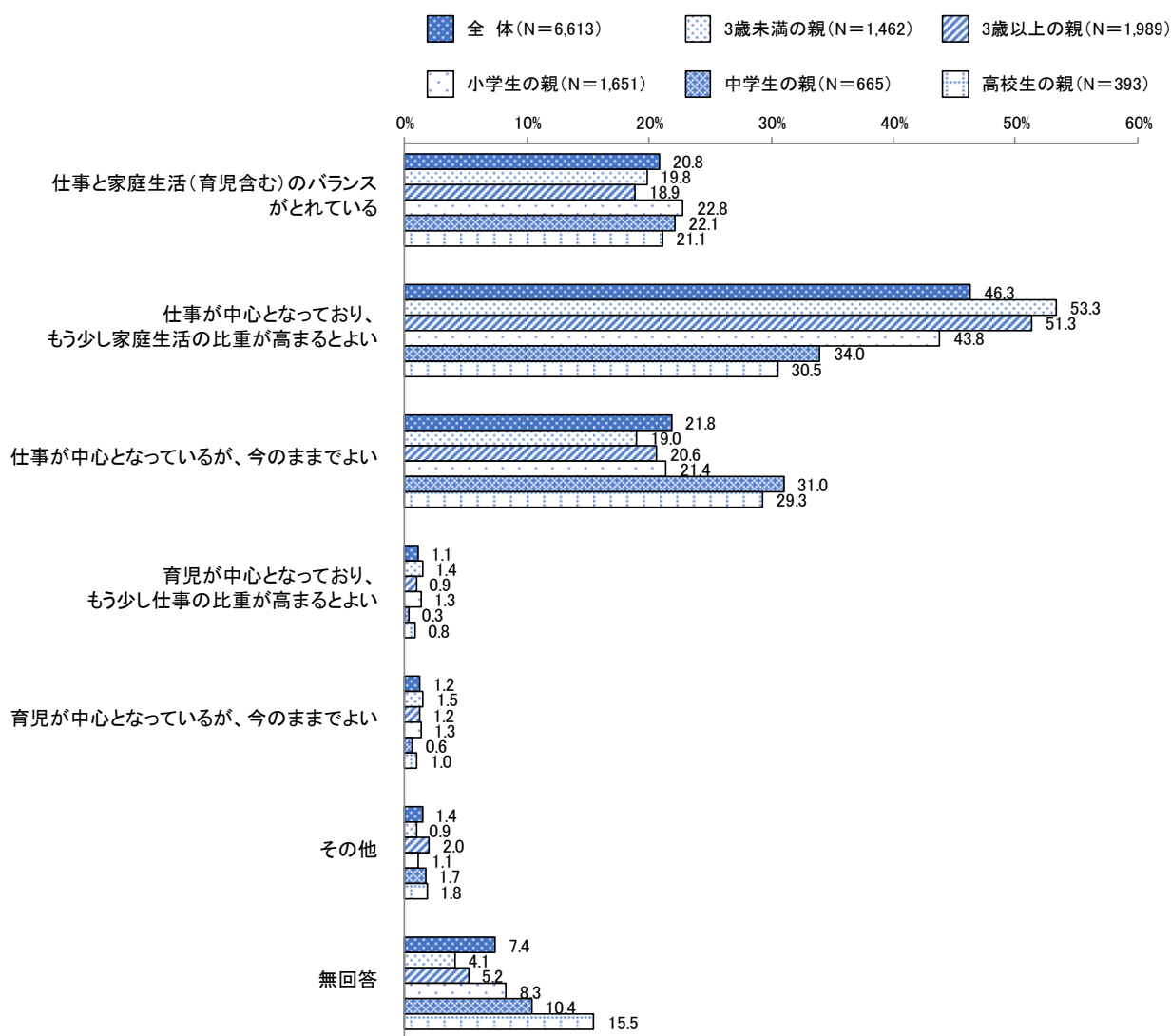


仕事と生活のバランスについて 【問 30】

■あなたの家庭では、仕事と生活のバランス（ワーク・ライフ・バランス）はとれていると感じていますか。（1つ）

<父 親>

◇ 全体では、「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」が 46.3%と最も多く、次いで「仕事を中心となっているが、今のままでよい」が 21.8%、「仕事と家庭生活（育児含む）のバランスがとれている」が 20.8%となっている。



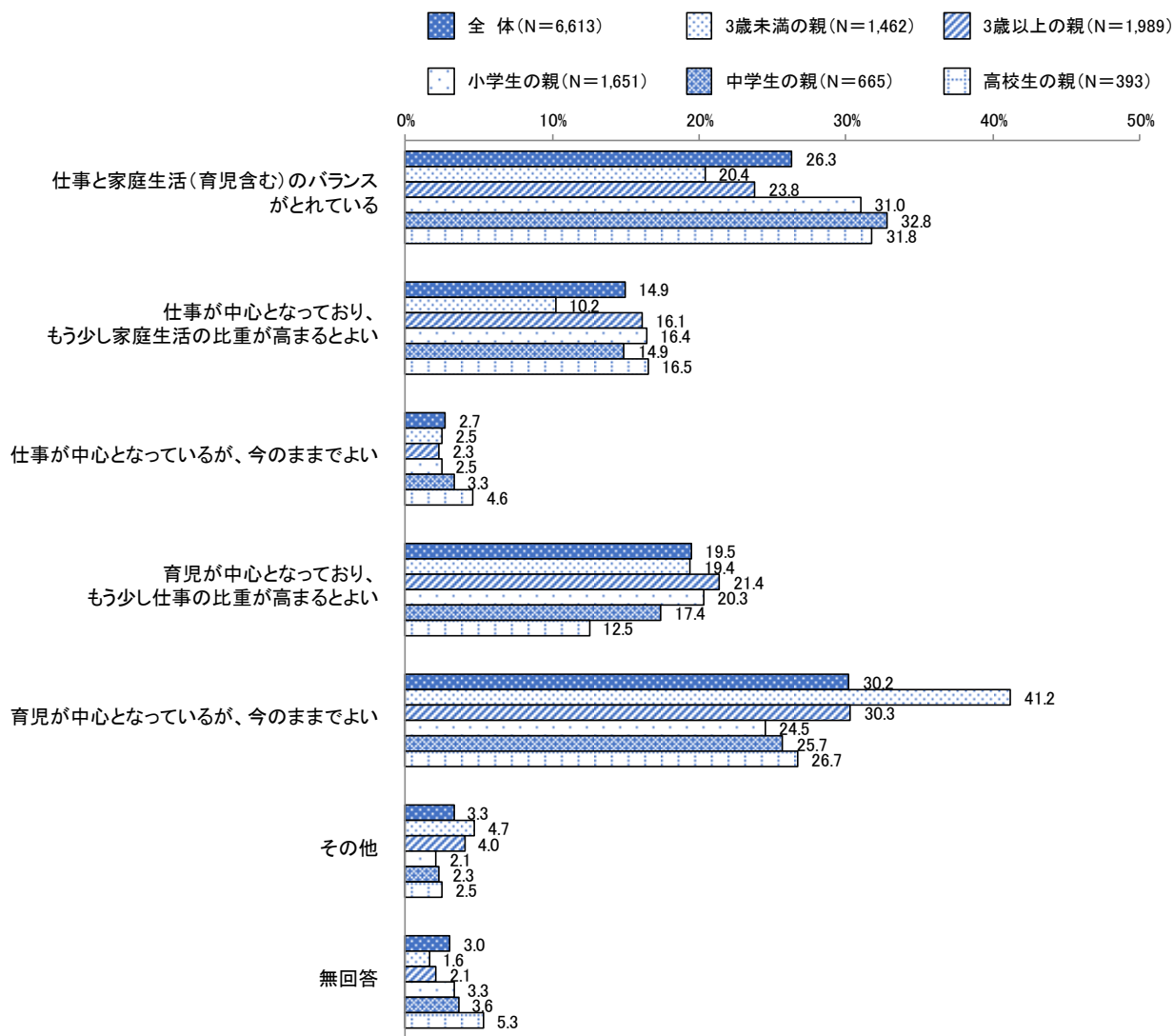
【前回調査との数値比較】

<父 親>

	仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	42.9	46.3	3.4
3 歳未満の親	47.8	53.3	5.5
3 歳以上の親	48.8	51.3	2.5
小学生の親	39.0	43.8	4.8
中学生の親	32.4	34.0	1.6
高校生の親	25.1	30.5	5.4

<母 親>

- ◇ 全体では、「育児が中心となっているが、今のままでよい」が 30.2%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活（育児含む）のバランスがとれている」が 26.3%となっている。
- ◇ 「仕事と家庭生活（育児含む）のバランスがとれている」の割合は、就学前の親が 2 割台、就学後の親が 3 割台となっている。



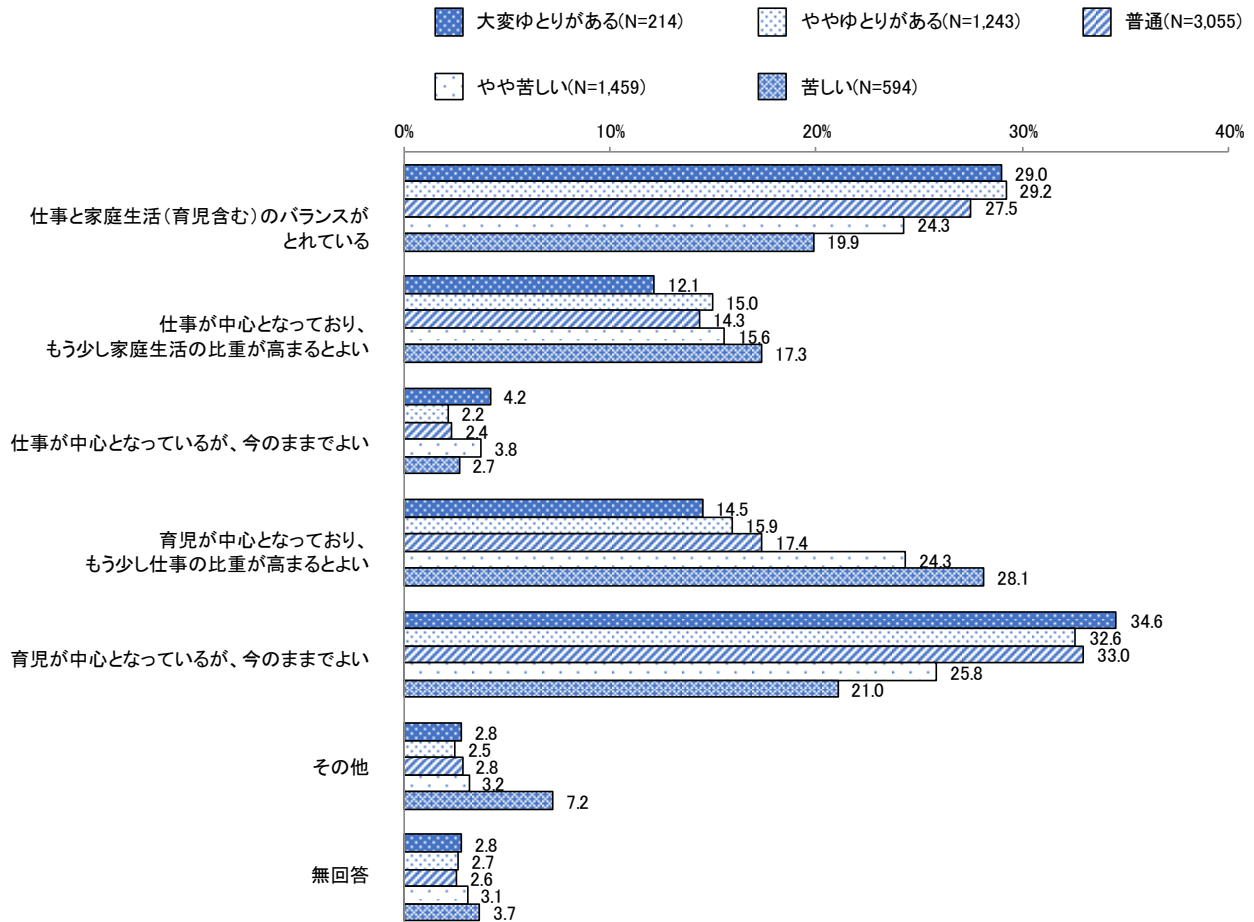
【前回調査との数値比較】

<母 親>

	育児が中心となっており、 もう少し仕事の比重が高まるとよい		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	13.7	19.5	5.8
3 歳未満の親	14.1	19.4	5.3
3 歳以上の親	13.5	21.4	7.9
小学生の親	15.6	20.3	4.7
中学生の親	10.9	17.4	6.5
高校生の親	7.1	12.5	5.4

『仕事と生活のバランス（就学前・就学後 問 30）と世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後 問 31）』

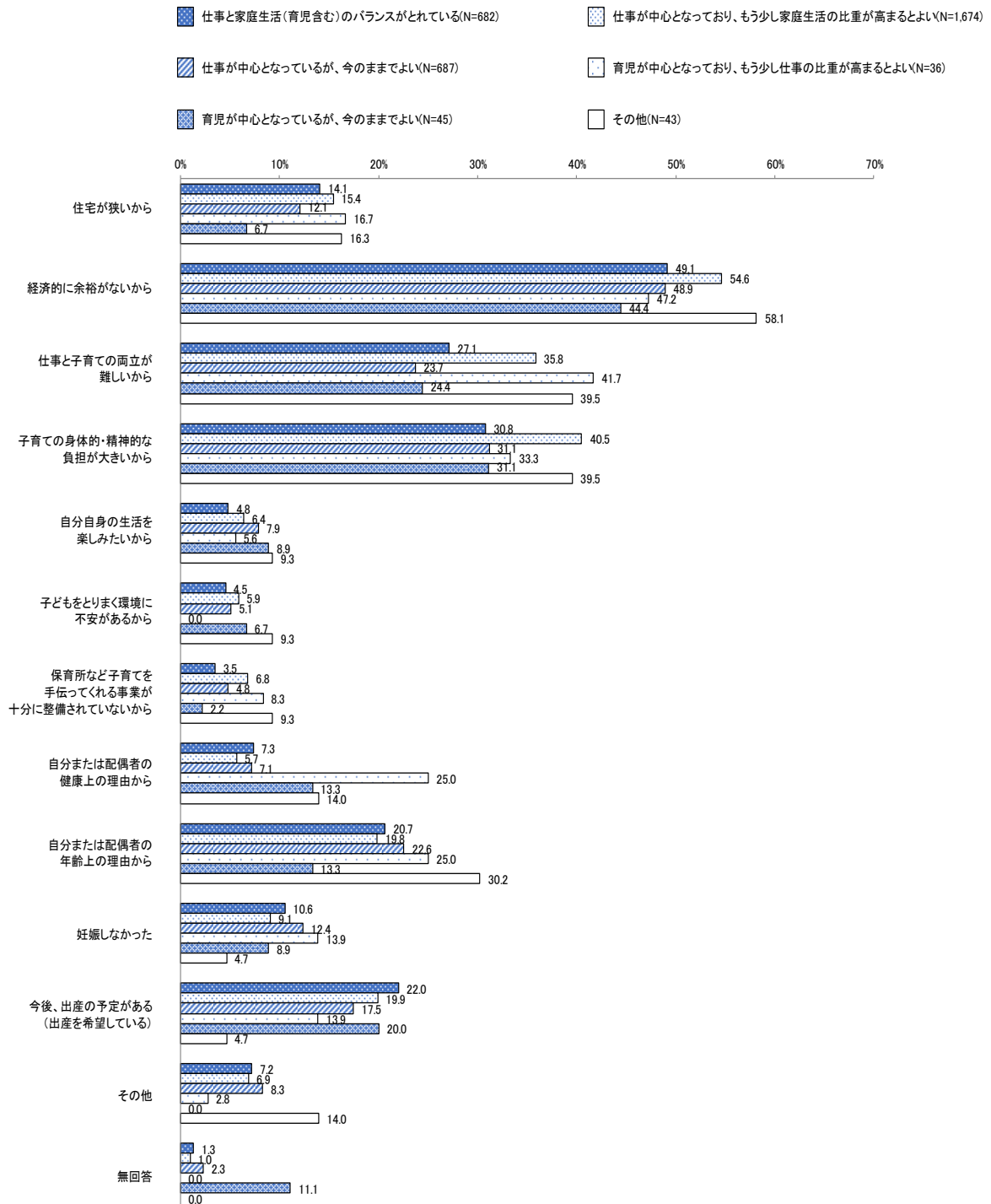
- ◎ 仕事と生活のバランスについて、家庭の経済状況が「大変ゆとりがある」または「ややゆとりがある」と回答した人は、「仕事と家庭生活（育児含む）のバランスが取れている」と回答する割合が高い。
- ◎ 家庭の経済状況が「やや苦しい」「苦しい」と回答した人は、「育児が中心となっており、仕事の比重が高まるとよい」と回答する割合が高い。



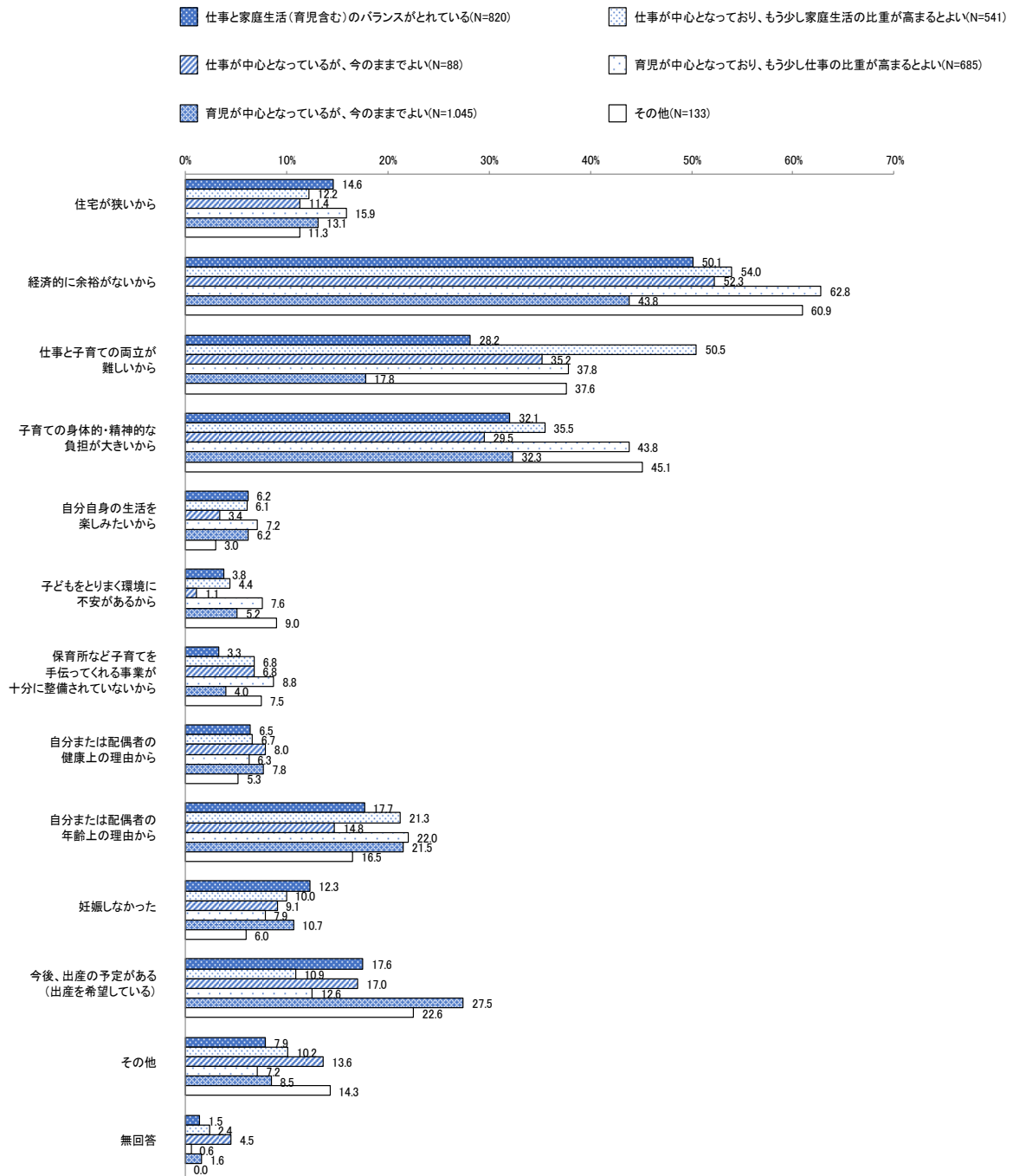
『仕事と生活のバランス（就学前・就学後 問 30）と子どもの人数が理想より少ない理由（就学前 問 85、就学後 問 49）』

- ◎ 理想の子どもの数より実際の子どもの数が少ない理由として、「仕事と子育ての両立が難しいから」と回答した人について、父親の場合、ワーク・ライフ・バランスで「育児が中心となっており、もう少し仕事の比重が高まるとよい」が高く、母親の場合、「仕事为中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」の割合が高い。

<父親>



< 母親 >



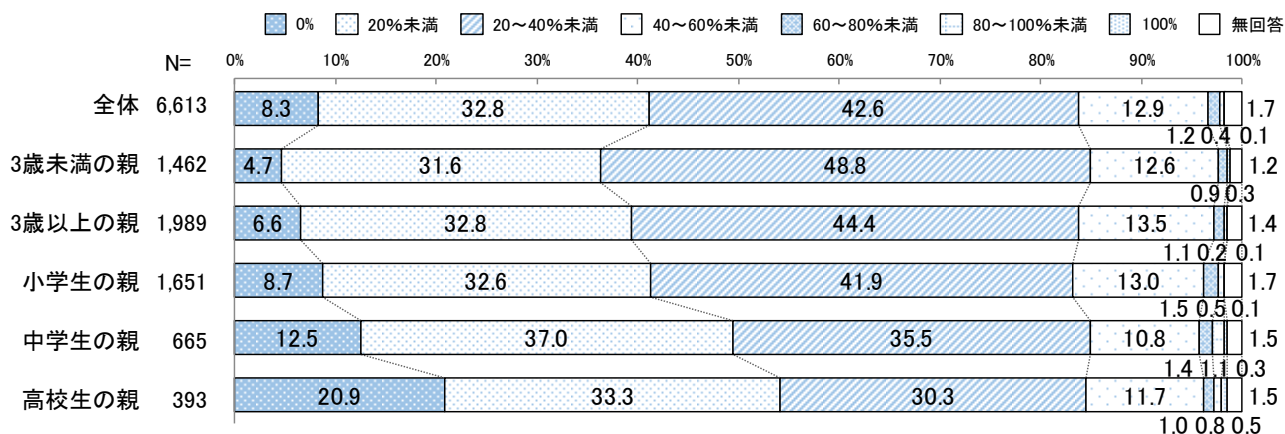
家事・子育ての分担について【就学前 問 32・就学後 問 31】

■現在、家事・子育てをどのように分担していますか。父親と母親の分担の割合を、全体で100%になるように数字で記入してください。

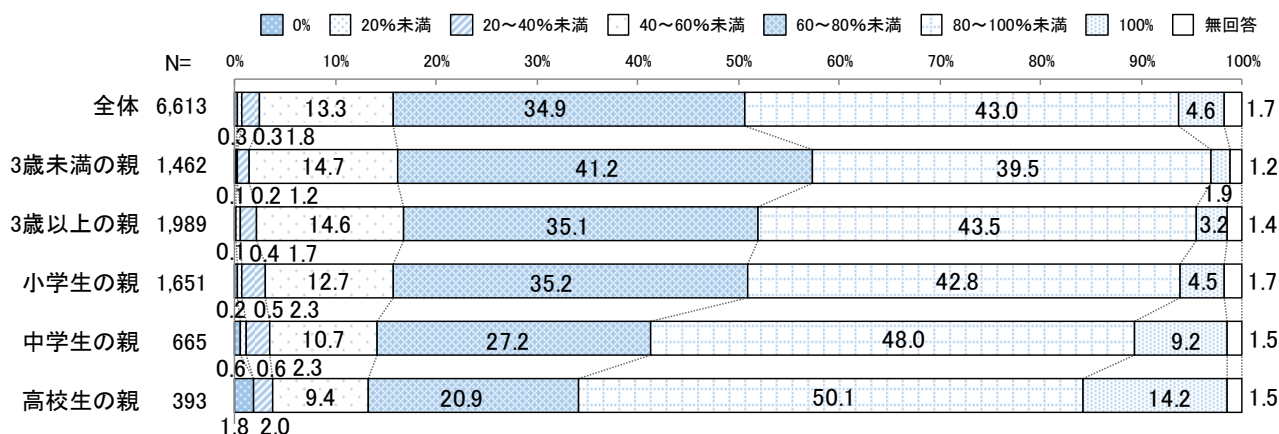
◇ 全体では、父親は「20～40%未満」が42.6%と最も多く、母親は「80～100%未満」が43.0%、祖父母等の援助は「0%」が57.2%とそれぞれ最も多い。

◇ 子どもの年代が高い親ほど、母親が80%以上と回答した割合が高くなっている。

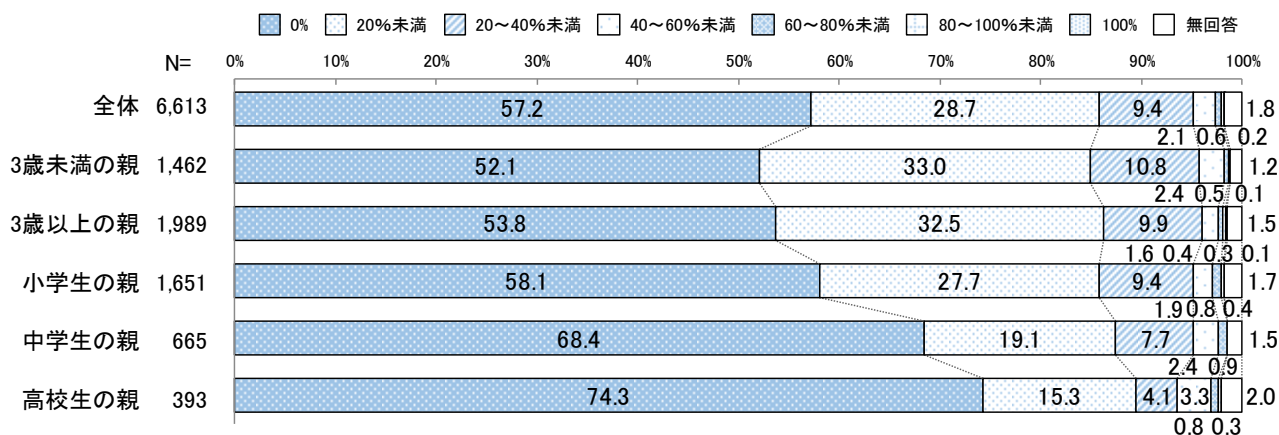
(1) 父親の割合



(2) 母親の割合



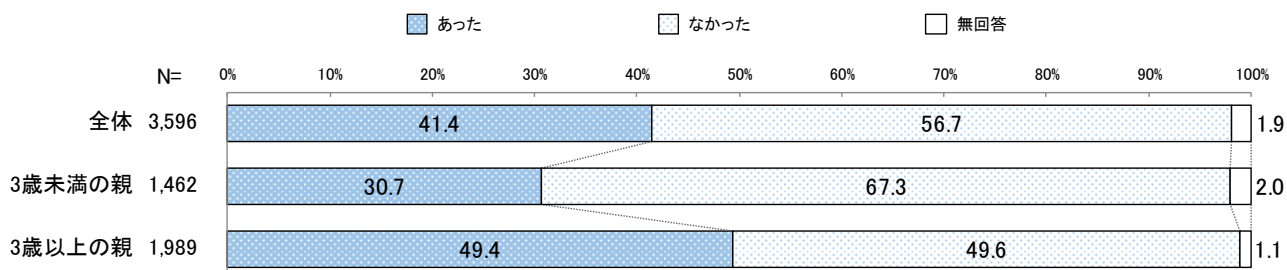
(3) 祖父母等の援助の割合



お子さんが病気やケガ等のときについて 【就学前 問 44】

■この１年間に、あて名のお子さんが病気やケガ等の際に、最も多く利用している教育・保育の事業を利用しようとして、できなかったことはありますか。（１つ）

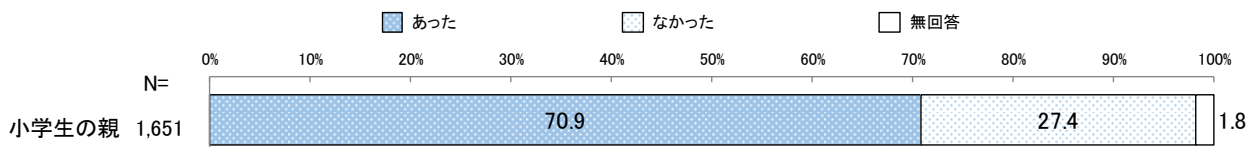
- ◇ 全体では、この１年間の中でお子さんが病気やケガで、教育・保育の事業を利用しようとしてできなかったことが「あった」割合は41.4%である。
- ◇ 「３歳以上の親」では、「あった」が49.4%であり、「３歳未満の親」よりも18.7ポイント高い。



病気やケガで学校を休まなければならなかったことについて 【就学後 問 56】

■この１年間に、あて名のお子さんが病気やケガ等で学校を休まなければならなかったことはありますか。（１つ）

- ◇ この１年間に子どもが病気やケガ等で学校を休んだことが「あった」割合は70.9%である。

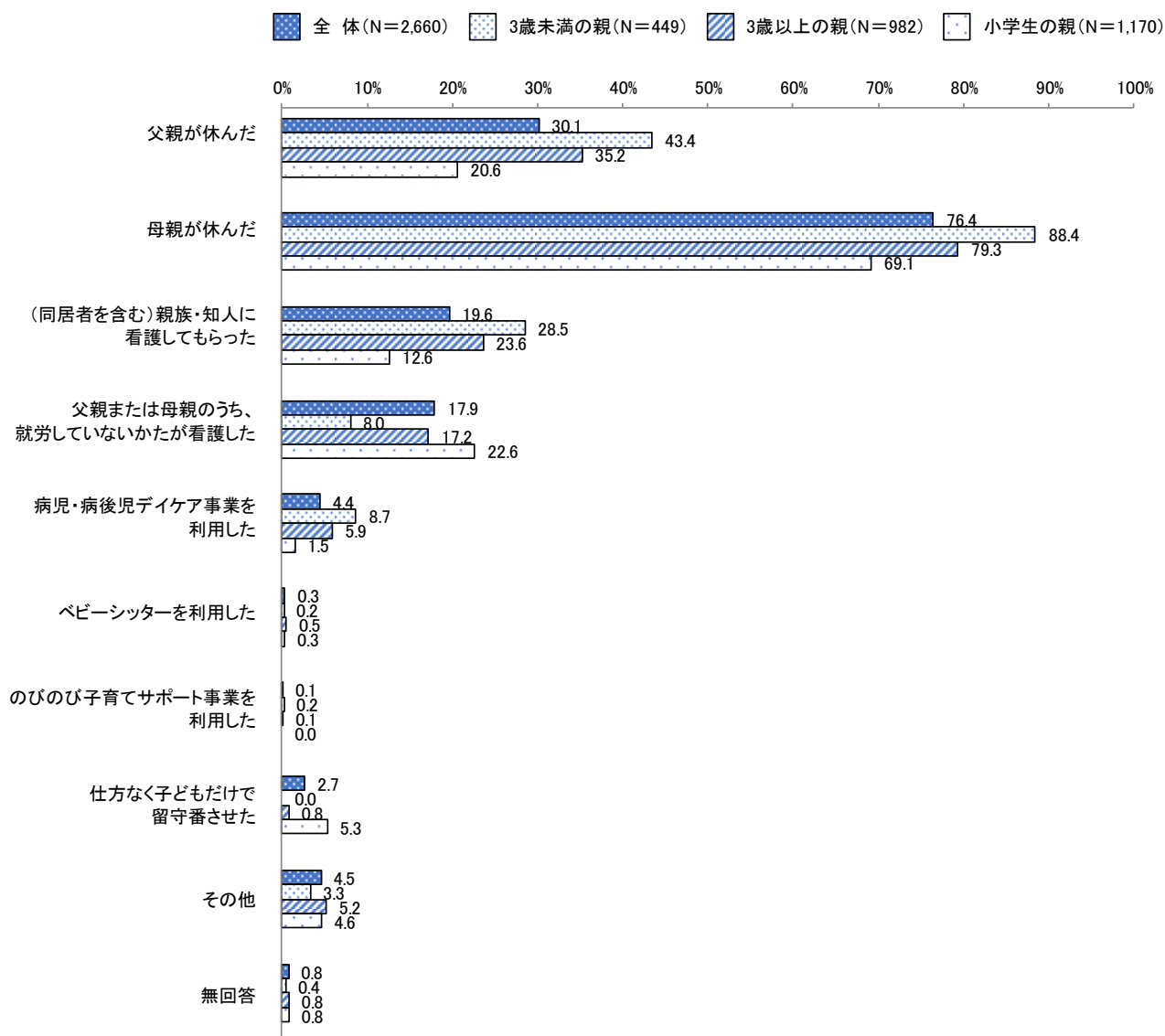


教育・保育の事業が利用できなかった場合の対応について

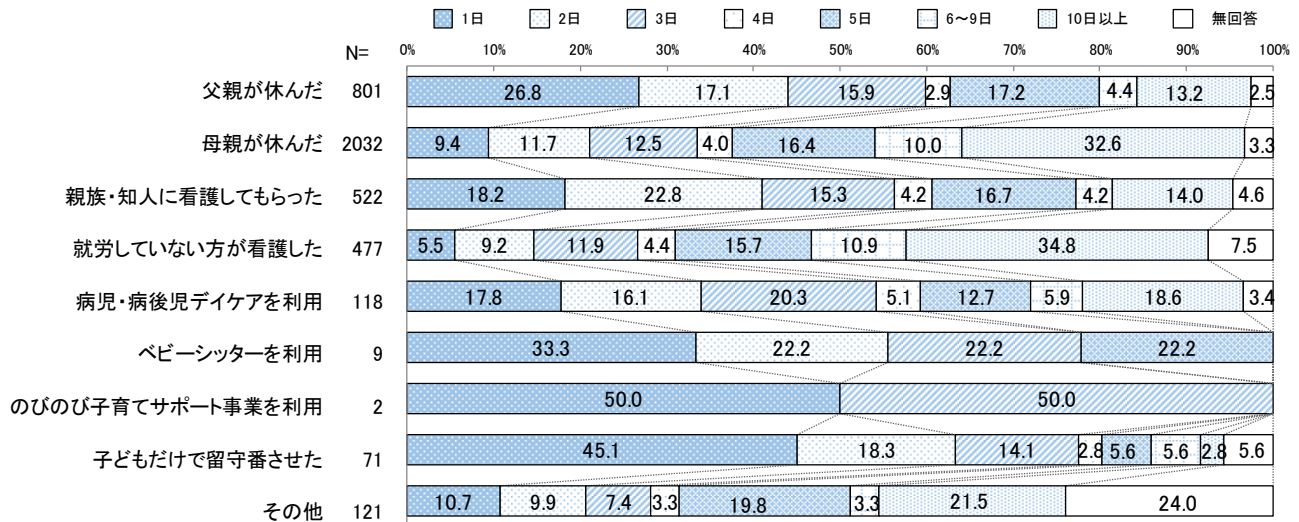
【就学前 問 45・就学後 問 57】

■教育・保育の事業を利用しようとして、できなかった場合に、どのように対応しましたか。(就学後：学校を休まなければならなかった場合の対応) (複数回答)

- ◇ 全体では、「母親が休んだ」が76.4%と最も多く、次いで「父親が休んだ」が30.1%、「(同居者を含む) 親族・知人に看護してもらった」が19.6%である。
- ◇ 「小学生の親」では、「父親または母親のうち、就労していないかたが看護した」の割合が22.6%と高くなっている。



【日数】

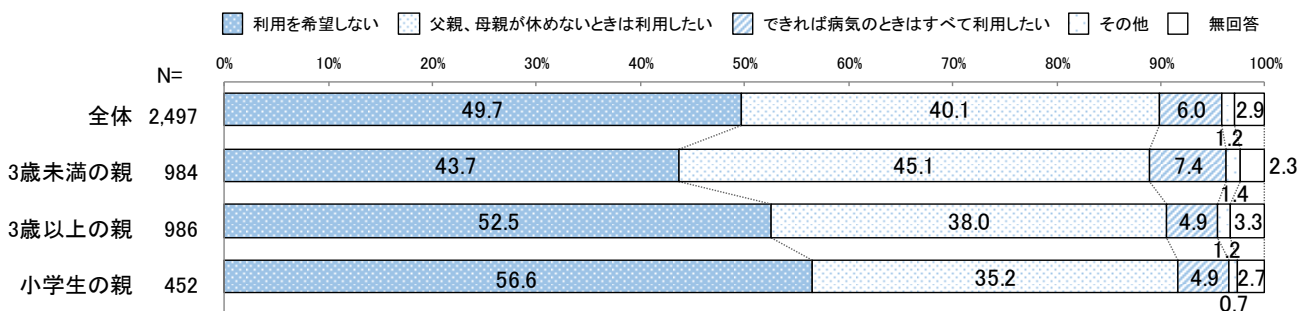


病気やケガでの病児・病後児の保育施設の利用について

【就学前 問 46・就学後 問 58】

■教育・保育の事業を利用しようとして、できないときに「できれば病児・病後児のための保育施設を利用したい」と思いますか。（就学後：学校を休まなければならないときに、保育事業等を利用したいか。）（1つ）

- ◇ 全体では、「利用を希望しない」が 49.7%と最も多く、次いで「父親、母親が休めないときは利用したい」が 40.1%となっている。
- ◇ 子どもの年代が上がるにつれて、「利用を希望しない」の割合が高くなっている。



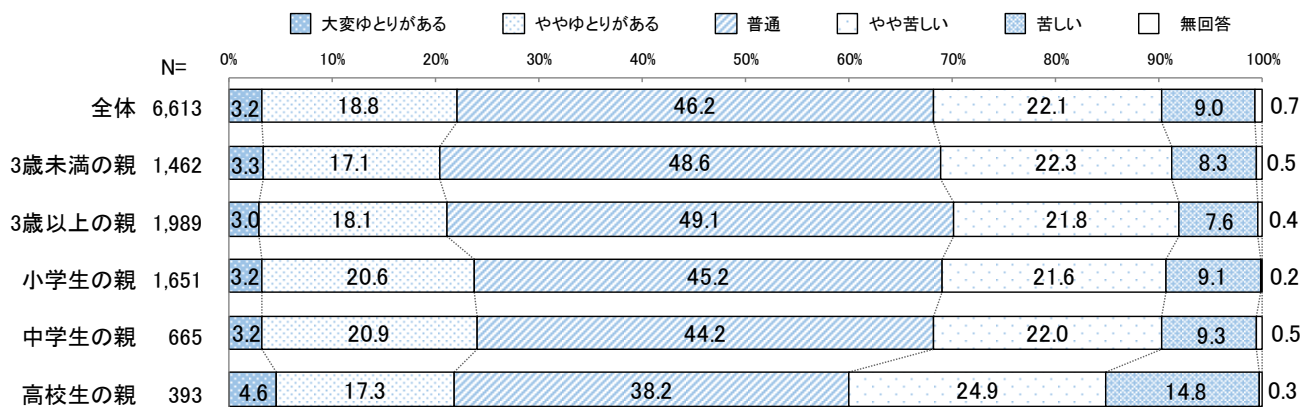
子育ての経済的負担について（世帯の暮らし向き） 【就学前 問 71・就学後 問 32】

■あなたの世帯の現在の暮らし向きについてあてはまるものを選んでください。

（1つ）

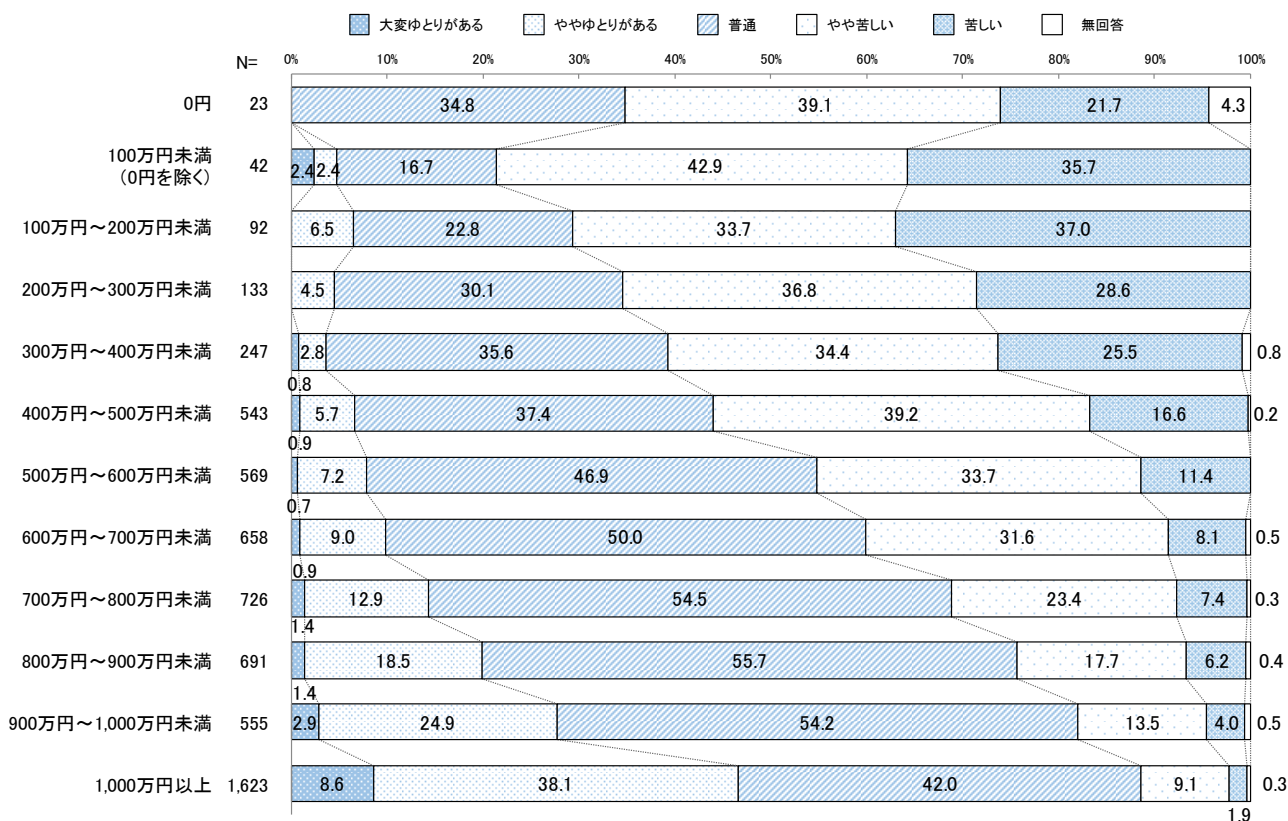
◇ 全体では、「普通」が 46.2%と最も多く、次いで「やや苦しい」が 22.1%、「ややゆとりがある」が 18.8%となっている。

◇ 「苦しい」の割合は、「高校生の親」が 14.8%と最も高い。



『世帯年収（就学前・就学後 F12）と世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後 問 32）』

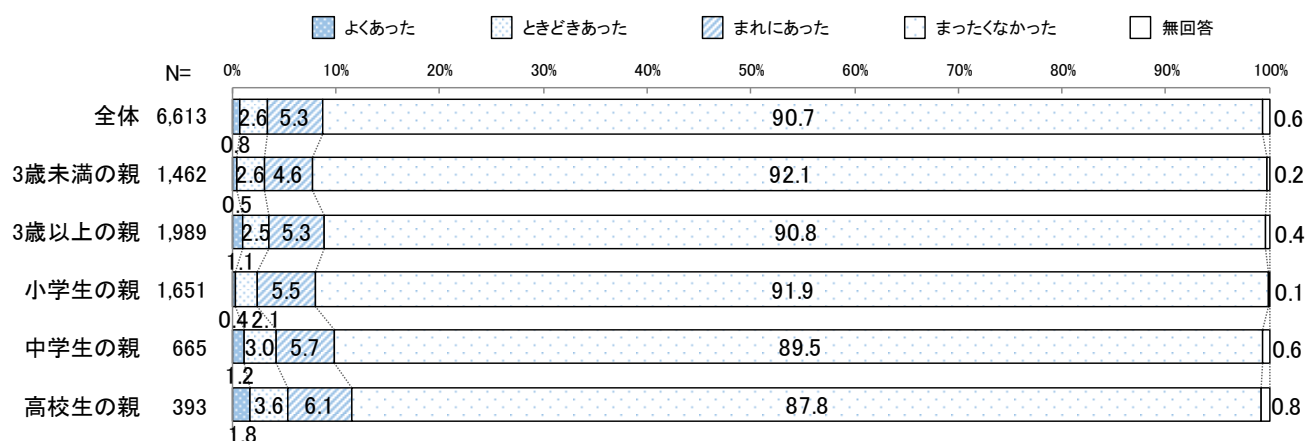
◎ 家庭の収入別に家庭の経済状況についての回答割合を見た場合、「やや苦しい」「苦しい」と回答した割合が高いのは、「100 万円未満（0 円除く）」が 78.6%と最も多く、次いで「100 万円～200 万円未満」の 70.7%となっている。



子育ての経済的負担について（食料）【就学前 問 72・就学後 問 33】

■あなたの世帯では、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする「食べ物」が買えないことがありましたか。（1つ）

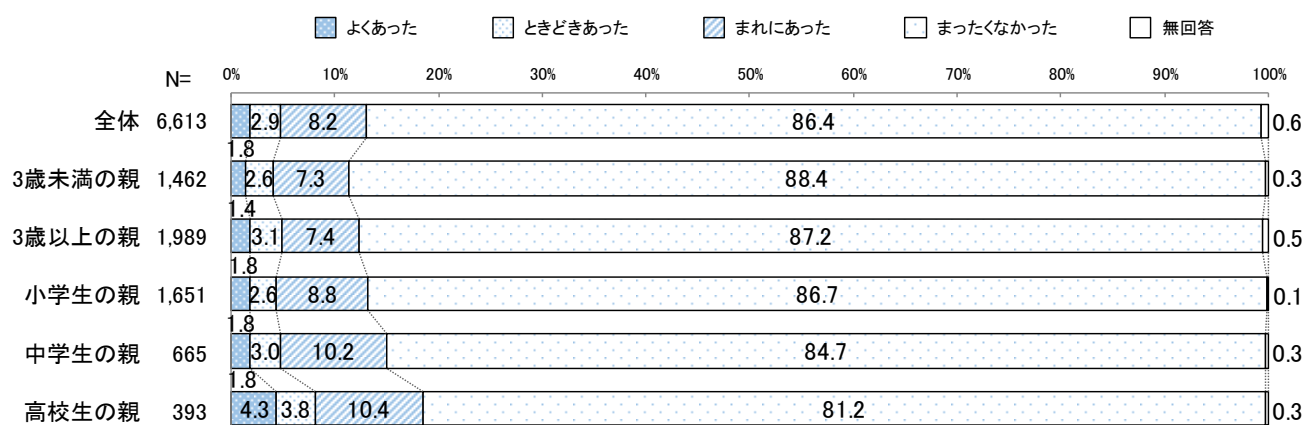
- ◇ 全体では、「まれにあった」が5.3%、「ときどきあった」が2.6%となっている。
- ◇ 「高校生の親」では、食料を買えないことがあった割合が1割を超えている。



子育ての経済的負担について（衣料）【就学前 問 73・就学後 問 34】

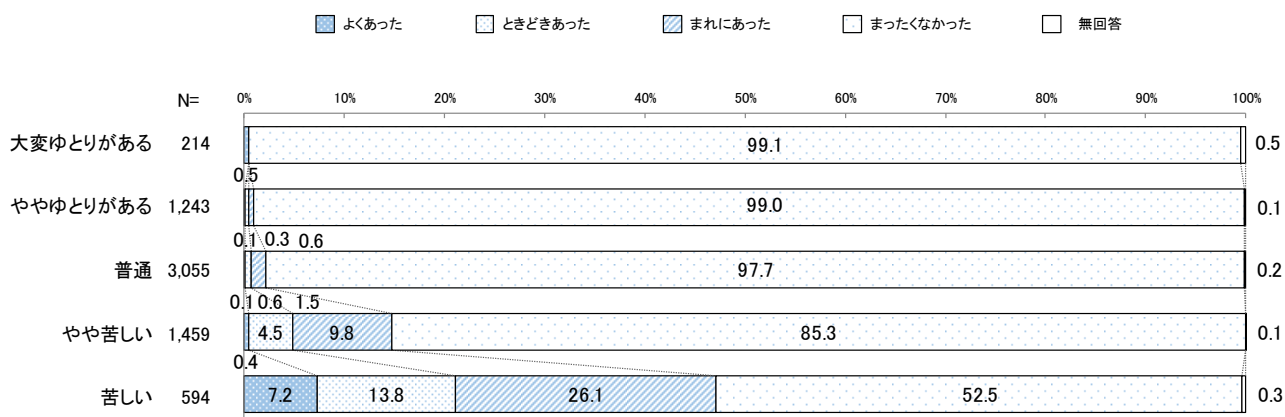
■あなたの世帯では、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする「衣服」が買えないことがありましたか。（1つ）

- ◇ 全体では、「まれにあった」が8.2%、「ときどきあった」が2.9%となっている。
- ◇ 子どもの年代が上がるにつれて、衣料を買えないことがあった割合は高くなっている。



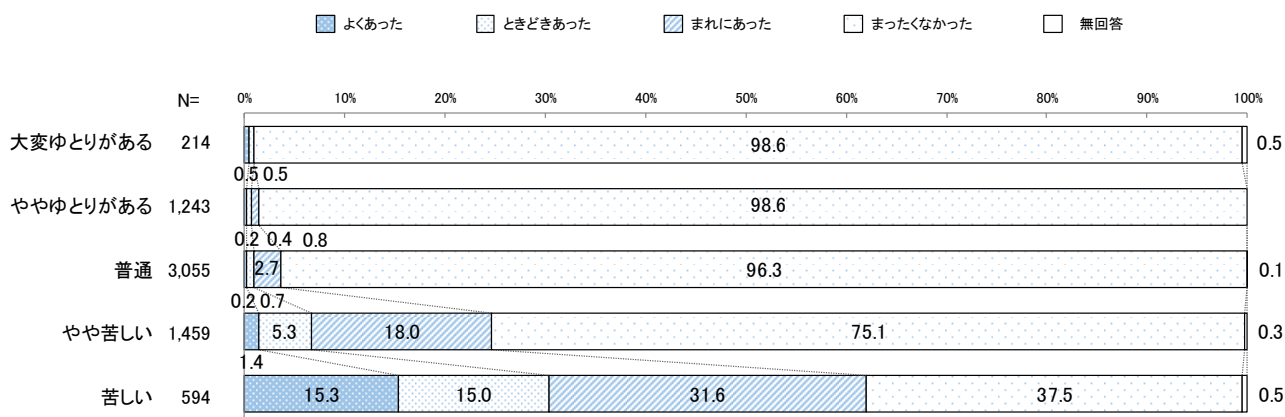
『世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後 問 32）と食べものが買えなかった経験（就学前 問 72、就学後 問 33）』

◎ 家庭の経済状況について「苦しい」と回答した人は、約 50%がこの 1 年間で「家族が必要とする食べもの」が買えないことがあったと回答している。



『世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後 問 32）と衣料が買えなかった経験（就学前 問 73、就学後 問 34）』

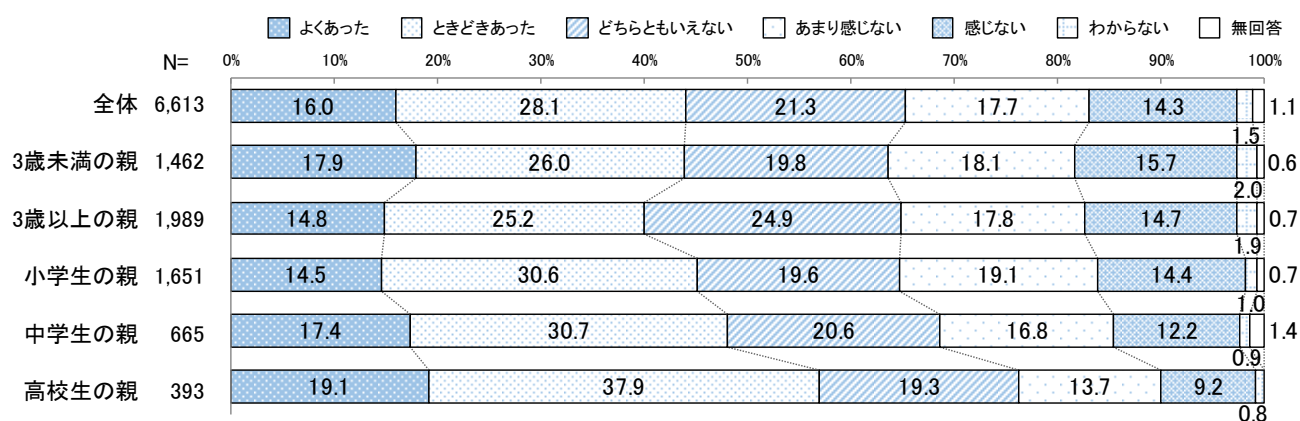
◎ 家庭の経済状況について「苦しい」と回答した人は、約 60%がこの 1 年間で「家族が必要とする衣料」が買えないことがあったと回答している。



子育ての経済的負担について【就学前 問 74・就学後 問 35】

■これまでに、子育てに経済的な負担を感じたことがありますか。(1つ)

- ◇ 全体では、「ときどきあった」が28.1%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が21.3%、「あまり感じない」が17.7%となっている。
- ◇ 「高校生の親」では、経済的な負担を感じたことがある割合が過半数を占めている。



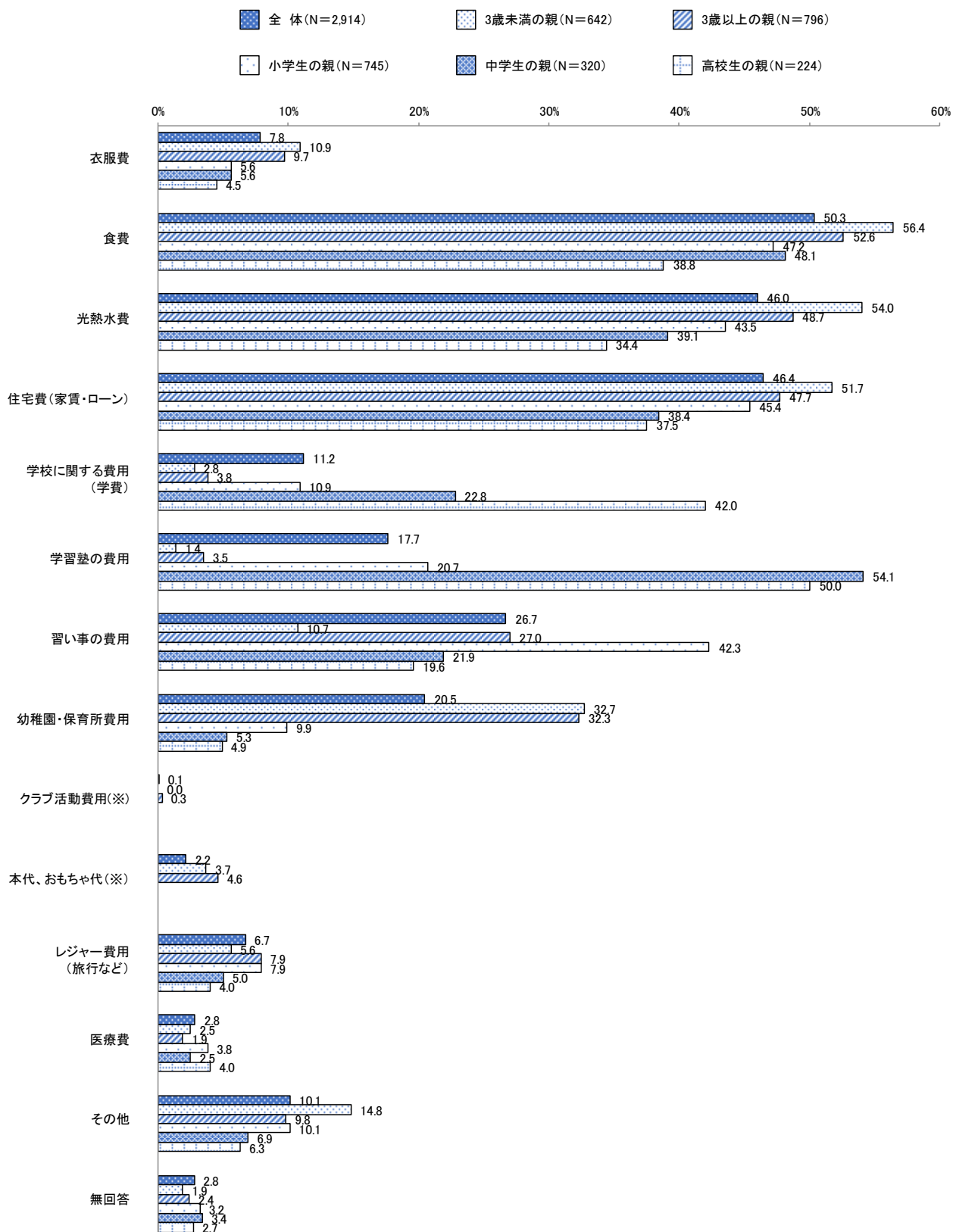
【前回調査との数値比較】

	よくあった+ときどきあった		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	39.4	44.1	4.7
3 歳未満の親	34.6	43.9	9.3
3 歳以上の親	38.1	40.0	1.9
小学生の親	41.2	45.1	3.9
中学生の親	45.6	48.1	2.5
高校生の親	56.2	57.0	0.8

子育ての経済的負担について（特に負担を感じる費用）【就学前 問 75・就学後 問 36】

■特に負担を感じる費用は何ですか。（3つまで）

- ◇ 全体では、「食費」が50.3%と最も多く、次いで「住宅費（家賃・ローン）」が46.4%、「光熱水費」が46.0%となっている。
- ◇ 中学生・高校生の親では、「学習塾の費用」を負担に感じている割合が最も高い。



※「クラブ活動費用」、「本代、おもちゃ代」は就学前保護者調査のみ

【前回調査との数値比較】

	食 費		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	36.1	50.3	14.2
3 歳未満の親	39.7	56.4	16.7
3 歳以上の親	34.6	52.6	18.0
小学生の親	37.7	47.2	9.5
中学生の親	37.1	48.1	11.0
高校生の親	26.3	38.8	12.5

光熱水費		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
17.1	46.0	28.9
23.5	54.0	30.5
14.8	48.7	33.9
17.9	43.5	25.6
13.7	39.1	25.4
10.5	34.4	23.9

	学習塾の費用		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	18.2	17.7	▲ 0.5
3 歳未満の親	2.3	1.4	▲ 0.9
3 歳以上の親	4.5	3.5	▲ 1.0
小学生の親	23.7	20.7	▲ 3.0
中学生の親	51.2	54.1	2.9
高校生の親	50.0	50.0	0.0

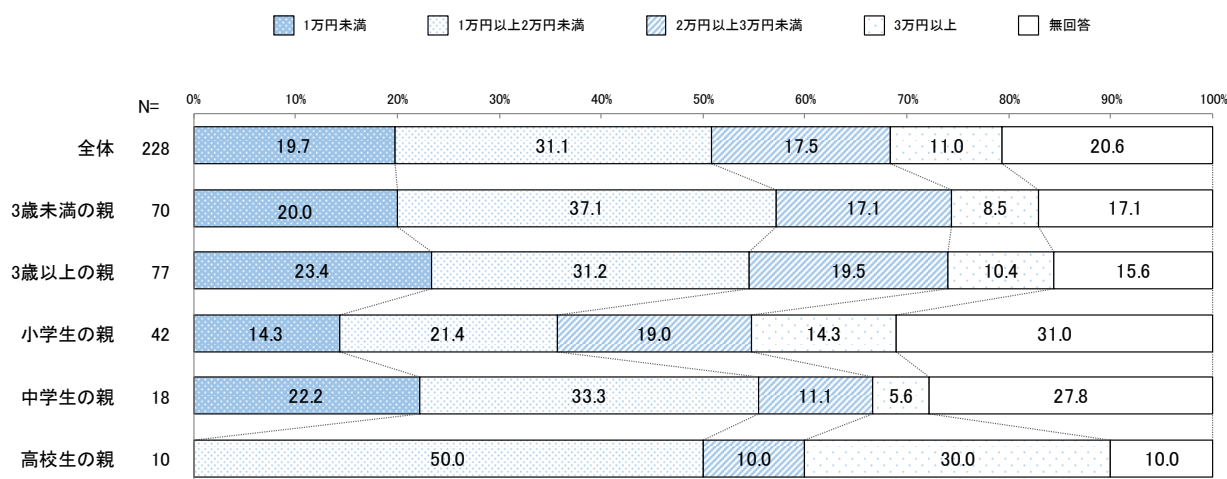
習い事の費用		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
28.3	26.7	▲ 1.6
12.9	10.7	▲ 2.2
28.0	27.0	▲ 1.0
44.4	42.3	▲ 2.1
25.8	21.9	▲ 3.9
17.4	19.6	2.2

	幼稚園・保育所費用		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	34.7	20.5	▲ 14.2
3 歳未満の親	41.7	32.7	▲ 9.0
3 歳以上の親	58.9	32.3	▲ 26.6
小学生の親	22.2	9.9	▲ 12.3
中学生の親	5.1	5.3	0.2
高校生の親	5.8	4.9	▲ 0.9

【かかる費用（月額）】

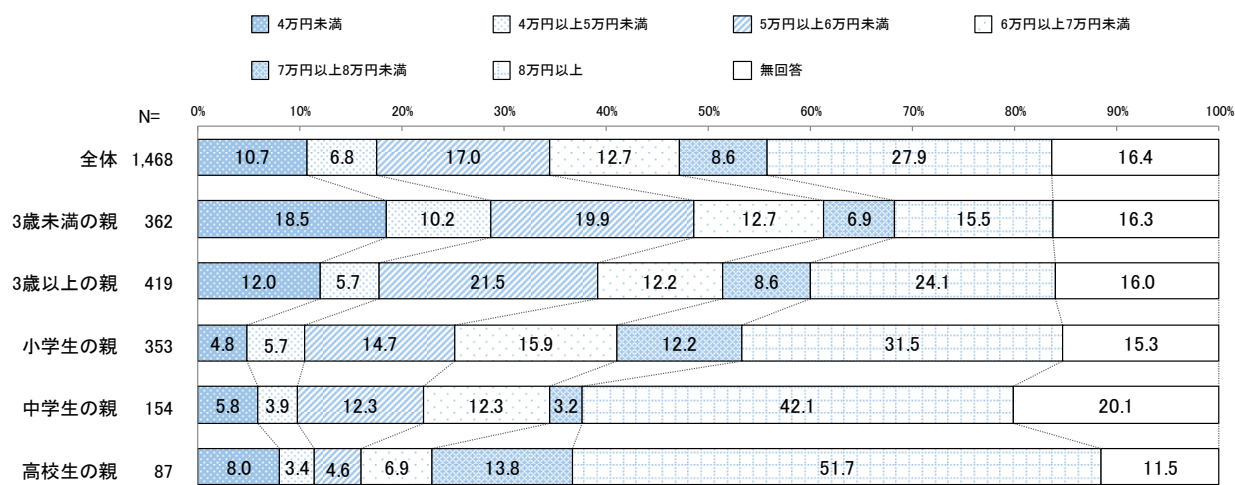
<衣服費>

◇ 全体では、「1 万円以上 2 万円未満」が 31.1%と最も多く、次いで「1 万円未満」が 19.7%、「2 万円以上 3 万円未満」が 17.5%となっている。



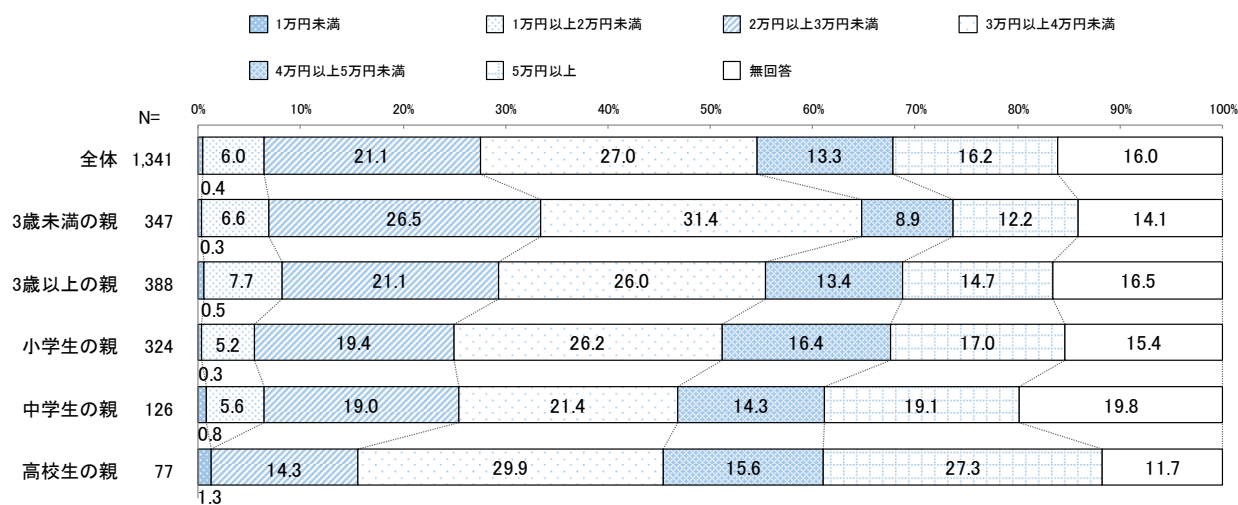
<食費>

◇ 全体では、「8 万円以上」が 27.9%と最も多く、次いで「5 万円以上 6 万円未満」が 17.0%、「6 万円以上 7 万円未満」が 12.7%となっている。



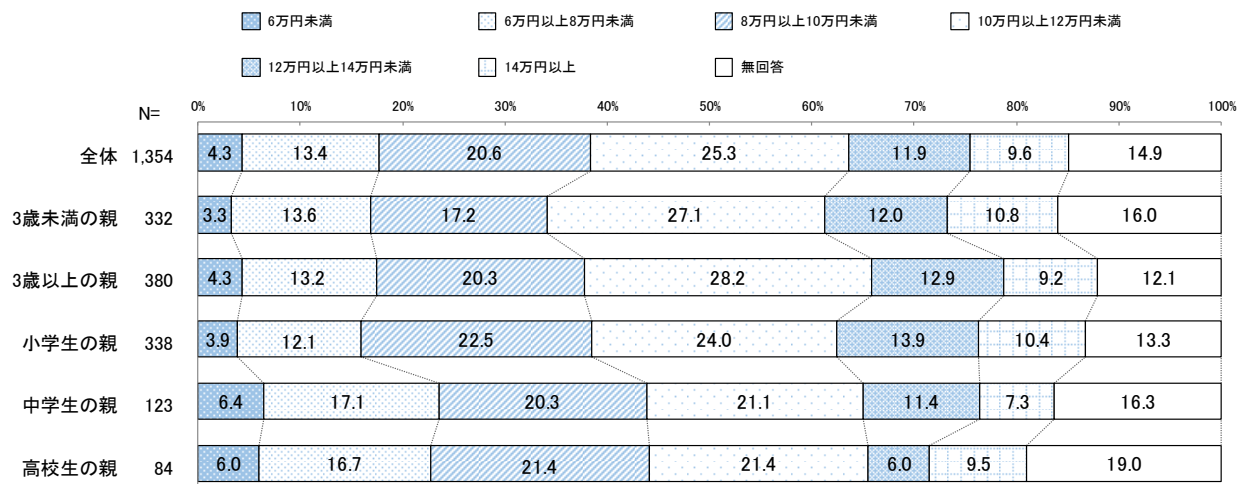
<光熱水費>

◇ 全体では、「3 万円以上 4 万円未満」が 27.0%と最も多く、次いで「2 万円以上 3 万円未満」が 21.1%、「5 万円以上」が 16.2%となっている。



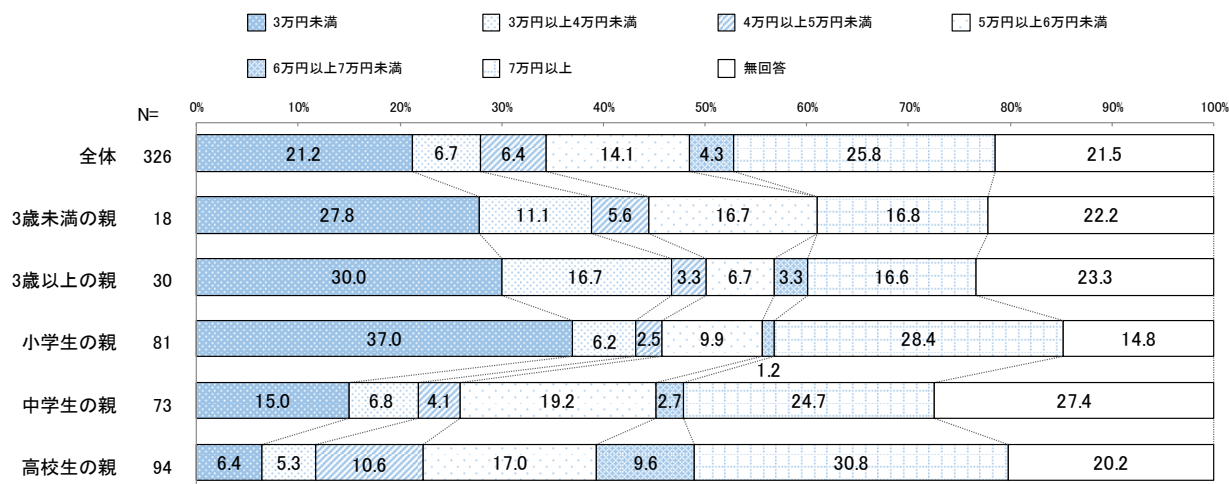
<住宅費（家賃・ローン）>

◇ 全体では、「10 万円以上 12 万円未満」が 25.3%と最も多く、次いで「8 万円以上 10 万円未満」が 20.6%、「6 万円以上 8 万円未満」が 13.4%となっている。



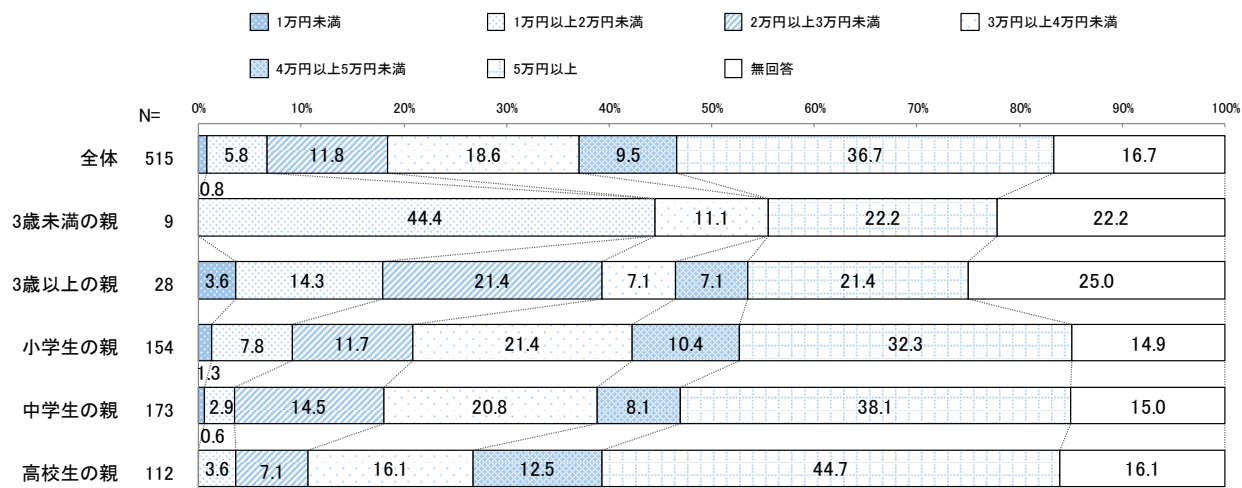
<学校に関する費用（学費）>

◇ 全体では、「7 万円以上」が 25.8%と最も多く、次いで「3 万円未満」が 21.2%、「5 万円以上 6 万円未満」が 14.1%となっている。



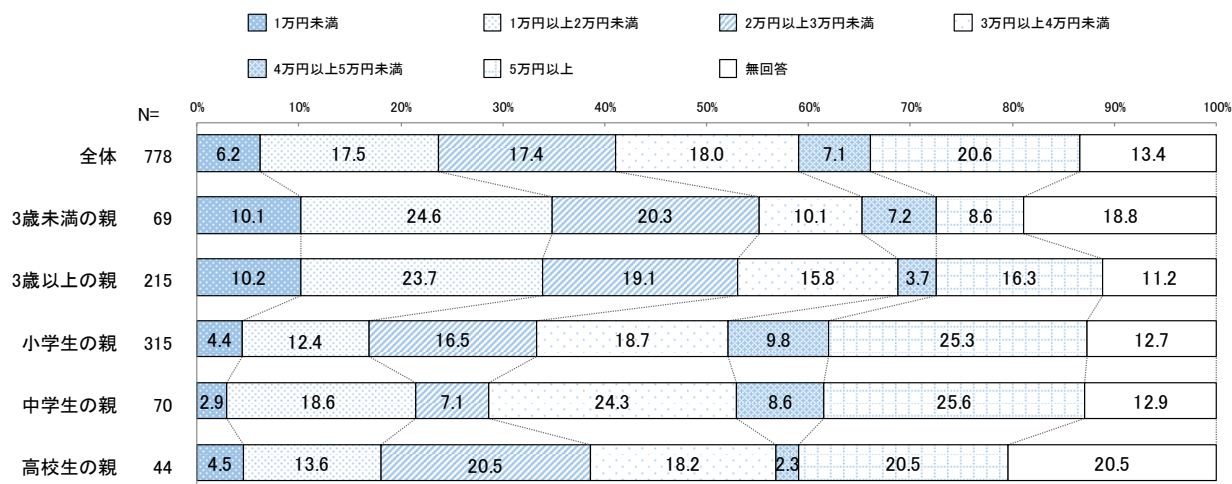
<学習塾の費用>

◇ 全体では、「5 万円以上」が 36.7%と最も多く、次いで「3 万円以上 4 万円未満」が 18.6%、「2 万円以上 3 万円未満」が 11.8%となっている。



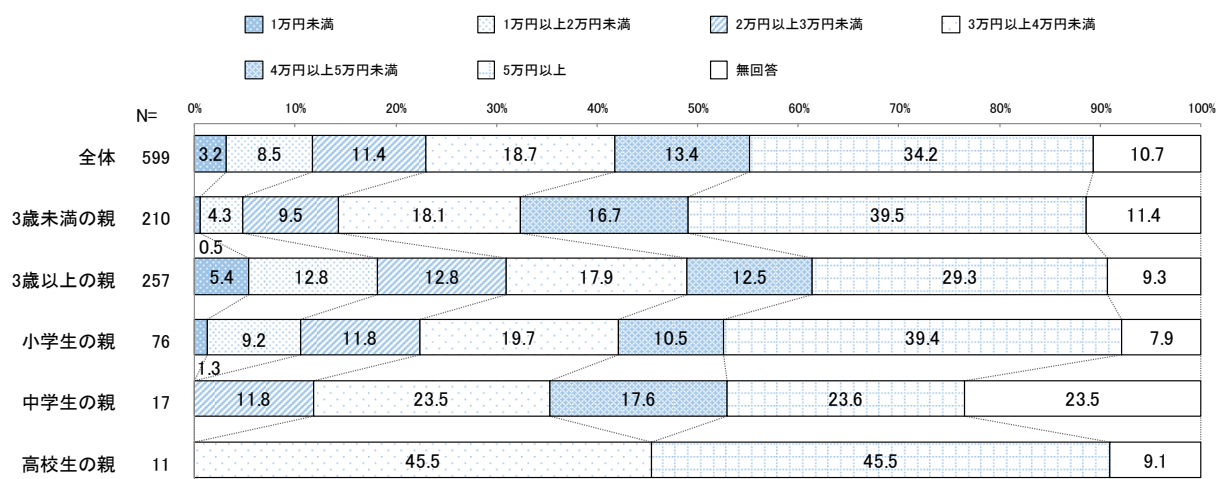
<習い事の費用>

◇ 全体では、「5 万円以上」が 20.6%と最も多く、次いで「3 万円以上 4 万円未満」が 18.0%、「1 万円以上 2 万円未満」が 17.5%となっている。



<幼稚園・保育所費用>

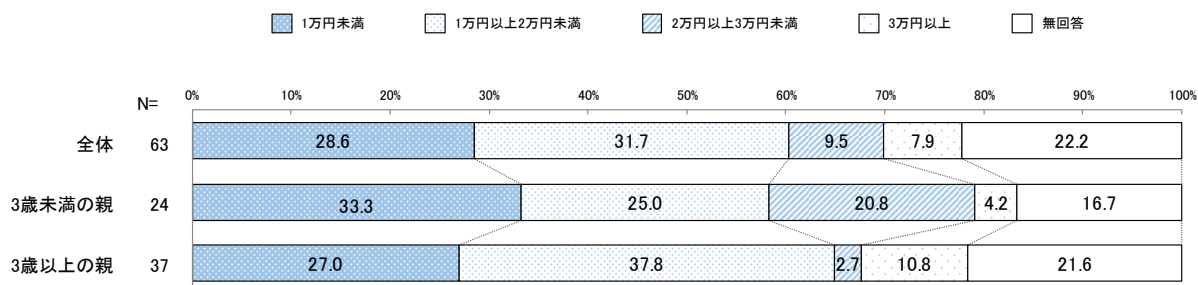
◇ 全体では、「5 万円以上」が 34.2%と最も多く、次いで「3 万円以上 4 万円未満」が 18.7%、「4 万円以上 5 万円未満」が 13.4%となっている。



※クラブ活動費用（就学前のみ）は回答がなかったため割愛。

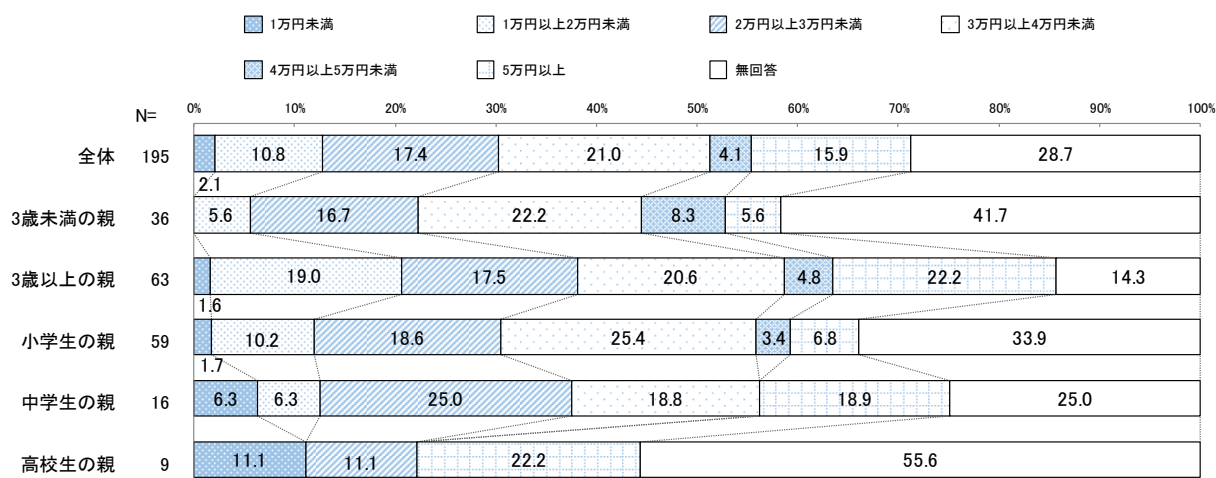
<本代・おもちゃ代>（就学前のみ）

◇ 全体では、「1 万円以上 2 万円未満」が 31.7%と最も多く、次いで「1 万円未満」が 28.6%、「2 万円以上 3 万円未満」が 9.5%となっている。



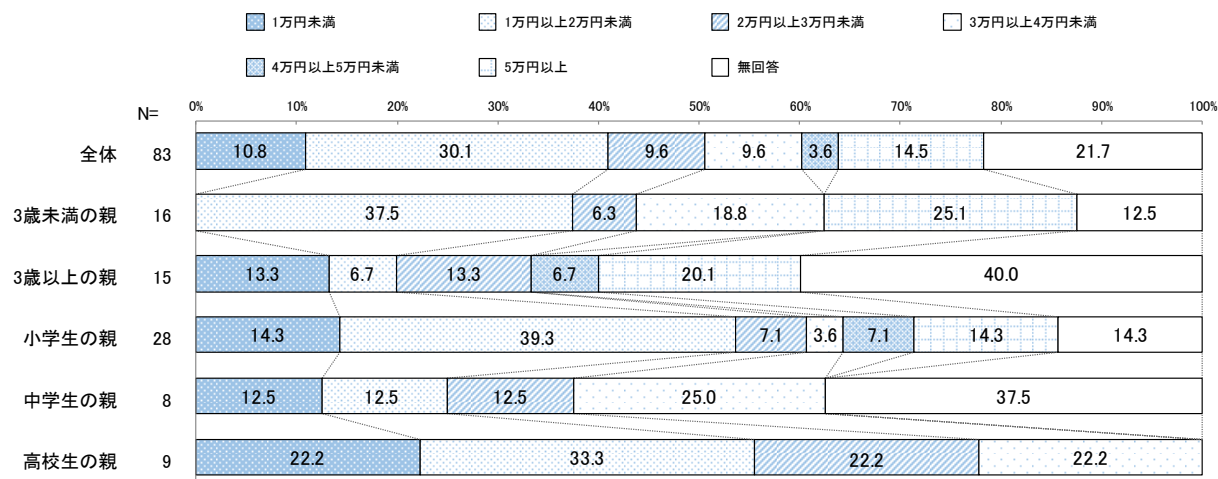
<レジャー費用（旅行など）>

◇ 全体では、「3 万円以上 4 万円未満」が 21.0%と最も多く、次いで「2 万円以上 3 万円未満」が 17.4%、「5 万円以上」が 15.9%となっている。



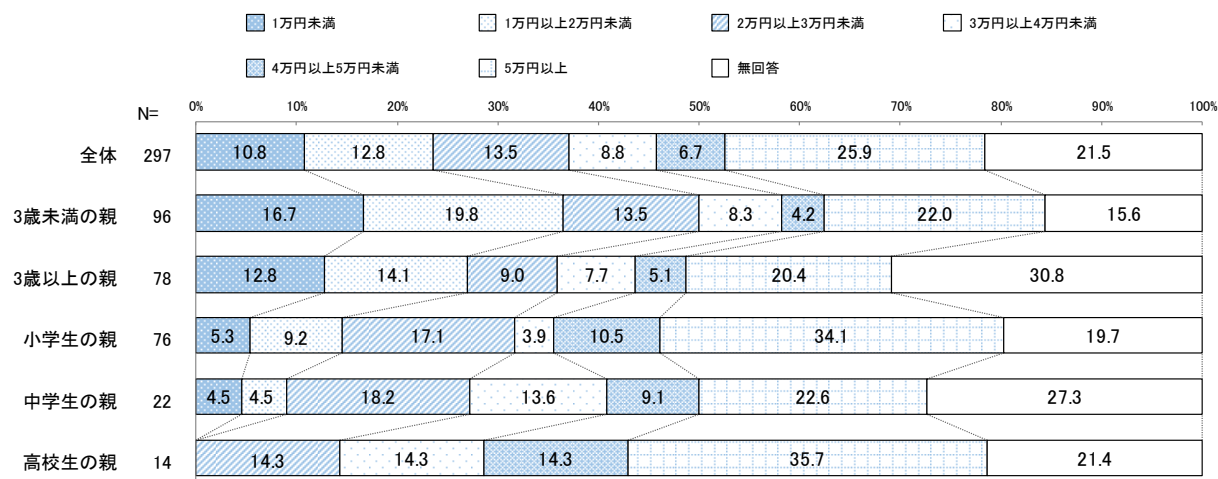
<医療費>

◇ 全体では、「1 万円以上 2 万円未満」が 30.1%と最も多く、次いで「5 万円以上」が 14.5%、「1 万円未満」が 10.8%となっている。



<その他>

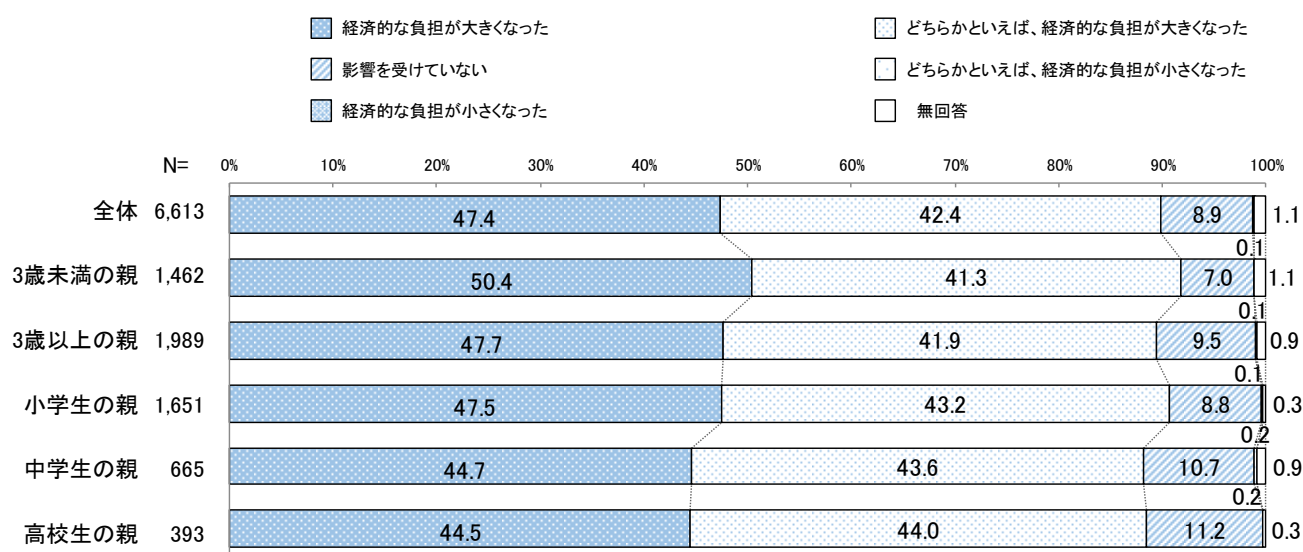
◇ 全体では、「5 万円以上」が 25.9%と最も多く、次いで「2 万円以上 3 万円未満」が 13.5%、「1 万円以上 2 万円未満」が 12.8%となっている。



子育ての経済的負担について（物価高騰による影響）【就学前 問 76・就学後 問 37】

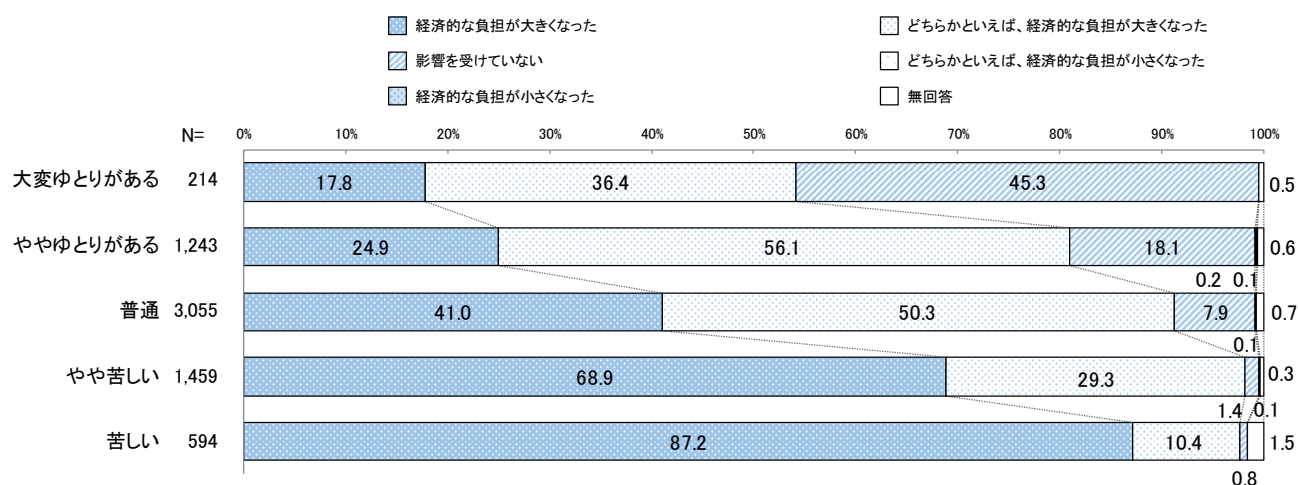
■子育てへの物価高騰による経済的な影響はありますか。（1つ）

- ◇ 全体では、「経済的な負担が大きくなった」の割合が 47.4%、次いで「どちらかといえば、経済的な負担が大きくなった」が 42.4%である。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、経済的負担が大きくなったと回答した割合は 9割前後となっている。



『物価高騰による影響（就学前 問 76、就学後 問 37）と世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後 問 32）』

- ◎ 家庭の経済状況について「苦しい」と回答した人は、「経済的な負担が大きくなった」と回答した割合が高い。

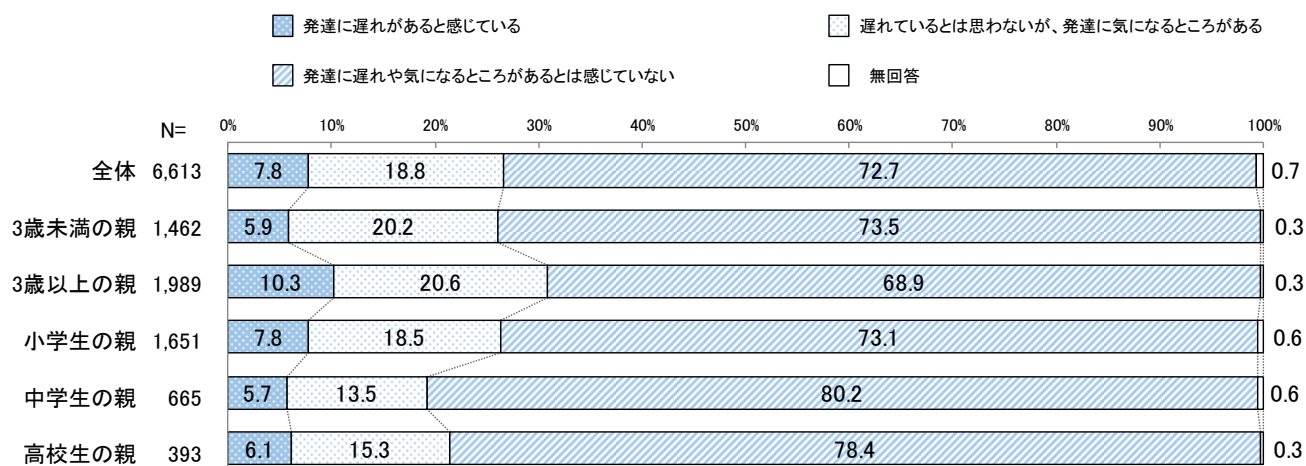


お子さんの発達について【就学前 問 77・就学後 問 40】

■現在、あなたは、あて名のお子さんが「同じ年齢のお子さんに比べて発達が遅れている」と思いますか。（1つ）

◇ 全体では、「発達に遅れがあると感じている」「遅れているとは思わないが、発達に気になるところがある」と感じている割合の合計は26.6%となっている。

◇ 就学前の親では、「遅れているとは思わないが、発達に気になるところがある」が2割を超えている。



【前回調査との数値比較】

	発達に遅れがあると感じている		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	6.1	7.8	1.7
3歳未満の親	6.3	5.9	▲ 0.4
3歳以上の親	6.1	10.3	4.2
小学生の親	6.4	7.8	1.4
中学生の親	6.0	5.7	▲ 0.3
高校生の親	4.1	6.1	2.0

遅れているとは思わないが、 発達に気になるところがある		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
17.2	18.8	1.6
18.8	20.2	1.4
17.5	20.6	3.1
18.6	18.5	▲ 0.1
12.1	13.5	1.4
8.6	15.3	6.7

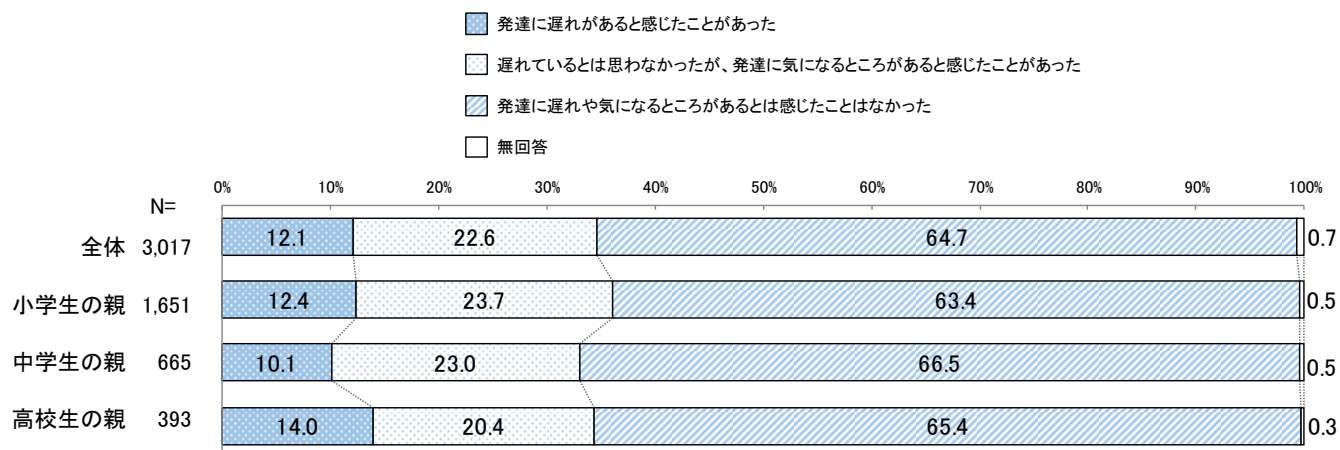
	発達に遅れや気になるところが あるとは思っていない		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	75.3	72.7	▲ 2.6
3歳未満の親	73.8	73.5	▲ 0.3
3歳以上の親	75.6	68.9	▲ 6.7
小学生の親	74.2	73.1	▲ 1.1
中学生の親	80.6	80.2	▲ 0.4
高校生の親	86.1	78.4	▲ 7.7

お子さんの就学前の発達不安について

【就学後 問 41】

■あて名のお子さんが小学校に入学するまでの間に、あなたがお子さんの発達に不安を感じたことはありましたか。(1つ)

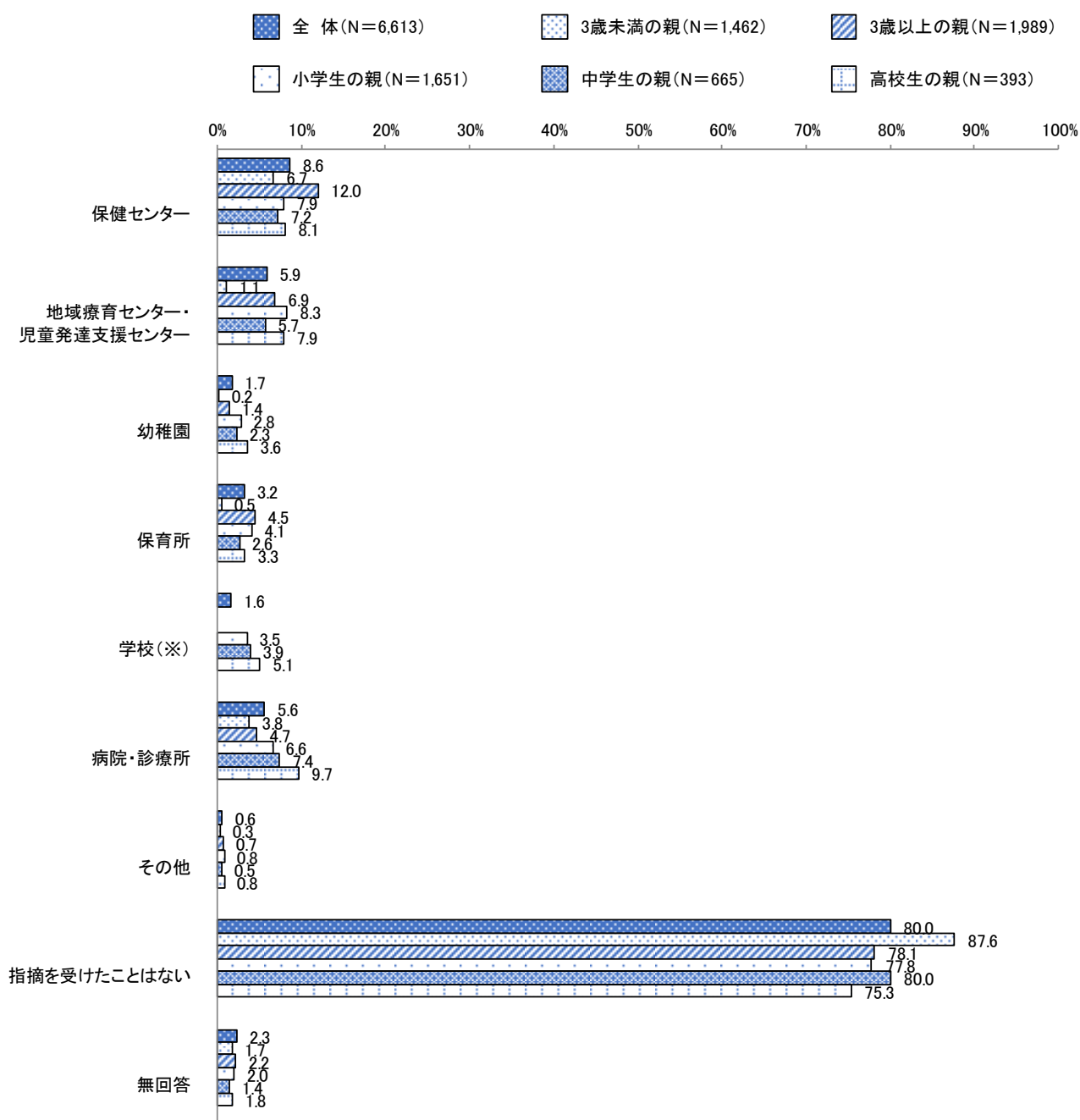
- ◇ 全体では、「発達に遅れや気になるところがあるとは感じたことはなかった」が64.7%と最も多く、次いで「遅れているとは思わなかったが、発達に気になるところがあると感じたことがあった」が22.6%となっている。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、「発達に遅れがあると感じたことがあった」の割合が1割を超えている。



お子さんの発達について指摘を受けた機関について【就学前 問 78・就学後 問 42】

■ これまでに、専門機関などからあて名のお子さんの発達の遅れや偏りについて指摘を受けたことがありますか。(複数回答)

- ◇ 全体では、「指摘を受けたことはない」を除くと「保健センター」が8.6%と最も多く、次いで「地域療育センター・児童発達支援センター」が5.9%となっている。
- ◇ 「指摘を受けたことはない」を見ると、いずれの年代の子どもをもつ親も7割以上となっている。



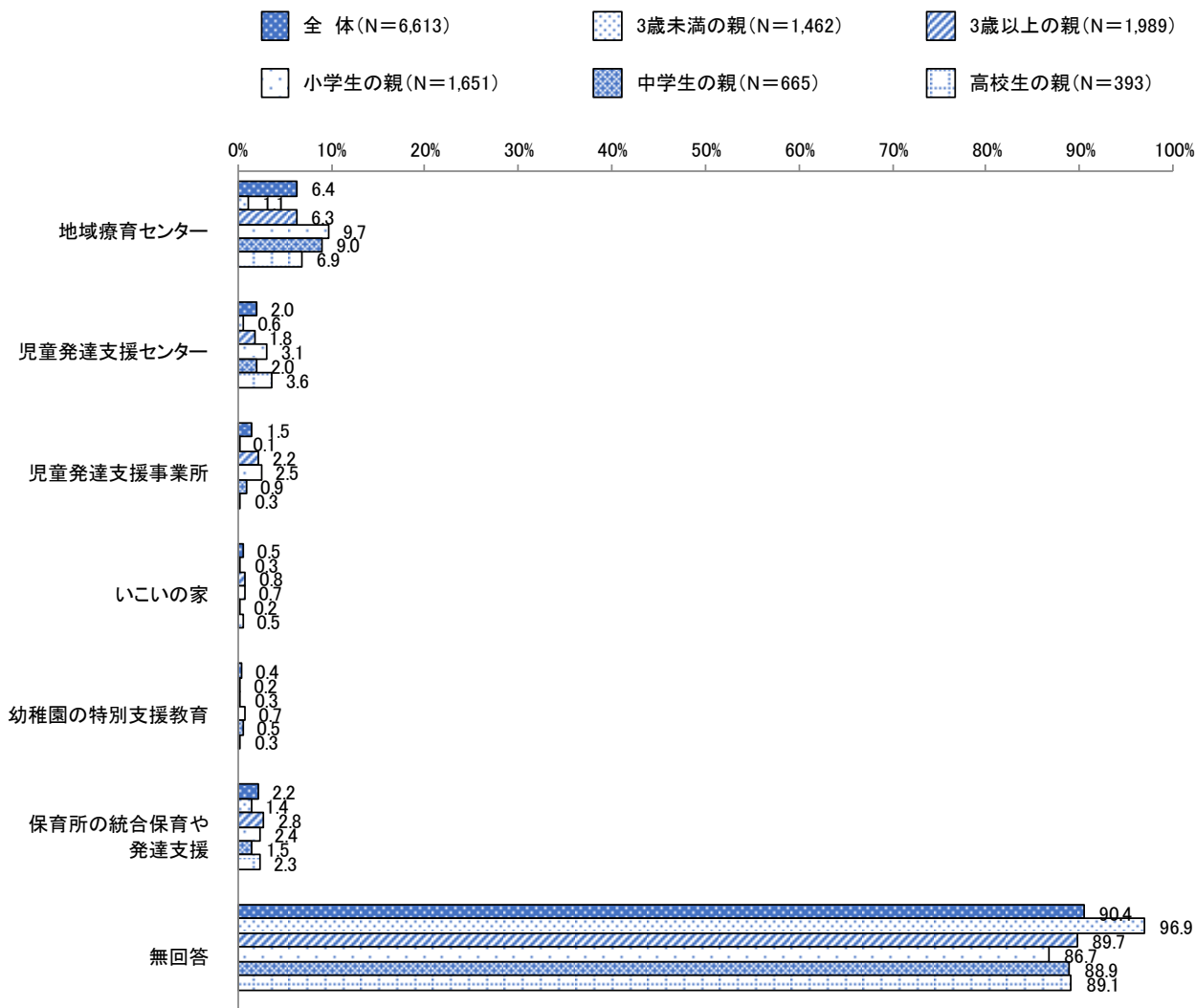
※「学校」は就学後保護者調査のみ

お子さんの発達支援事業の利用について【就学前 問 79・就学後 問 43】

■あて名のお子さんは現在、子どもの発達を支援する事業を利用していますか。(就学後：あて名のお子さんは小学校に入学するまでに、子どもの発達を支援する事業を利用したことがありますか。)(複数回答)

◇「無回答」を除くと、全体では「地域療育センター」の割合が 6.4%と最も高く、次いで「保育所の統合保育や発達支援」が 2.2%となっている。

◇「3歳未満の親」では、「保育所の統合保育や発達支援」が 1.4%と最も高い。

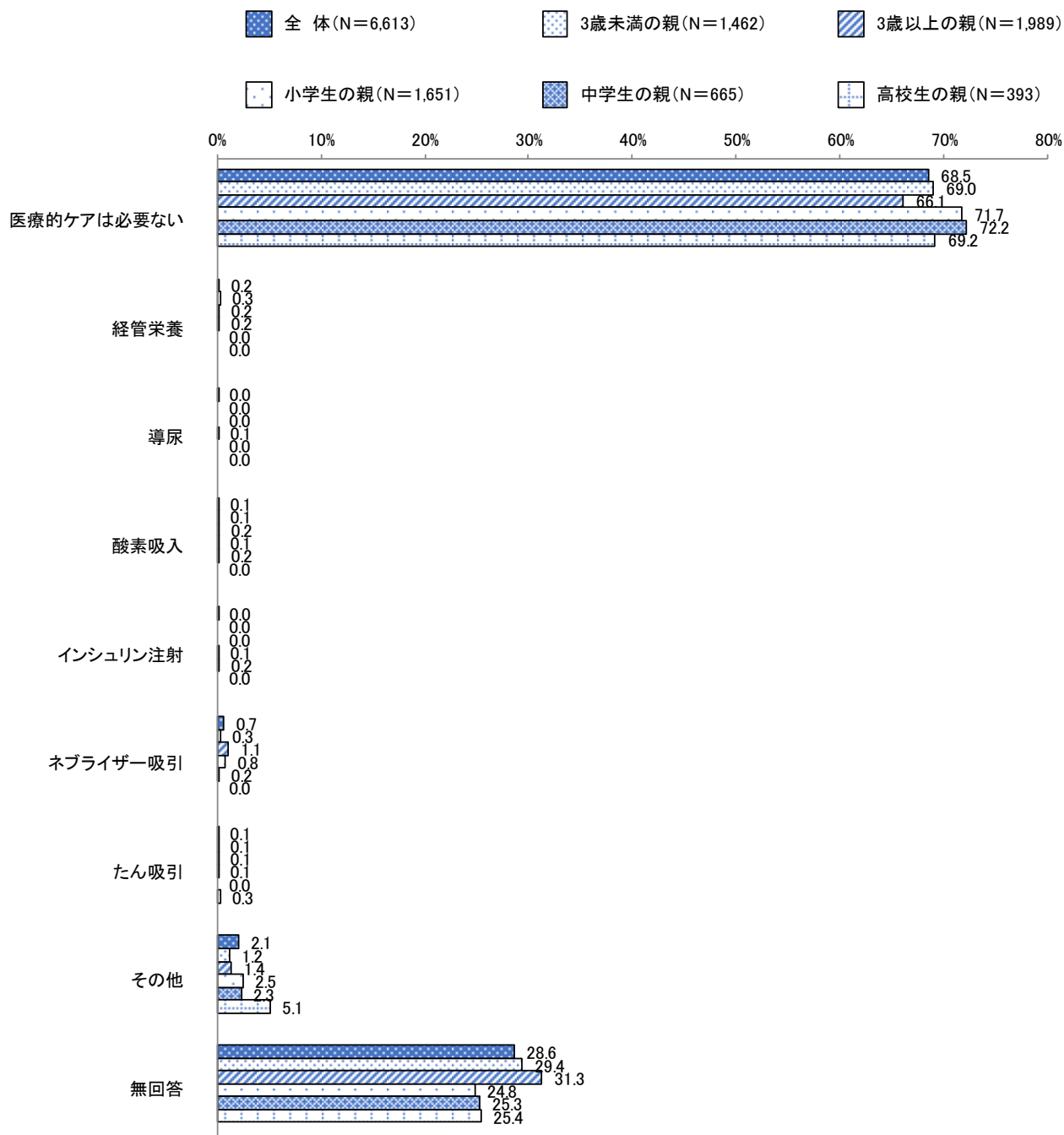


お子さんの医療的なケアの必要性について 【就学前 問 80・就学後 問 44】

■あて名のお子さんは現在、生活をする上で何らかの医療的なケアが必要ですか。

(複数回答)

- ◇ 「無回答」「その他」を除くと全体では、「医療的ケアは必要ない」の割合が 68.5%と最も高く、次いで「ネブライザー吸引」が 0.7%となっている。
- ◇ 「医療的ケアは必要ない」を見ると、いずれの年代の子どもをもつ親も 6～7 割台となっている。

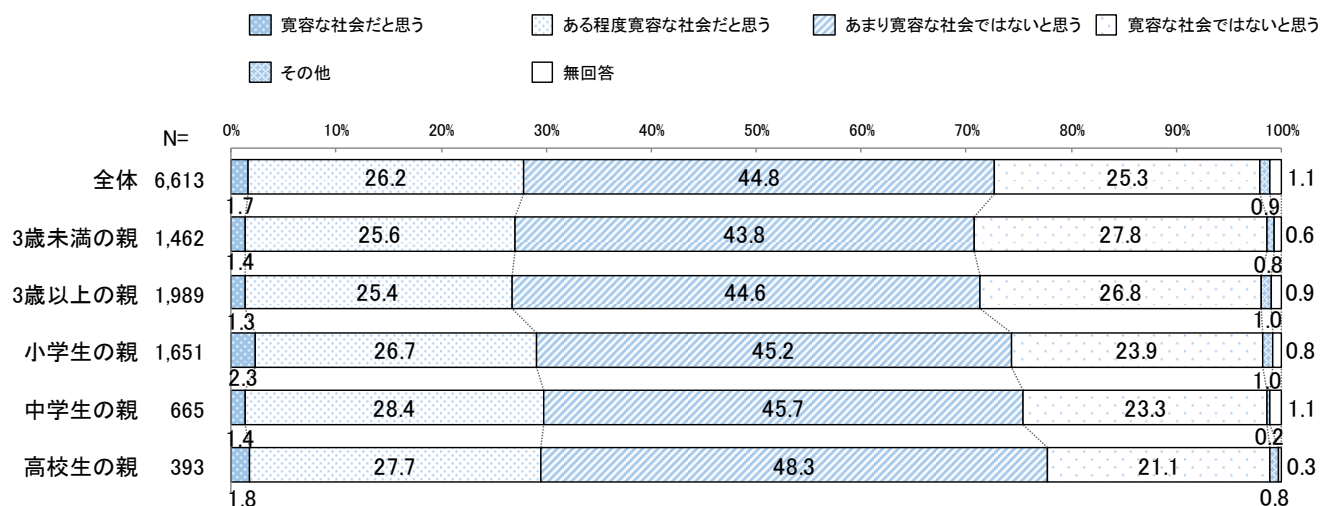


今の日本社会の寛容性について（意見・立場）【就学前 問 81・就学後 問 45】

■今の日本の社会は、自分と意見や立場が異なる人を認める寛容な社会だと思いますか。（1つ）

◇ 全体では、「あまり寛容な社会ではないと思う」が 44.8%と最も多く、次いで「ある程度寛容な社会だと思う」が 26.2%、「寛容な社会ではないと思う」が 25.3%となっている。

◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、約 7 割が寛容な社会ではないと思っている。

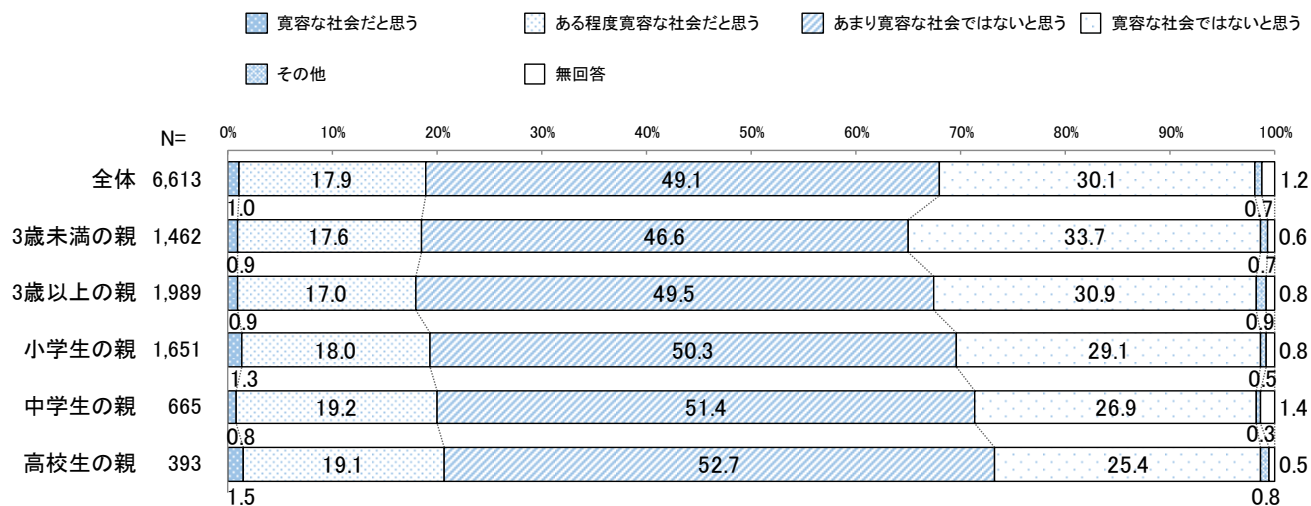


今の日本社会の寛容性について（過ち・欠点）【就学前 問 82・就学後 問 46】

■今の日本の社会は、他人の過ちや欠点を許せる寛容な社会だと思いますか。（1つ）

◇ 全体では、「あまり寛容な社会ではないと思う」が 49.1%と最も多く、次いで「寛容な社会ではないと思う」が 30.1%、「ある程度寛容な社会だと思う」が 17.9%となっている。

◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、約 8 割が寛容な社会ではないと思っている。

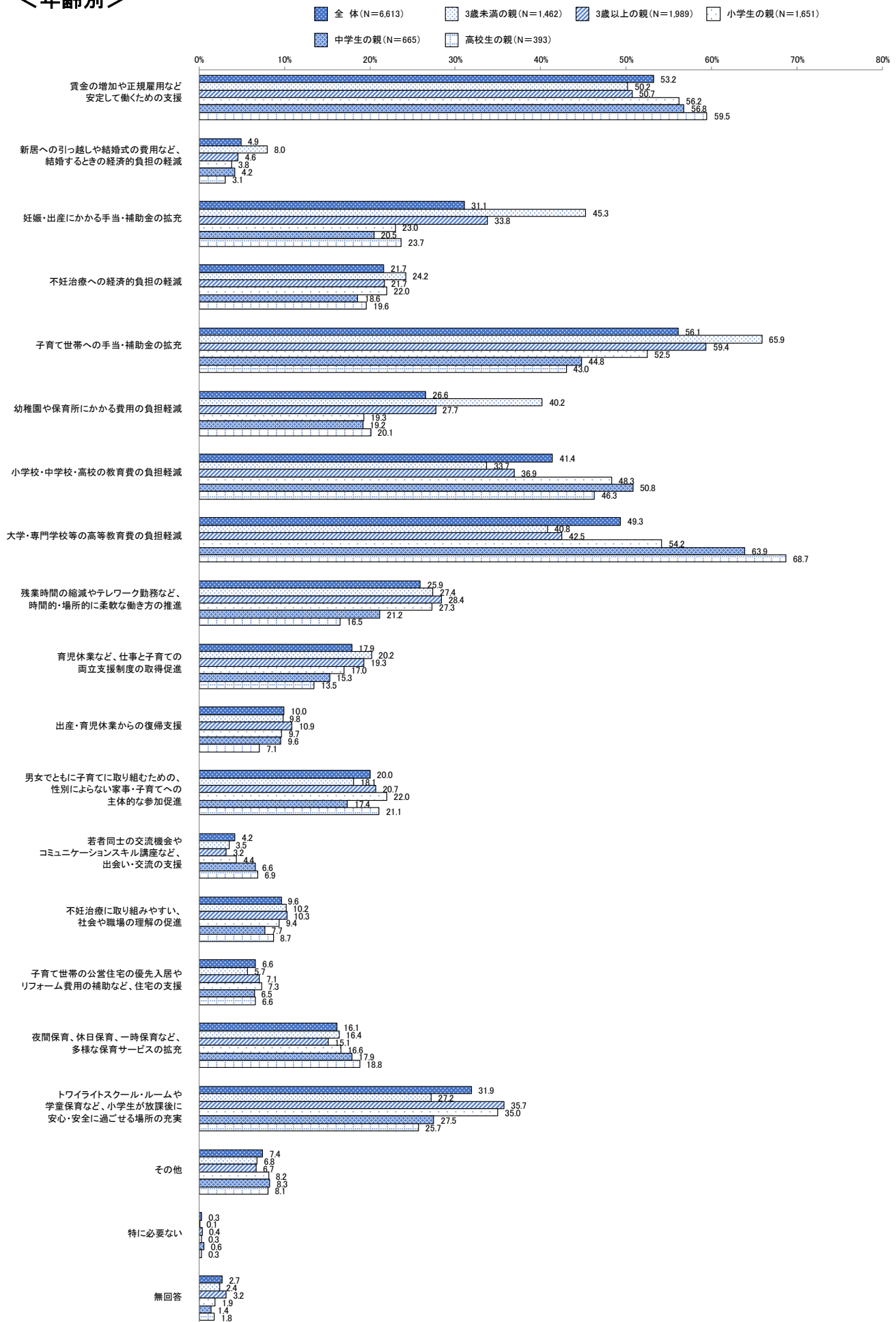


少子化対策として特に必要だと思う支援【就学前 問 83・就学後 問 47】

■少子化対策として、あなたが特に必要だと思う支援は何ですか。（5つまで）

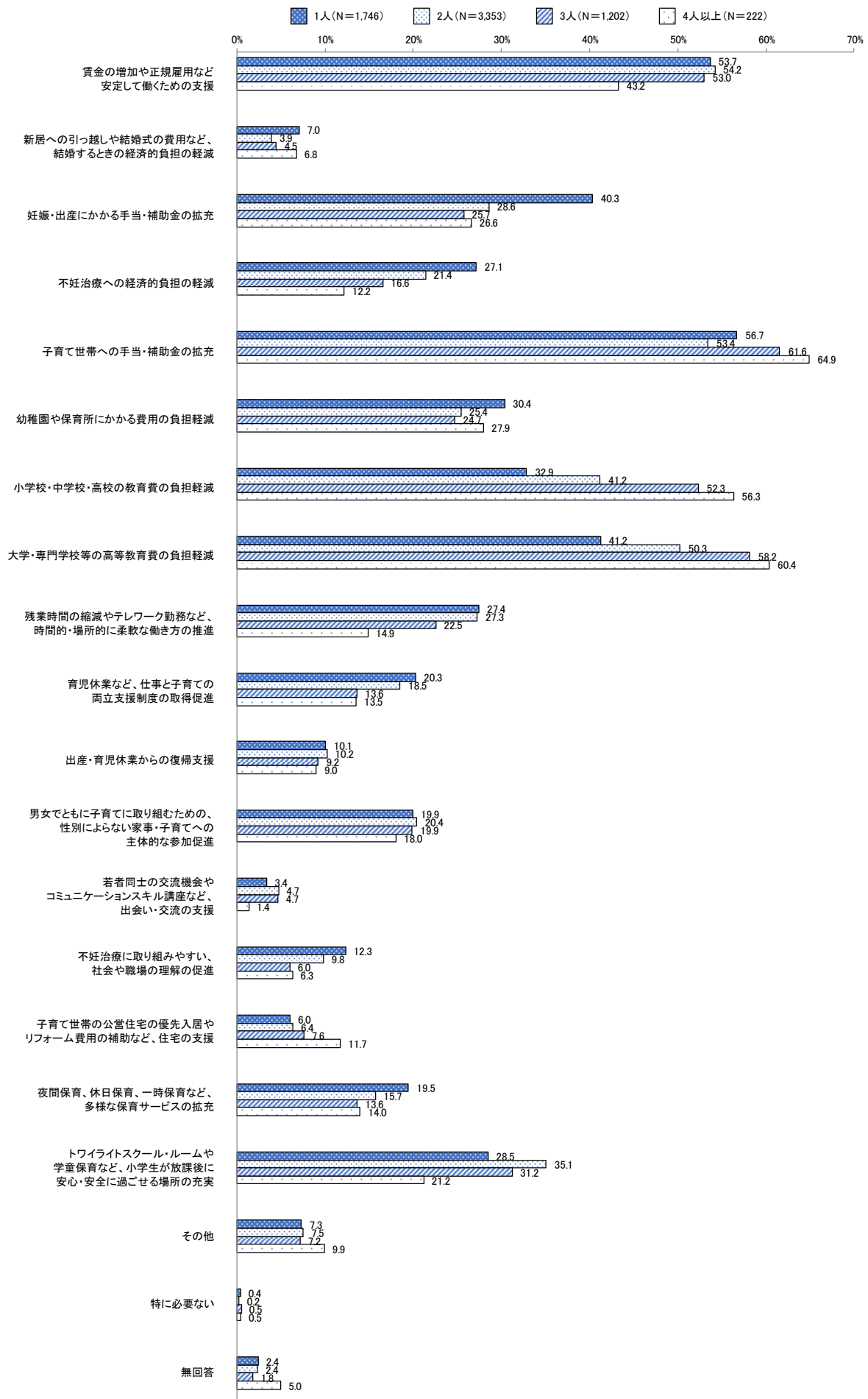
- ◇ 全体では、「子育て世帯への手当・補助金の拡充」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「賃金の増加や正規雇用など安定して働くための支援」が 53.2%、「大学・専門学校等の高等教育費の負担軽減」が 49.3%となっている。
- ◇ 「賃金の増加や正規雇用など安定して働くための支援」を見ると、いずれの年代の子どもをもつ親も過半数を占めている。

<年齢別>



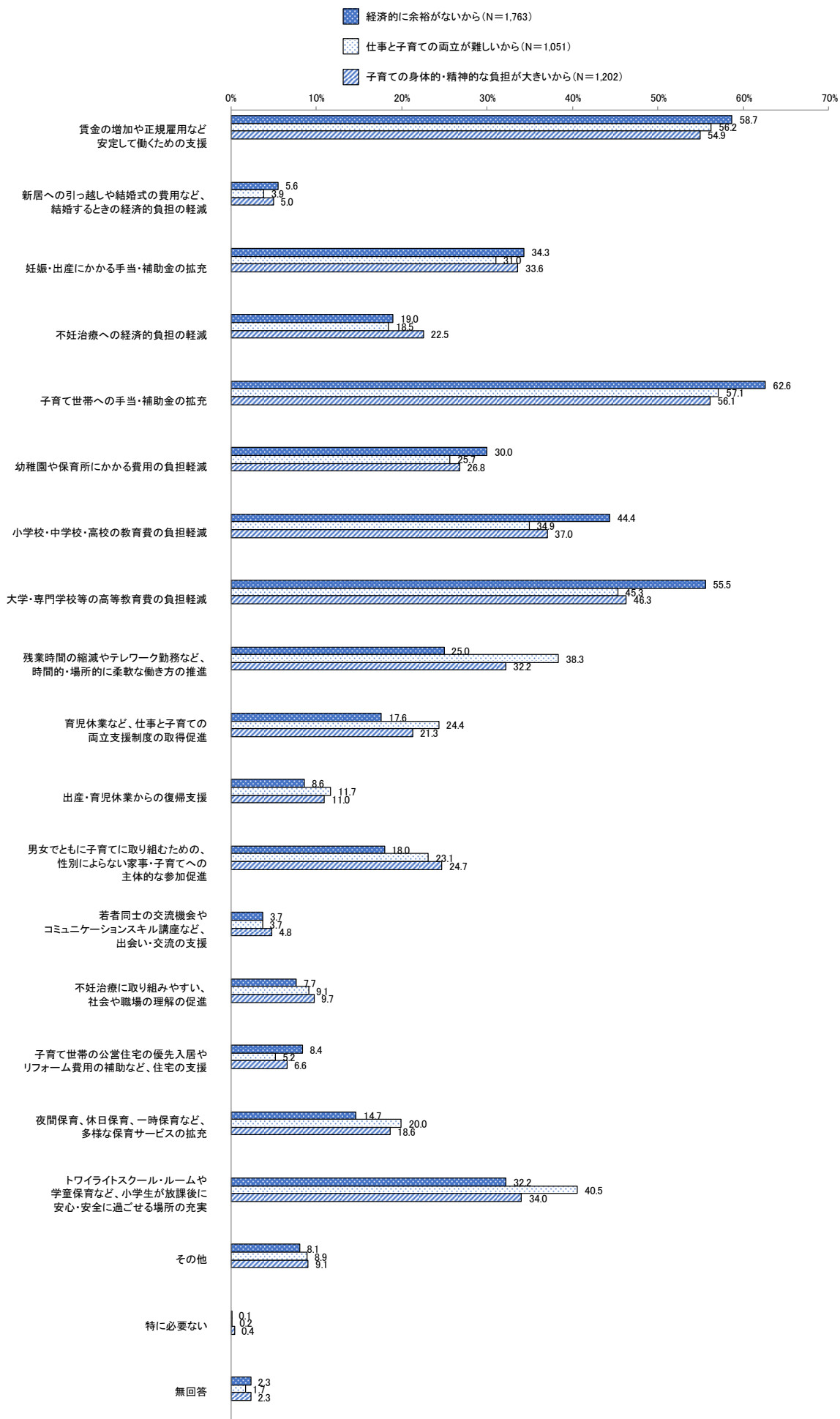
『少子化対策に必要な支援（就学前 問 83、就学後 問 47）と子どもの人数（就学前 問 84、就学後 問 48）』

- ◎ 子どもの人数を「3 人」「4 人以上」と回答した方は、少子化対策に必要な支援で「子育て世帯への手当・補助金の拡充」と回答した割合が高い。



『少子化対策に必要な支援（就学前 問 83、就学後 問 47）と子どもの人数が理想より少ない理由（就学前 問 85、就学後 問 49）』

- ◎ 子どもの人数が理想より少ない理由で、「経済的に余裕がないから」と回答した方は、少子化対策に必要な支援で「子育て世帯への手当・補助金の拡充」と回答した割合が高い。



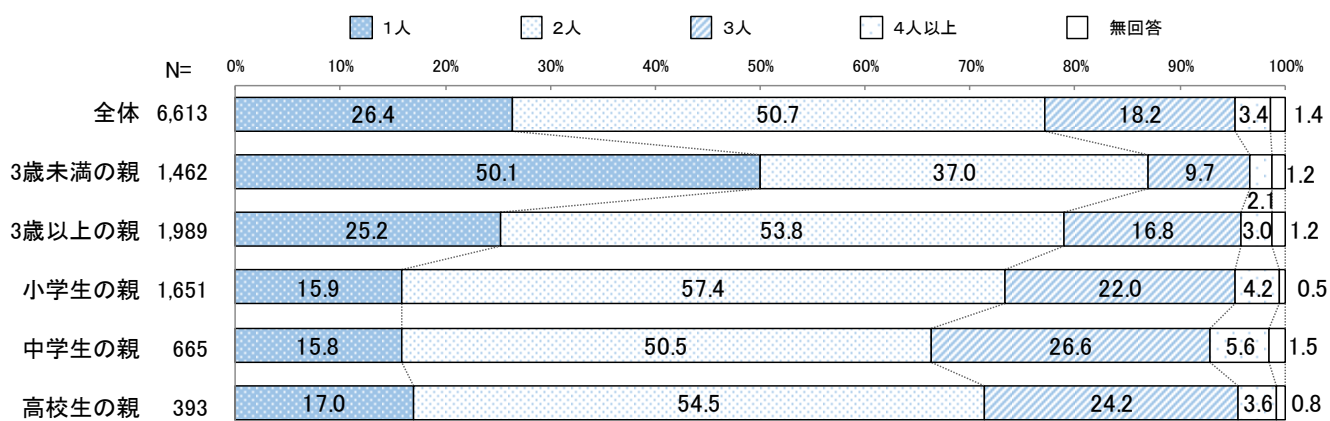
お子さんの人数について【就学前 問 84・就学後 問 48】

■あなたには何人のお子さんがいますか。また、理想としては、子どもは何人いるのが望ましいと考えていますか。(各1つ)

◇ 全体では、実際の子どもの人数は、「2人」が50.7%、次いで「1人」が26.4%となっており、理想とする子どもの人数は、「2人」が44.9%、次いで「3人」が40.0%となっている。

◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、実際の子どもの人数を3人以上と回答した割合より、理想とする子どもの人数を3人以上と回答した割合の方が高い。

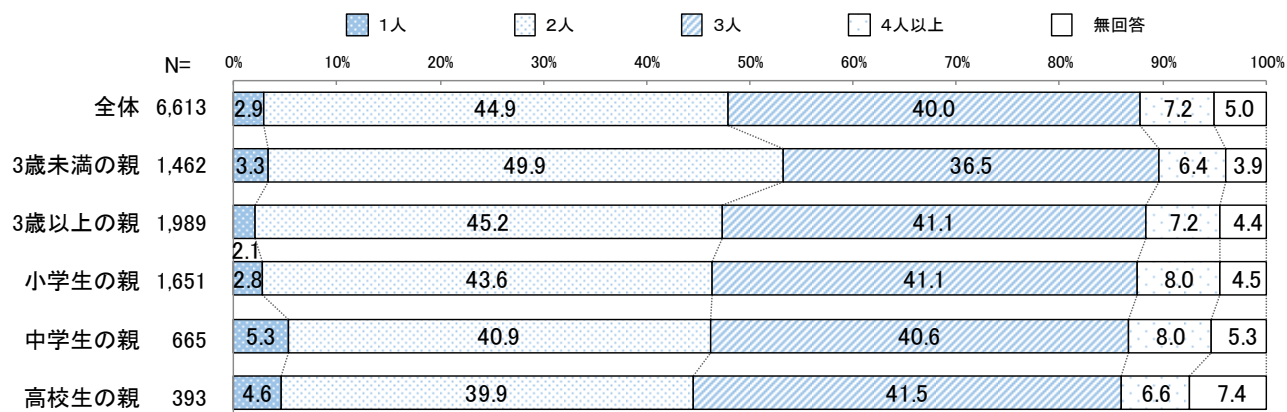
(1) お子さんの人数



【前回調査との数値比較】

	お子さんの人数		
	平成30年	令和5年	変化量
1人	24.9	26.4	1.5
2人	52.4	50.7	▲ 1.7
3人	17.9	18.2	0.3
4人以上	3.6	3.4	▲ 0.2

(2) 理想とする人数



【前回調査との数値比較】

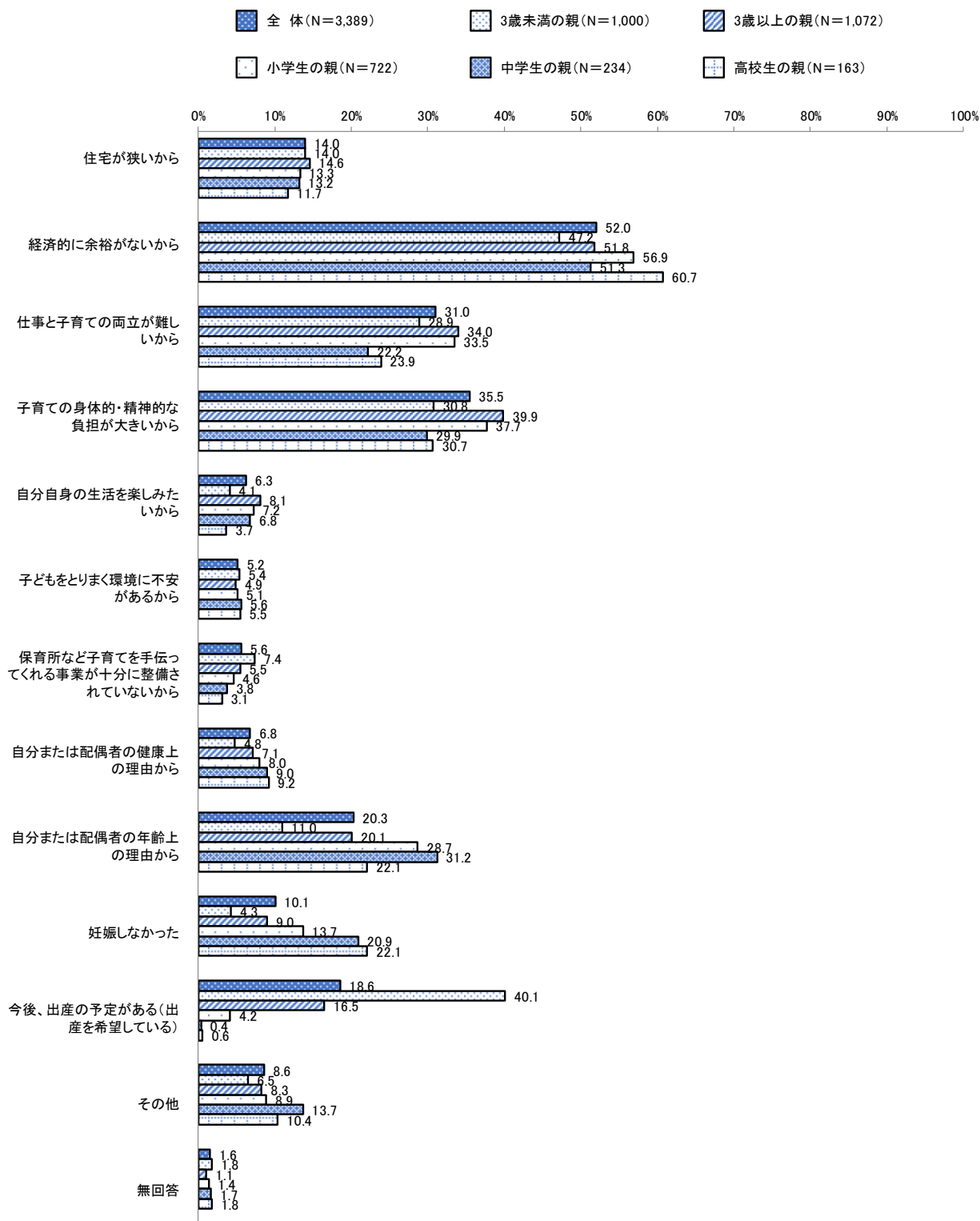
	理想とする人数		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
1 人	2.4	2.9	0.5
2 人	44.9	44.9	0.0
3 人	42.6	40.0	▲ 2.6
4 人以上	6.8	7.2	0.4

お子さんの人数が理想とする人数より少ない理由について

【就学前 問 85・就学後 問 49】

■お子さんの人数が理想とする人数より少ない理由は何ですか。（3つまで）

- ◇ 全体では、「経済的に余裕がないから」が 52.0%と最も多く、次いで「子育ての身体的・精神的な負担が大きいから」が 35.5%、「仕事と子育ての両立が難しいから」が 31.0%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」では、「今後、出産の予定がある（出産を希望している）」が 40.1%と高くなっている。



【前回調査との数値比較】

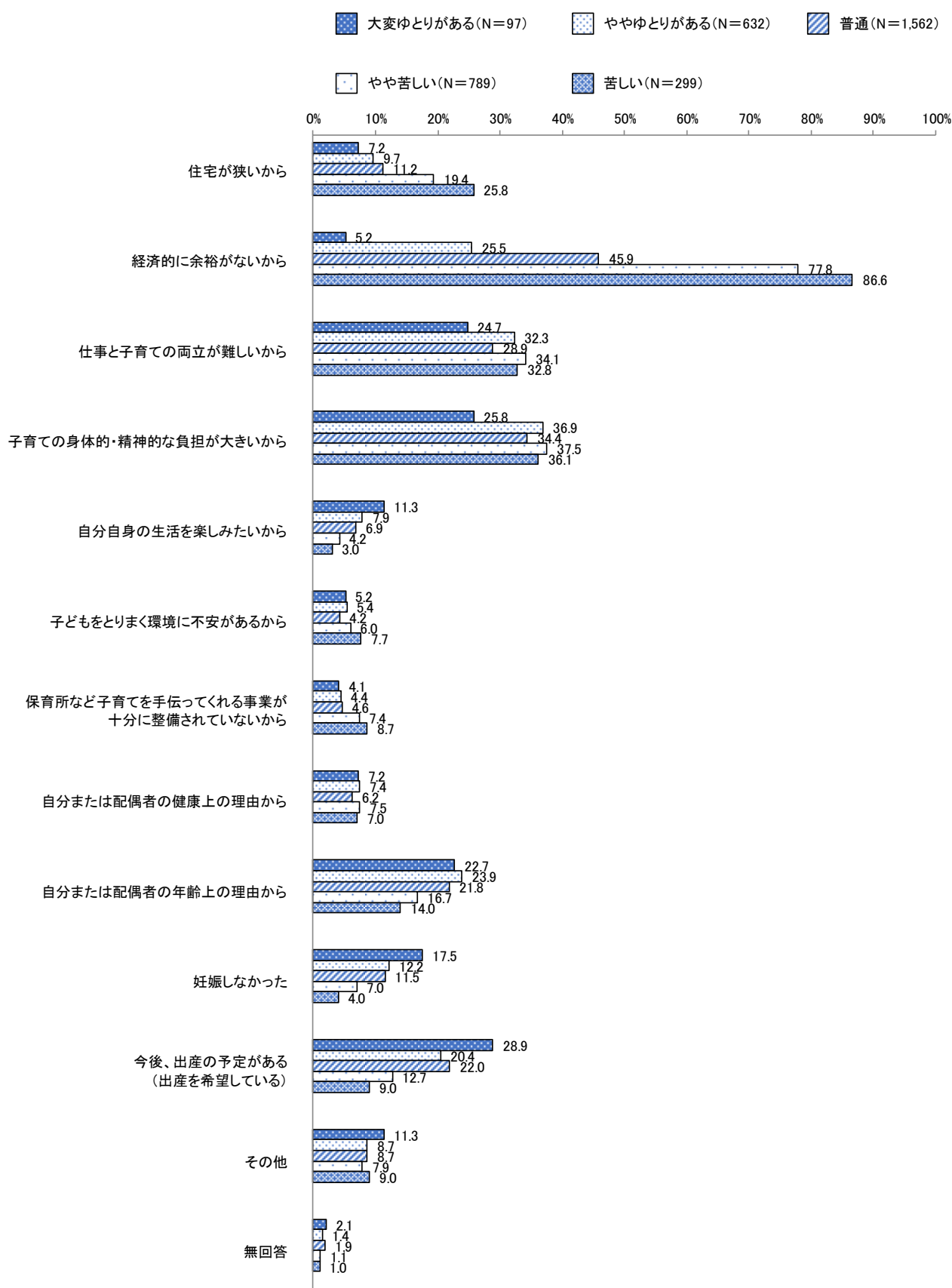
	経済的に余裕がないから		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	46.6	52.0	5.4
3 歳未満の親	39.8	47.2	7.4
3 歳以上の親	50.9	51.8	0.9
小学生の親	50.1	56.9	6.8
中学生の親	45.3	51.3	6.0
高校生の親	49.6	60.7	11.1

仕事と子育ての両立が難しいから		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
24.9	31.0	6.1
22.4	28.9	6.5
29.3	34.0	4.7
25.8	33.5	7.7
20.8	22.2	1.4
17.6	23.9	6.3

	子育ての身体的・精神的な負担が大きいから		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	27.7	35.5	7.8
3 歳未満の親	24.2	30.8	6.6
3 歳以上の親	31.7	39.9	8.2
小学生の親	27.8	37.7	9.9
中学生の親	22.5	29.9	7.4
高校生の親	27.7	30.7	3.0

『子どもの人数が理想より少ない理由（就学前 問 85、就学後 問 49）と世帯の暮らし向き（就学前 問 71、就学後問 32）』

◎ 家庭の経済状況を「苦しい」と回答した者は、子どもの人数が理想より少ない理由に、「経済的に余裕がないから」と回答した割合が高い。

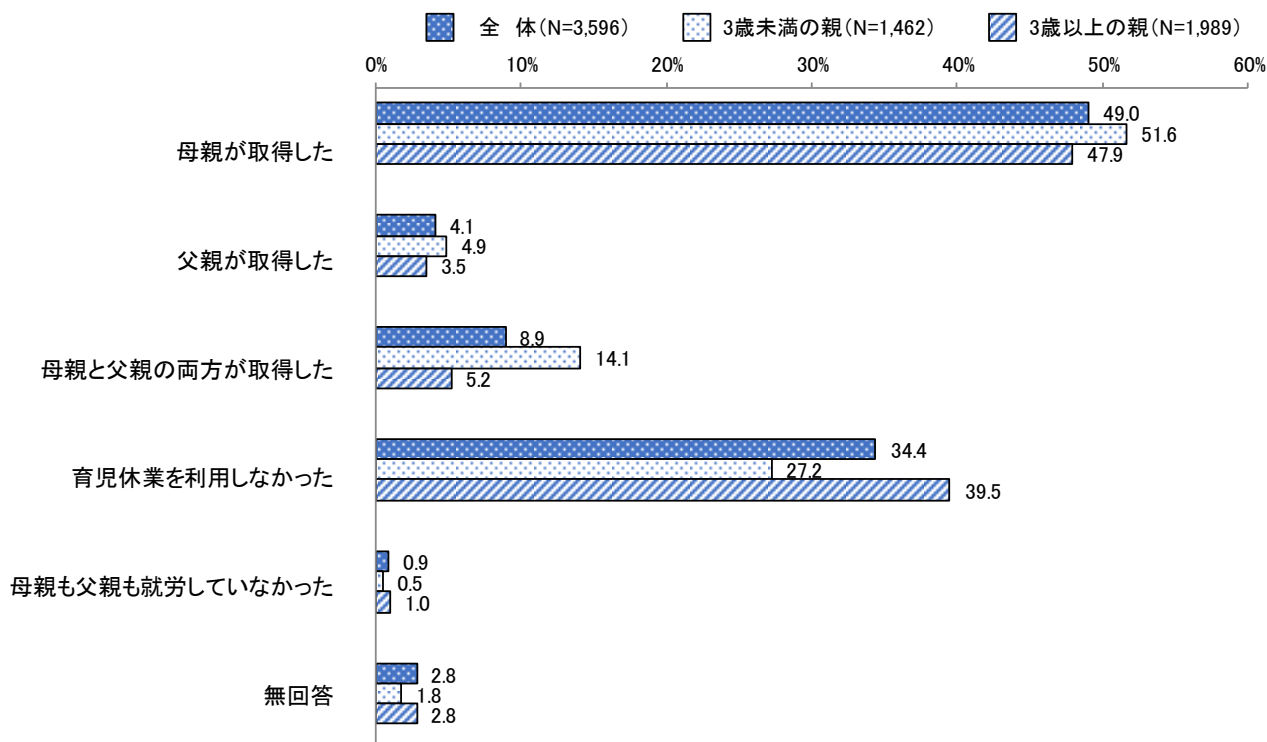


第3章 お子さんの年齢別に行った質問（就学前）

育児休業の取得について 【就学前 問27】

■あて名のお子さんについて、育児休業を取得しましたか。（1つ）

- ◇ 全体では、「母親が取得した」が 49.0%と最も高く、次いで「育児休業を利用しなかった」が 34.4%、「母親と父親の両方が取得した」が 8.9%となっている。
- ◇ 「育児休業を利用しなかった」割合は、「3歳以上の親」は「3歳未満の親」よりも 10ポイント以上高くなった。



【前回調査との数値比較】

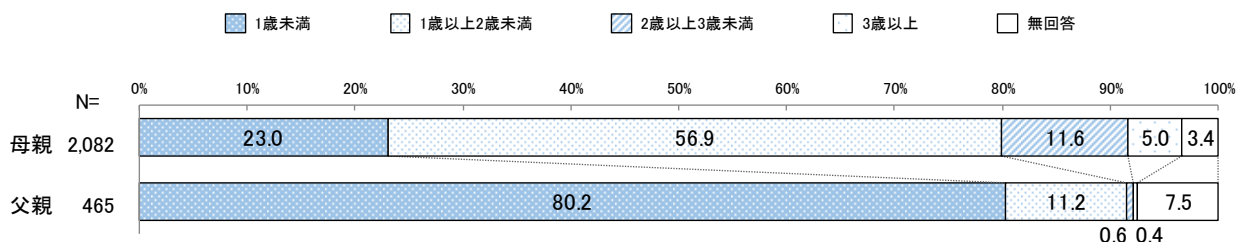
	育児休業を取得したか		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
母親が取得した	38.5	49.0	10.5
父親が取得した	1.2	4.1	2.9
母親と父親の両方が取得した	1.3	8.9	7.6
育児休業を利用しなかった	51.1	34.4	▲16.7
母親も父親も就労していなかった	1.0	0.9	▲0.1

育児休業取得後の復帰について 【就学前 問 28】

■育児休業からの復帰時（現在取得中のかたは復帰予定時）のお子さんの年齢を、数字で記入してください。

◇ 母親では、「1歳以上2歳未満」が56.9%と最も高い。

◇ 父親では、「1歳未満」が80.2%と最も高い。



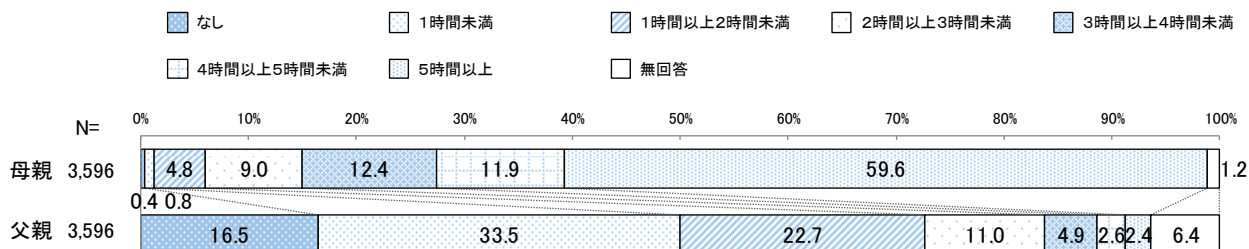
家事時間について 【就学前 問 29】

■一日のうち、家事（育児含む）に要する時間はどれくらいですか。（1つ）

<平日>

◇ 母親では、「5時間以上」が59.6%と最も高い。

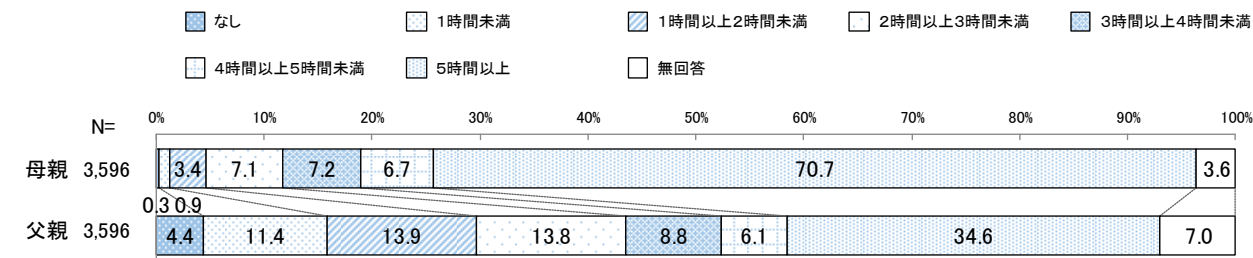
◇ 父親では、「1時間未満」が33.5%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」が22.7%となっている。



<休日>

◇ 母親では、「5時間以上」が70.7%と最も高い。

◇ 父親では、「5時間以上」が34.6%と最も高い。

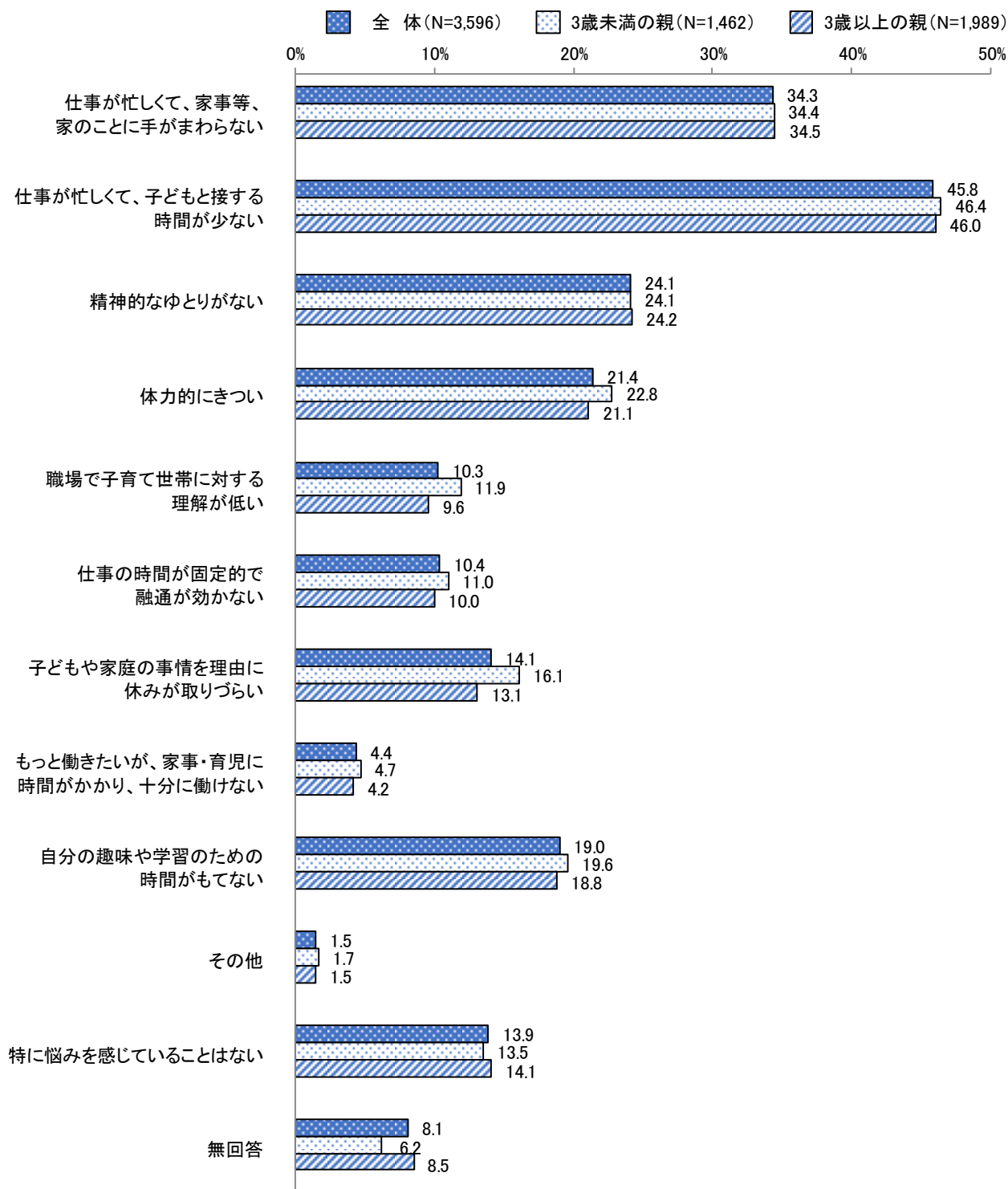


仕事と生活のバランスにおける悩みについて 【就学前 問 31】

■ワーク・ライフ・バランスで悩みに感じていることはありますか。（3つまで）

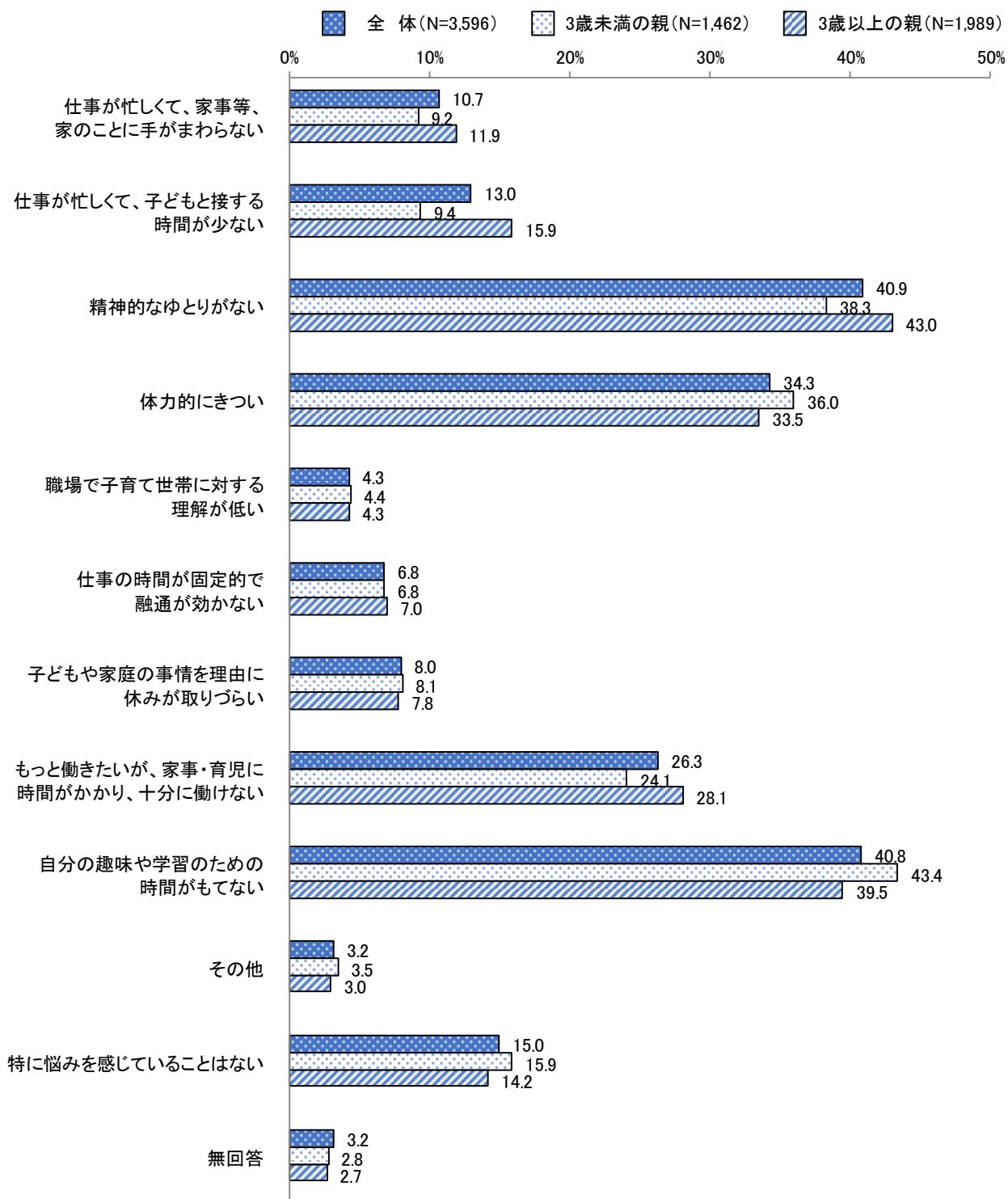
<父 親>

- ◇ 全体では、「仕事が忙しくて、子どもと接する時間が少ない」が45.8%と最も高い。
- ◇ 3歳未満・3歳以上の父親ともに、全ての項目で同等になっている。



<母 親>

- ◇ 全体では、「精神的なゆとりがない」が40.9%と最も高い。
- ◇ 「仕事が忙しくて、子どもと接する時間が少ない」を見ると、「3歳未満の親」(9.4%)よりも「3歳以上の親」(15.9%)の方が6.5ポイント高く、いずれの項目よりも差が大きくなっている。

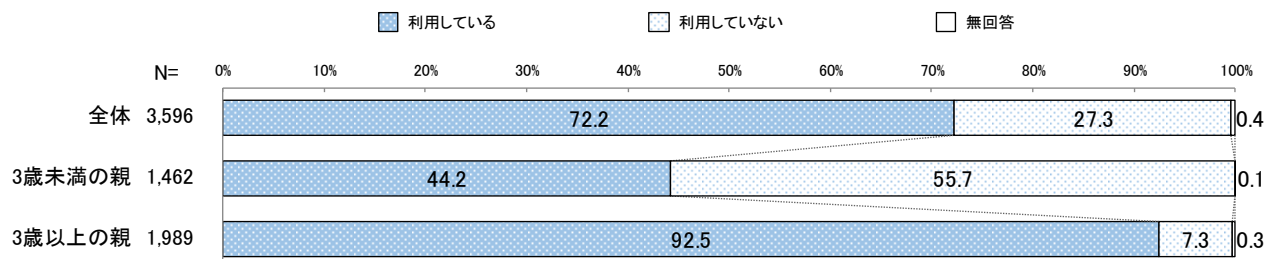


平日の教育・保育事業について 【就学前 問 33】

■あて名のお子さんは、現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。（1つ）

◇ 全体では「利用している」が 72.2%を占める。

◇ 「利用している」割合は、「3歳未満の親」よりも「3歳以上の親」の方が高い。



【前回調査との数値比較】

	利用している			利用していない		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	71.8	72.2	0.4	27.3	27.3	0.0
3歳未満の親	43.0	44.2	1.2	56.4	55.7	▲ 0.7
3歳以上の親	94.7	92.5	▲ 2.2	4.8	7.3	2.5

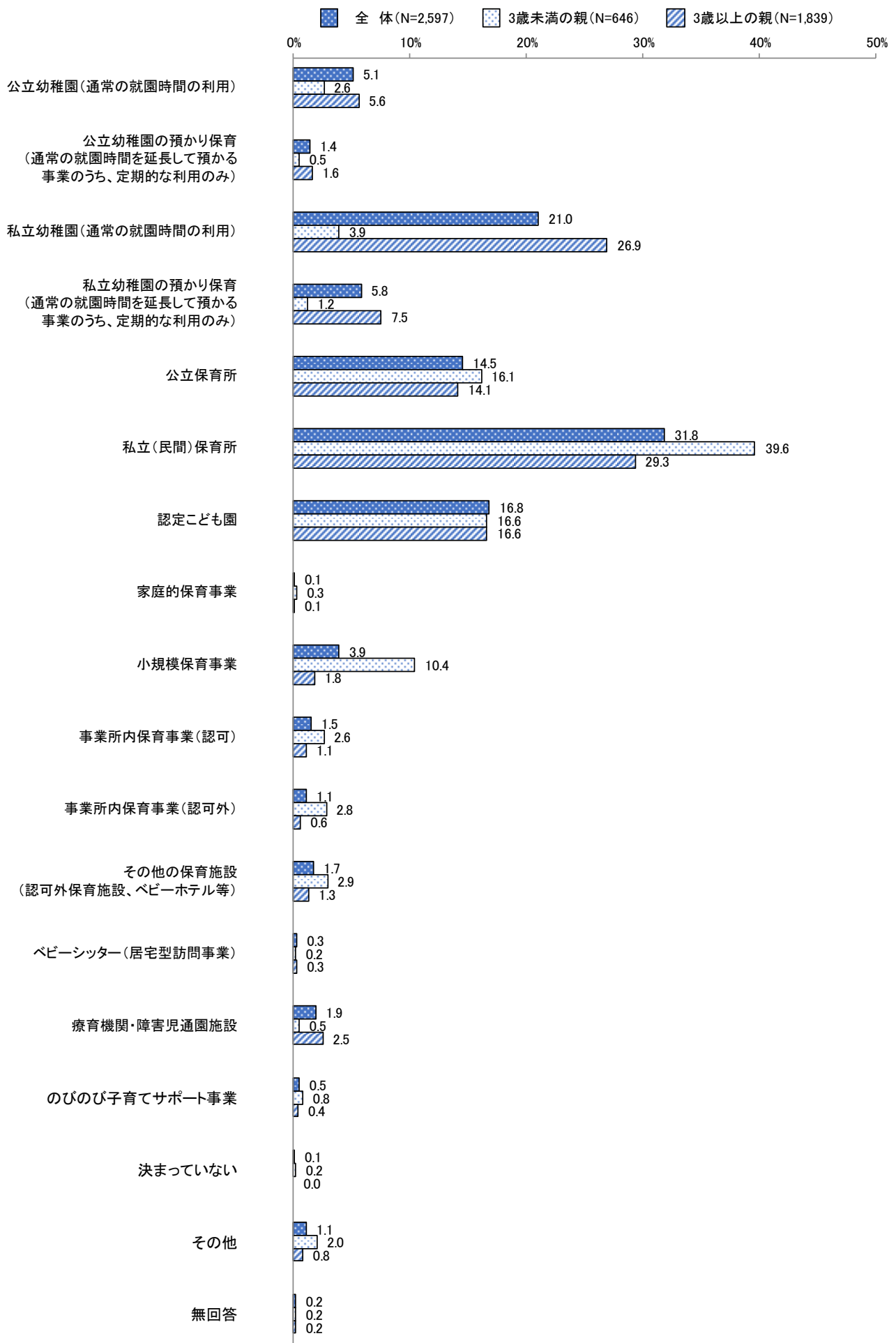
平日の教育・保育事業の利用状況について 【就学前 問 34】

■あて名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。
(複数回答)

【参考】

定期的な教育・保育の事業	内 容
認定こども園	幼稚園と保育所の機能をあわせ持つ施設
幼稚園	学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設
幼稚園の預かり保育	幼稚園や認定こども園における1号認定子どもを、通常の就園時間を延長して預かる事業
保育所	保育を必要とする0～5歳児に対して保育を行う事業
保育所の延長保育	保育所や認定こども園における2・3号認定子どもを、通常の保育終了時間（概ね午後6時）を延長して預かる事業
家庭的保育事業	保育を必要とする0～2歳児に対して保育を行う事業（定員3人または5人）
小規模保育事業	保育を必要とする0～2歳児に対して保育を行う事業（定員6人～19人）
事業所内保育事業（認可）	主として従業員の子どものほか、保育を必要とする従業員以外の地域の0～2歳児に対して保育を行う事業
事業所内保育事業（認可外）	企業などの事業所が従業員のために事業所内に保育施設を設置したもの（企業主導型保育事業を含む）
その他の保育施設	名古屋市の認可を受けていない保育施設で、事業所内保育施設以外のもの（認可外保育施設、ベビーホテル等）
ベビーシッター	自宅において有料でお子さんを預かるサービス
のびのび子育てサポート事業	子育ての援助を行いたい方と受けたい方からなる会員組織により一時的に子育ての手助けをしあう制度

- ◇ 全体では、「私立（民間）保育所」が31.8%と最も多く、次いで「私立幼稚園」が21.0%となっている。
- ◇ 3歳未満の親では「私立（民間）保育所」が39.6%と最も多く、次いで「認定こども園」が16.6%となっている。
- ◇ 3歳以上の親では「私立（民間）保育所」が29.3%と最も多く、次いで「私立幼稚園」が26.9%、「認定こども園」が16.6%となっている。



【前回調査との数値比較】

	私立幼稚園（通常の就園時間の利用）		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	30.8	21.0	▲ 9.8
3 歳未満の親	5.3	3.9	▲ 1.4
3 歳以上の親	39.9	26.9	▲13.0

公立保育所		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
15.5	14.5	▲ 1.0
20.5	16.1	▲ 4.4
13.9	14.1	0.2

	私立（民間）保育所		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	25.0	31.8	6.8
3 歳未満の親	37.2	39.6	2.4
3 歳以上の親	20.7	29.3	8.6

認定こども園		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
12.6	16.8	4.2
13.1	16.6	3.5
12.6	16.6	4.0

平日の教育・保育事業の利用状況・利用希望について 【就学前 問 35】

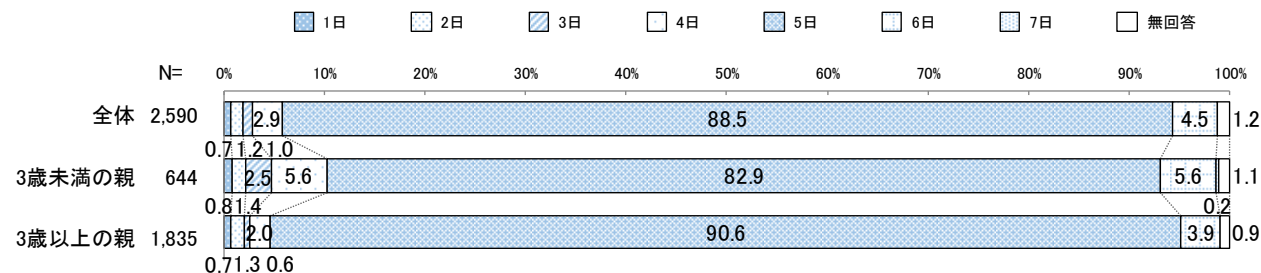
■平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また希望としてはどのくらい利用したいですか。

<現在の利用状況>

(1) 1週間あたりの利用日数

◇ 全体では、週に「5日」が88.5%を占める。

◇ 「3歳未満の親」では、4日以下と回答した人が約1割となっている。

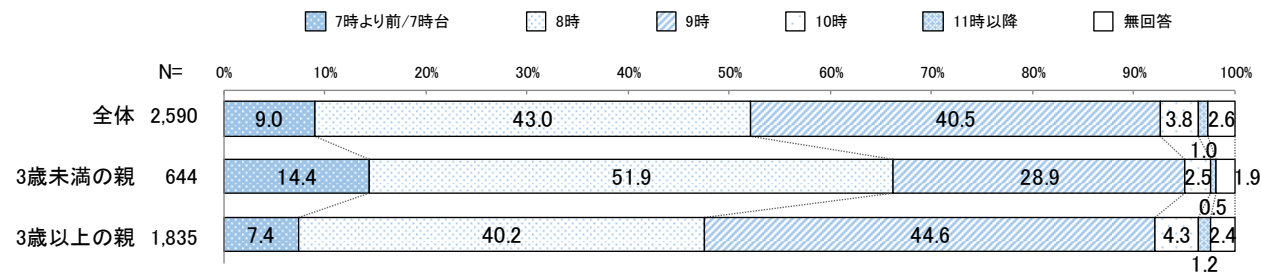


(2) 1日の利用時間

【開始時間】

◇ 全体では、「8時」が43.0%と最も高く、次いで「9時」が40.5%である。

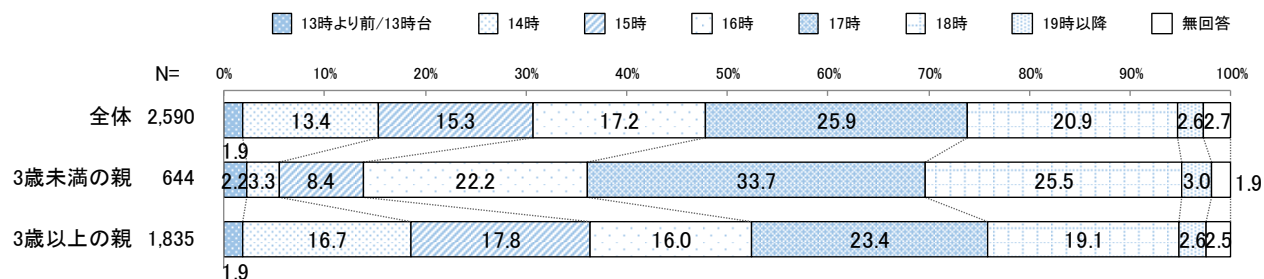
◇ 「3歳未満の親」では、「8時」と回答した人が過半数を占めている。



【終了時間】

◇ 全体では、「17時」が25.9%と最も高く、次いで「18時」が20.9%である。

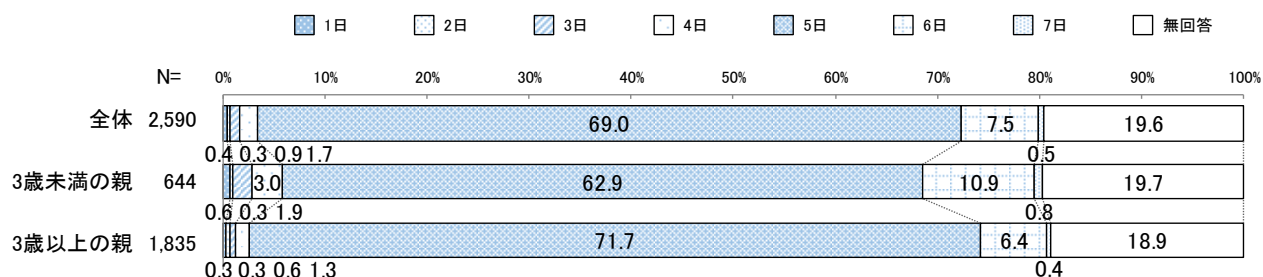
◇ 17時以降の割合は、「3歳以上の親」よりも「3歳未満の親」の方が高くなっている。



<利用希望>

(1) 1週間あたりの利用日数

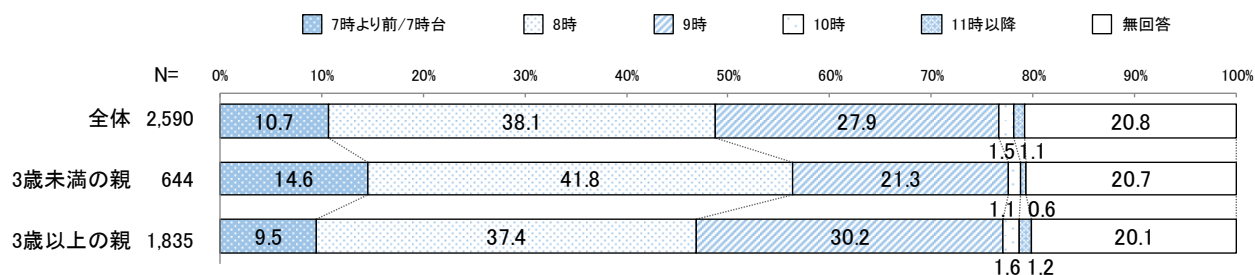
- ◇ 全体では、週に「5日」が69.0%と最も高く、次いで週に「6日」が7.5%である。
- ◇ 3歳未満・3歳以上の親ともに、週に「5日」と回答した人が最も多く、6割以上となっている。



(2) 希望する1日の利用時間

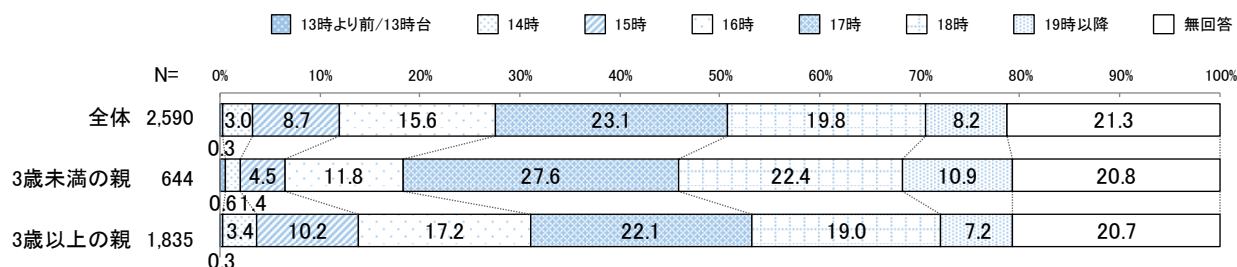
【開始時間】

- ◇ 全体では、「8時」が38.1%と最も高く、次いで「9時」が27.9%である。
- ◇ 「7時より前/7時台」と「8時」の早い時間帯では、「3歳未満の親」の割合が「3歳以上の親」を上回っている。



【終了時間】

- ◇ 全体では、「17時」が23.1%と最も高く、次いで「18時」が19.8%、「16時」が15.6%となっている。
- ◇ 17時以降の遅い時間帯では、「3歳以上の親」よりも「3歳未満の親」の割合の方が高い。

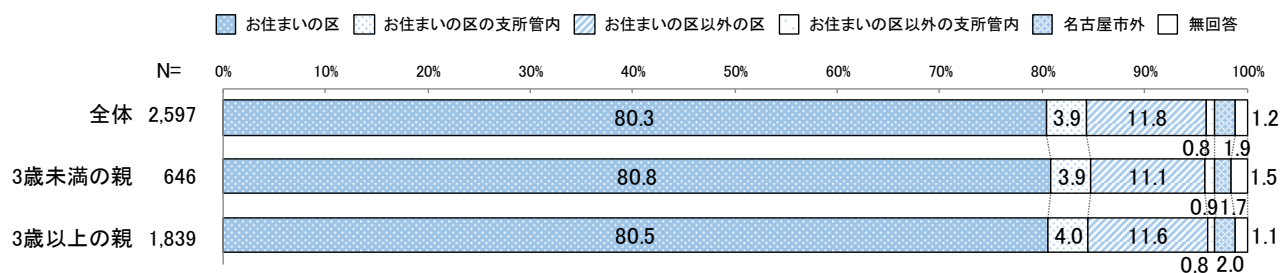


利用している教育・保育事業について 【就学前 問 36】

■現在、利用している教育・保育の事業の実施場所について、あてはまるものを選んでください。(1つ)

◇ 全体では、「お住まいの区」での利用が 80.3%と最も高く、次いで「お住まいの区以外の区」が 11.8%となっている。

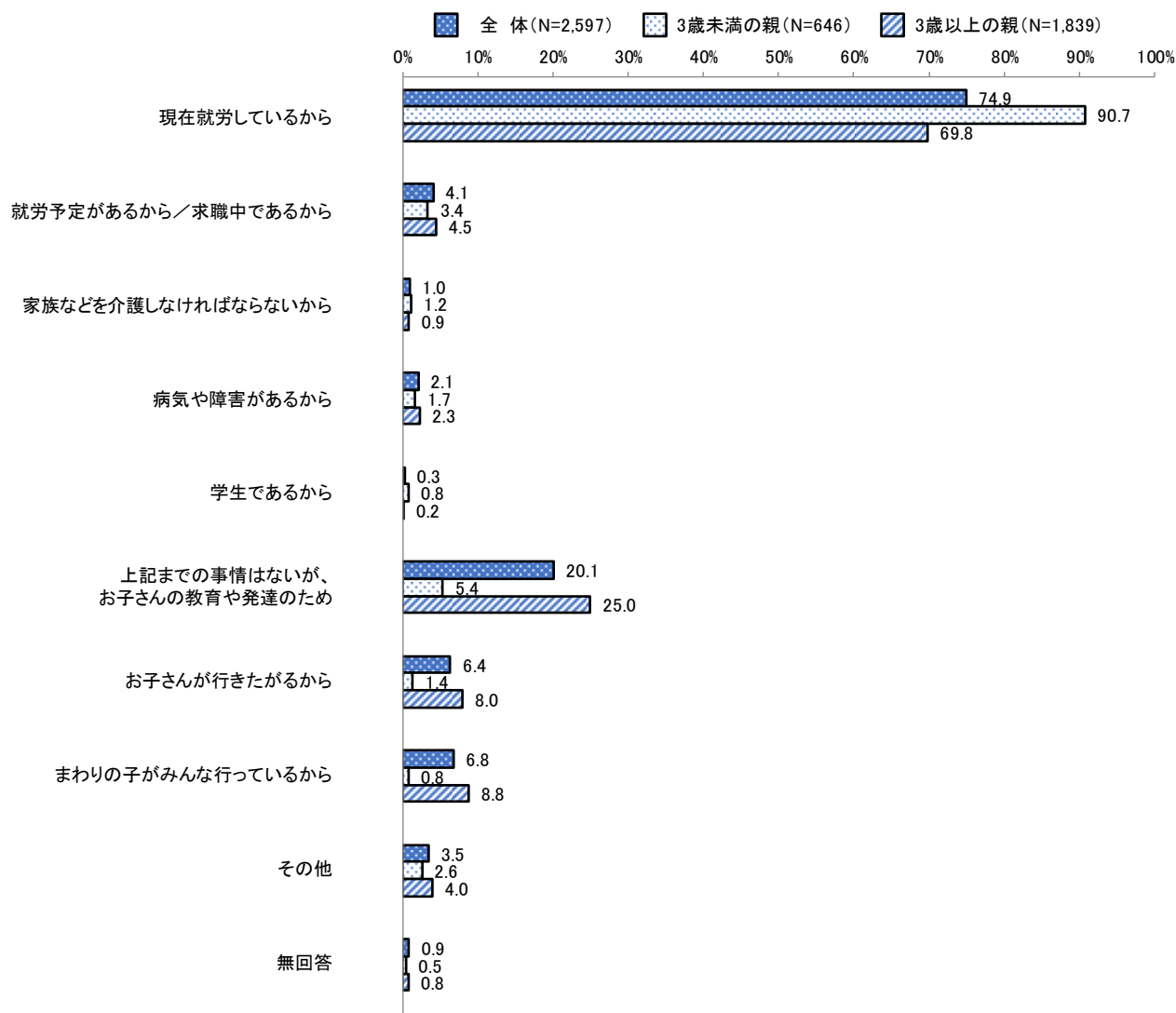
◇ いずれの項目も、「3歳未満の親」と「3歳以上の親」の割合は同等である。



教育・保育事業を平日に利用している理由について 【就学前 問 37】

■平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由は何ですか。（複数回答）

- ◇ 全体では、「現在就労しているから」が74.9%となっている。
- ◇ 「上記までの事情はないが、お子さんの教育や発達のため」の割合を見ると、「3歳未満の親」よりも「3歳以上の親」の方が19.6ポイント高い。



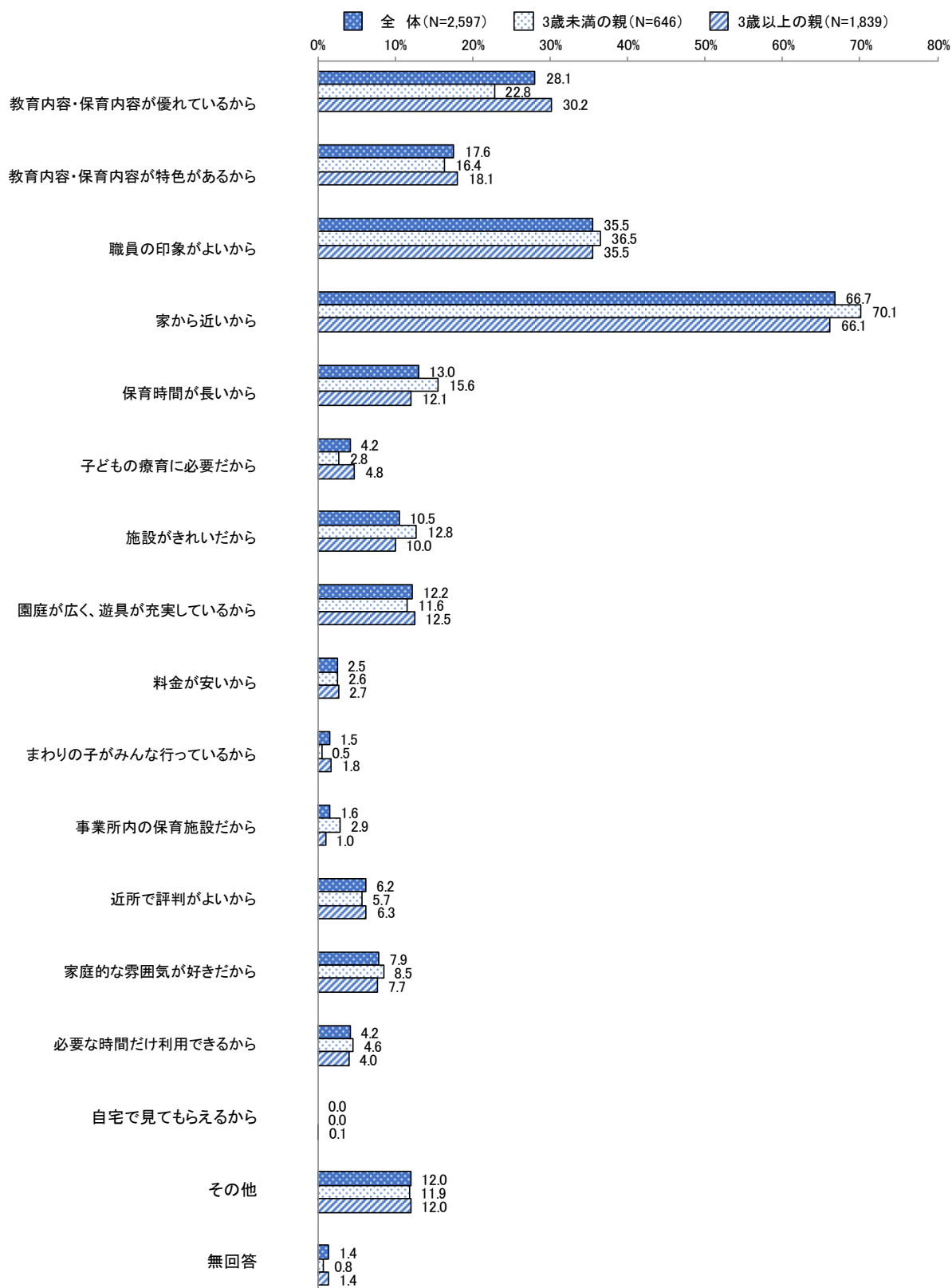
【前回調査との数値比較】

	現在就労しているから			お子さんの教育や発達のため		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	61.9	74.9	13.0	32.9	20.1	▲12.8
3歳未満の親	84.8	90.7	5.9	9.6	5.4	▲4.2
3歳以上の親	53.9	69.8	15.9	41.4	25.0	▲16.4

教育・保育事業を選んだ理由について 【就学前 問 38】

■現在、最も多く利用している教育・保育の事業を選んだ理由は何ですか。(3つまで)

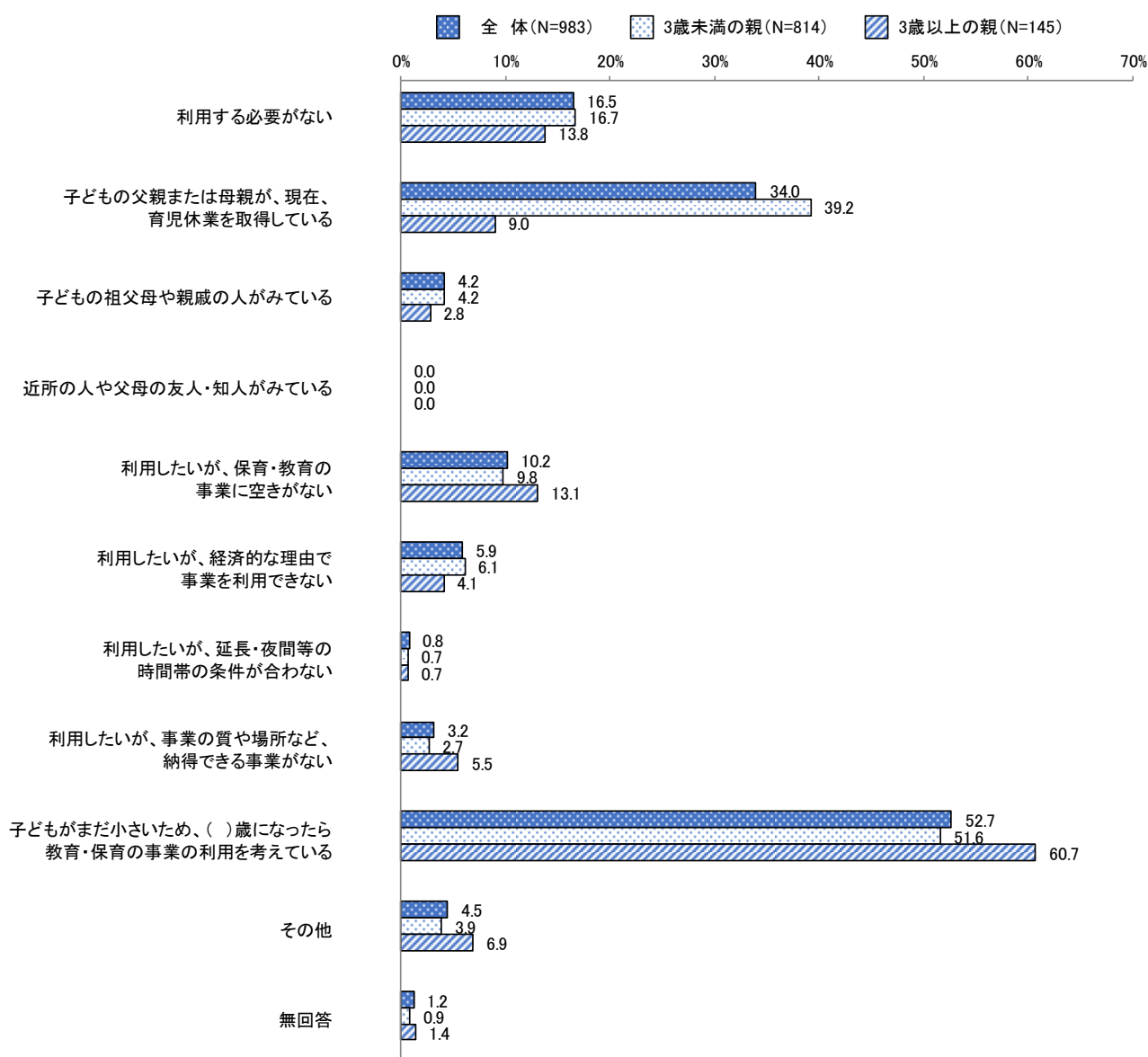
- ◇ 全体では、「家から近いから」が66.7%と最も多く、次いで「職員の印象がよいから」が35.5%、「教育内容・保育内容が優れているから」28.1%となっている。
- ◇ 3歳未満・3歳以上の親ともに、「家から近いから」と回答した人が最も多く、6割以上となっている。



教育・保育事業を利用していない理由について 【就学前 問 39】

■教育・保育事業を利用していない主な理由は何ですか。(複数回答)

- ◇ 全体では、「子どもがまだ小さいため、() 歳になったら教育・保育の事業の利用を考えている」が 52.7%と最も多く、次いで「子どもの父親または母親が、現在、育児休業を取得している」が 34.0%となっている。
- ◇ 「3 歳以上の親」では、1 割以上が「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」と回答している。



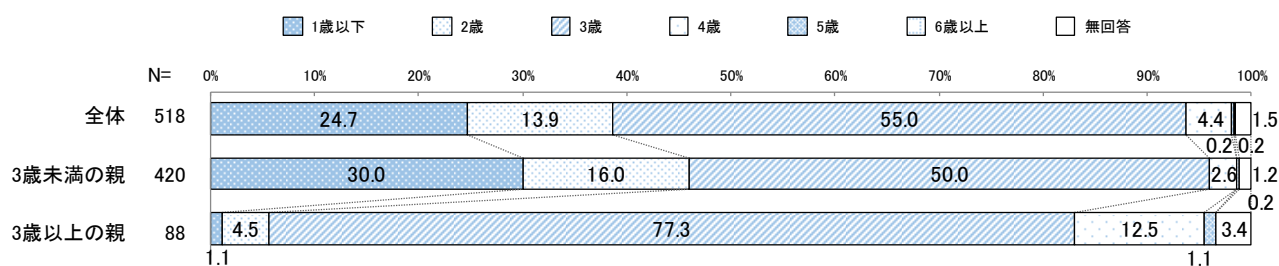
【前回調査との数値比較】

	利用する必要がある			子どもの父親または母親が、 現在、育児休業を取得している		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	35.5	16.5	▲19.0	16.8	34.0	17.2
3 歳未満の親	34.3	16.7	▲17.6	18.5	39.2	20.7
3 歳以上の親	50.5	13.8	▲36.7	3.0	9.0	6.0

	利用したいが、保育・教育の事業に 空きがない			子どもがまだ小さい		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	10.9	10.2	▲ 0.7	51.8	52.7	0.9
3 歳未満の親	11.4	9.8	▲ 1.6	52.4	51.6	▲ 0.8
3 歳以上の親	5.9	13.1	7.2	48.5	60.7	12.2

【利用しようとする子どもの年齢】

- ◇ 全体では、過半数が「3 歳」と回答している。
- ◇ 「3 歳未満の親」では、「1 歳以下」と回答した割合が 30.0%である。



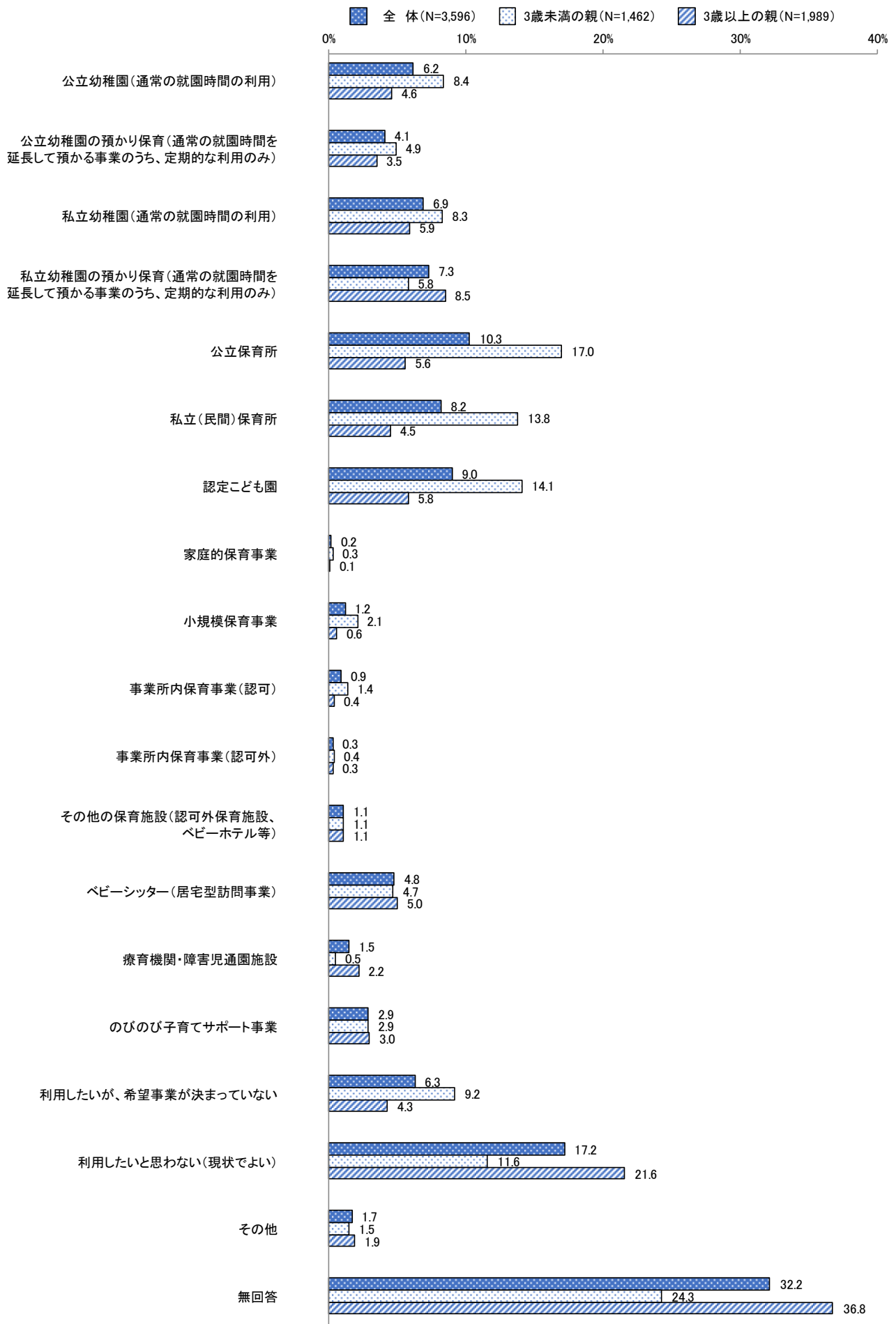
【前回調査との数値比較】

	利用しようとする子どもの年齢		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
1 歳以下	8.7	24.7	16.0
2 歳	7.7	13.9	6.2
3 歳	67.5	55.0	▲12.5
4 歳	8.3	4.4	▲ 3.9
5 歳	0.2	0.2	0
6 歳以上	0.2	0.2	0

今後の教育・保育事業の利用希望について 【就学前 問 40】

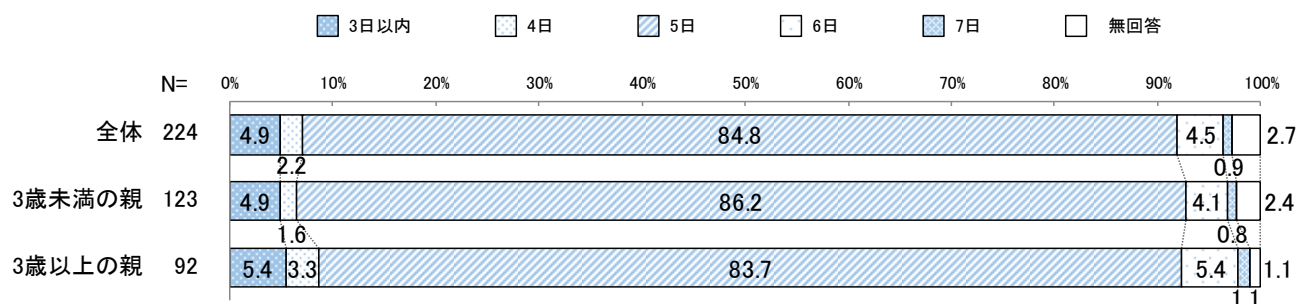
■あて名のお子さんに関して、今後利用したい、またはもっと多く利用したいと思う教育・保育の事業は何ですか。（2つまで）

- ◇ 全体では、「利用したいと思わない（現状でよい）」が 17.2%と最も多く、次いで「公立保育所」が 10.3%、「認定こども園」が 9.0%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」では、「公立保育所」の割合が 17.0%と最も高くなっている。

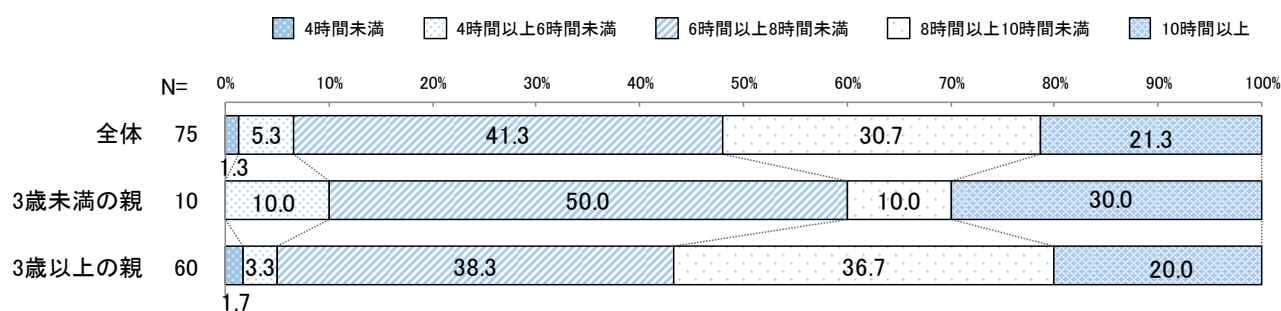


1. 公立幼稚園（通常の就園時間の利用）

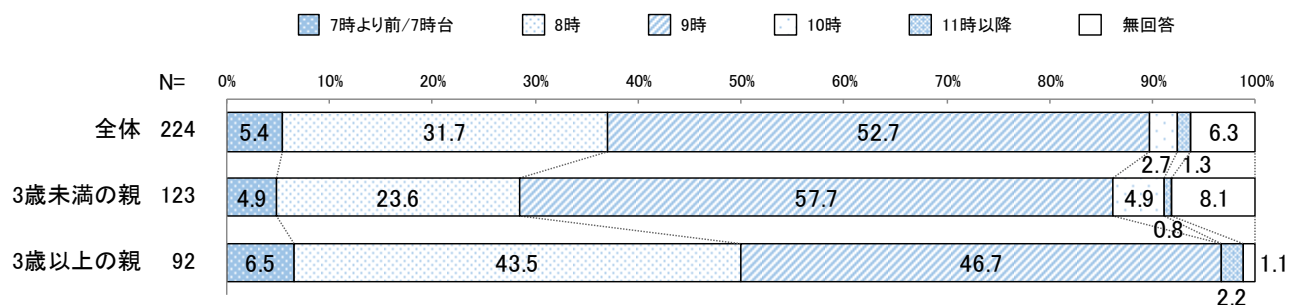
【1週間あたりの利用希望日数】



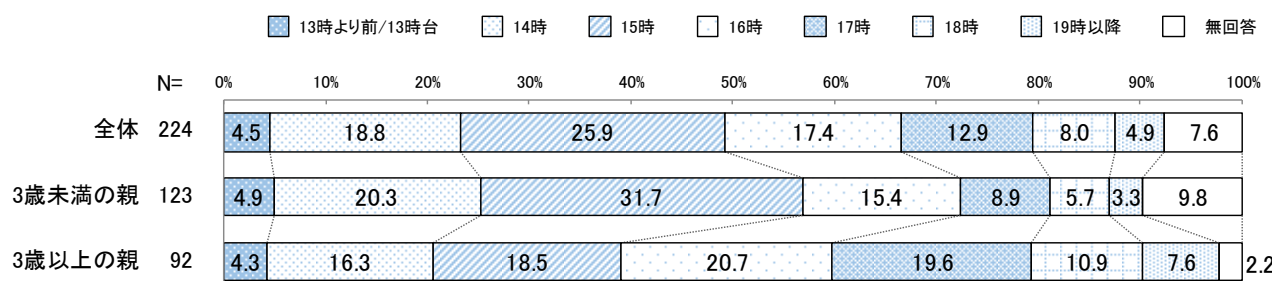
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

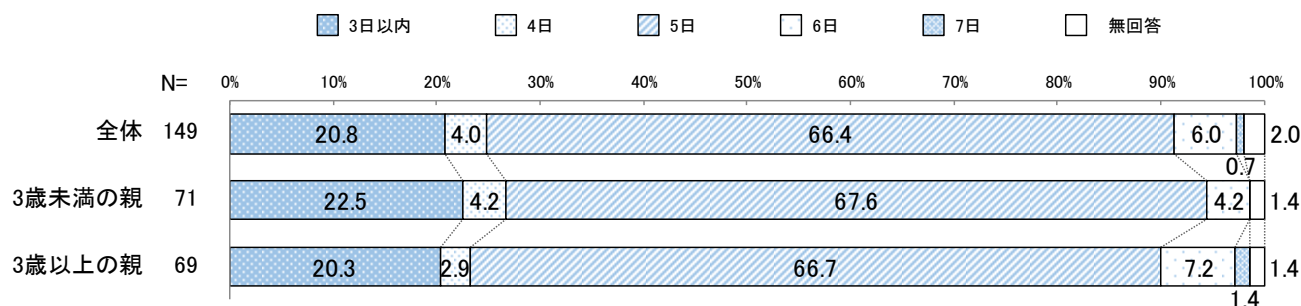


<終了時間>

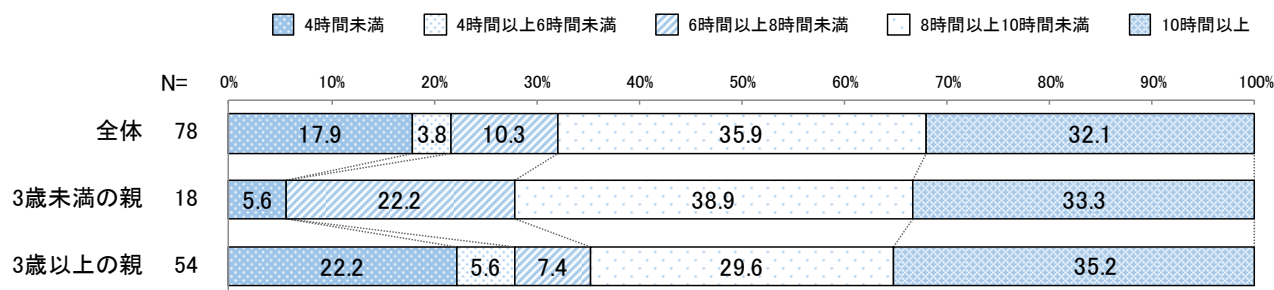


2. 公立幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、定期的な利用のみ）

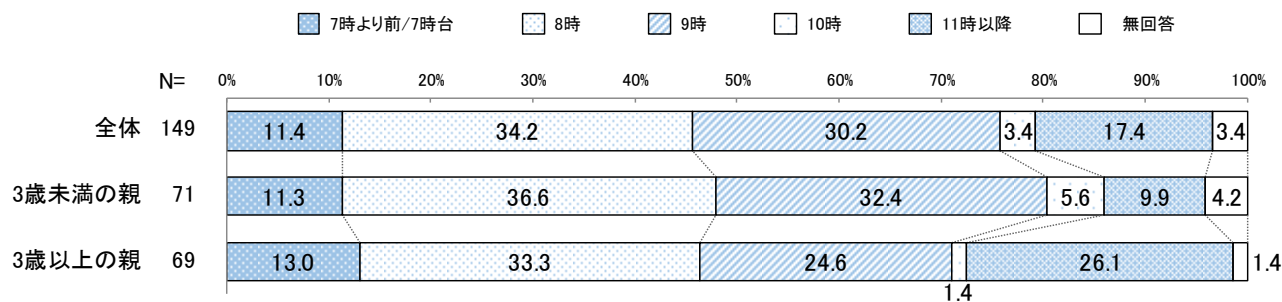
【1週間あたりの利用希望日数】



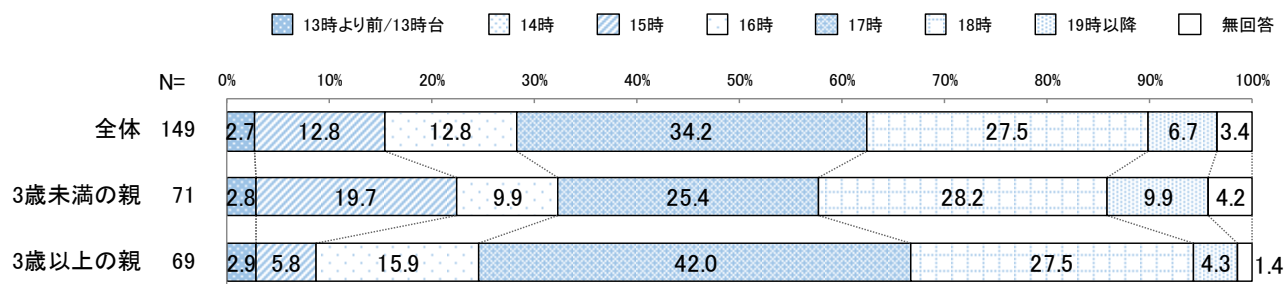
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

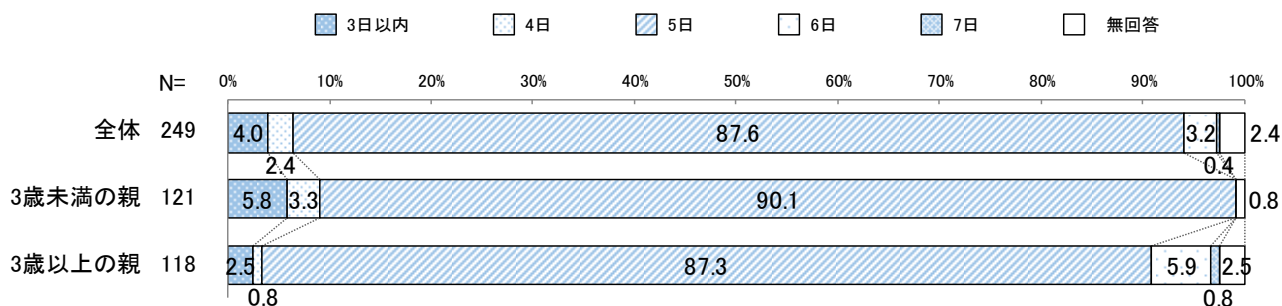


<終了時間>

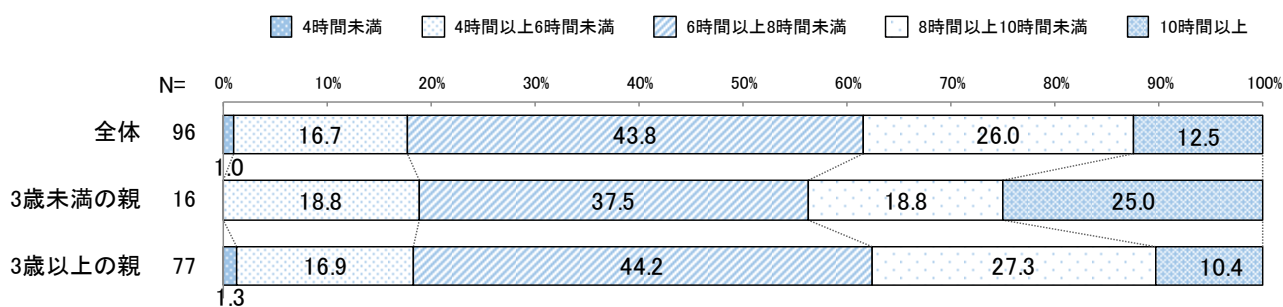


3. 私立幼稚園（通常の就園時間の利用）

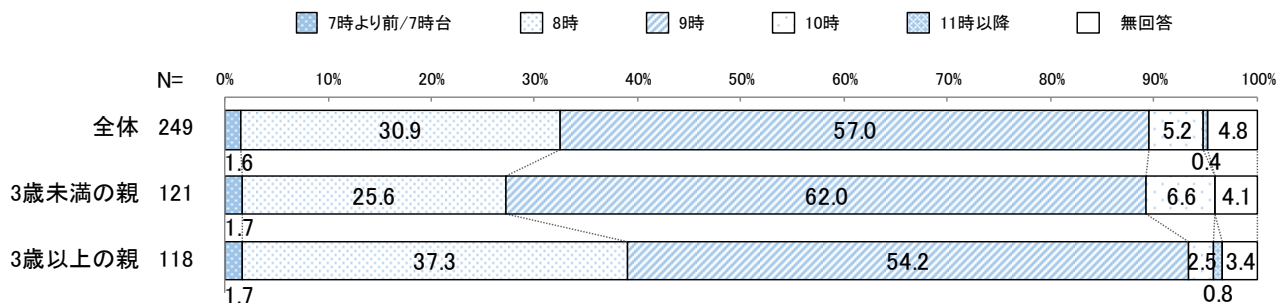
【1週間あたりの利用希望日数】



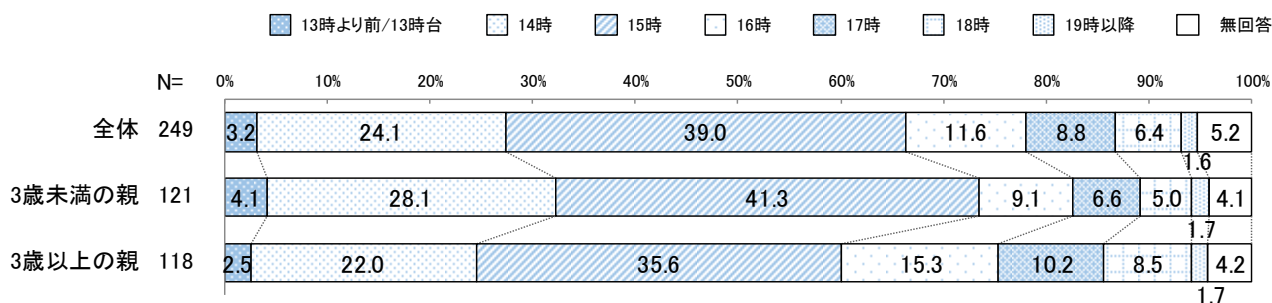
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

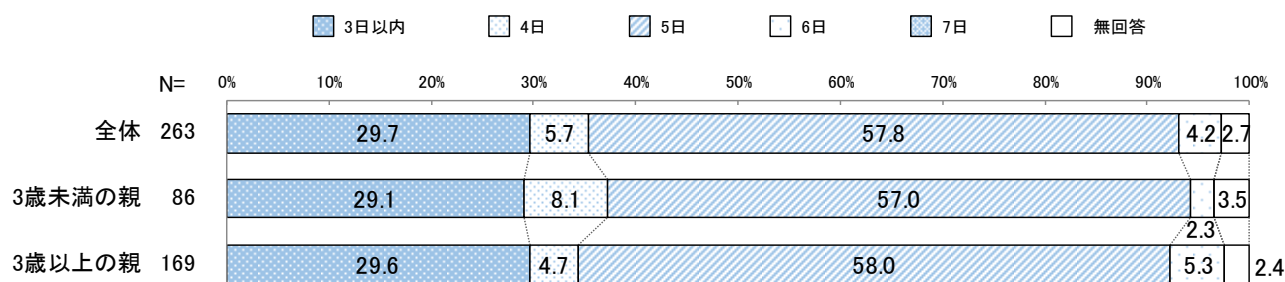


<終了時間>

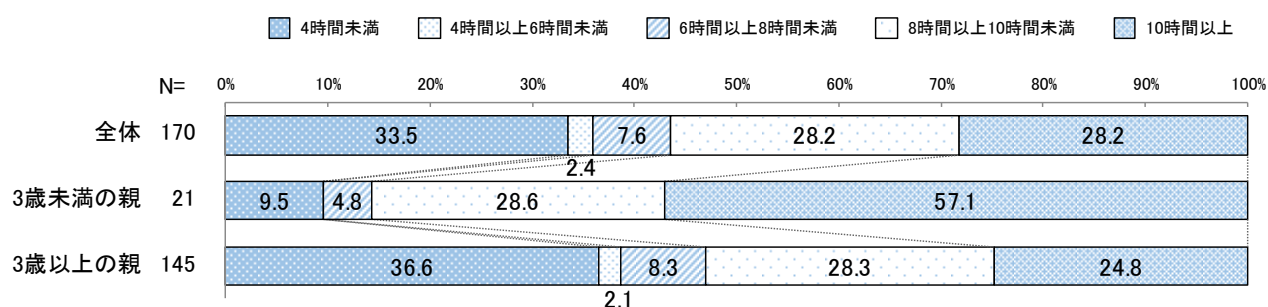


4. 私立幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、定期的な利用のみ）

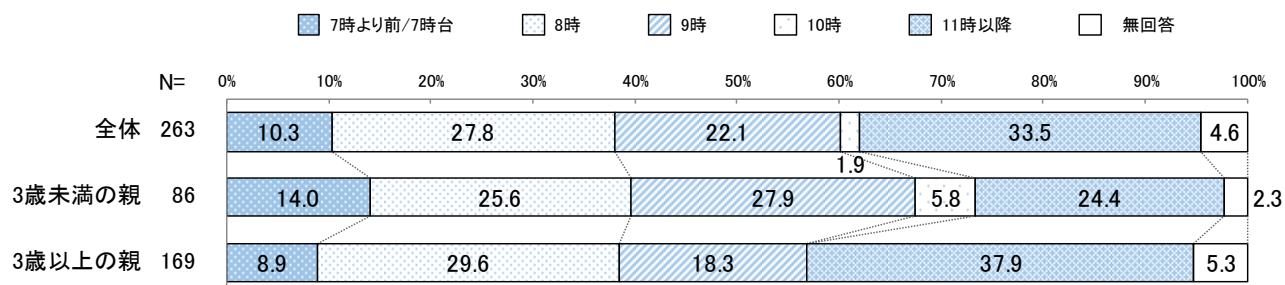
【1週間あたりの利用希望日数】



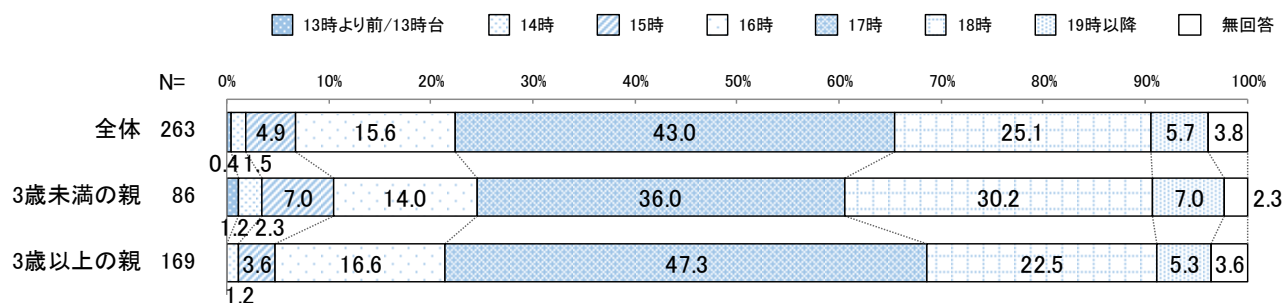
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

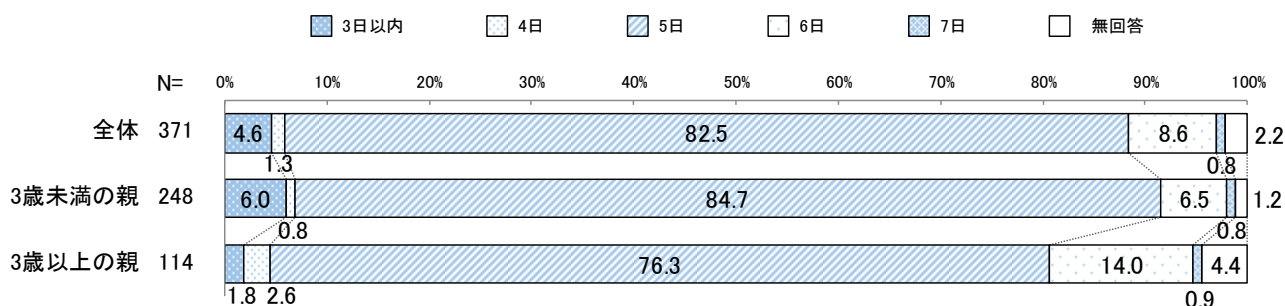


<終了時間>

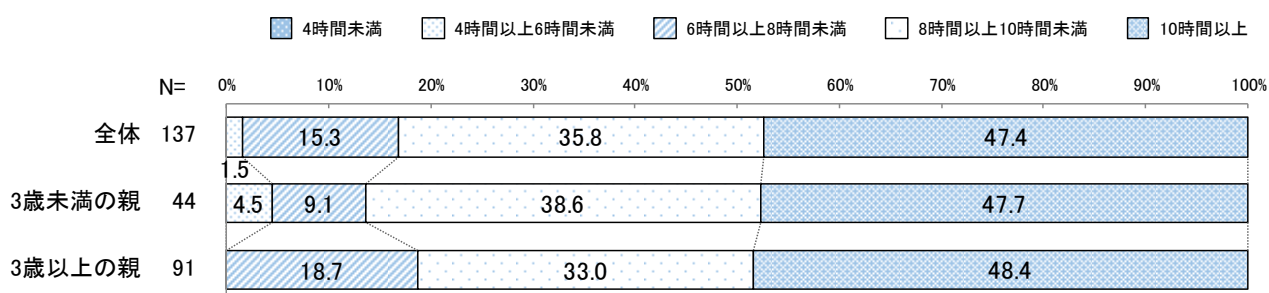


5. 公立保育所

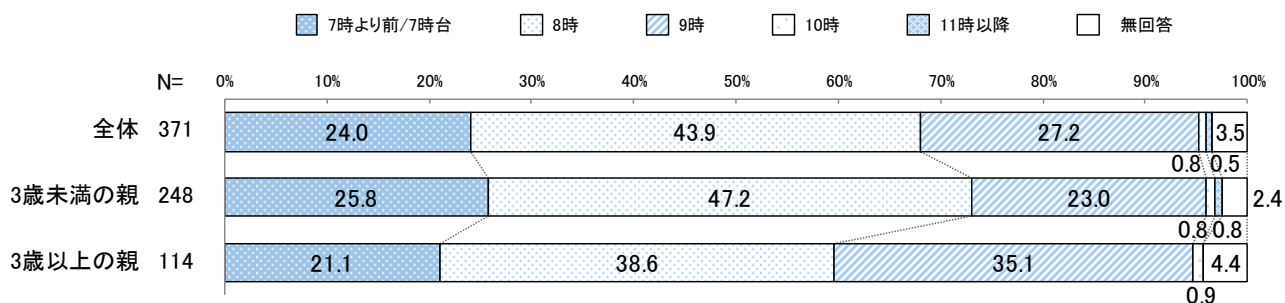
【1週間あたりの利用希望日数】



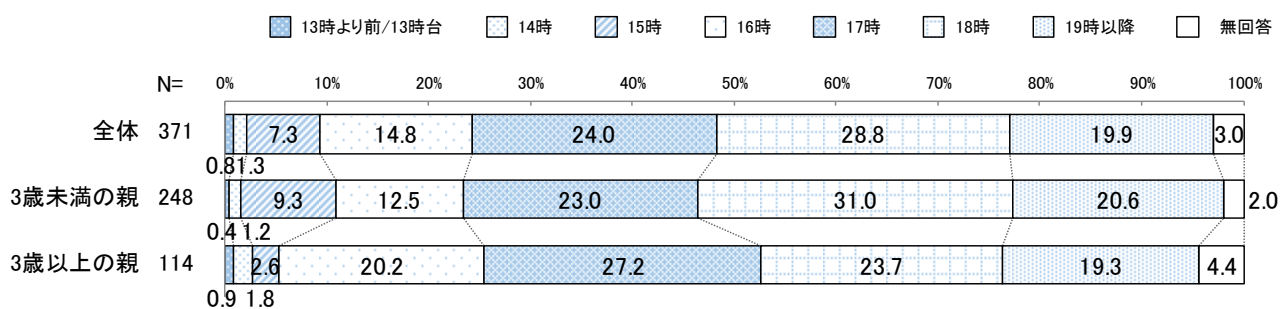
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

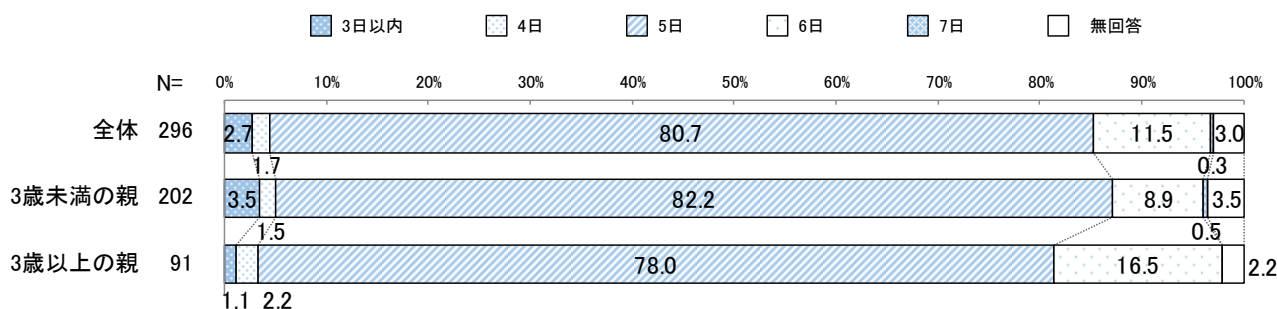


<終了時間>

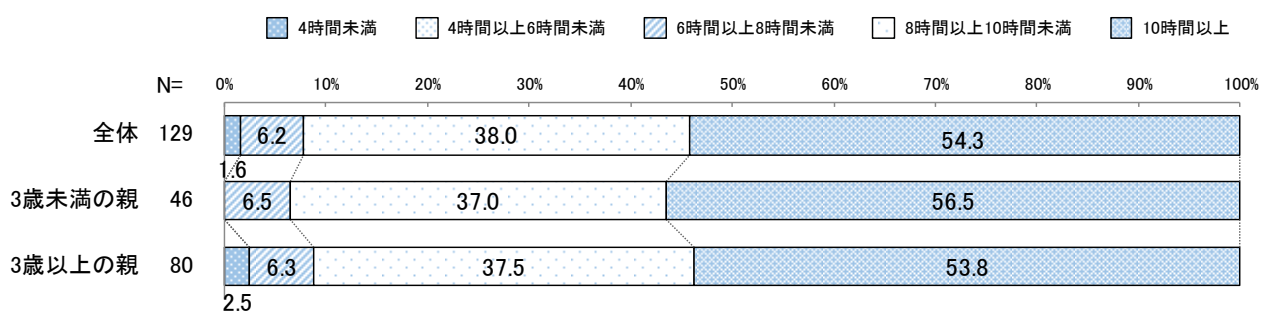


6. 私立（民間）保育所

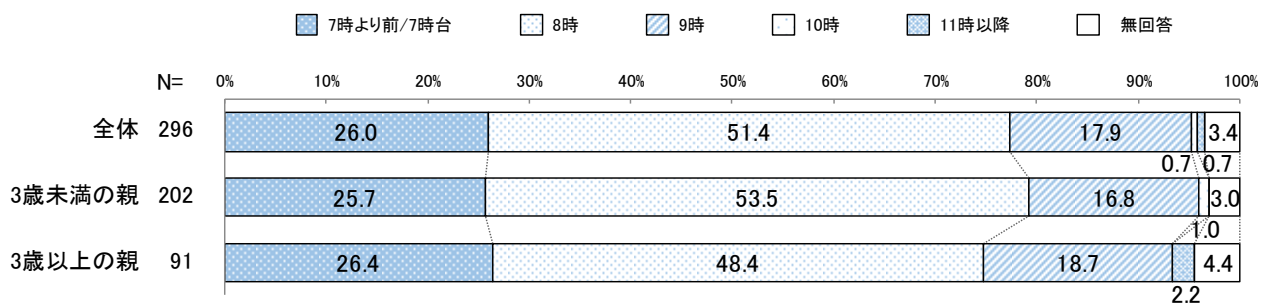
【1週間あたりの利用希望日数】



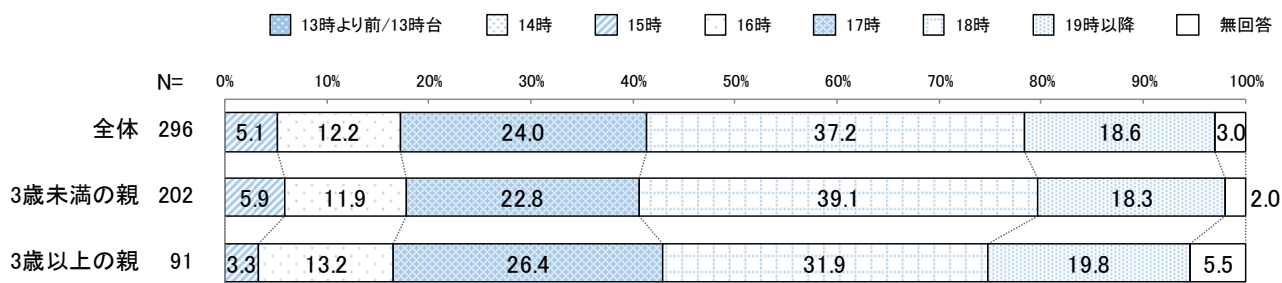
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

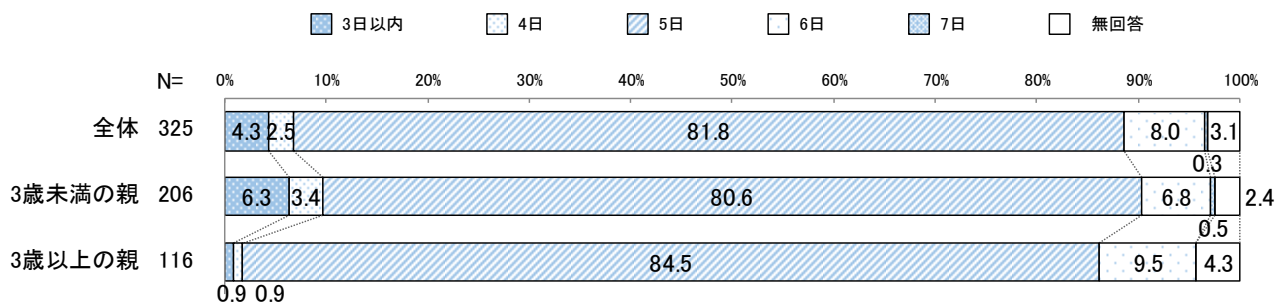


<終了時間>

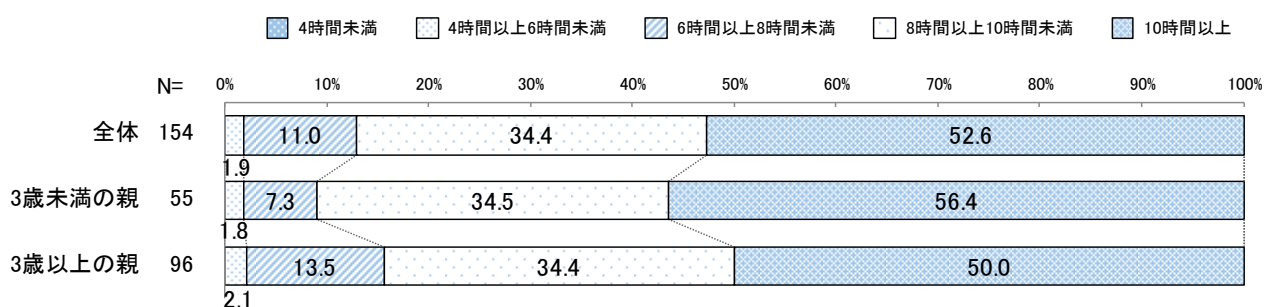


7. 認定こども園

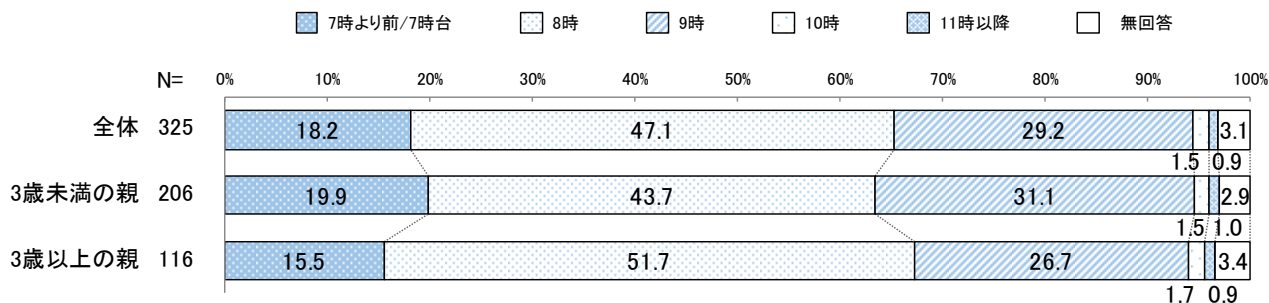
【1週間あたりの利用日数】



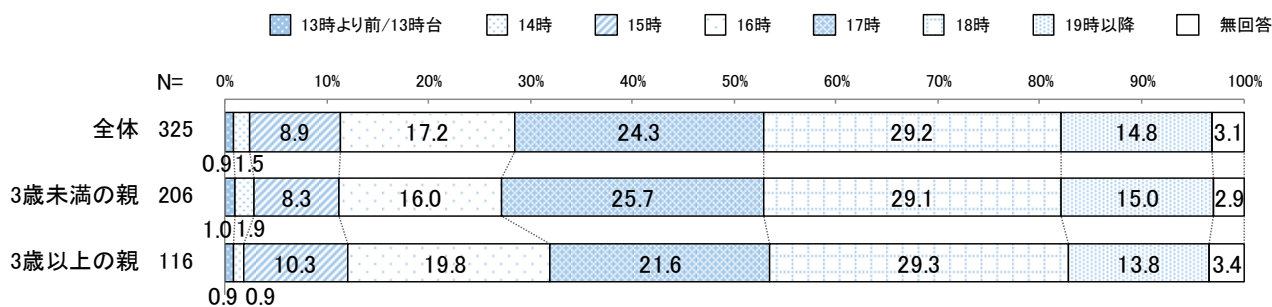
【1日あたりの利用時間】



<開始時間>

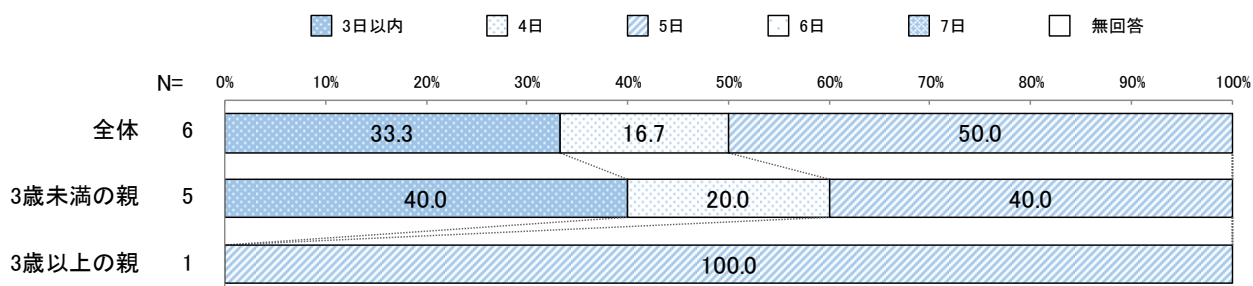


<終了時間>

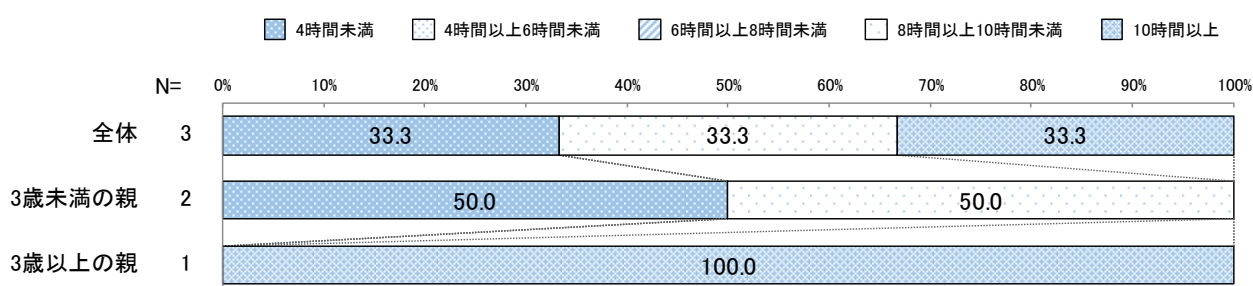


8. 家庭的保育事業

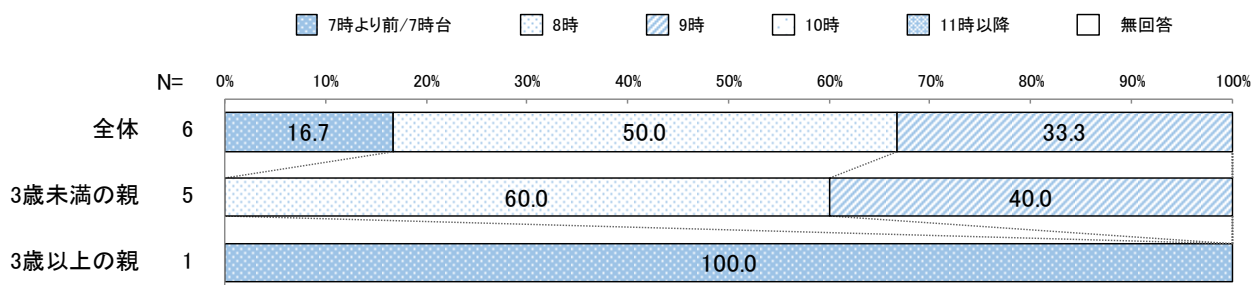
【1週間あたりの利用希望日数】



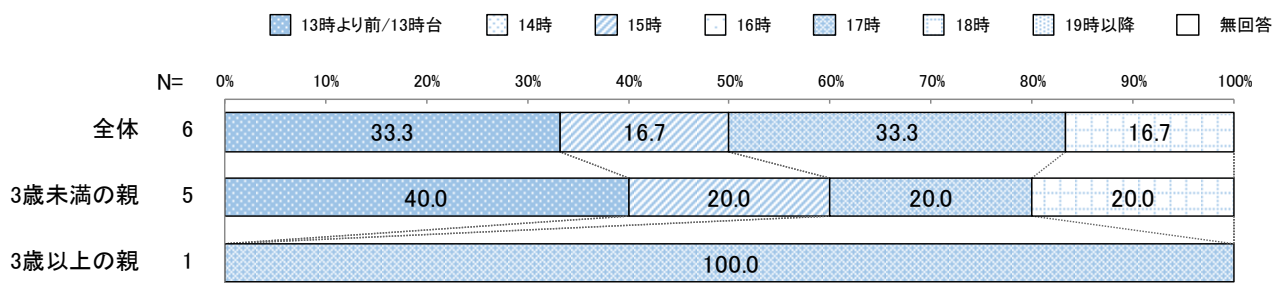
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

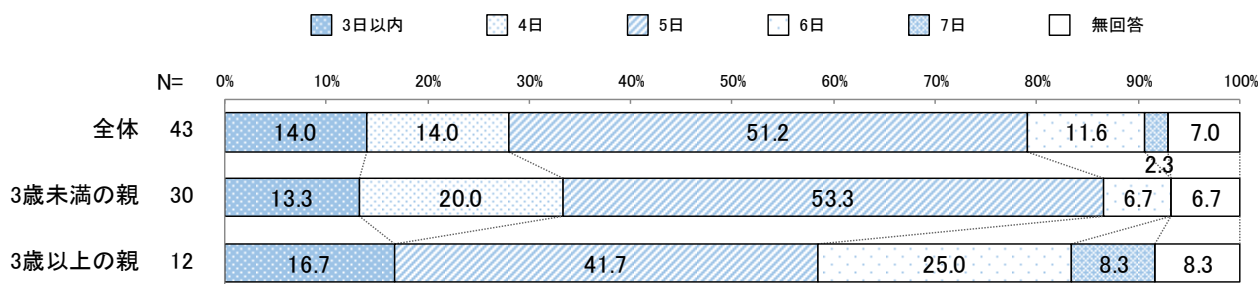


<終了時間>

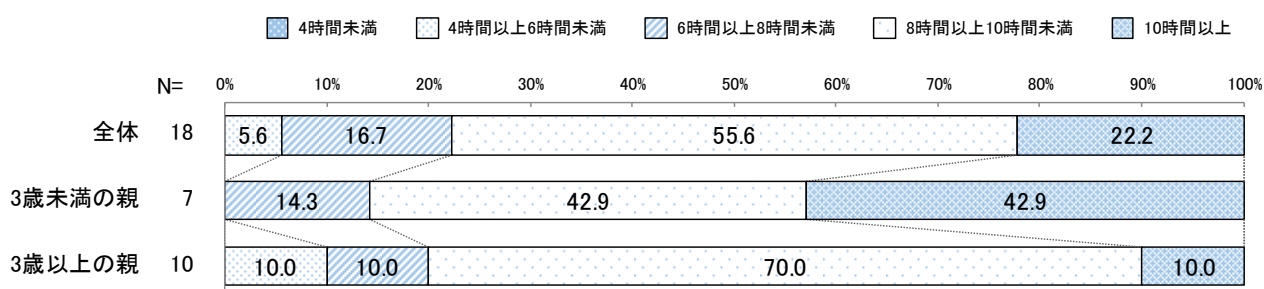


9. 小規模保育事業

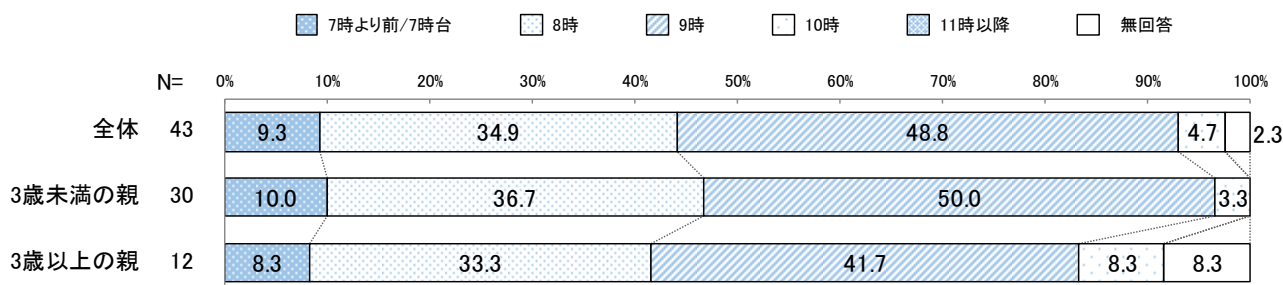
【1週間あたりの利用希望日数】



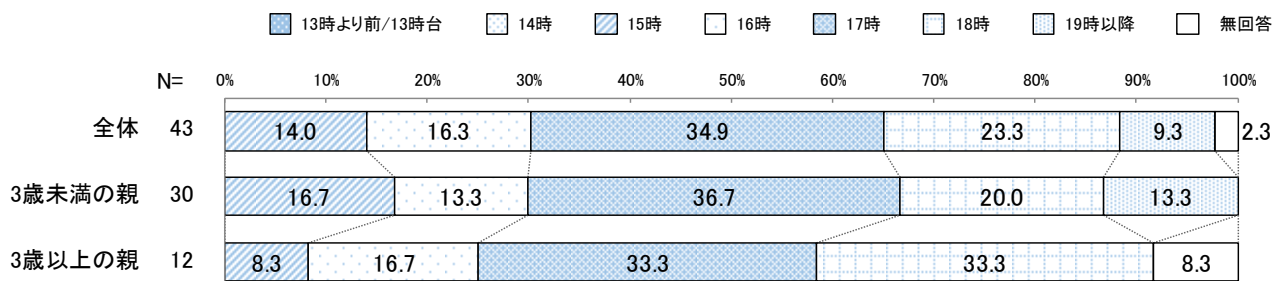
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

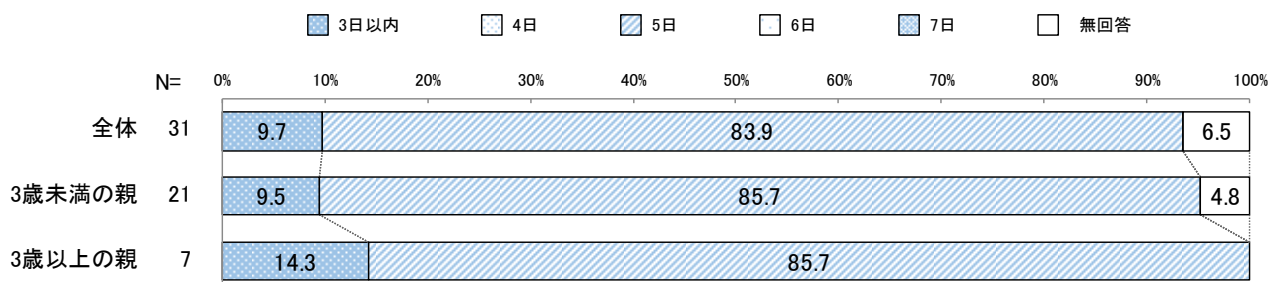


<終了時間>

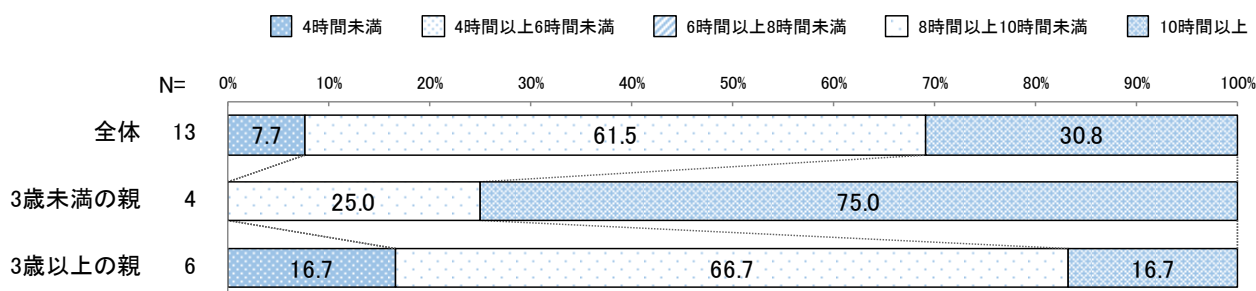


10. 事業所内保育事業（認可）

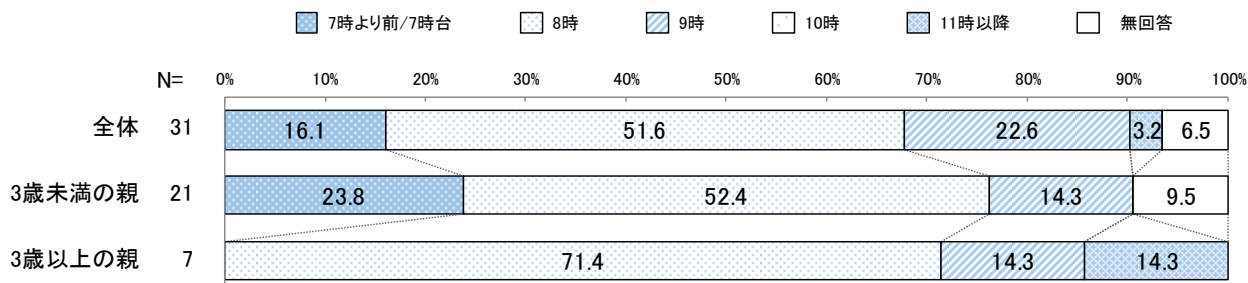
【1週間あたりの利用希望日数】



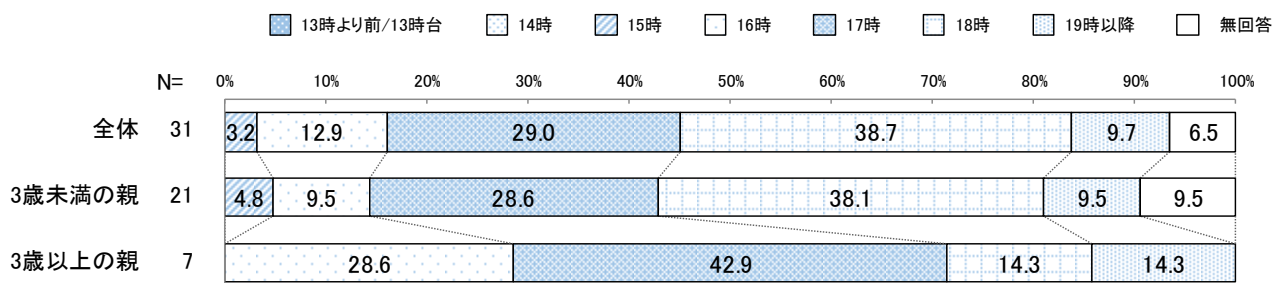
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

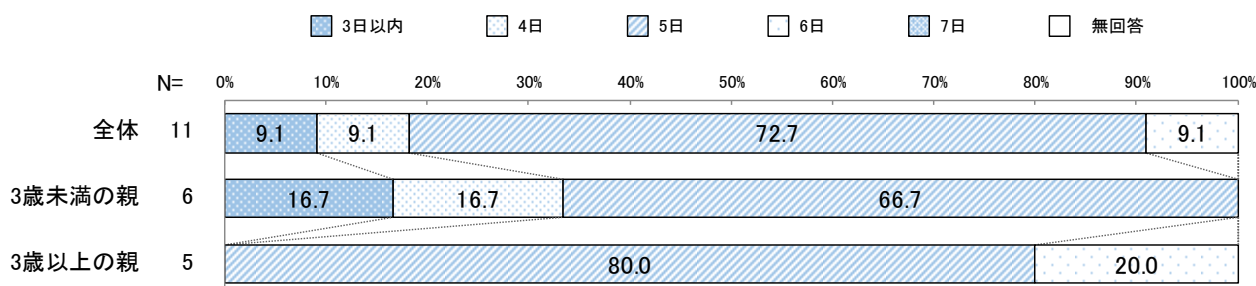


<終了時間>

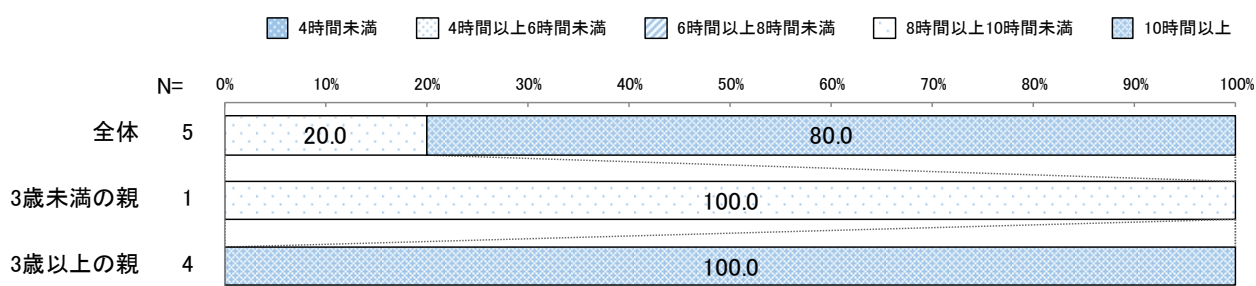


1 1. 事業所内保育事業（認可外）

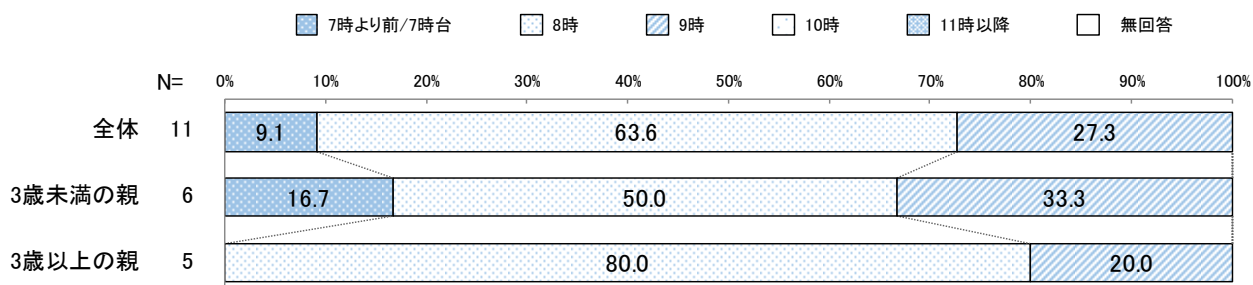
【1週間あたりの利用希望日数】



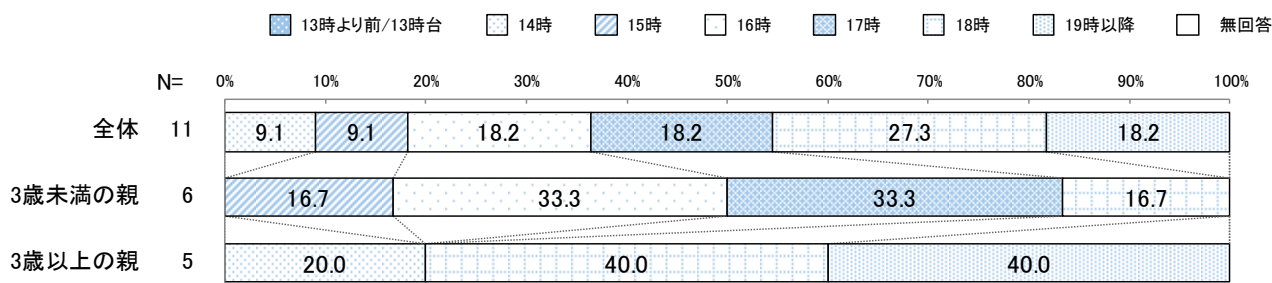
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

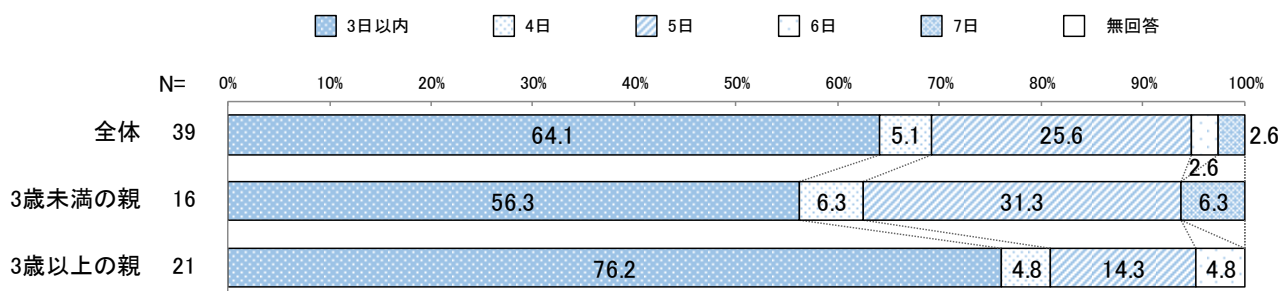


<終了時間>

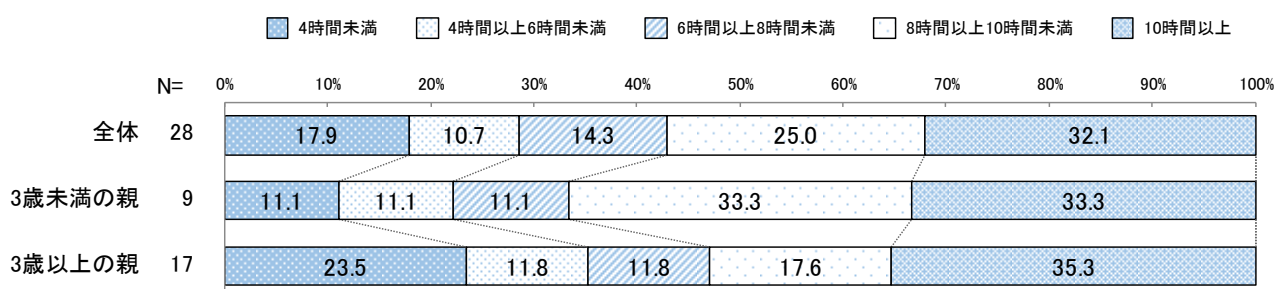


12. その他の保育施設（認可外保育施設、ベビーホテル等）

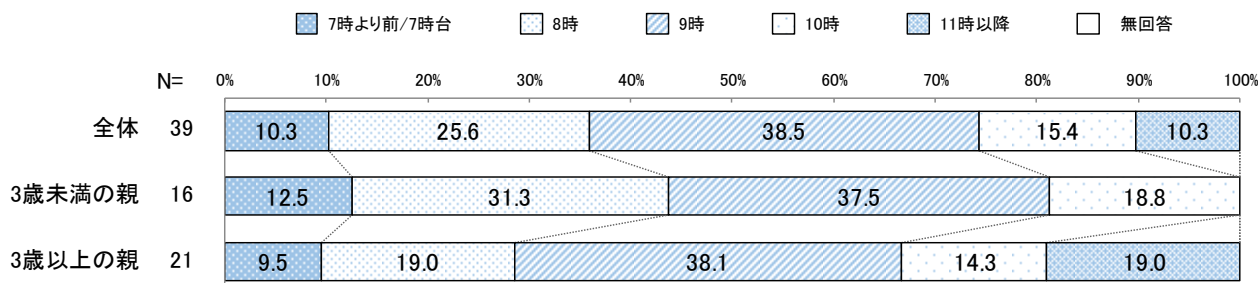
【1週間あたりの利用希望日数】



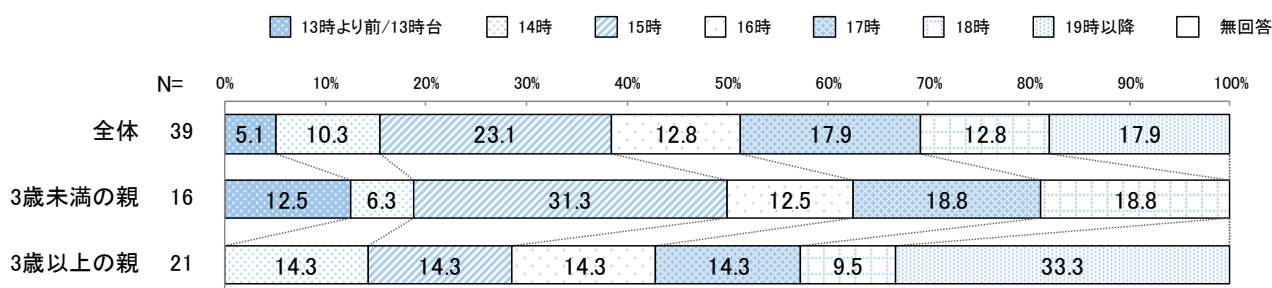
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

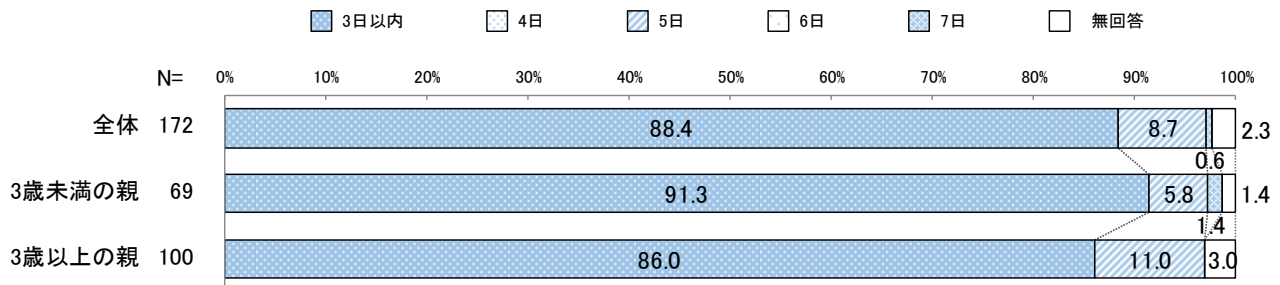


<終了時間>

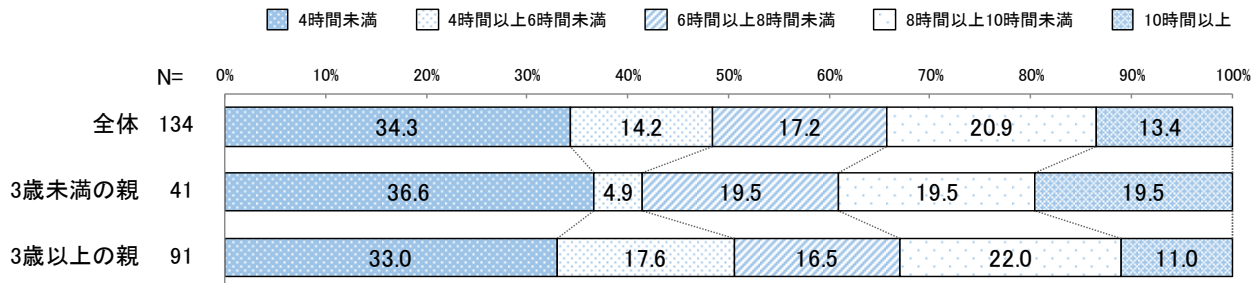


13. ベビーシッター（居宅型訪問事業）

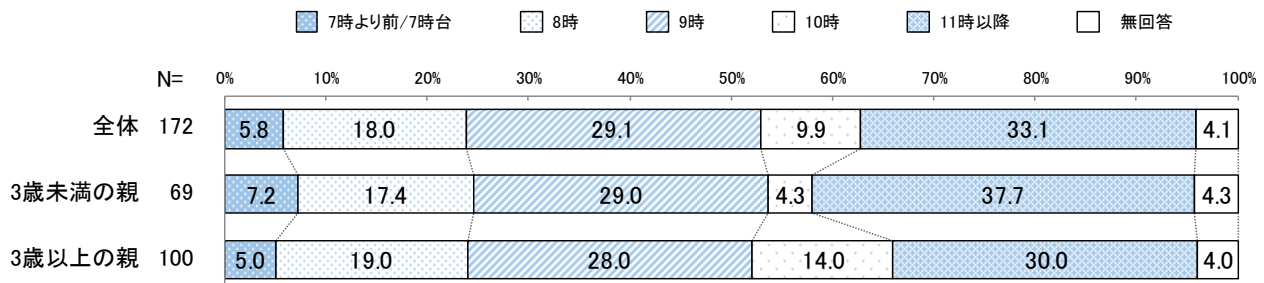
【1週間あたりの利用希望日数】



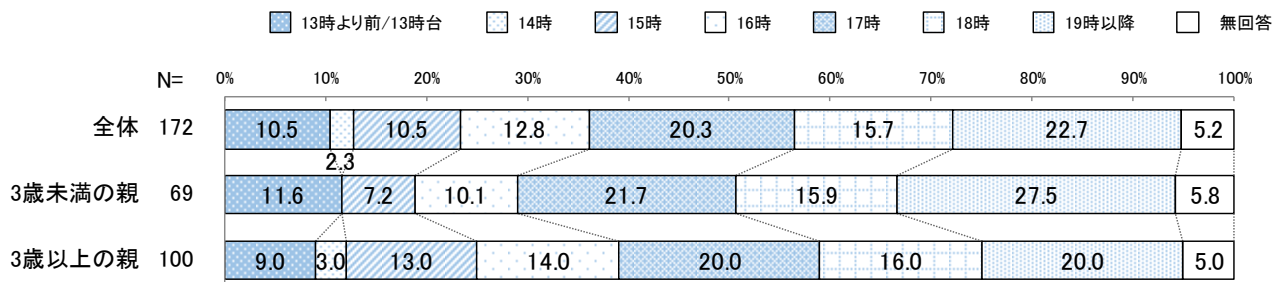
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

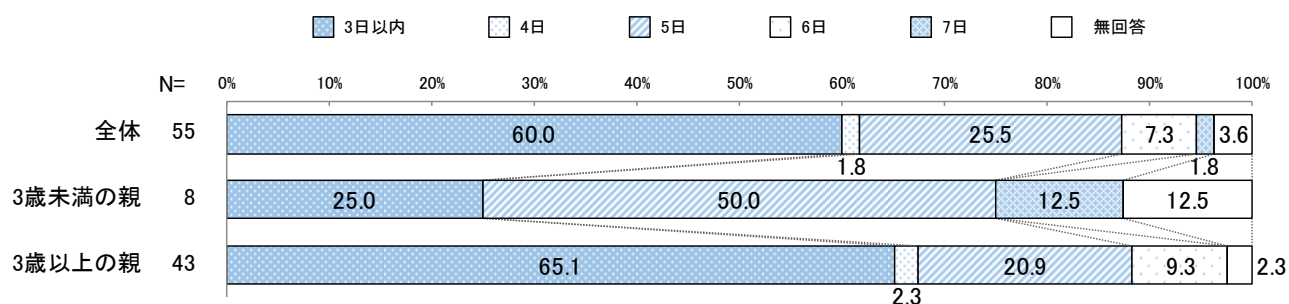


<終了時間>

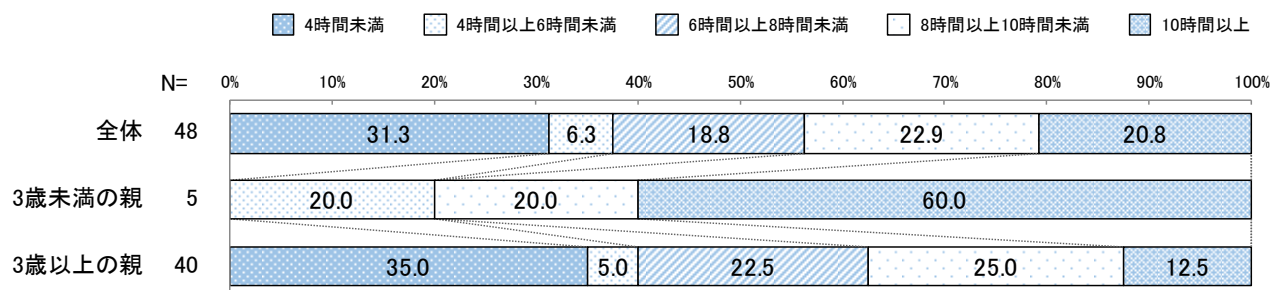


14. 療育機関・障害児通園施設

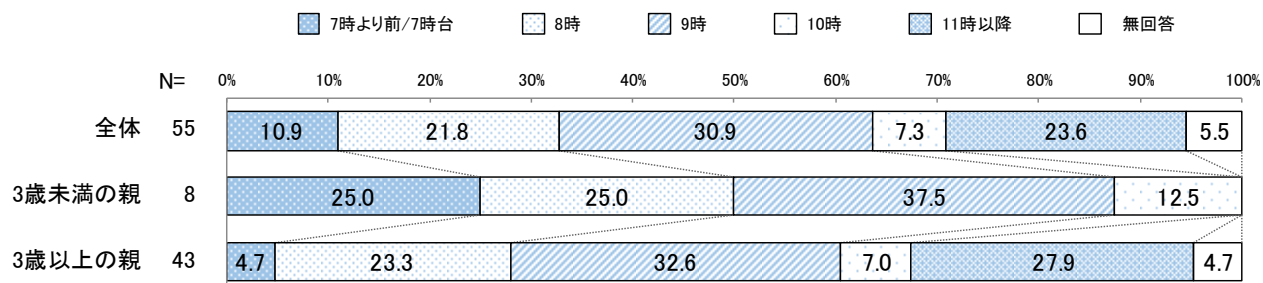
【1週間あたりの利用希望日数】



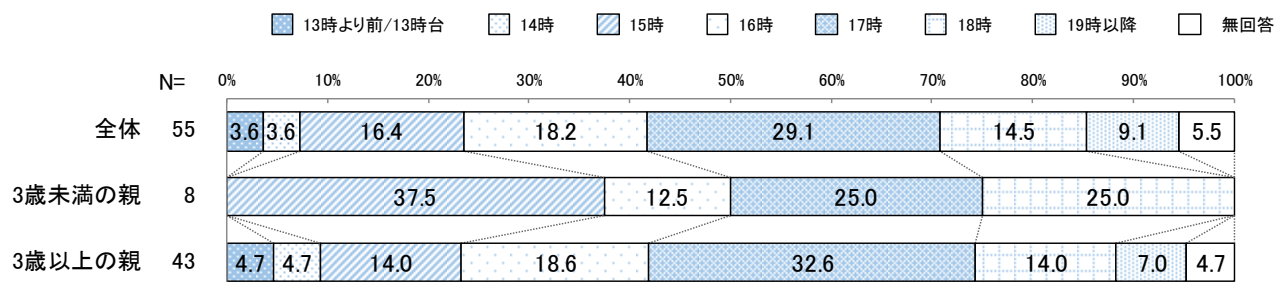
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>

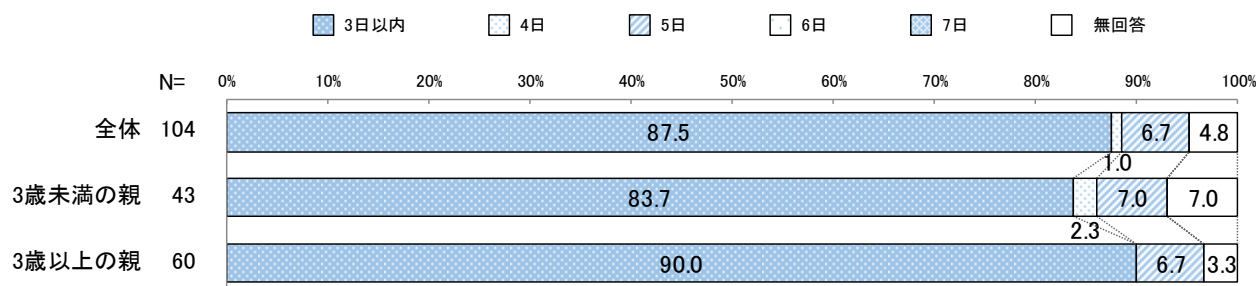


<終了時間>

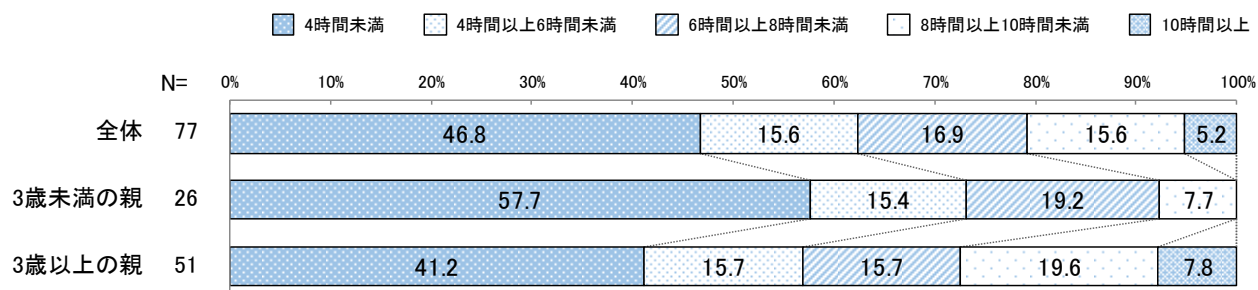


15. のびのび子育てサポート事業

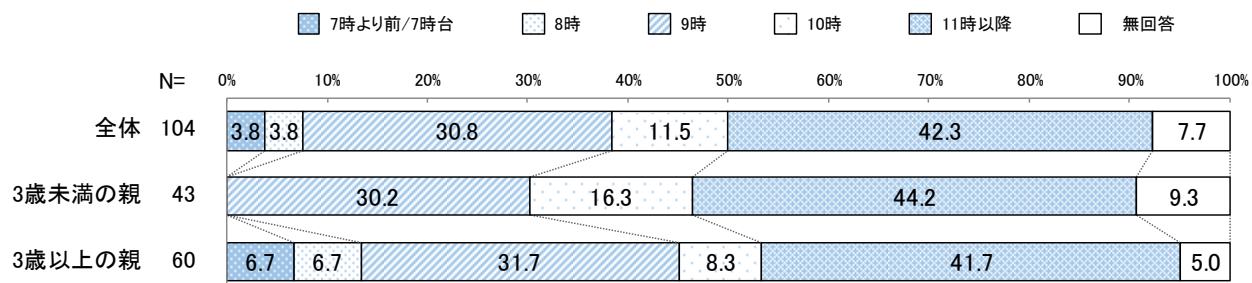
【1週間あたりの利用希望日数】



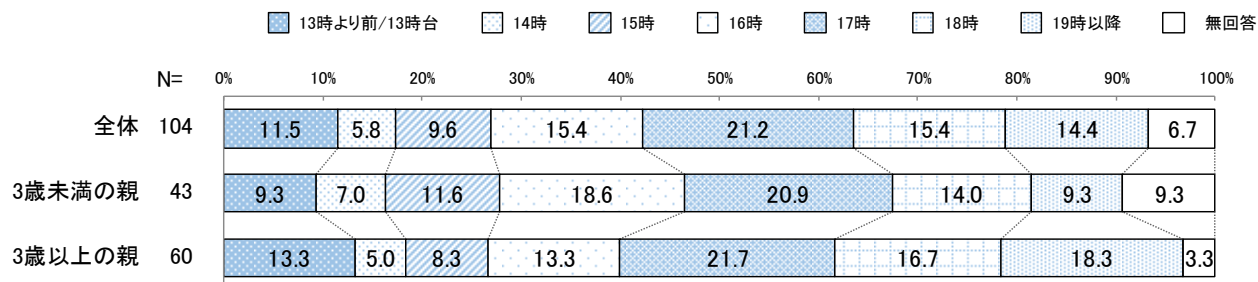
【1日あたりの利用希望時間】



<開始時間>



<終了時間>

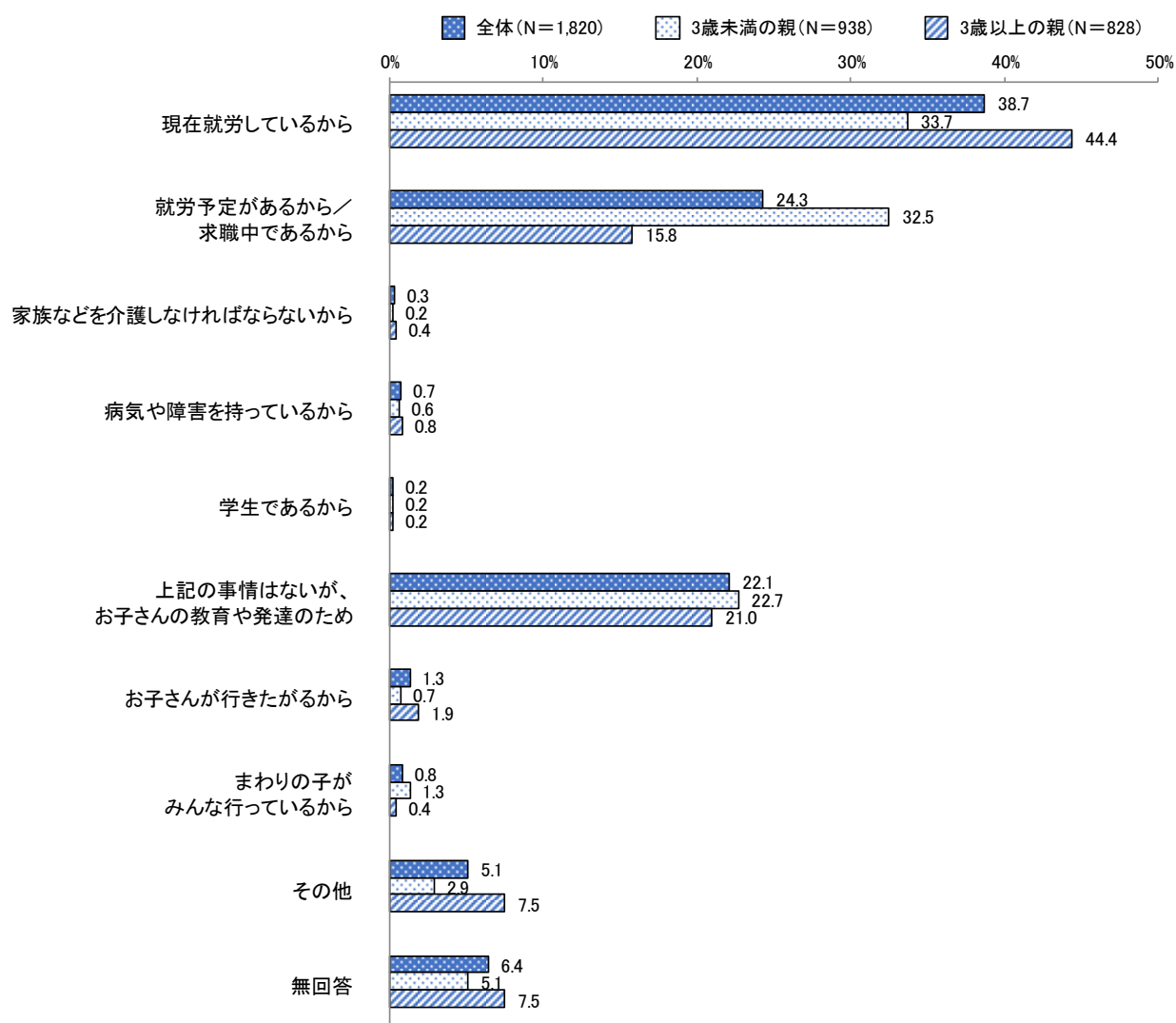


今後の教育・保育事業の利用希望の理由について 【就学前 問 41】

■今後、教育・保育の事業を利用したいと考えている理由は何ですか。（1つ）

◇全体では、「現在就労しているから」が38.7%と最も高い。

◇3歳未満・3歳以上の親ともに、6割以上が就労を理由としている。



【前回調査との数値比較】

	現在就労しているから		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	35.0	38.7	3.7
3歳未満の親	34.6	33.7	▲ 0.9
3歳以上の親	36.1	44.4	8.3

就労予定・求職中のため		
平成 30 年	令和 5 年	変化量
12.0	24.3	12.3
17.4	32.5	15.1
8.1	15.8	7.7

	お子さんの教育や発達のため		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
全 体	27.2	22.1	▲ 5.1
3歳未満の親	30.9	22.7	▲ 8.2
3歳以上の親	24.9	21.0	▲ 3.9

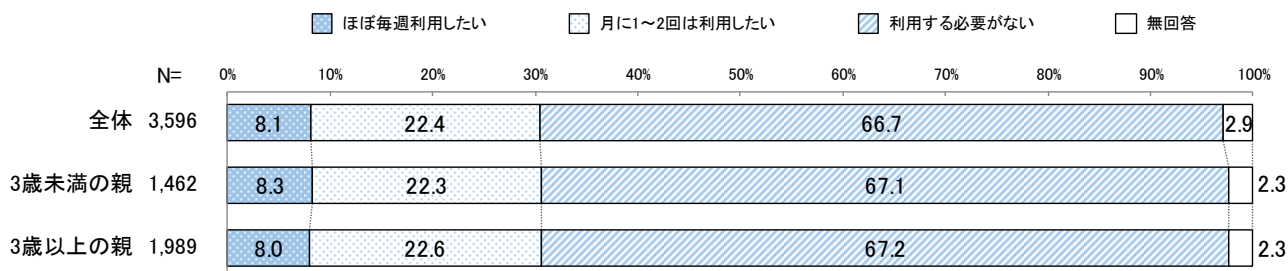
休日の教育・保育事業の利用希望について 【就学前 問 42】

■土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか。(1つ)

(1) 利用希望頻度

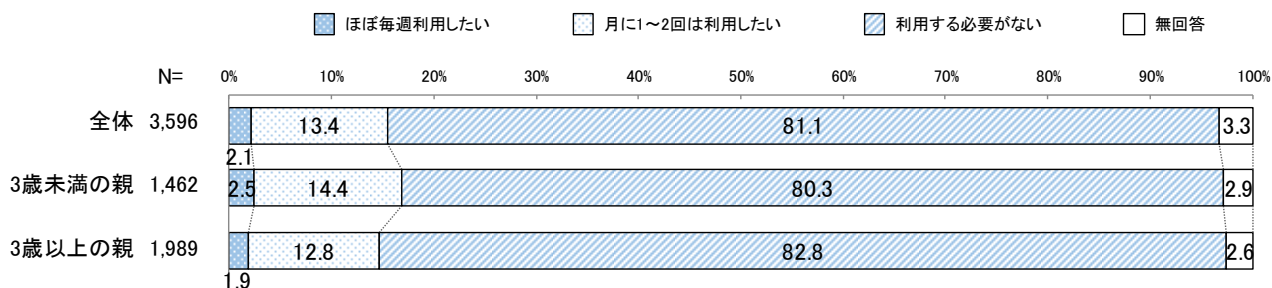
【土曜日】

◇ 全体では、「利用する必要がない」が 66.7%と最も高く、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 22.4%、「ほぼ毎週利用したい」が 8.1%となっている。



【日曜日・祝日】

◇ 全体では、「利用する必要がない」が 81.1%と最も高く、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 13.4%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.1%となっている。

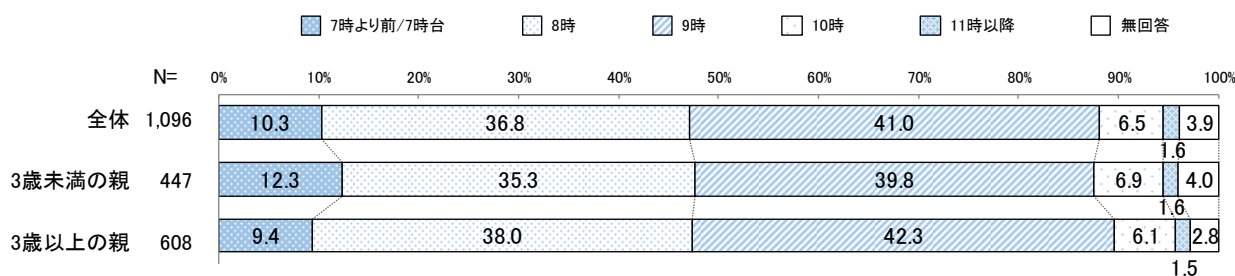


(2) 利用希望時間

【土曜日】

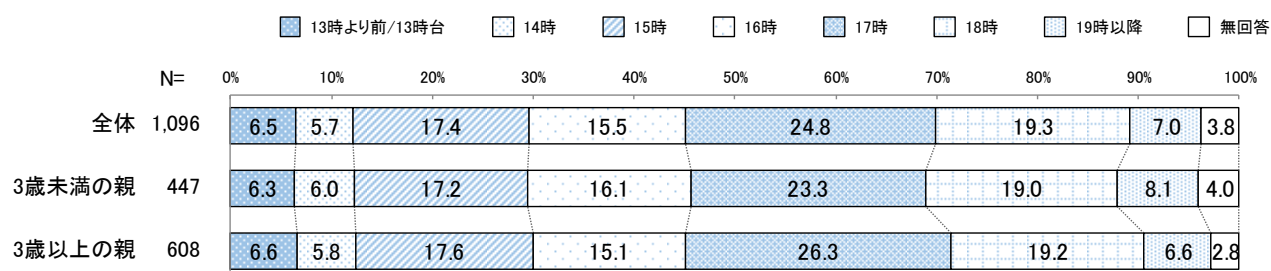
<開始時間>

◇ 全体では、「9 時」が 41.0%と最も高く、次いで「8 時」が 36.8%となっている。



<終了時間>

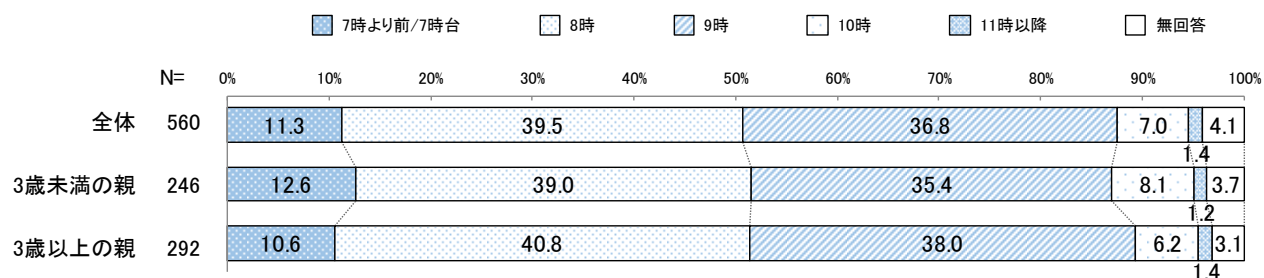
◇ 全体では、「17 時」が 24.8%と最も高く、次いで「18 時」が 19.3%、「15 時」が 17.4%となっている。



【日曜日・祝日】

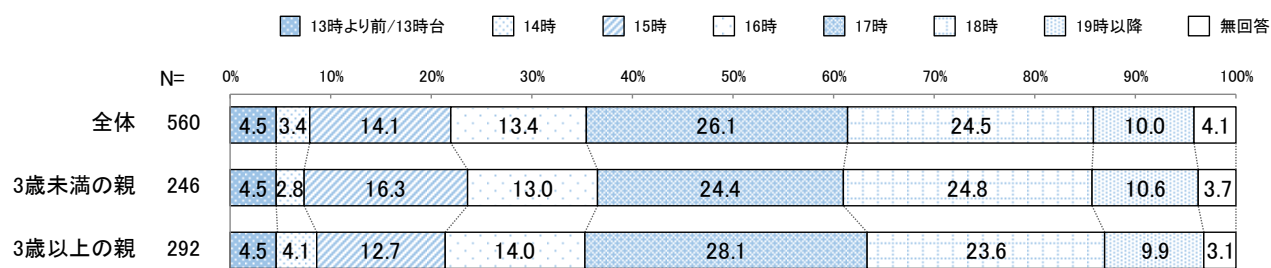
<開始時間>

◇ 全体では、「8 時」からが 39.5%と最も高く、次いで「9 時」からが 36.8%となっている。



<終了時間>

◇ 全体では、「17 時」が 26.1%と最も高く、次いで「18 時」までが 24.5%となっている。

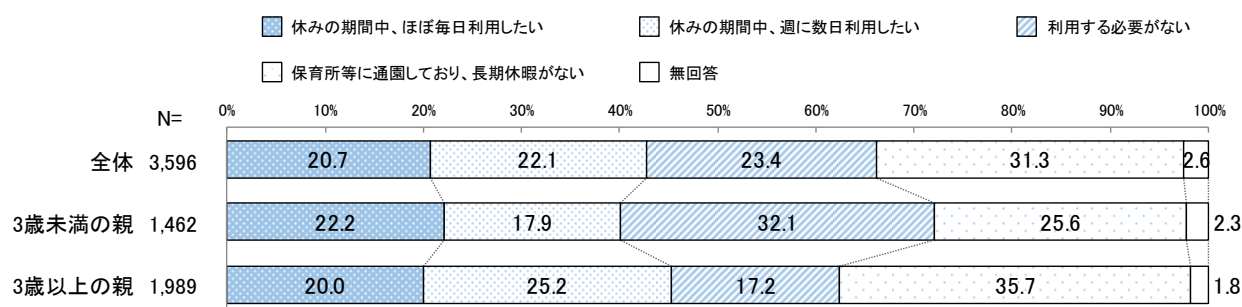


長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望について 【就学前 問 43】

■夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の、教育・保育の事業の利用希望はありますか。(1つ)

【利用希望頻度】

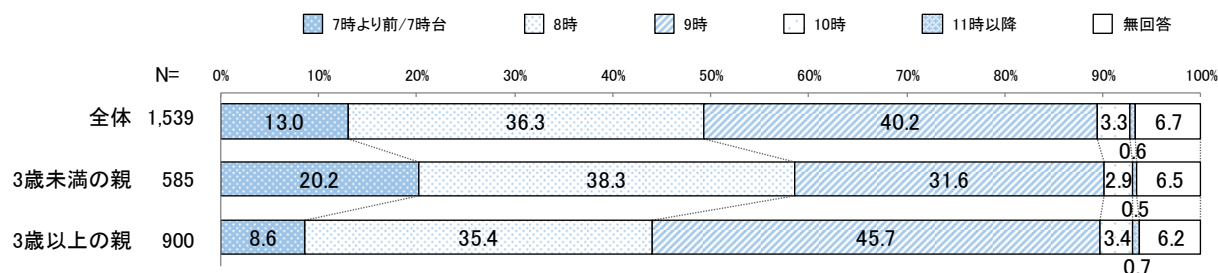
- ◇ 全体では、「保育所等に通園しており、長期休暇がない」が31.3%と最も高く、次いで「利用する必要がある」が23.4%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が22.1%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が20.7%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」では、「利用する必要がある」と回答した割合が32.1%と最も高い。



【利用希望時間】

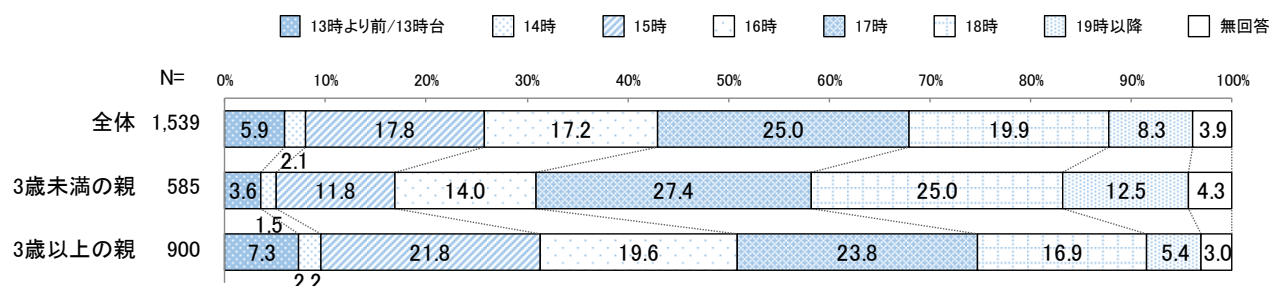
<開始時間>

- ◇ 全体では、「9時」が40.2%と最も高く、次いで「8時」が36.3%である。
- ◇ 「7時より前/7時台」の割合を見ると、「3歳以上の親」よりも「3歳未満の親」の方が11.6ポイント高い。



<終了時間>

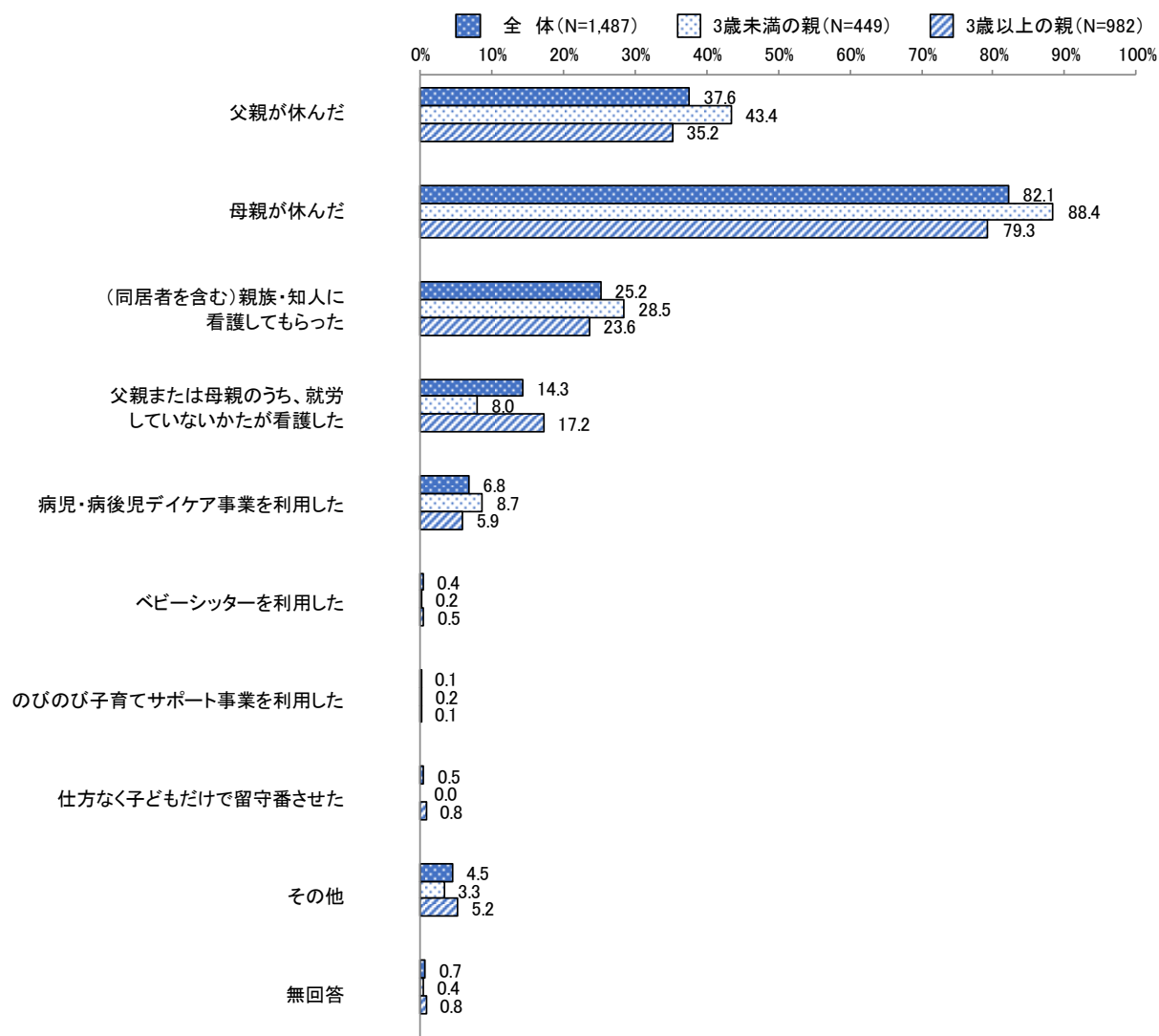
- ◇ 全体では「17時」が25.0%、「18時」が19.9%、「15時」が17.8%である。
- ◇ 17時以降の割合を見ると、「3歳以上の親」よりも「3歳未満の親」の方がいずれも高くなっている。



教育・保育の事業が利用できなかった場合の対応について 【就学前 問 45】

■教育・保育の事業を利用しようとして、できなかった場合に、どのように対応しましたか。(複数回答)

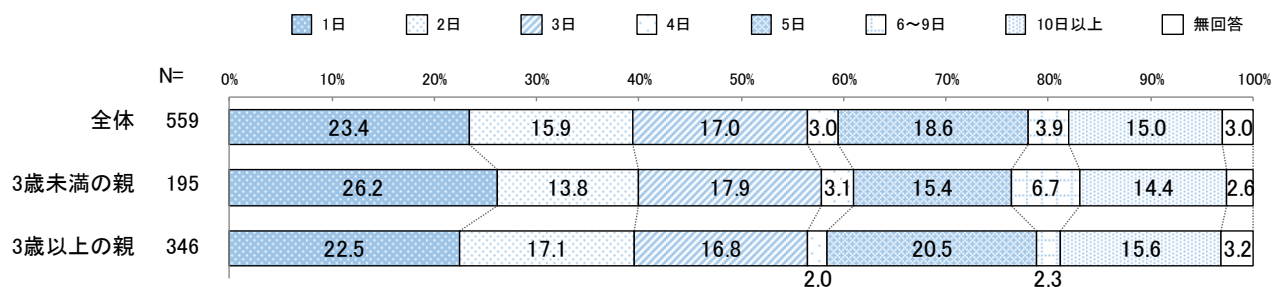
- ◇ 全体では、「母親が休んだ」が 82.1%、「父親が休んだ」が 37.6%、「(同居者を含む) 親族・知人に看護してもらった」が 25.2%となっている。
- ◇ 「病児・病後児デイケア事業を利用した」の割合は、「3 歳未満の親」が 8.7%、「3 歳以上の親」が 5.9%となっている。



【休んだ日数（年間）】

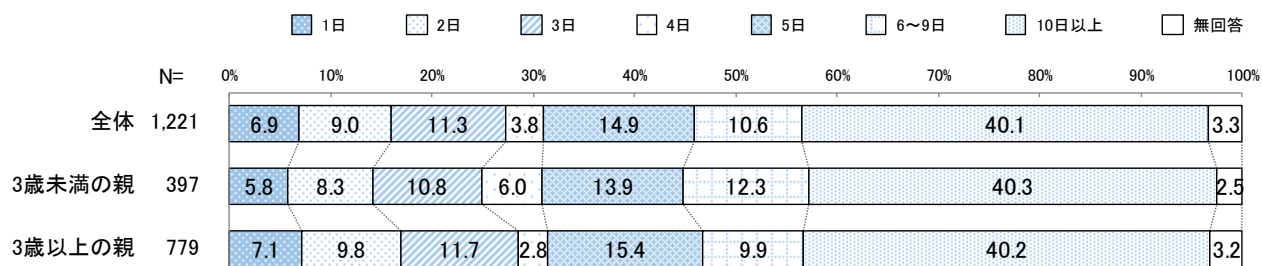
1. 父親が休んだ

- ◇ 全体では、「1日」が23.4%と最も高く、次いで「5日」が18.6%、「3日」が17.0%、「2日」が15.9%となっている。
- ◇ 「10日以上」休んだ割合は、3歳未満・3歳以上の父親ともに、1割以上となっている。



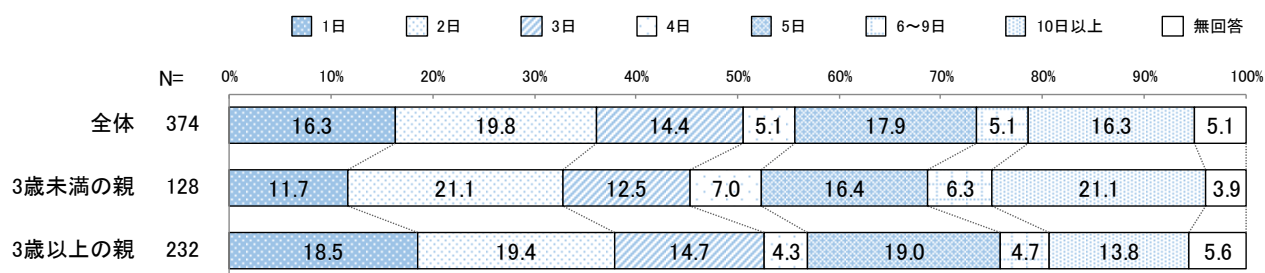
2. 母親が休んだ

- ◇ 全体では、「10日以上」が40.1%と最も高く、次いで「5日」が14.9%、「3日」が11.3%、「6~9日」が10.6%となっている。
- ◇ 「10日以上」と答えた割合は、3歳未満・3歳以上の母親ともに、約4割を占めている。



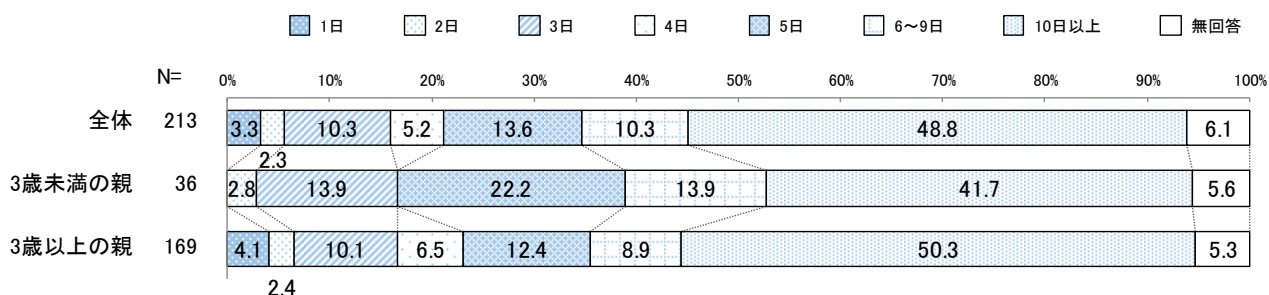
3. 親族・知人に看護してもらった（同居者を含む）

- ◇ 全体では、「2日」が19.8%と最も高く、次いで「5日」が17.9%となっている。
- ◇ 「10日以上」と答えた割合は、「3歳以上の親」よりも「3歳未満の親」の方が7.3ポイント上回っている。



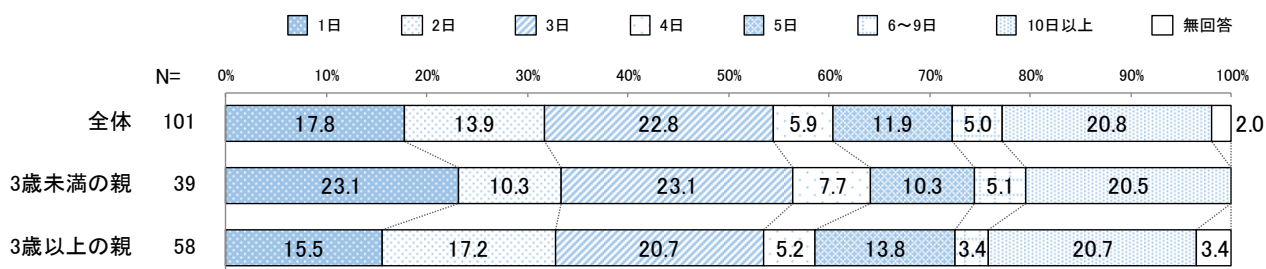
4. 父親または母親のうち、就労していないかたが看護した

- ◇ 全体では、「10 日以上」が 48.8%と最も高く、次いで「5 日」が 13.6%、「3 日」が 10.3%となっている。
- ◇ 3 歳未満・3 歳以上の親ともに、「10 日以上」と回答した人が最も多く、4 割以上となっている。

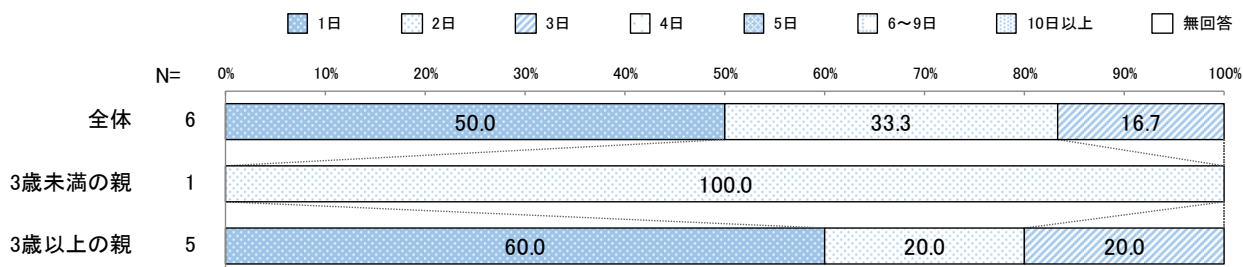


5. 病児・病後児デイケア事業を利用した

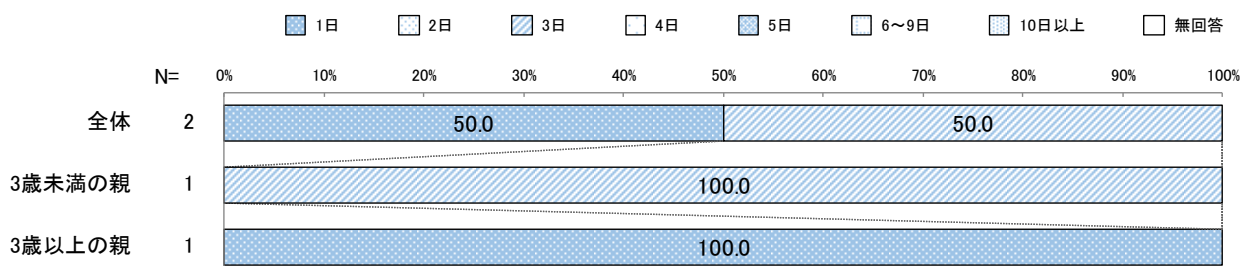
- ◇ 全体では、「3 日」が 22.8%と最も高く、次いで「10 日以上」が 20.8%となっている。
- ◇ 「3 歳未満の親」では、「1 日」と「3 日」が同率（23.1%）で最も高い。また、「3 歳以上の親」では、「3 日」と「10 日以上」が同率（20.7%）で最も高い。



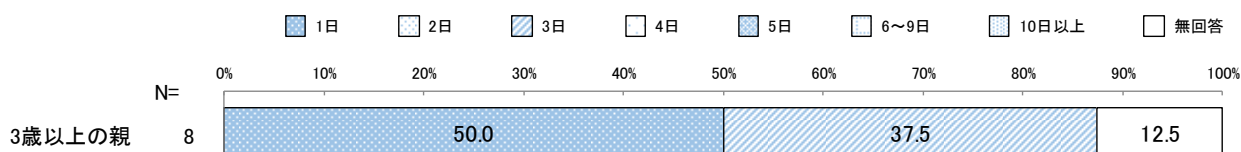
6. ベビーシッターを利用した



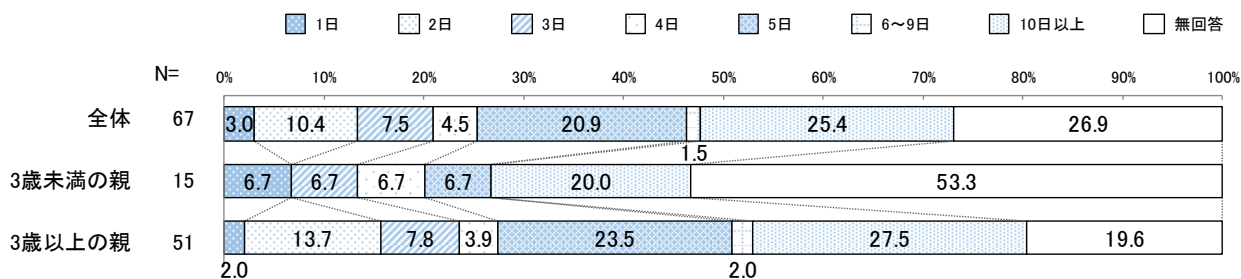
7. のびのび子育てサポート事業を利用した



8. 仕方なく子どもだけで留守番させた



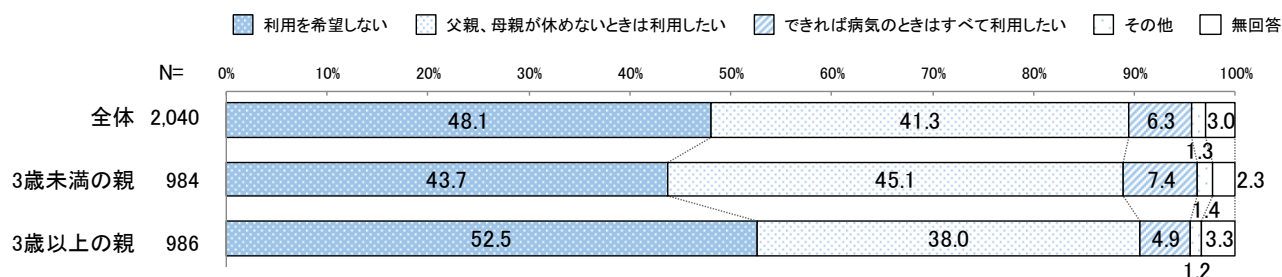
9. その他



病児・病後児保育施設の利用希望について 【就学前 問 46】

■教育・保育の事業を利用しようとして、できないときに「できれば病児・病後児のための保育施設を利用したい」と思いますか。（1つ）

- ◇ 全体では、「利用を希望しない」が48.1%と最も多く、次いで「父親、母親が休めないときは利用したい」が41.3%となっている。
- ◇ 「3歳以上の親」では、「利用を希望しない」の割合が過半数を占めている。



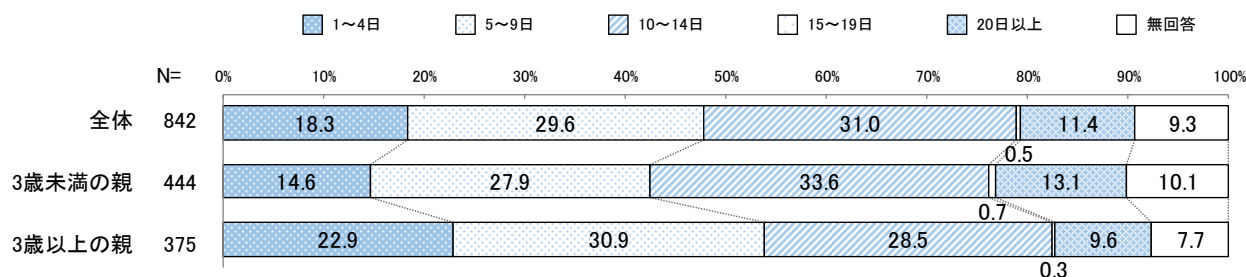
【前回調査との数値比較】

	平成 30 年	令和 5 年	変化量
利用を希望しない	55.4	48.1	▲ 7.3
父親、母親が休めないときは利用したい	33.2	41.3	8.1
できれば病気のときはすべて利用したい	5.2	6.3	1.1

【利用希望日数（年間）】

<父親、母親が休めないときは利用したい>

- ◇ 全体では、「10～14日」が31.0%と最も高く、次いで「5～9日」が29.6%、「1～4日」が18.3%となっている。
- ◇ 「3歳以上の親」では、「5～9日」の割合が30.9%と最も高くなっている。

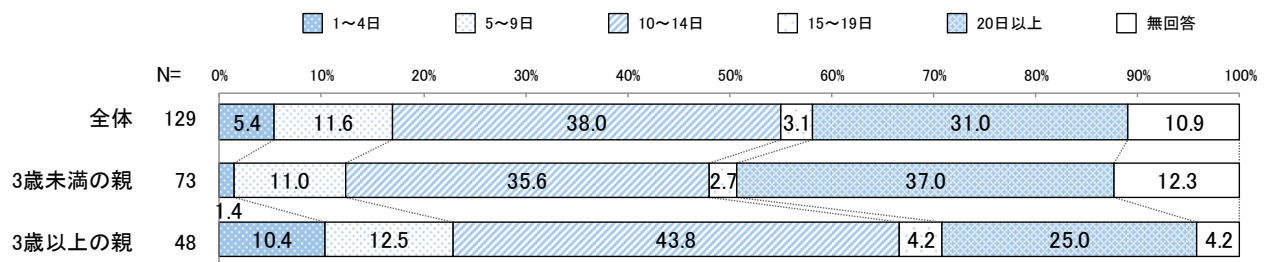


【前回調査との数値比較】

	平成 30 年	令和 5 年	変化量
1～4 日	18.6	18.3	▲ 0.3
5～9 日	27.3	29.6	2.3
10～14 日	28.8	31.0	2.2

<できれば病気のときはすべて利用したい>

- ◇ 全体では、「10～14 日」が 38.0%と最も高く、次いで「20 日以上」が 31.0%、「5～9 日」が 11.6%となっている。
- ◇ 「3 歳未満の親」では、「20 日以上」の割合が 37.0%と最も高くなっている。



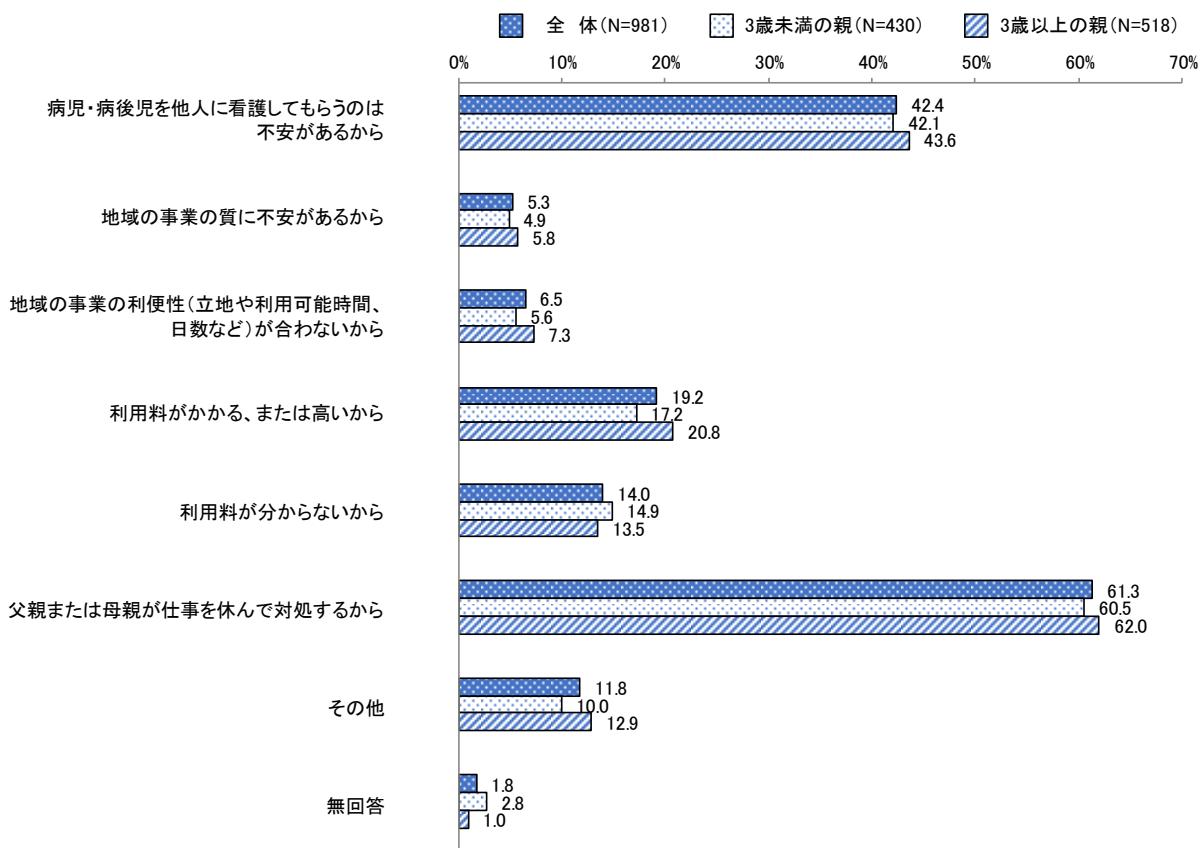
【前回調査との数値比較】

	平成 30 年	令和 5 年	変化量
1～4 日	11.5	5.4	▲ 6.1
5～9 日	16.4	11.6	▲ 4.8
10～14 日	30.3	38.0	7.7

病児・病後児保育を希望しない理由について 【就学前 問 47】

■利用を希望しない理由で、あてはまるものを選んで下さい。(複数回答)

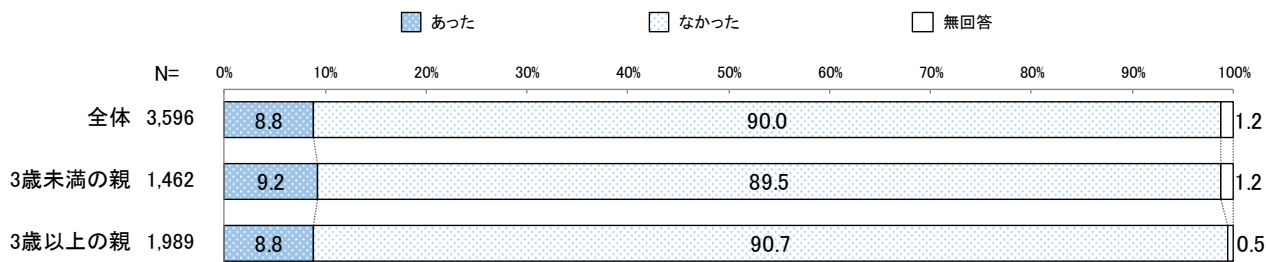
- ◇ 全体では、「父親または母親が仕事を休んで対処するから」が 61.3%と最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看護してもらうのは不安があるから」が 42.4%となっている。
- ◇ いずれの項目においても、「3歳未満の親」と「3歳以上の親」の割合は同等である。



お子さんの一時預かりについて 【就学前 問 48】

■この一年間で、日中の定期的な保育や病気のため以外に、あて名のお子さんについて、不定期に一時預かり等の事業を利用しましたか。(1つ)

- ◇ 全体では、「あった」が 8.8%、「なかった」が 90.0%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」と「3歳以上の親」の割合は、全ての項目において同等である。

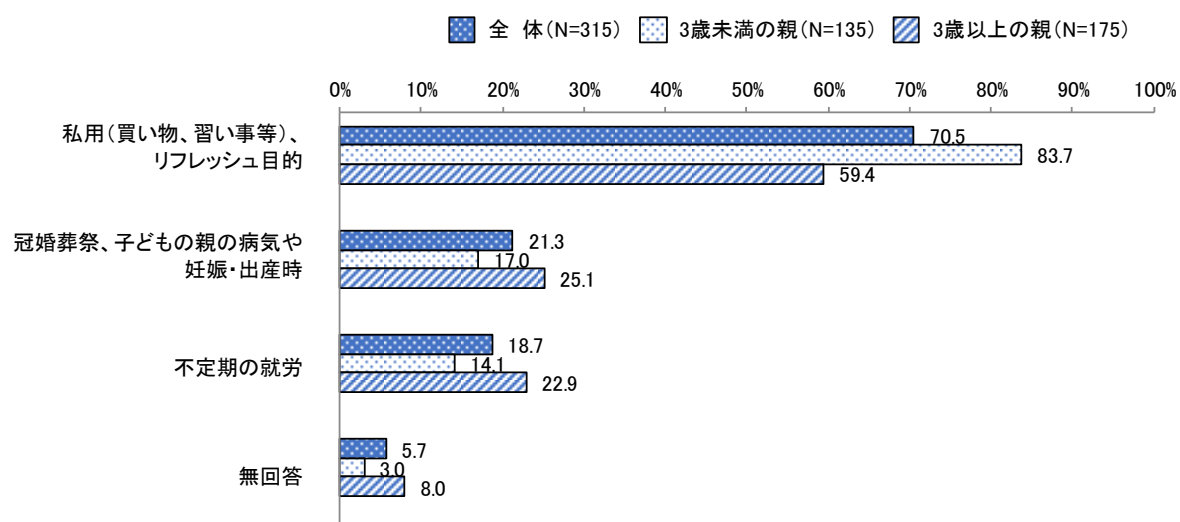


お子さんの一時預かりの理由について 【就学前 問 49】

■一時預かり等の事業を利用された理由別に、利用した教育・保育の事業を選び、その日数を記入してください。（複数回答）

【理由】

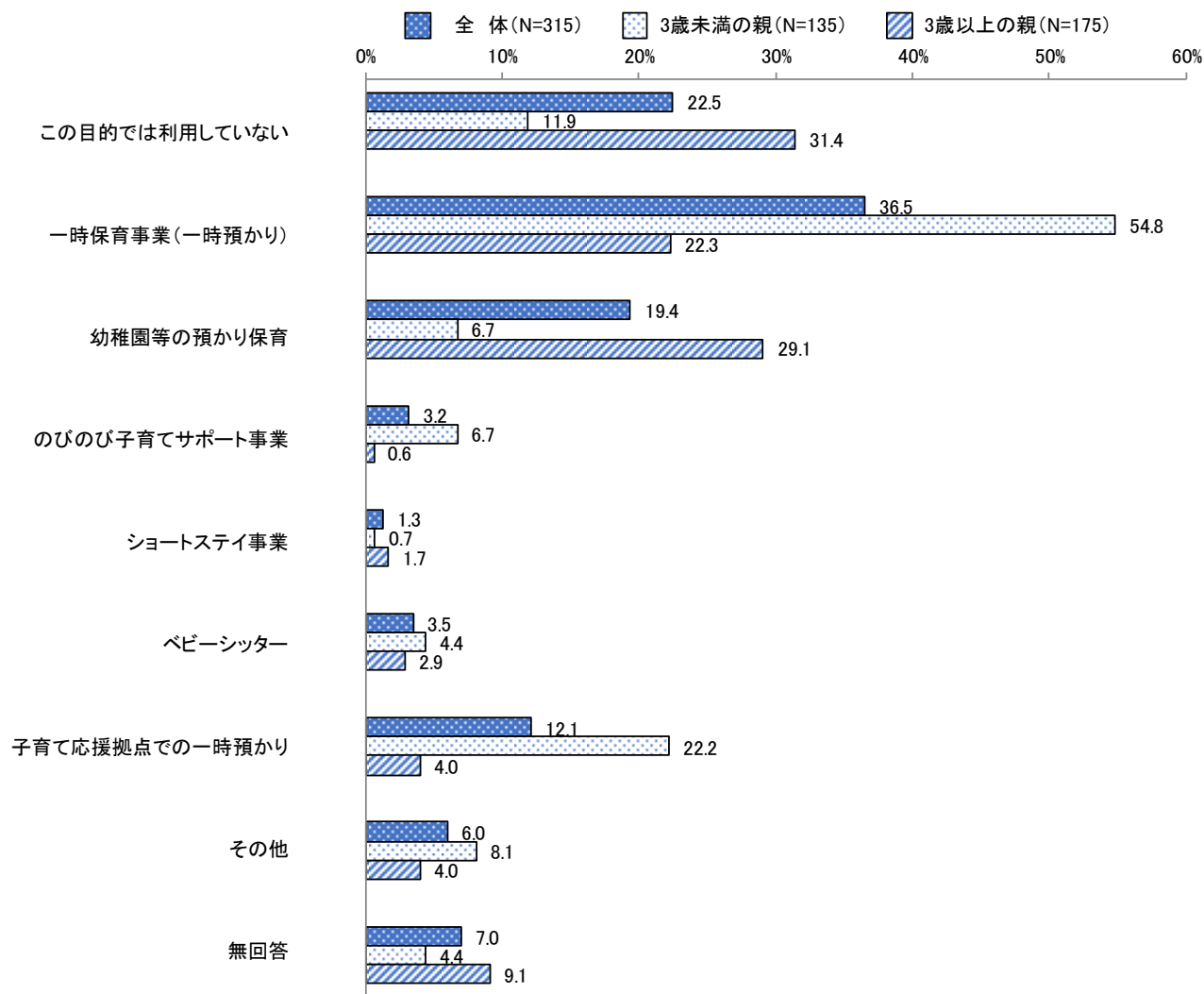
- ◇ 全体では「私用（買い物、習い事等）、リフレッシュ目的」が 70.5%と最も多く、次いで、「冠婚葬祭、子どもの親の病気や妊娠・出産時」が 21.3%、「不定期の就労」が 18.7%となっている。
- ◇ 「私用（買い物、習い事等）、リフレッシュ目的」では、「3 歳未満の親」が「3 歳以上の親」よりも 2 割以上高くなっている。



【利用した教育・保育の事業及び日数（年間）】

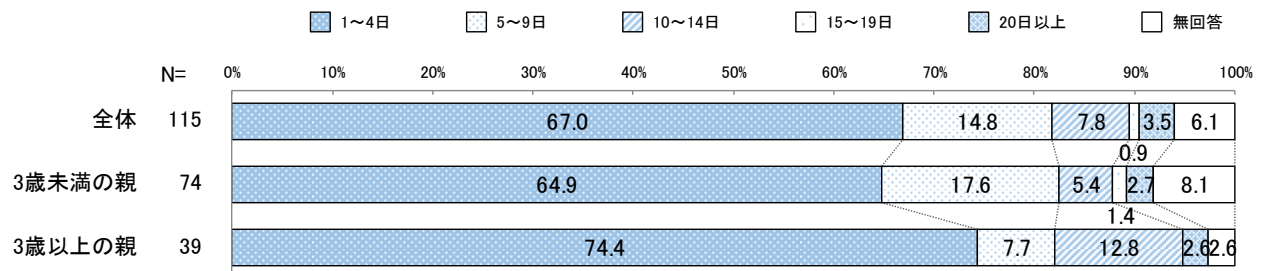
（１）私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的

◇ 全体では、「一時保育事業（一時預かり）」が 36.5%と最も多く、次いで「この目的では利用していない」が 22.5%である。

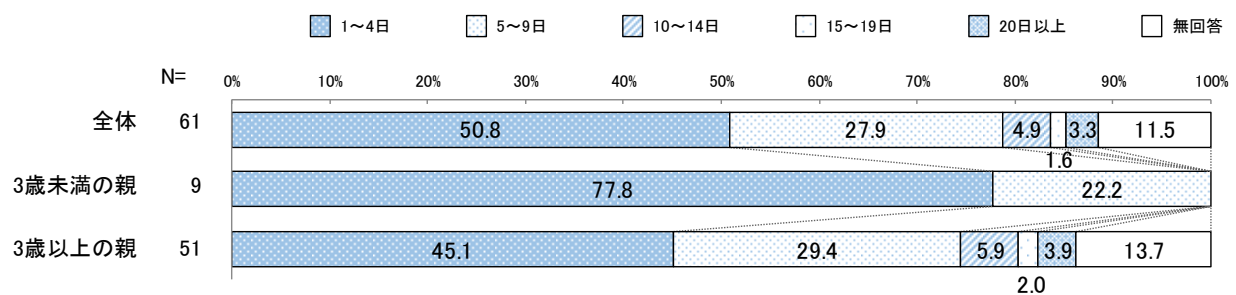


【利用日数】

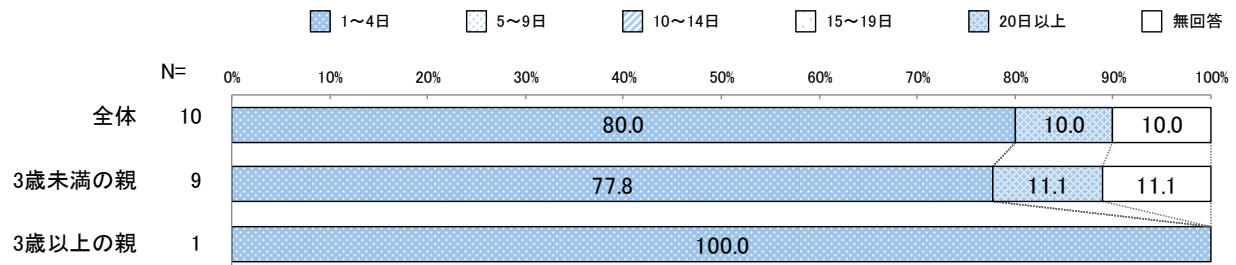
○ 一時保育事業（一時預かり）



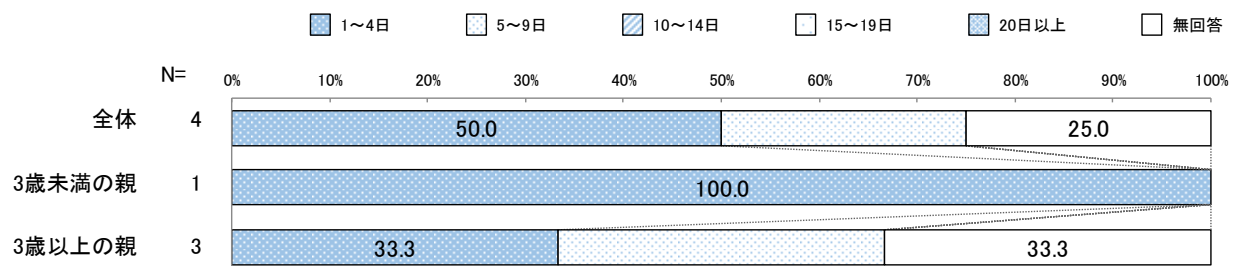
○ 幼稚園等の預かり保育



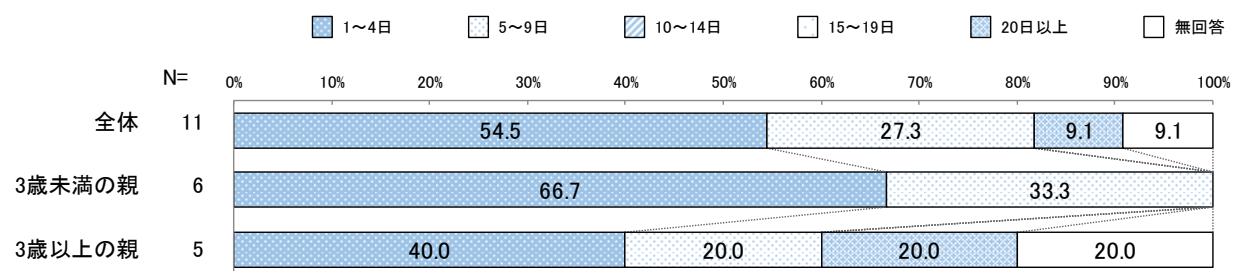
○ のびのび子育てサポート事業



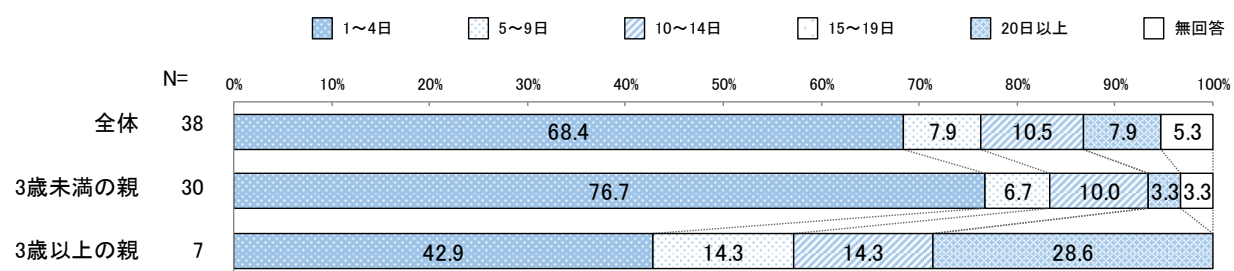
○ ショートステイ事業



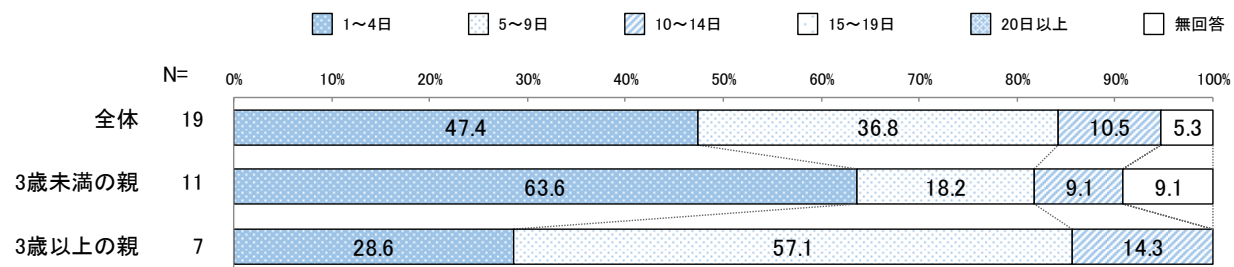
○ ベビーシッター



○ 子育て応援拠点での一時預かり

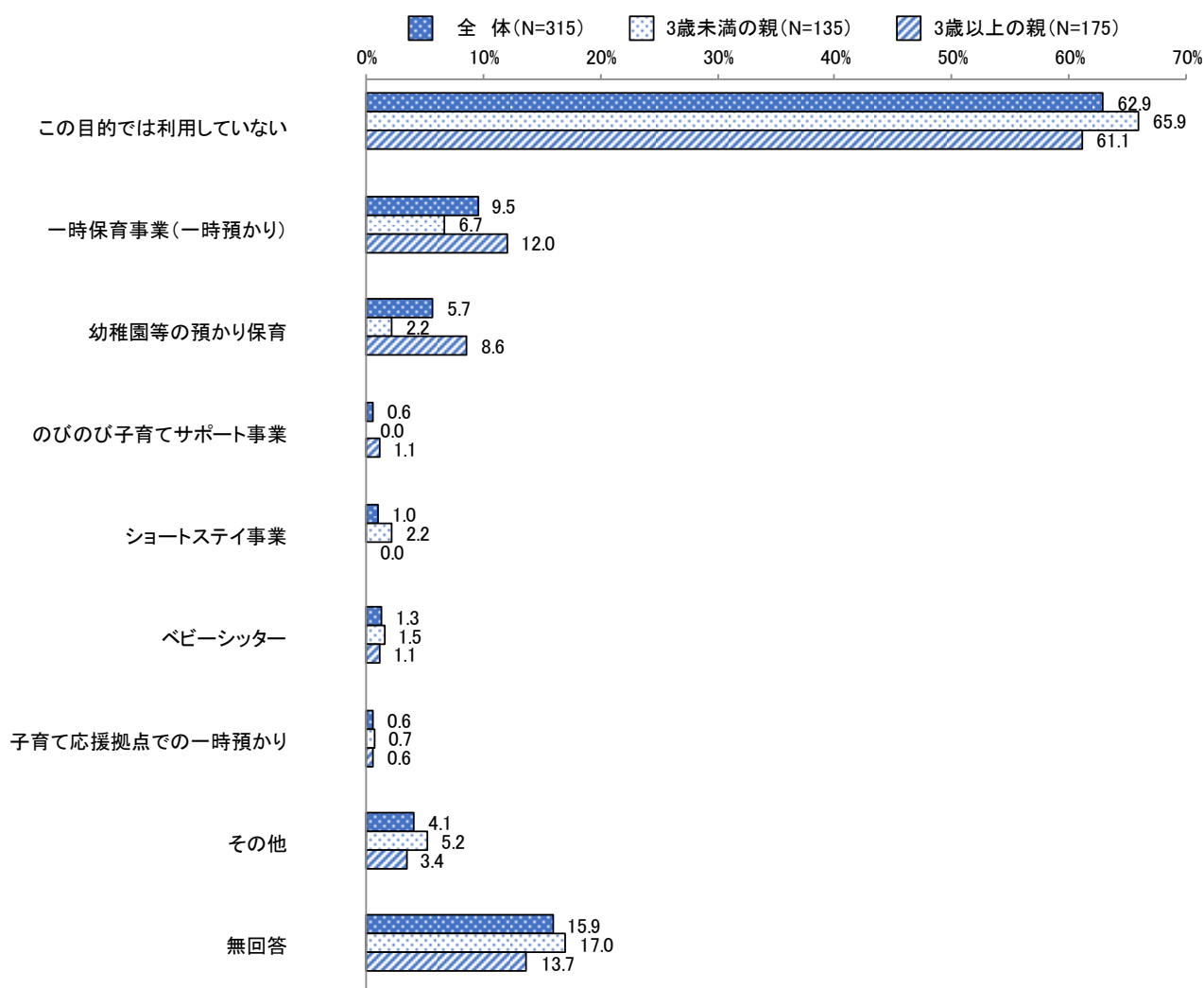


○ その他



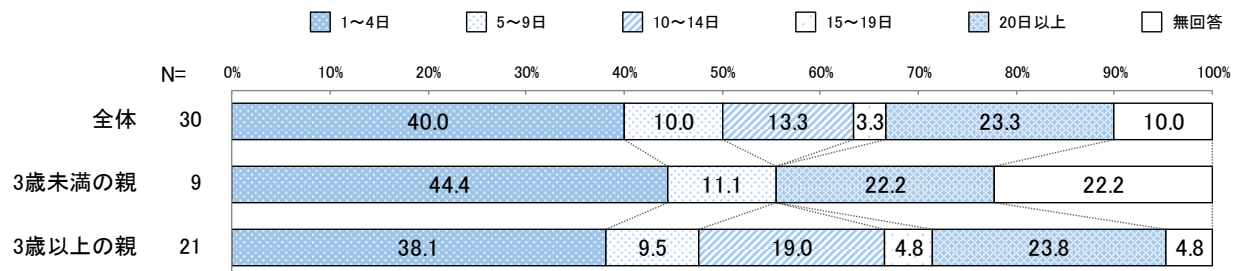
(2) 冠婚葬祭、子どもの親の病気や妊娠・出産時

◇ 全体では、「この目的では利用していない」が62.9%、次いで「一時保育事業（一時預かり）」が9.5%となっている。

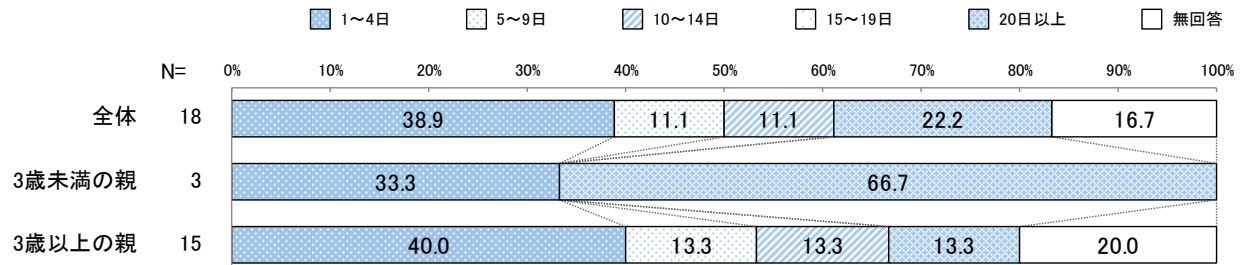


【利用日数】

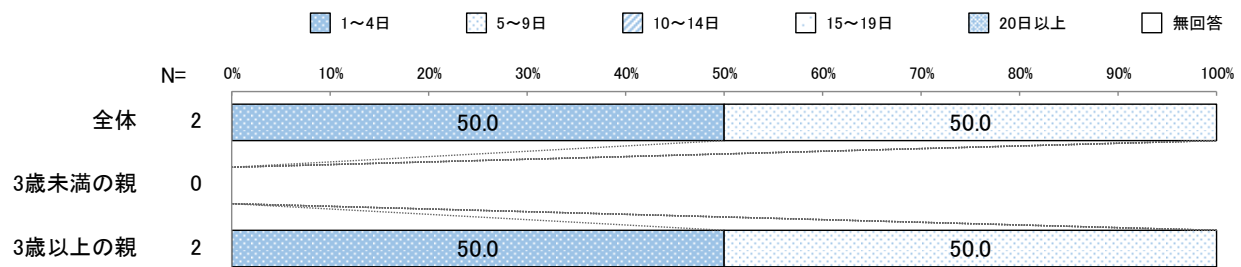
○ 一時保育事業（一時預かり）



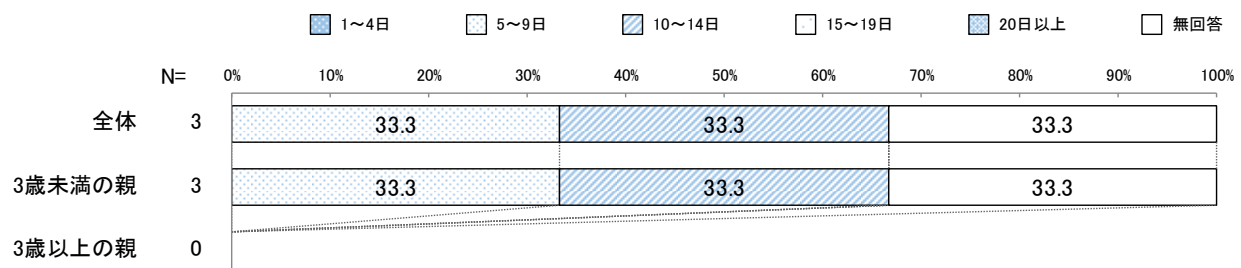
○ 幼稚園等の預かり保育



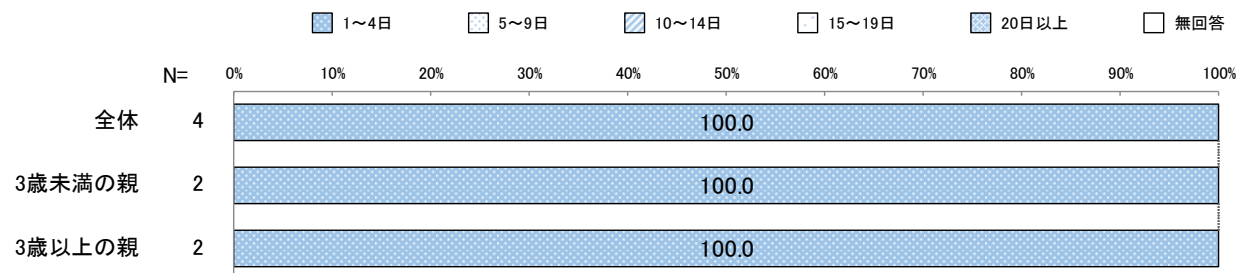
○ のびのび子育てサポート事業



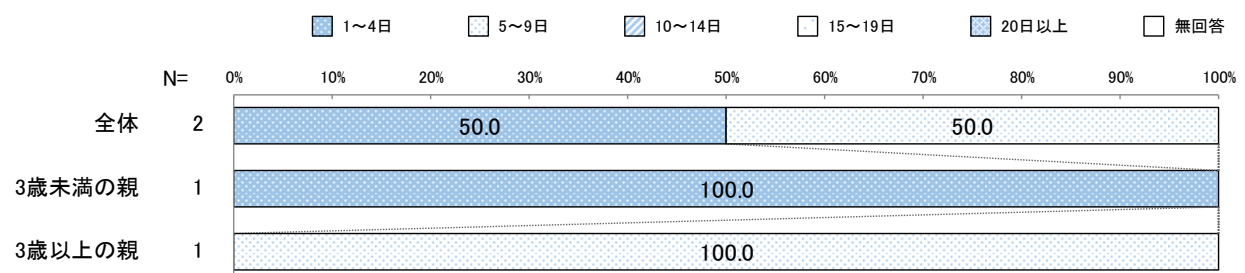
○ ショートステイ事業



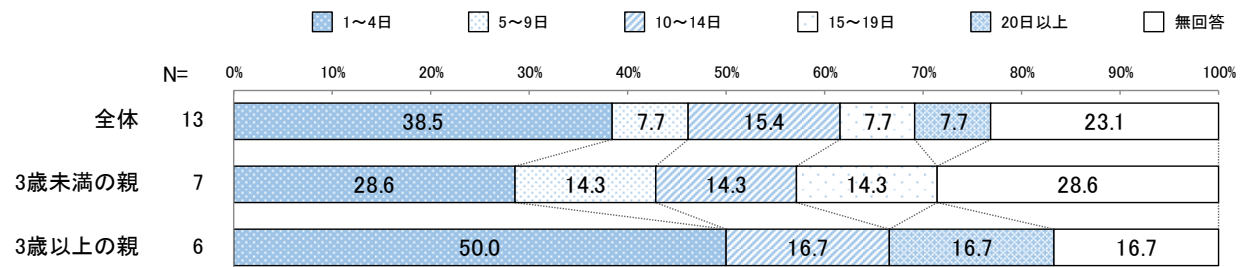
○ ベビーシッター



○ 子育て応援拠点での一時預かり

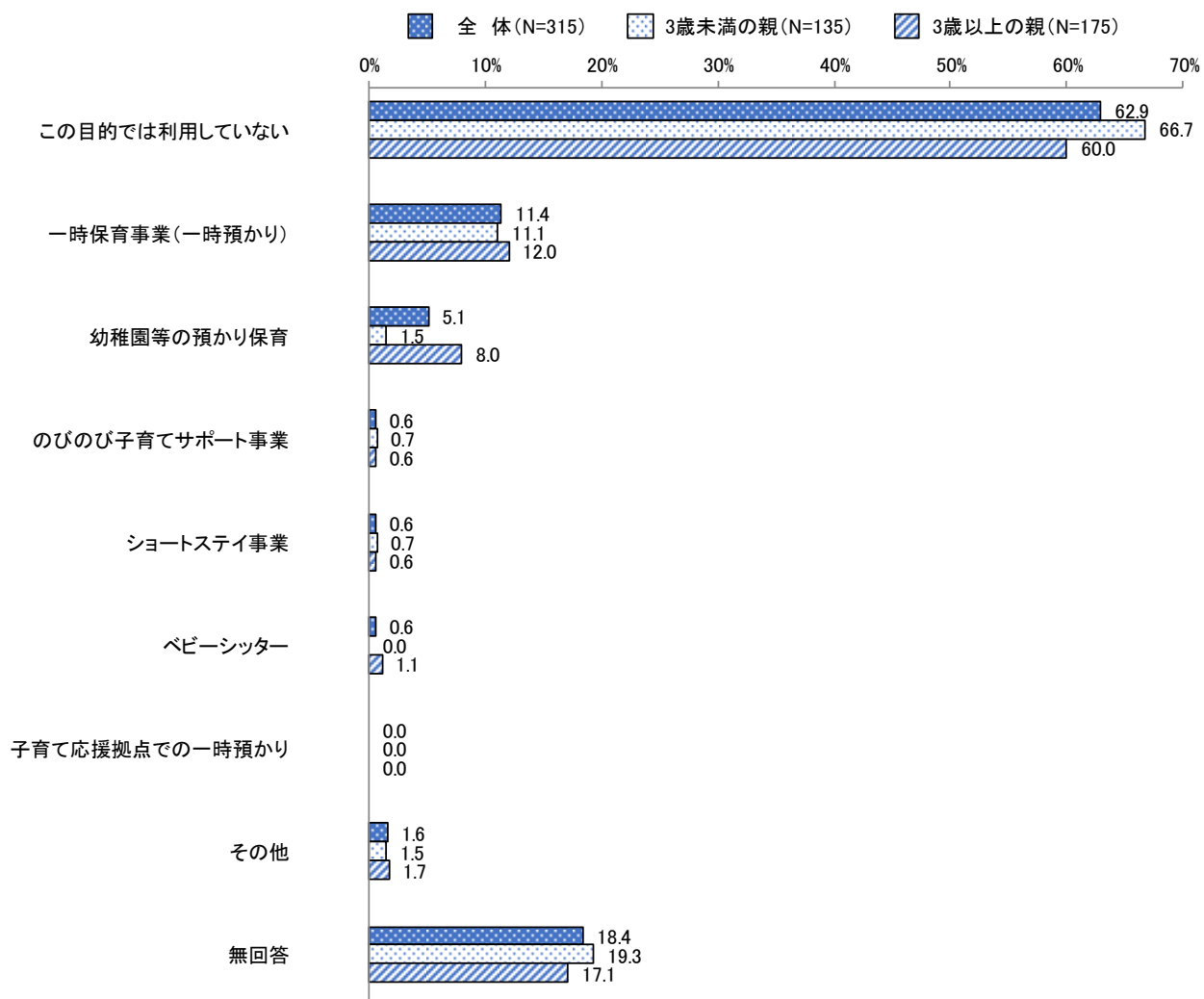


○ その他



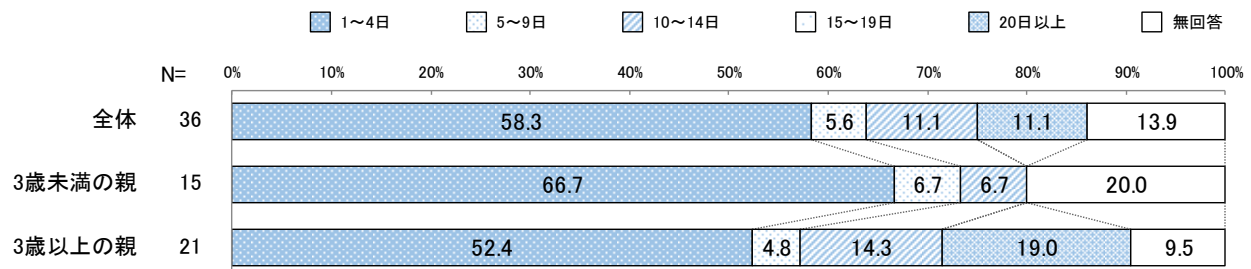
(3) 不定期の就労

- ◇ 全体では、「この目的では利用していない」が 62.9%、次いで「一時保育事業（一時預かり）」が 11.4%となっている。
- ◇ 「子育て応援拠点での一時預かり」と回答した人はいない。

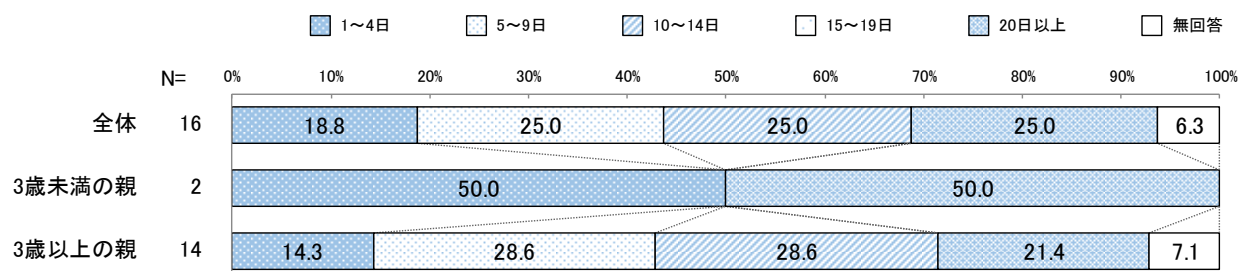


【利用日数】

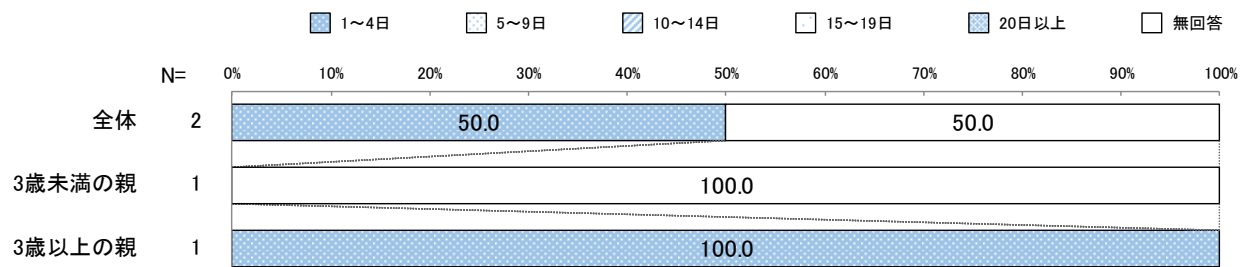
○ 一時保育事業（一時預かり）



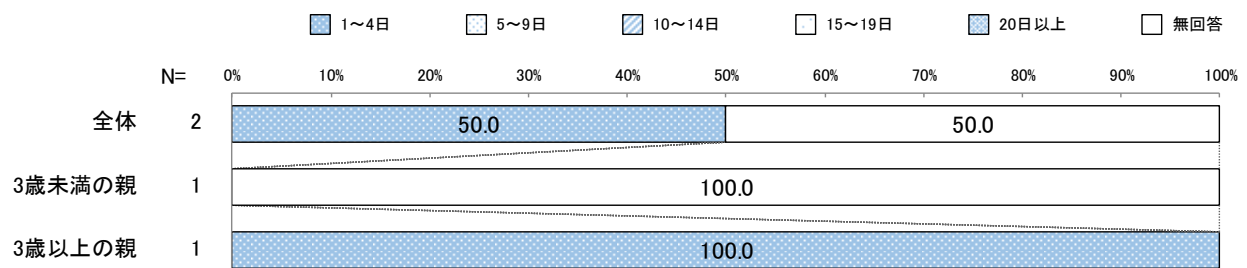
○ 幼稚園等の預かり保育



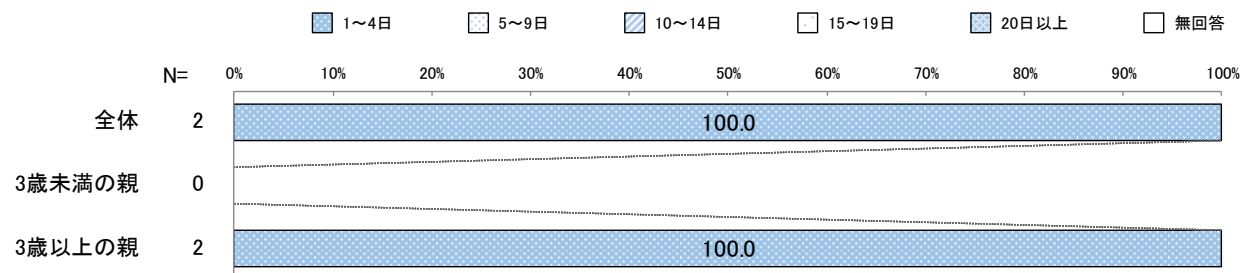
○ のびのび子育てサポート事業



○ ショートステイ事業

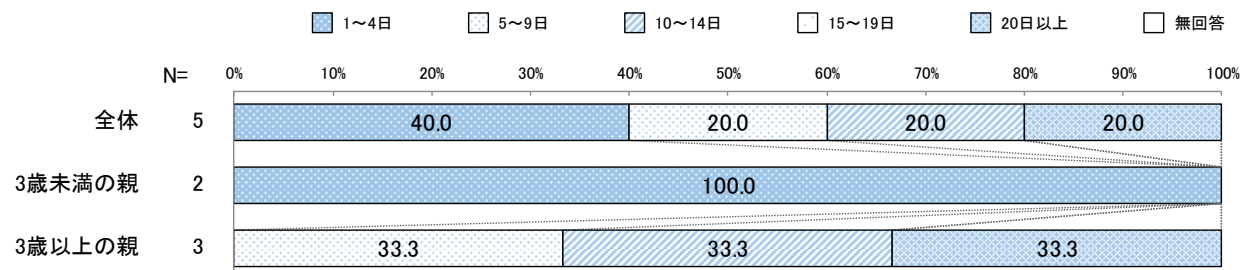


○ ベビーシッター



※「子育て応援拠点での一時預かり」回答なしのため割愛。

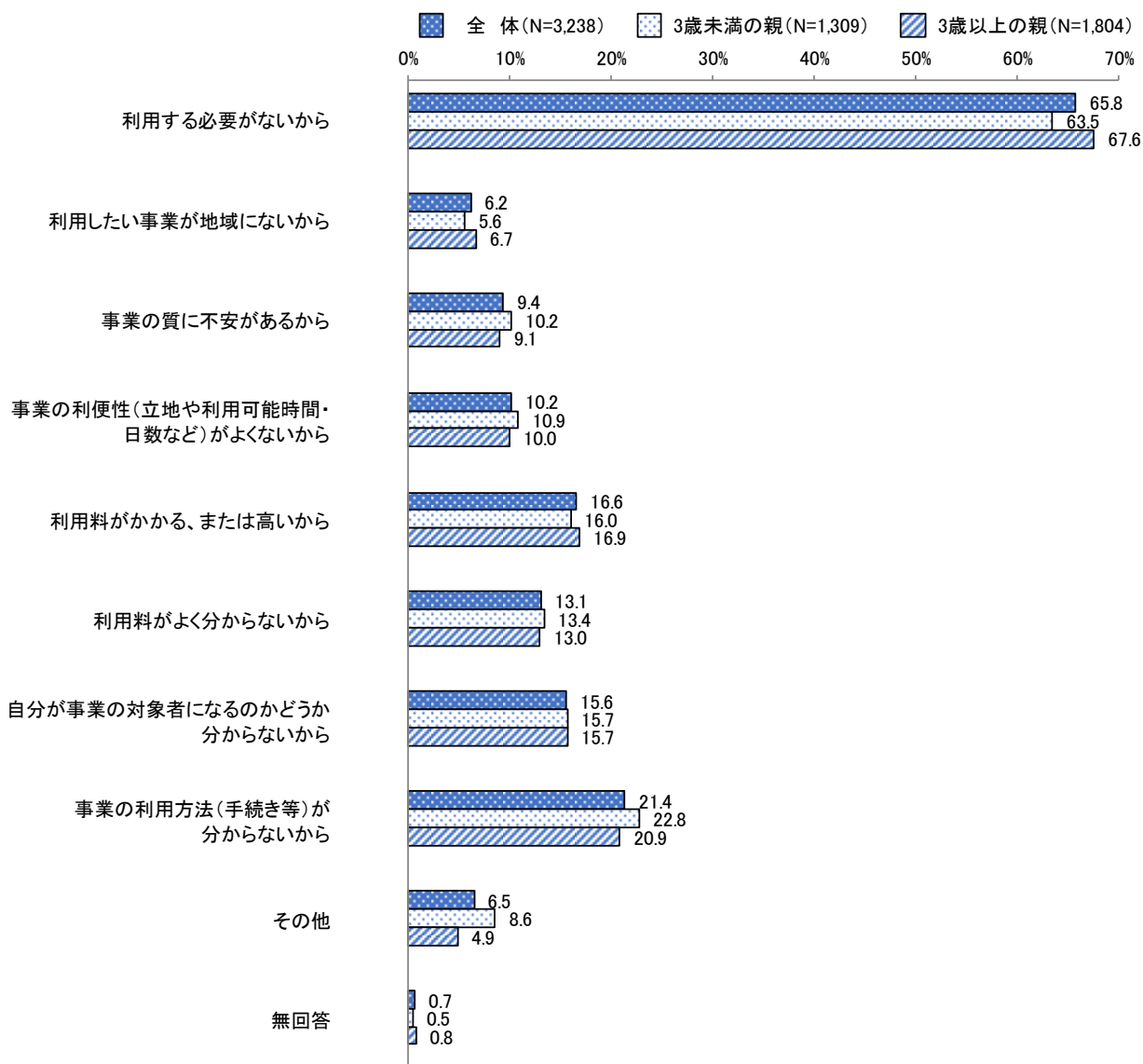
○ その他



一時預かり等の事業を利用しない理由について 【就学前 問 50】

■一時預かり等の不定期の事業を現在利用していない理由で、あてはまるものを選んでください。（複数回答）

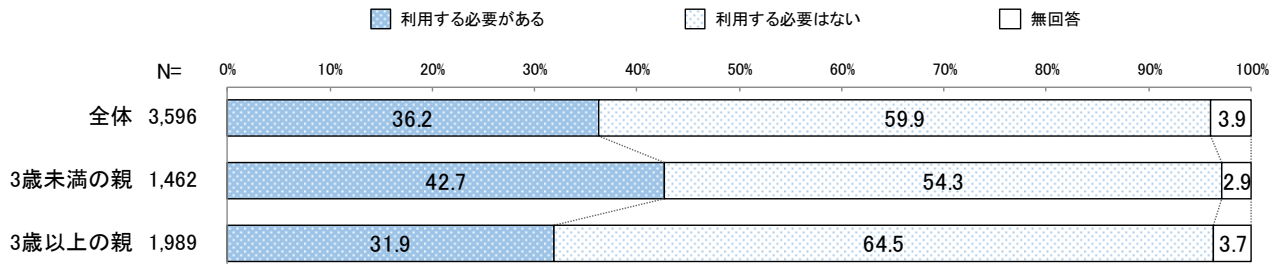
- ◇ 全体では、「利用する必要があるから」が65.8%と最も多く、次いで「事業の利用方法（手続き等）が分からないから」が21.4%となっている。
- ◇ いずれの選択肢においても、「3歳未満の親」と「3歳以上の親」の割合は同等である。



一時預かり等の事業を利用する必要性について 【就学前 問 51】

■今後、私用、保護者の通院、不定期の就労等の目的で、一時預かり等の不定期の事業を利用する必要があると思いますか。(1つ)

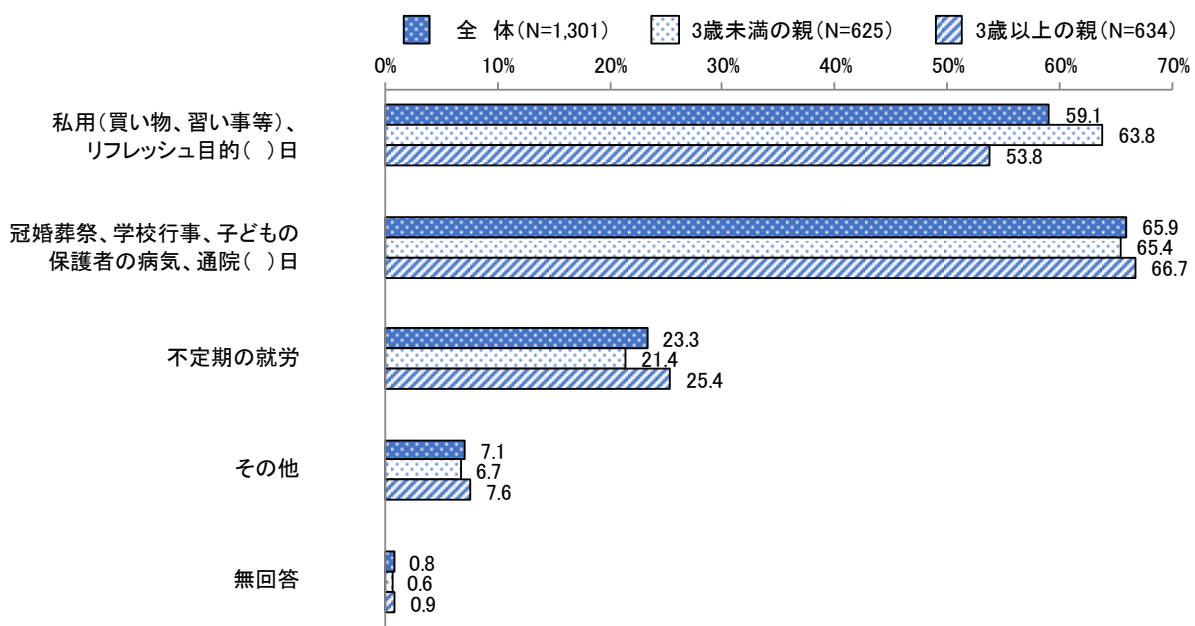
- ◇ 全体では、「利用する必要はない」が 59.9%で、「利用する必要がある」が 36.2%となっている。
- ◇ 「利用する必要がある」と回答した割合は、「3歳以上の親」よりも「3歳未満の親」の方が高い。



一時預かり等の事業を利用する理由について 【就学前 問 52】

■一時預かり等の不定期の事業を利用する必要があると思う理由で、あてはまるものを選び、利用を希望する日数を数字で記入してください。(複数回答)

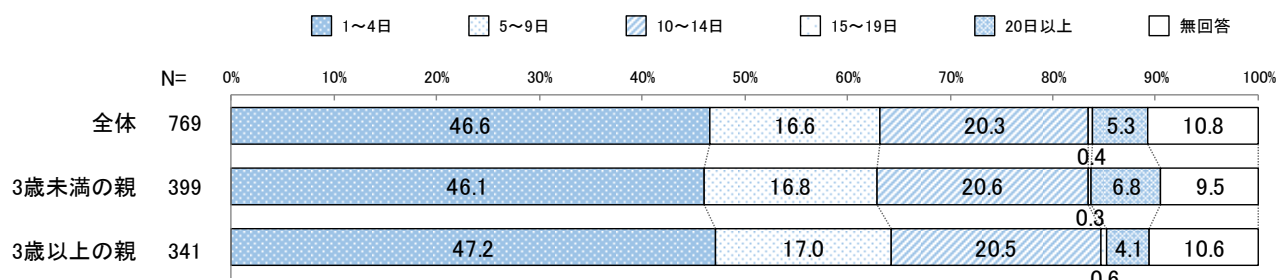
- ◇ 全体では、「冠婚葬祭、学校行事、子どもの保護者の病気、通院」が 65.9%と最も高く、次いで「私用（買い物、習い事等）、リフレッシュ目的」が 59.1%となっている。
- ◇ 3歳未満・3歳以上の親ともに、「不定期の就労」は2割台となっている。



【利用希望日数】

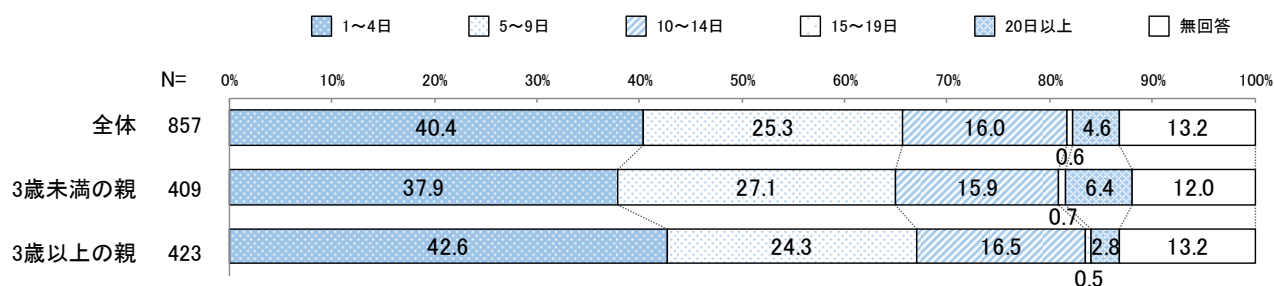
1. 私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的

- ◇ 全体では、「1～4日」が46.6%と最も多く、次いで「10～14日」が20.3%、「5～9日」が16.6%となっている。
- ◇ 3歳未満・3歳以上の親ともに、その順位に変わりはない。



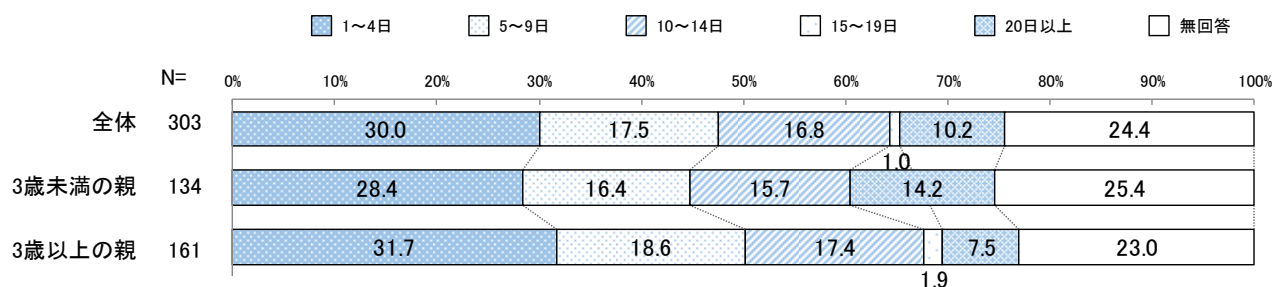
2. 冠婚葬祭、学校行事、子どもの保護者の病気、通院

- ◇ 全体では、「1～4日」が40.4%と最も多く、次いで「5～9日」が25.3%、「10～14日」が16.0%となっている。
- ◇ 3歳未満・3歳以上の親ともに、その順位に変わりはない。



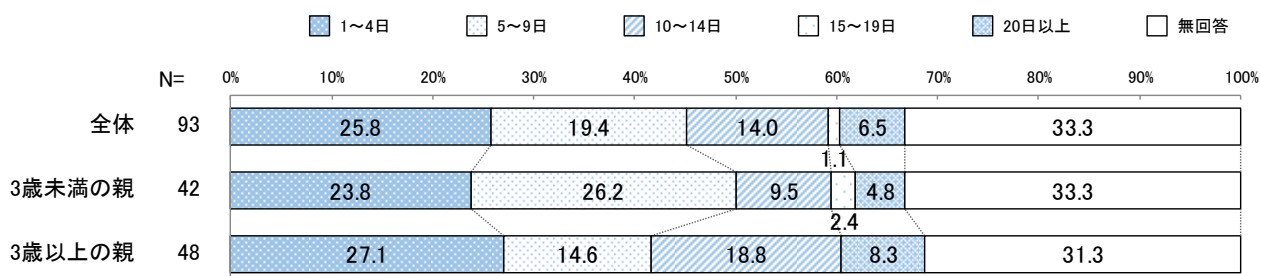
3. 不定期の就労

- ◇ 全体では、「1～4日」が30.0%と最も多く、次いで「5～9日」が17.5%となっている。
- ◇ 「20日以上」の割合は、「3歳以上の親」よりも「3歳未満の親」の方が高くなっている。



4. その他

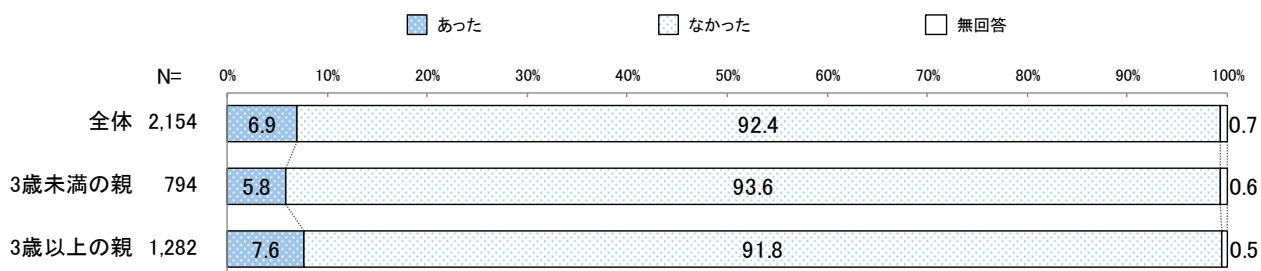
- ◇ 全体では、「1～4 日」が 25.8%と最も高く、次いで「5～9 日」が 19.4%となっている。
- ◇ 「1～4 日」と回答した割合は、3 歳未満・3 歳以上の親ともに 2 割以上となっている。



宿泊をとまなうお子さんの一時預かりについて 【就学前 問 53】

■この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか。（預け先が見つからなかった場合も含みます）。（1つ）

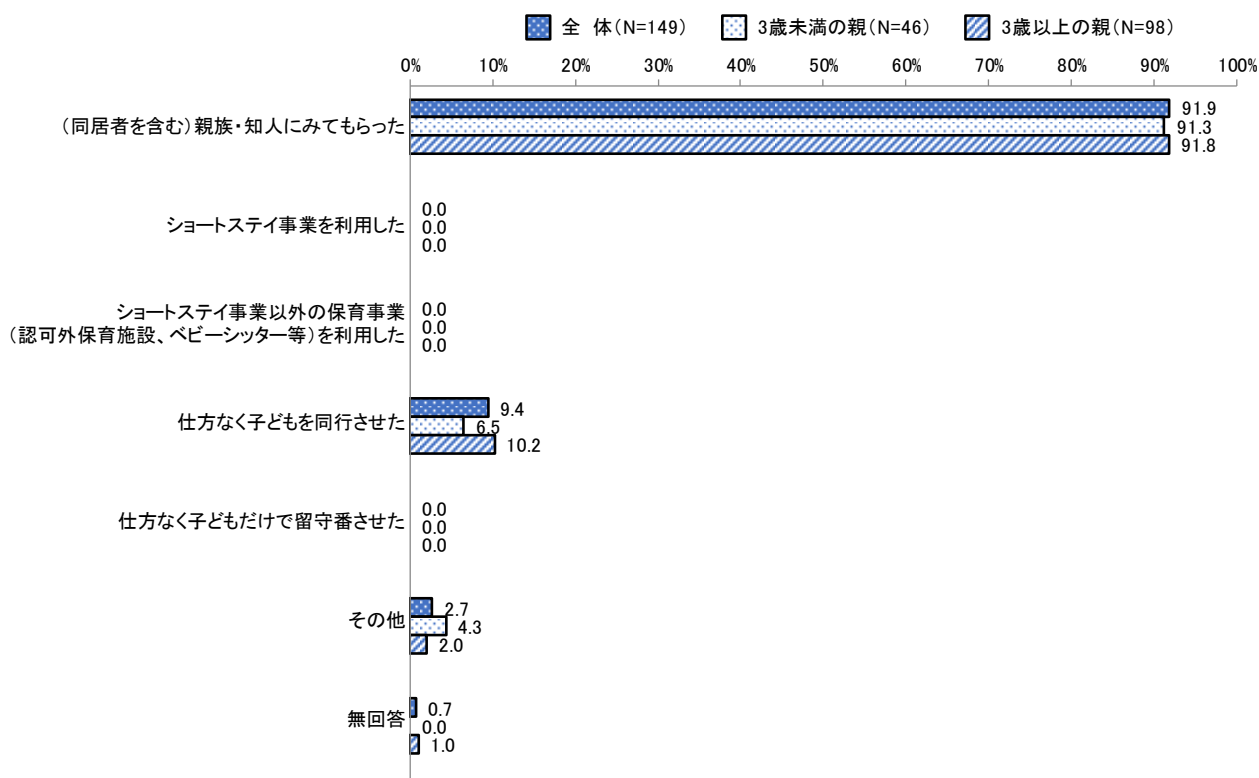
- ◇ 全体では、「あった」が 6.9%、「なかった」が 92.4%となっている。
- ◇ 「3 歳未満の親」と「3 歳以上の親」の割合はいずれも同等である。



宿泊をとまなうお子さんの一時預かりの対処方法について 【就学前 問 54】

■この1年間の対処方法について、あてはまるものをすべて選び、それぞれの宿泊日数を数字で記入してください。（複数回答）

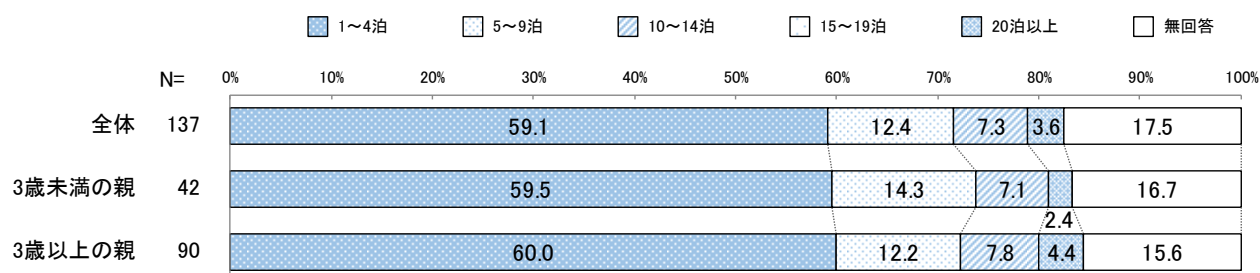
- ◇ 全体では、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が 91.9%と最も多く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」が 9.4%となっている。
- ◇ 「ショートステイ事業を利用した」「ショートステイ事業以外の保育事業（認可外保育施設、ベビーシッター等）を利用した」「仕方なく子どもだけで留守番させた」と回答した人はいない。



【1年間の宿泊日数】

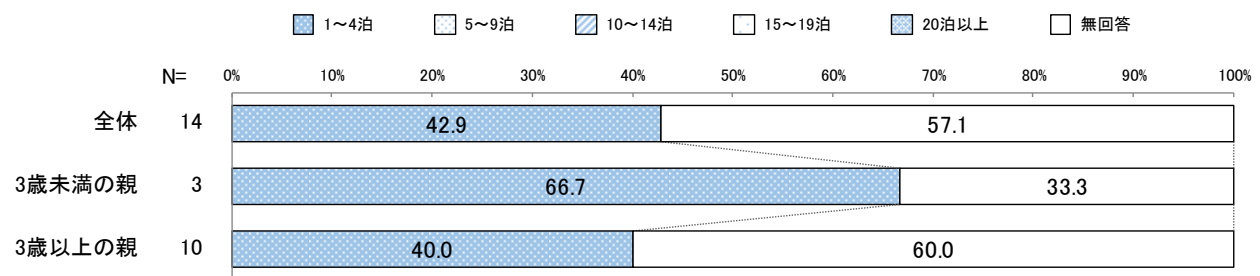
○（同居者を含む）親族・知人にみてもらった

- ◇ 全体では、「1～4泊」が 59.1%と最も多く、次いで「5～9泊」が 12.4%となっている。
- ◇ 3歳未満・3歳以上の親ともに、その順位に変わりはない。

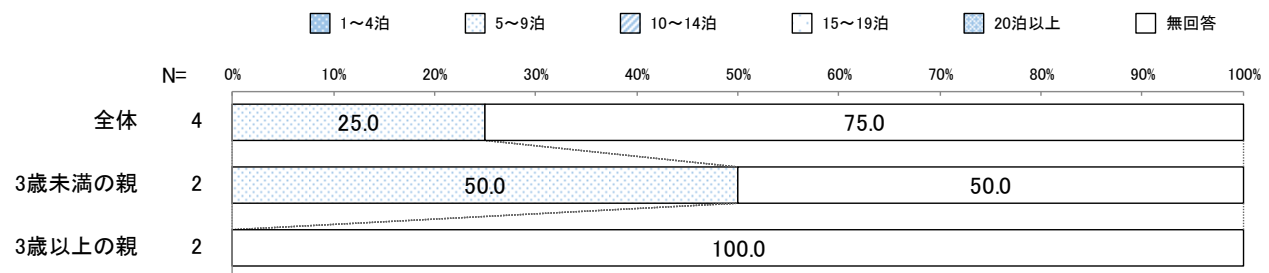


○ 仕方なく子どもを同行させた

- ◇ 全体では、「1～4泊」が42.9%と最も多い。
- ◇ 5泊以上と回答した人はいない。



○ その他



保育事業別の利用について 【就学前 問 55～問 58】

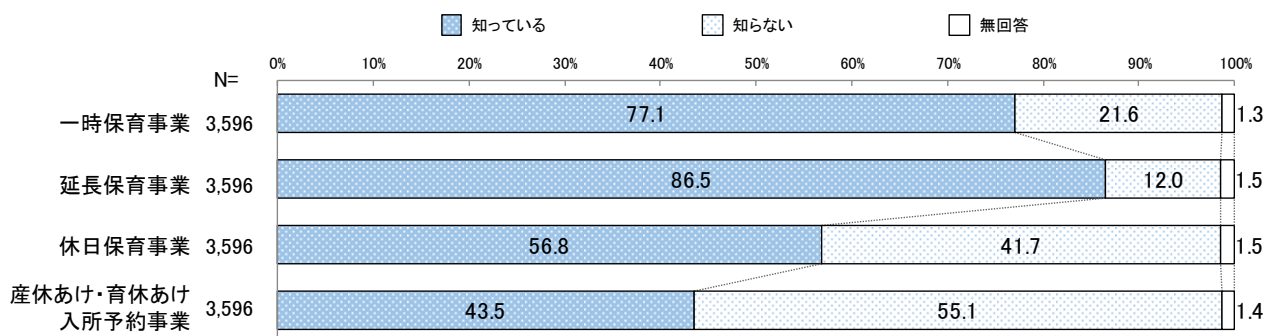
■保育事業についてあてはまるものを選んでください。

【参考】

保 育 事 業	内 容
一時保育事業	保護者の方が、①傷病、親族の看護、冠婚葬祭などのやむを得ない事由により、緊急・一時的に家庭で保育ができない場合、②週3日以内の就労などにより断続的に家庭で保育ができない場合、③子育てのリフレッシュを希望される場合、に就学前のお子さんを指定する保育所で保育します。
延長保育事業	保育所に通っているお子さんについて、通常の保育終了時間を延長して保育します。事業を実施している保育所に通っているお子さんが利用できます。
休日保育事業	日曜、祝日に保護者の方が勤務等により家庭で保育ができないときに、お子さんを指定する保育所で保育します。事業を実施している保育所以外の保育所に通っているお子さんも利用できます。
産休あけ・育休あけ入所予約事業	出産予定日の8週間前の日以降に入所予定日を特定して保育所への入所予約ができます。入所予約できるのは、指定保育所のみであり、利用できる定員には各保育所の状況により限度があります。

（１）事業の認知度

- ◇ 認知度の高い事業は、「延長保育事業」（86.5％）である。次いで、「一時保育事業」（77.1％）となっている。
- ◇ 「産休あけ・育休あけ入所予約事業」は、過半数が「知らない」と回答している。

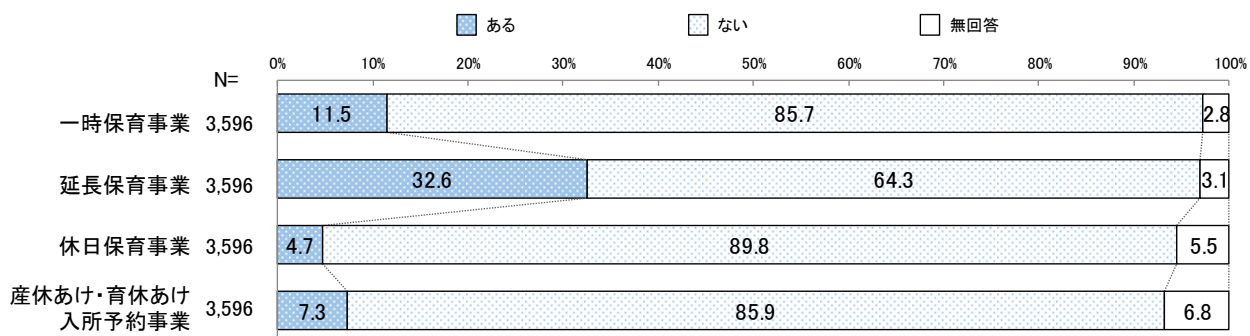


【前回調査との数値比較】

	この事業を知っている		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
一時保育事業	72.5	77.1	4.6
延長保育事業	86.6	86.5	▲ 0.1
休日保育事業	47.9	56.8	8.9
産休あけ・育休あけ入所予約事業	44.8	43.5	▲ 1.3

(2) 利用の有無

- ◇ 利用実績の高い事業は、「延長保育事業」(32.6%)である。次いで「一時保育事業」(11.5%)となっている。
- ◇ 「延長保育事業」以外、いずれも8割以上の人は利用したことがない。

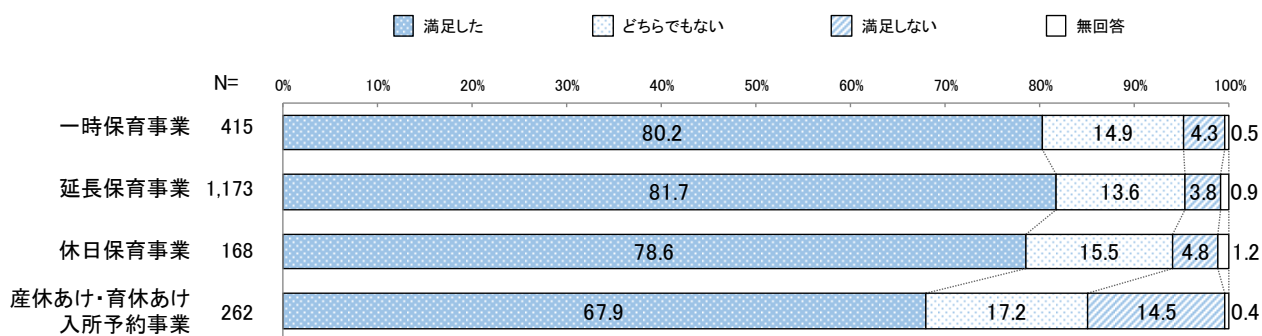


【前回調査との数値比較】

	この事業を利用したことがある		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
一時保育事業	16.0	11.5	▲ 4.5
延長保育事業	36.9	32.6	▲ 4.3
休日保育事業	5.9	4.7	▲ 1.2
産休あけ・育休あけ入所予約事業	15.7	7.3	▲ 8.4

(3) 利用満足度

- ◇ 満足度の高い事業は、「延長保育事業」(81.7%)である。次いで「一時保育事業」(80.2%)となっている。
- ◇ 「産休あけ・育休あけ入所予約事業」は、満足しなかった人の割合が14.5%と最も高くなっている。

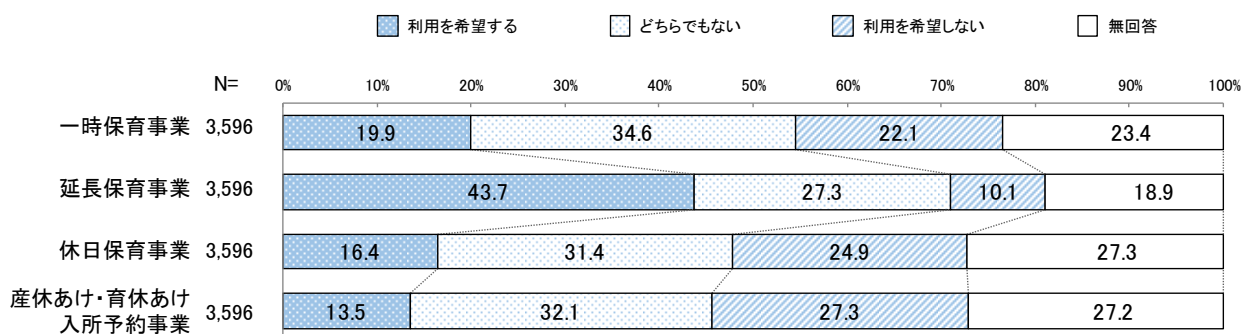


【前回調査との数値比較】

	この事業に満足した		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
一時保育事業	74.9	80.2	5.3
延長保育事業	79.2	81.7	2.5
休日保育事業	74.1	78.6	4.5
産休あけ・育休あけ入所予約事業	65.1	67.9	2.8

(4) 今後の利用希望

- ◇ 利用希望の多い事業は、「延長保育事業」(43.7%)である。次いで、「一時保育事業」(19.9%)となっている。
- ◇ 「利用を希望しない」の割合が最も高いのは、「産休あけ・育休あけ入所予約事業」(27.3%)となっている。



【前回調査との数値比較】

	今後利用を希望する		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
一時保育事業	18.3	19.9	1.6
延長保育事業	42.9	43.7	0.8
休日保育事業	13.9	16.4	2.5
産休あけ・育休あけ入所予約事業	12.8	13.5	0.7

【あて名のお子さんが5歳以上の保護者のかた】

小学校就学後の平日放課後の過ごし方について 【就学前 問 59】

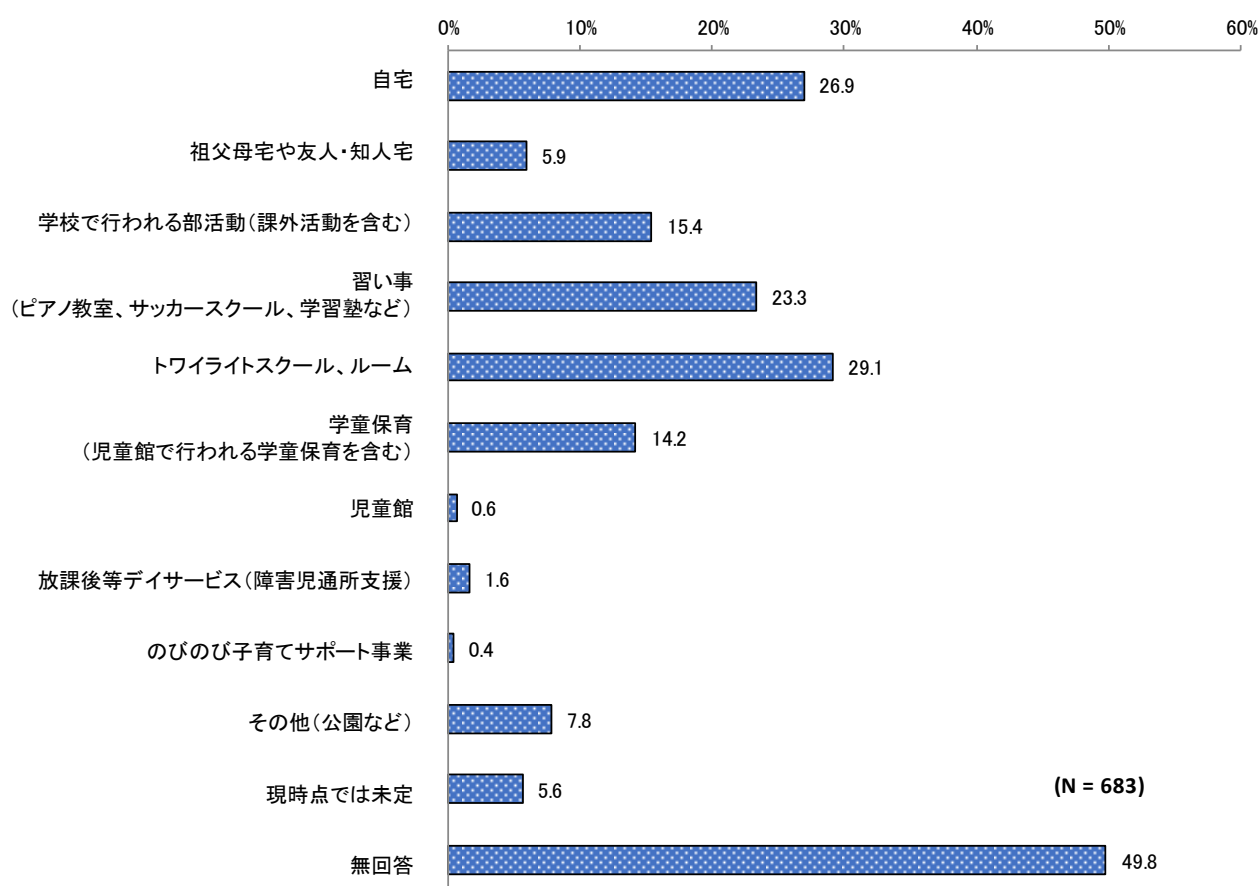
■あて名のお子さんについて、小学校に就学後、平日の放課後の時間をどのように過ごさせたいと思いますか。（複数回答）

【参考】

事業	内 容
トワイライトスクール	小学校施設を活用して、異学年の友だちとの遊びや学び、地域の方との交流、体験活動などの場を提供します。小学校に通うすべての子どもが対象となる事業です。 活動日時：月～土曜日の 18 時まで （土曜日と長期休業は午前より実施）
トワイライトルーム	トワイライトスクールの内容に加え、就労等で子育てへの援助を希望する家庭の子どもについて、その生活面でのサポート等を行う子ども指導員を配置するなど、より生活に配慮した取り組みを行います。17 時を超えて利用する場合は、一定の利用料（おやつ代等を含む）が必要になります。 活動日時：月～金曜日の 19 時、土曜日は 18 時まで （土曜日と長期休業は午前より実施）
学童保育（留守家庭健全育成事業）	保護者が就労等により昼間家庭にいない子どもについて、その健全な育成を図るため、授業終了後等に適切な遊びと生活の場を提供します。開設時間や利用料（おやつ代等を含む）は、学童保育によって異なります。 活動日時：月～土曜日 ・留守家庭児童育成会：約 9 割が 19 時まで （土曜日と長期休業は午前より実施） 最短 17 時、最長 21 時まで ・児童館：13 時から 18 時まで （長期休業は午前より実施）
のびのび子育てサポート事業	子育ての援助を行いたいかたと、受けたいかたからなる会員組織により、一時的に子育ての手助けをしあう制度で、一定の利用料が必要となります。

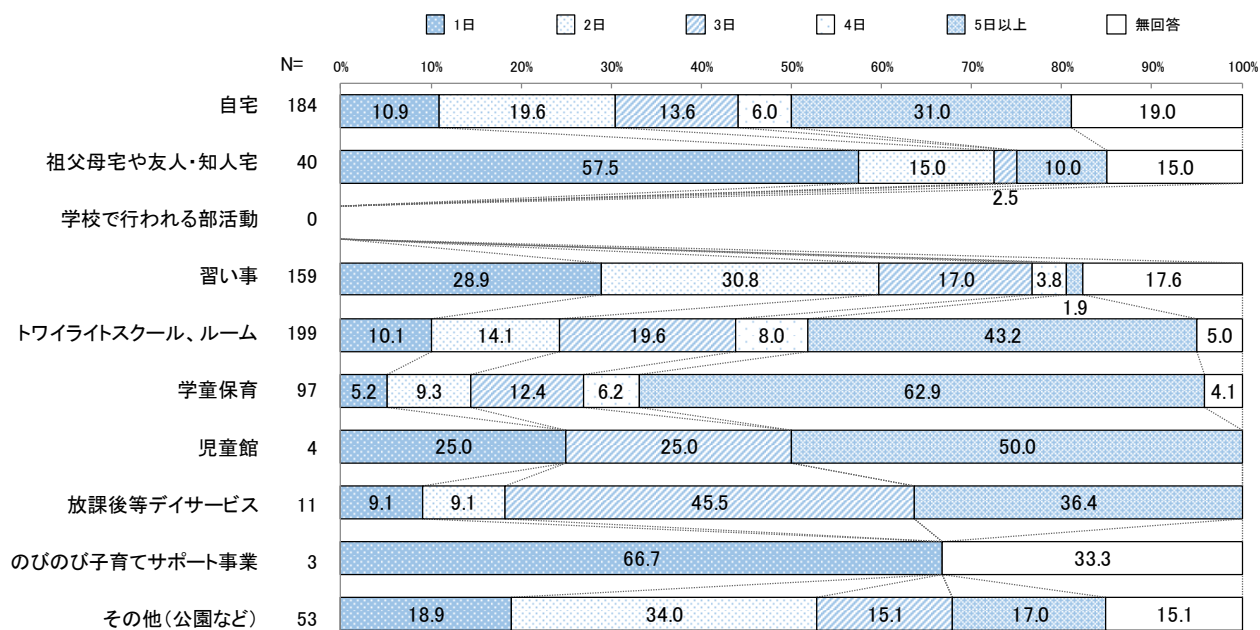
【過ごさせたい場所等】

◇ 「トワイライトスクール、ルーム」が29.1%と最も多く、次いで「自宅」が26.9%、「習い事（ピアノ教室、サッカースクール、学習塾など）」が23.3%となっている。

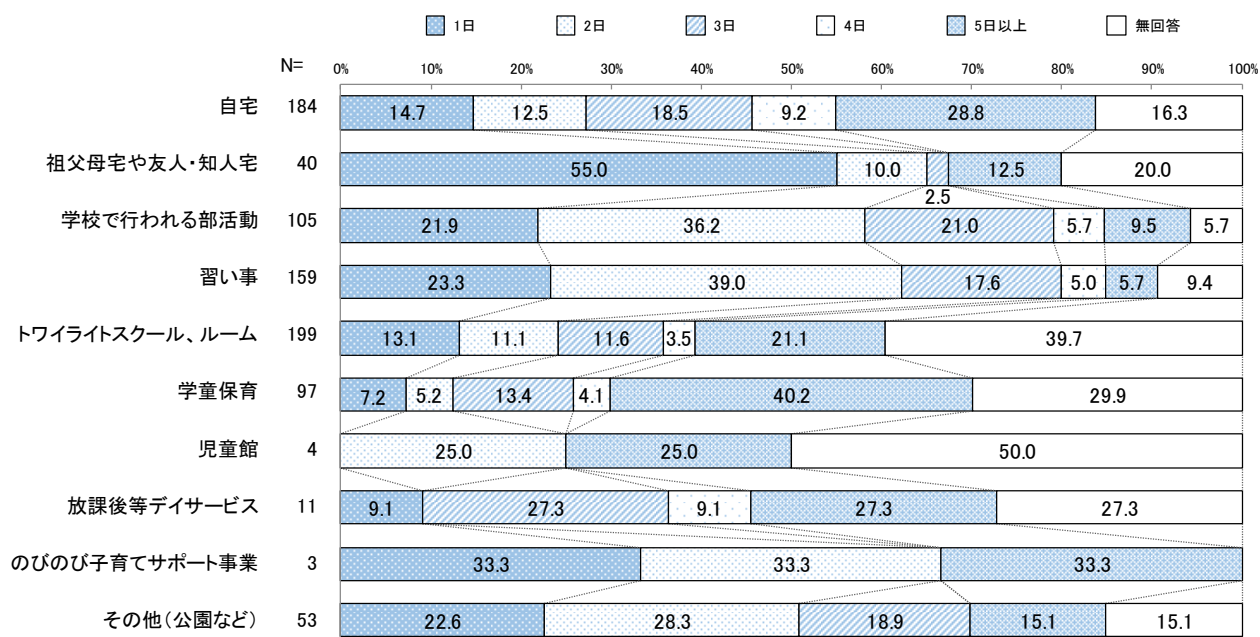


【1週間あたりの日数】

<小学校低学年(1～3年生)>

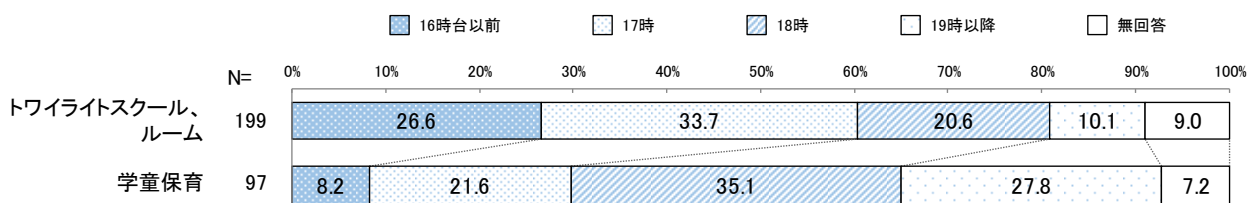


< 小学校高学年（４～６年生） >

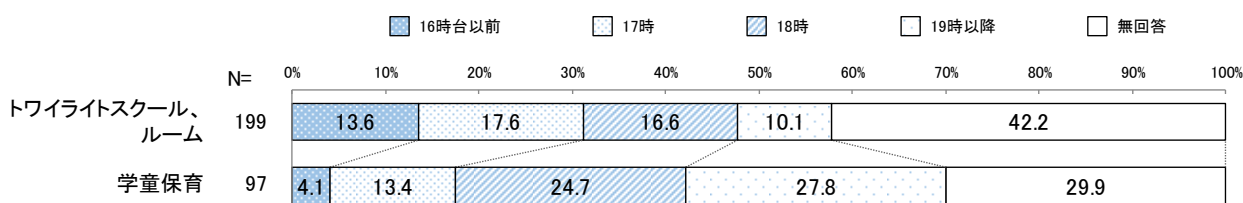


【利用終了時間】（トワイライトスクール、ルーム、学童保育のみ）

< 小学校低学年（１～３年生） >



< 小学校高学年（４～６年生） >

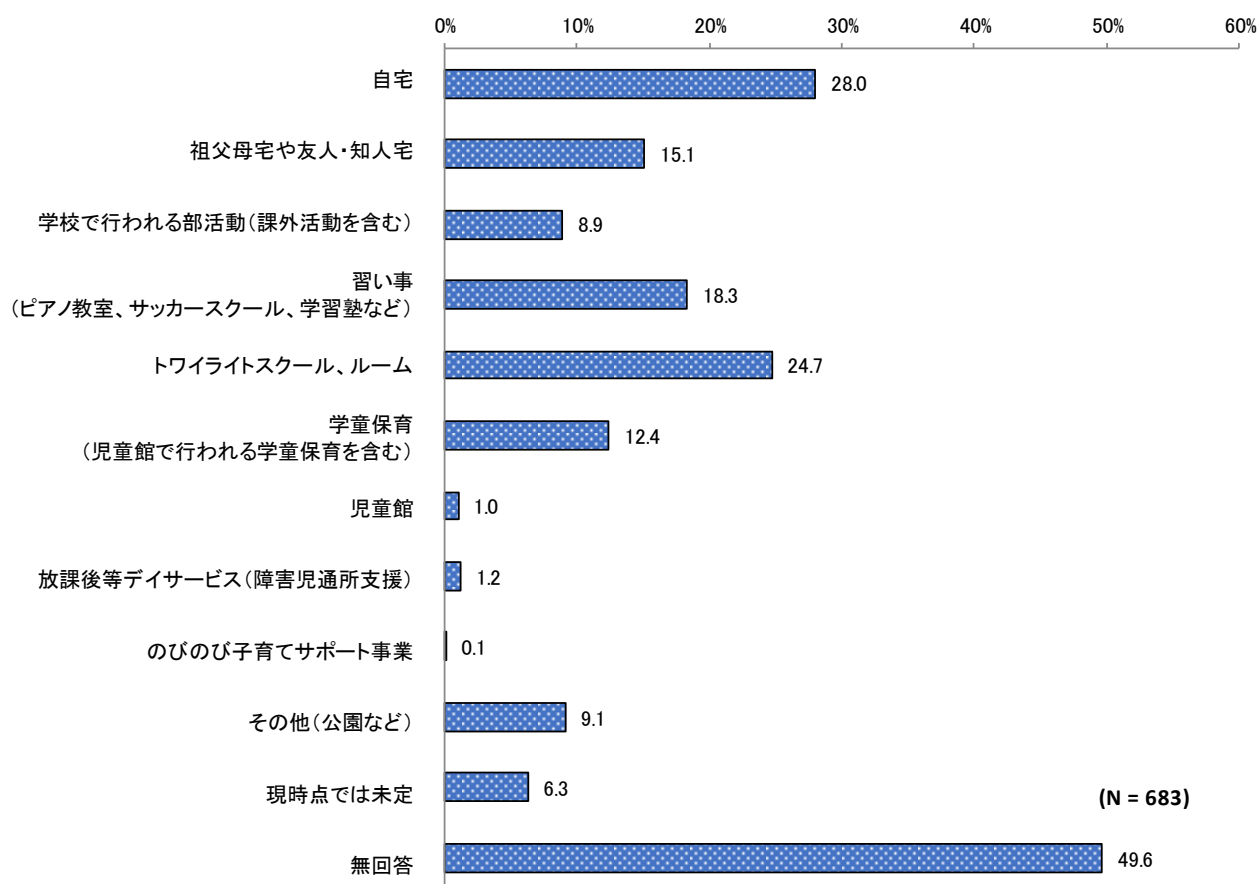


小学校就学後の長期休暇の過ごし方について 【就学前 問 60】

■あて名のお子さんについて、小学校就学後、夏休みや冬休みなど長期休暇をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（複数回答）

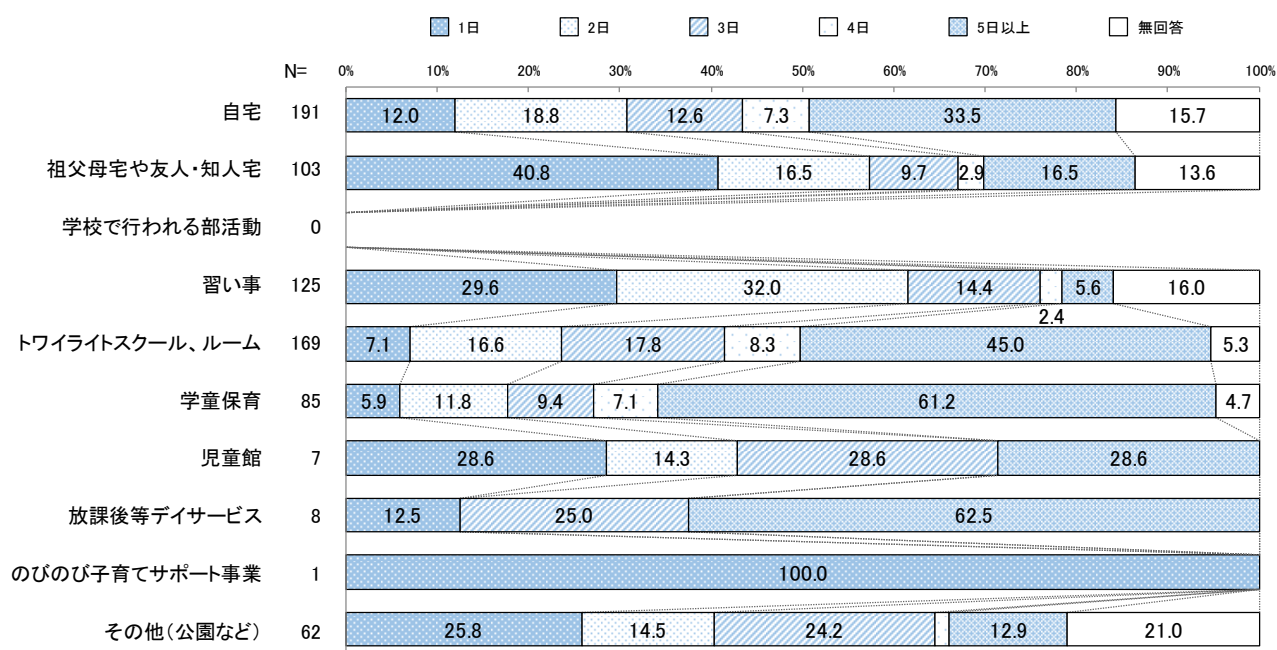
【過ごさせたい場所等】

◇ 「自宅」が 28.0%と最も多く、次いで「トワイライトスクール、ルーム」が 24.7%、「習い事（ピアノ教室、サッカースクール、学習塾など）」が 18.3%となっている。

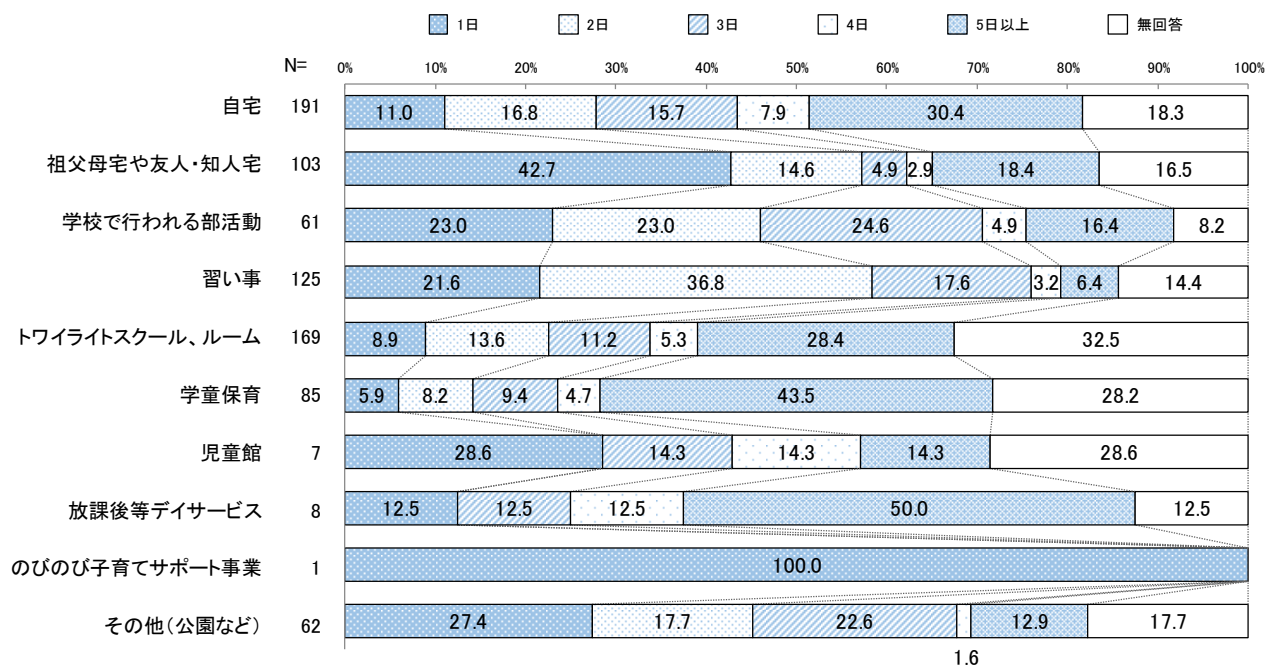


【1週間あたりの日数】

<小学校低学年（1～3年生）>

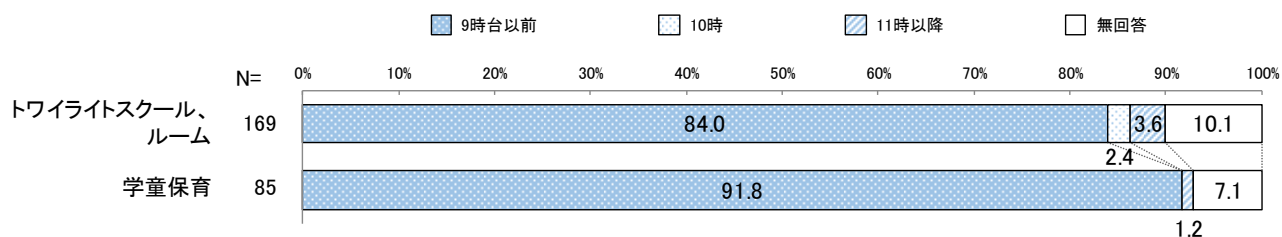


<小学校高学年（4～6年生）>

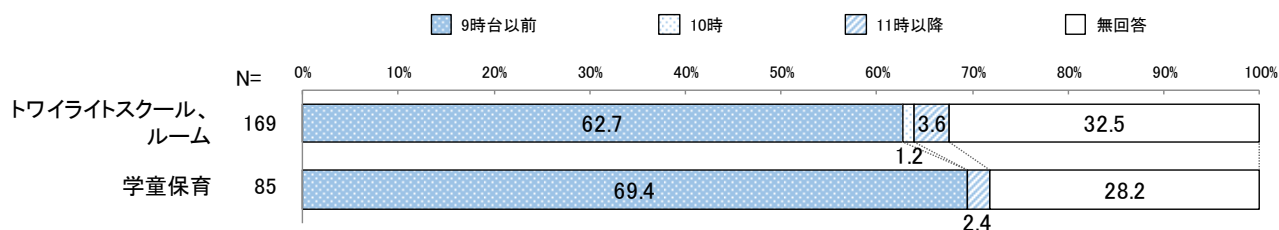


【利用開始時間】（トワイライトスクール、ルーム、学童保育のみ）

<小学校低学年（１～３年生）>

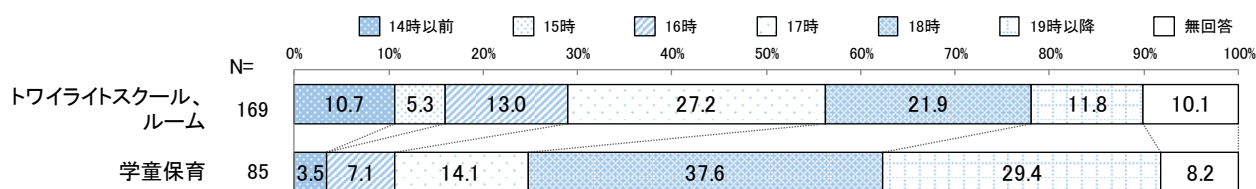


<小学校高学年（４～６年生）>

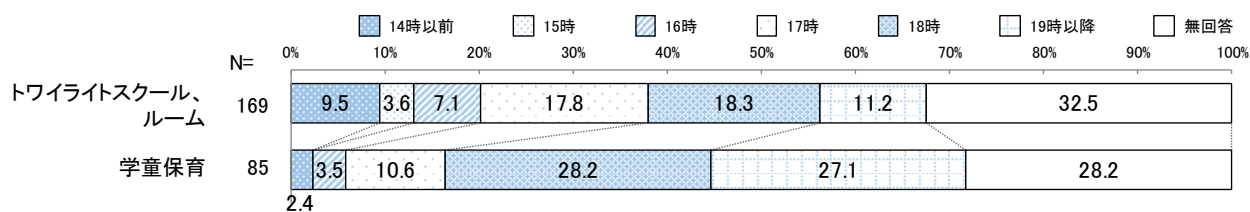


【利用終了時間】（トワイライトスクール、ルーム、学童保育のみ）

<小学校低学年（１～３年生）>



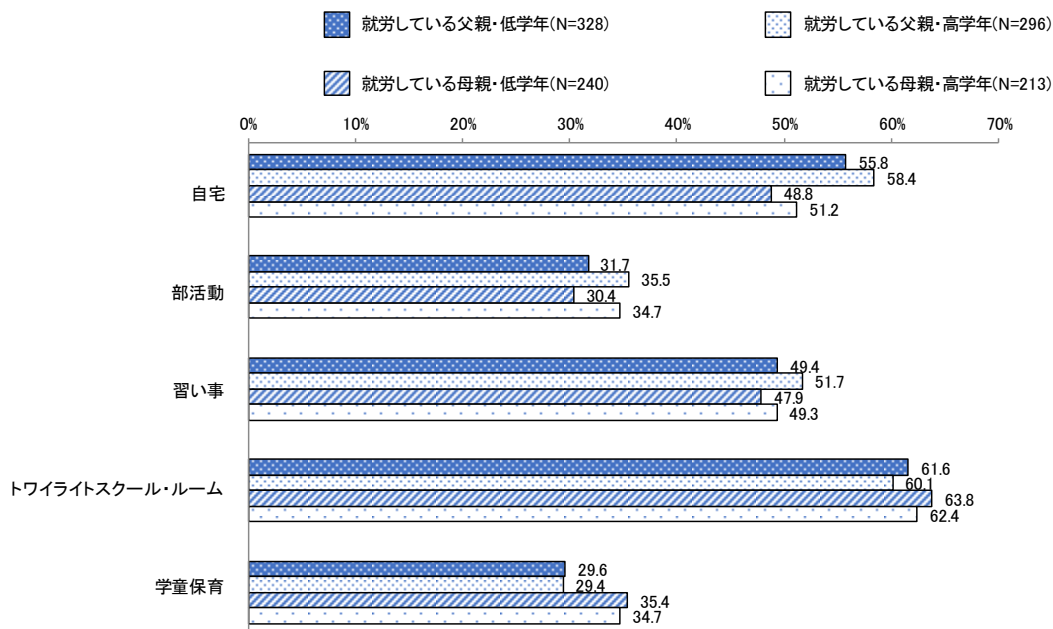
<小学校高学年（４～６年生）>



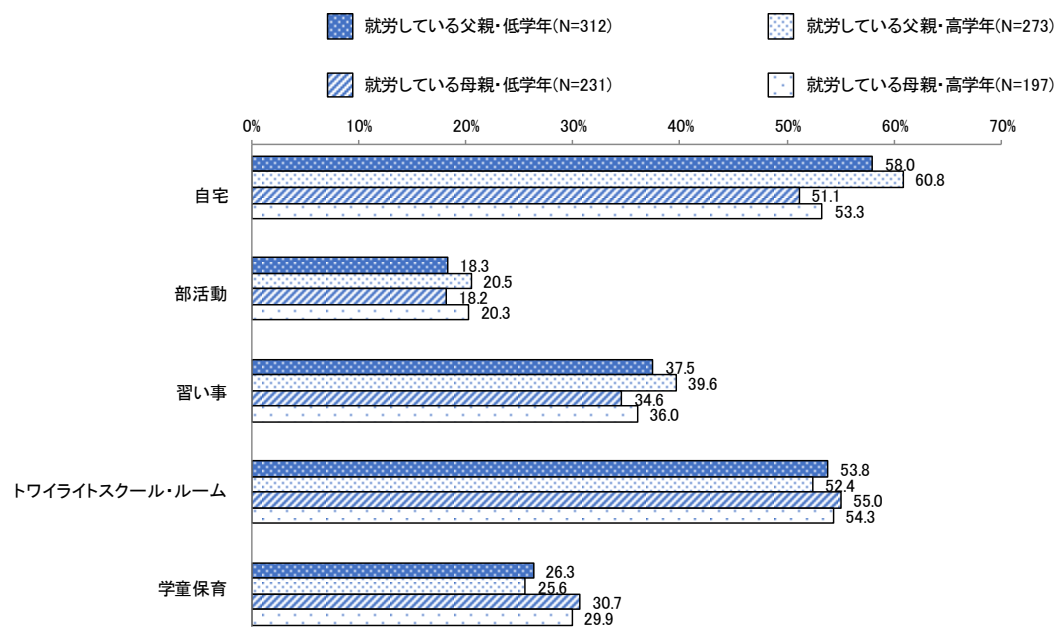
『就学後の過ごし方（就学前 問 59・60）と両親の就労状況（就学前 問 11・18）』

◎ 就労している親が「平日放課後や長期休暇中に過ごさせたい場所」は、小学校低学年・高学年ともに「トワイライトスクール、ルーム」が最も多い。

＜平日放課後に過ごさせたい場所＞



＜長期休暇中に過ごさせたい場所＞



名古屋市の子育て支援事業について 【就学前 問 61～問 67】

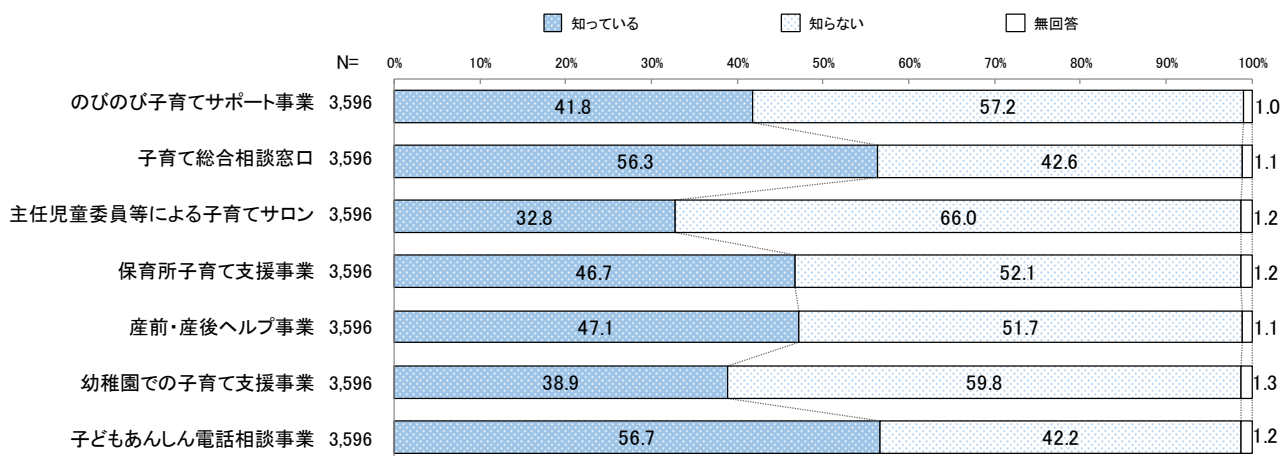
■名古屋市が行う子育て支援事業についてあてはまるものを選んでください。

【参考】

名古屋市の子育て支援事業	内 容
のびのび子育てサポート事業	子育ての援助を行いたい方と、受けたい方からなる会員組織により、一時的に子育ての手助けをしあう制度
子育て総合相談窓口（子育て世代包括支援センター）	専任の保健師等が子育てに関する相談に応じる窓口で、市内全保健センターに設置
主任児童委員等による子育てサロン	主任児童委員等が中心となり、地域のコミュニティセンター等において、乳幼児とその親が気軽に集える交流の場の提供や、スタッフによる育児相談を実施 また、親子で楽しむ講座等も開催
保育所子育て支援事業	地域子育て支援センター以外の保育所が、地域の子育て中の親子を対象として行う子育て支援の事業（園庭開放、行事への招待、育児相談など）
産前・産後ヘルプ事業	妊娠中または出産後の体調不良などにより、家事・育児が困難な家庭にヘルパーを派遣し、家事・育児をお手伝いする制度
幼稚園での子育て支援事業	幼稚園が未就園の親子に行う子育て支援の事業（園庭開放、遊びの会、子育て相談など）
子どもあんしん電話相談事業	夜間の子どもの急な発熱や事故などの場合に、家庭での応急手当や見守り方、医療機関への受診の必要性や育児、母子の健康に関することなどについて、看護師等が電話でアドバイスをを行う

(1) 事業の認知度

- ◇ 全体で認知度の高い事業は、「子どもあんしん電話相談事業」(56.7%)、「子育て総合相談窓口」(56.3%)である。
- ◇ 「子どもあんしん電話相談事業」と「子育て総合相談窓口」を除く全ての項目では、過半数が「知らない」と回答している。

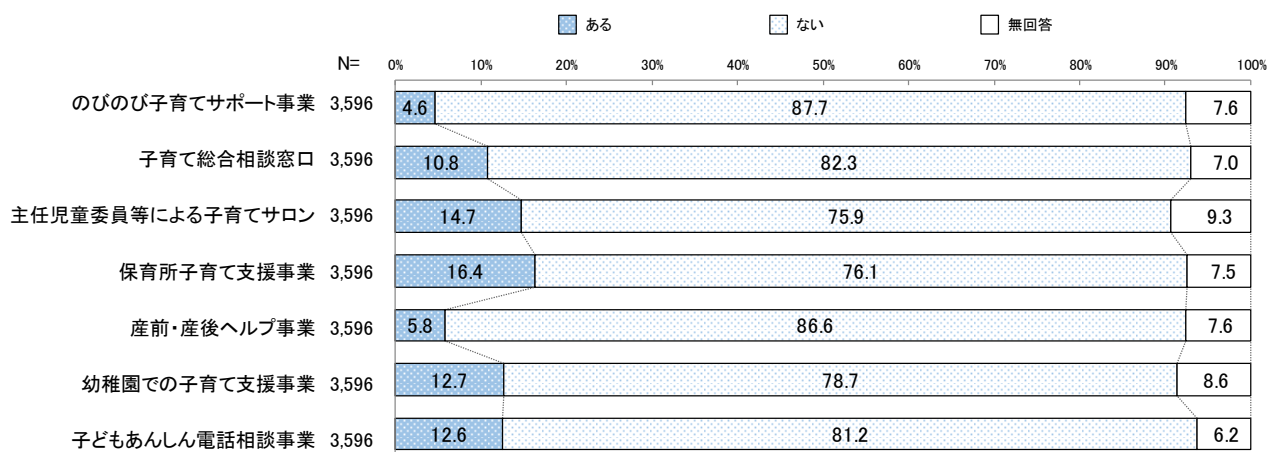


【前回調査との数値比較】

	この事業を知っている		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
のびのび子育てサポート事業	49.0	41.8	▲ 7.2
子育て総合相談窓口	54.2	56.3	2.1
主任児童委員等による子育てサロン	40.7	32.8	▲ 7.9
保育所子育て支援事業	57.9	46.7	▲ 11.2
産前・産後ヘルプ事業	42.7	47.1	4.4
幼稚園での子育て支援事業	51.4	38.9	▲ 12.5
子どもあんしん電話相談事業	65.8	56.7	▲ 9.1

(2) 利用の有無

- ◇ 全体で利用実績の高い事業は、「保育所子育て支援事業」(16.4%)、「主任児童委員等による子育てサロン」(14.7%)である。
- ◇ 全ての事業で、7割以上の人を利用したことがない。

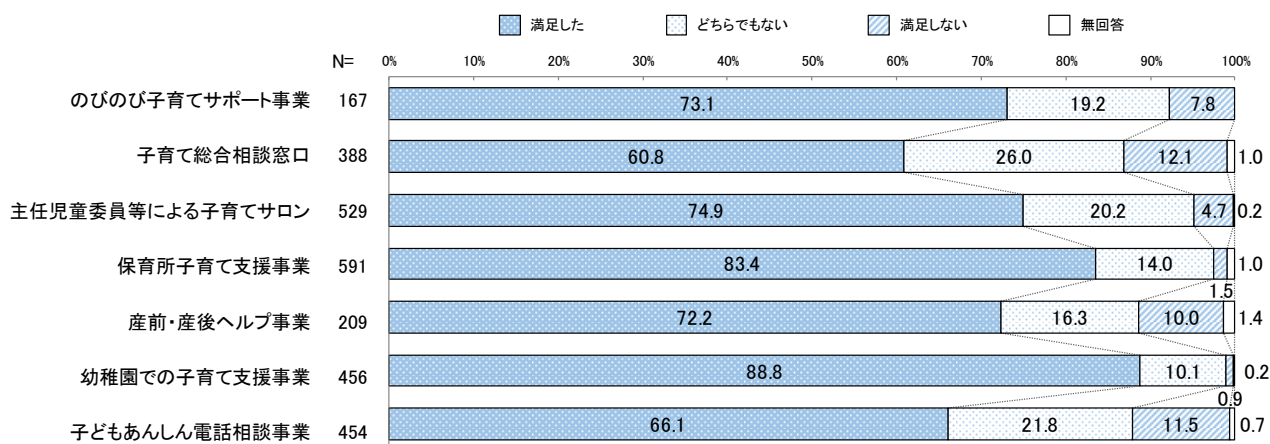


【前回調査との数値比較】

	この事業を利用したことがある		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
のびのび子育てサポート事業	10.1	4.6	▲ 5.5
子育て総合相談窓口	17.2	10.8	▲ 6.4
主任児童委員等による子育てサロン	56.2	14.7	▲41.5
保育所子育て支援事業	45.0	16.4	▲28.6
産前・産後ヘルプ事業	7.8	5.8	▲ 2.0
幼稚園での子育て支援事業	45.1	12.7	▲32.4
子どもあんしん電話相談事業	31.9	12.6	▲19.3

(3) 満足度

- ◇ 全体で満足度の高い事業は、「幼稚園での子育て支援事業」(88.8%)、「保育所子育て支援事業」が(83.4%)である。
- ◇ 「満足しない」の割合が最も高いのは、「子育て総合相談窓口」(12.1%)である。

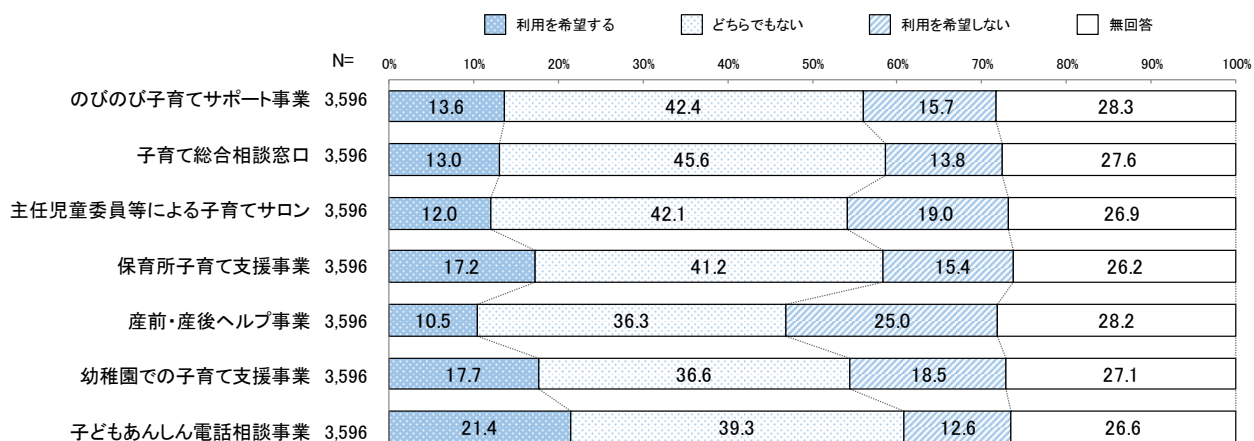


【前回調査との数値比較】

	この事業に満足した		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
のびのび子育てサポート事業	66.8	73.1	6.3
子育て総合相談窓口	58.3	60.8	2.5
主任児童委員等による子育てサロン	70.5	74.9	4.4
保育所子育て支援事業	81.1	83.4	2.3
産前・産後ヘルプ事業	79.3	72.2	▲ 7.1
幼稚園での子育て支援事業	82.0	88.8	6.8
子どもあんしん電話相談事業	72.7	66.1	▲ 6.6

(4) 今後の利用希望

- ◇ 全体で利用希望の多い事業は、「子どもあんしん電話相談事業」(21.4%)、「幼稚園での子育て支援事業」(17.7%)、「保育所子育て支援事業」(17.2%)である。
- ◇ 「利用を希望しない」の割合が最も高いのは、「産前・産後ヘルプ事業」(25.0%)である



【前回調査との数値比較】

	今後利用を希望する		
	平成 30 年	令和 5 年	変化量
のびのび子育てサポート事業	11.2	13.6	2.4
子育て総合相談窓口	13.2	13.0	▲ 0.2
主任児童委員等による子育てサロン	15.0	12.0	▲ 3.0
保育所子育て支援事業	21.9	17.2	▲ 4.7
産前・産後ヘルプ事業	9.0	10.5	1.5
幼稚園での子育て支援事業	23.9	17.7	▲ 6.2
子どもあんしん電話相談事業	28.2	21.4	▲ 6.8

各種地域の子育て支援事業の利用について 【就学前 問 68～問 70】

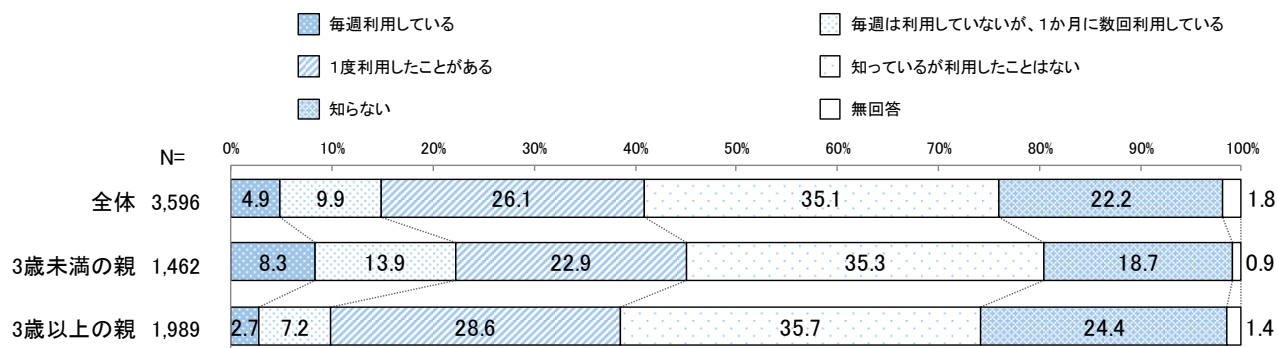
■各種地域の子育て支援事業についてあてはまるものを選んでください。

【参考】

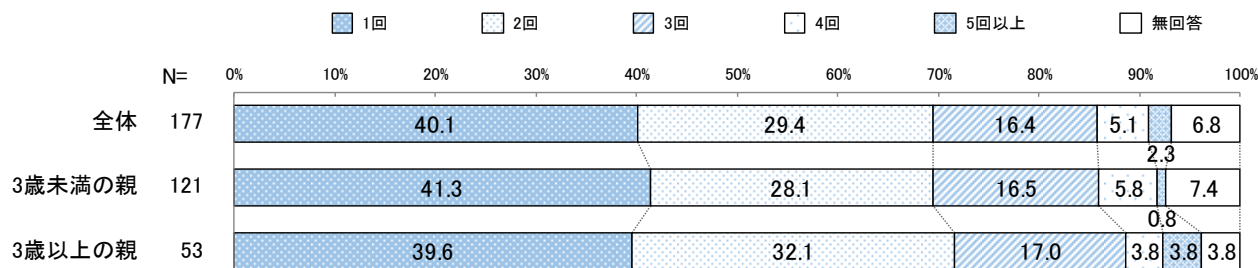
地域の子育て支援の事業	内 容
地域子育て支援拠点事業（つどいの広場を含む）	主に0歳～3歳の親子が気軽に集い、相談・交流を図ることができる場を提供する事業
保育所地域子育て支援センター	地域の子育て家庭を総合的に支援するため、保育所において、専任の職員を配置し、育児不安等の相談、子育てサークル等の支援、地域の子育て事業の情報提供などを行う事業
児童館での子育て支援事業	乳幼児とその保護者を対象としたクラブや交流事業、子育て家庭に対する相談援助、子育てサークル等に対しての活動場所の提供・支援
758キッズステーション（名古屋子ども・子育て支援センター）	子育て支援関係機関のネットワークづくりや子育てサークルへの支援などを行う子育て相談・交流のネットワークの拠点施設

【利用の状況等】

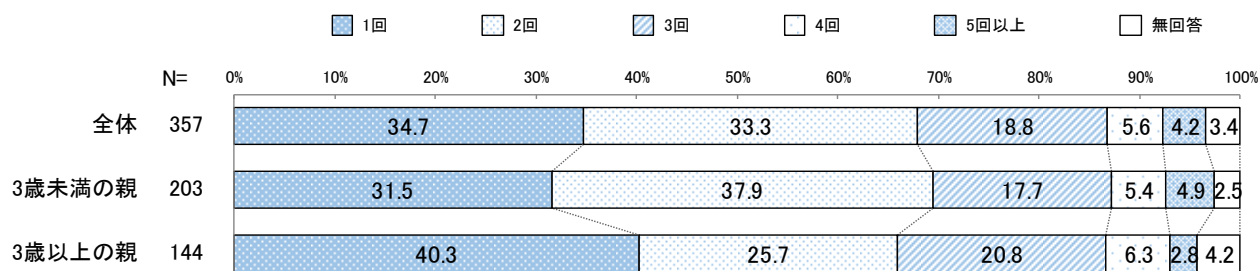
- ◇ 全体では、「知っているが利用したことはない」の割合が 35.1%と最も高い。
- ◇ 利用したことのある割合は、「3歳未満の親」が 45.1%、「3歳以上の親」が 38.5%となっている。



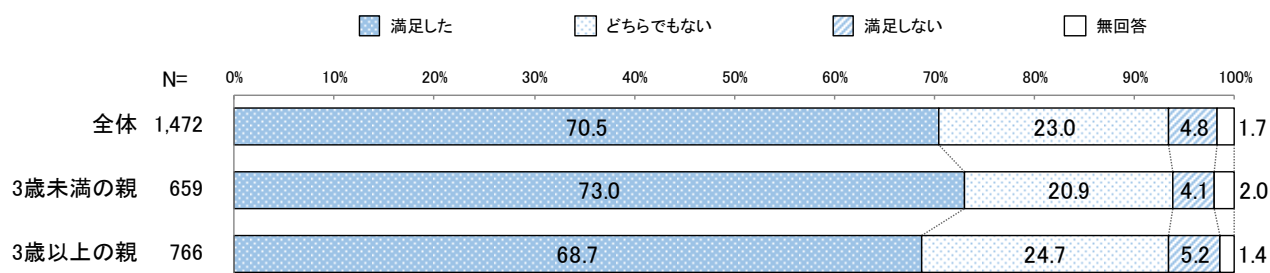
< 1 週あたりの利用回数 >



< 1 か月あたりの利用回数 >

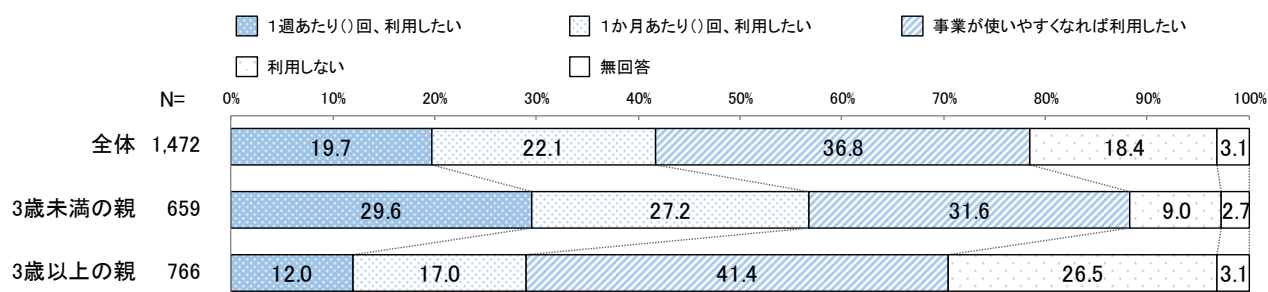


【満足度】

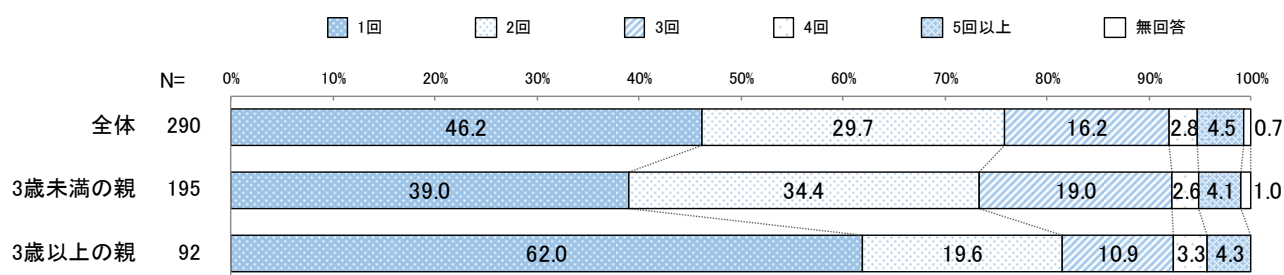


【今後の利用希望】

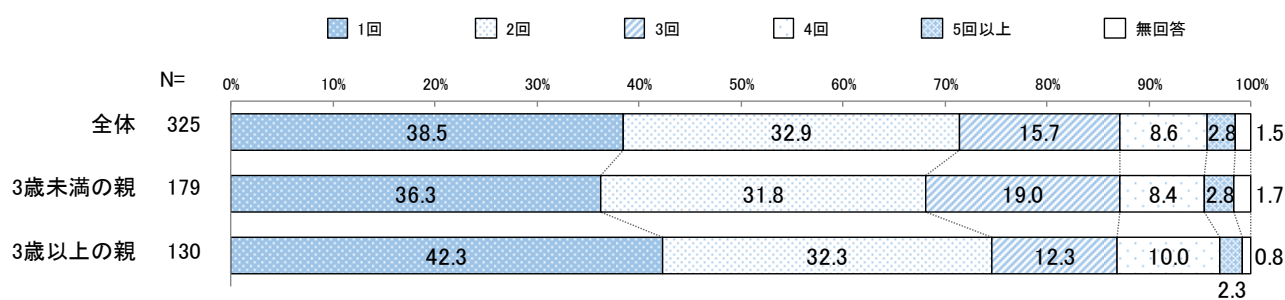
- ◇ 全体では、「1週あたり（ ）回、利用したい」「1か月あたり（ ）回、利用したい」をあわせると、41.8%となっている。
- ◇ 「事業が使いやすくなれば利用したい」の割合は、「3歳未満の親」が31.6%、「3歳以上の親」が41.4%となっている。



＜1週あたりの希望利用数＞



＜1か月あたりの希望利用回数＞

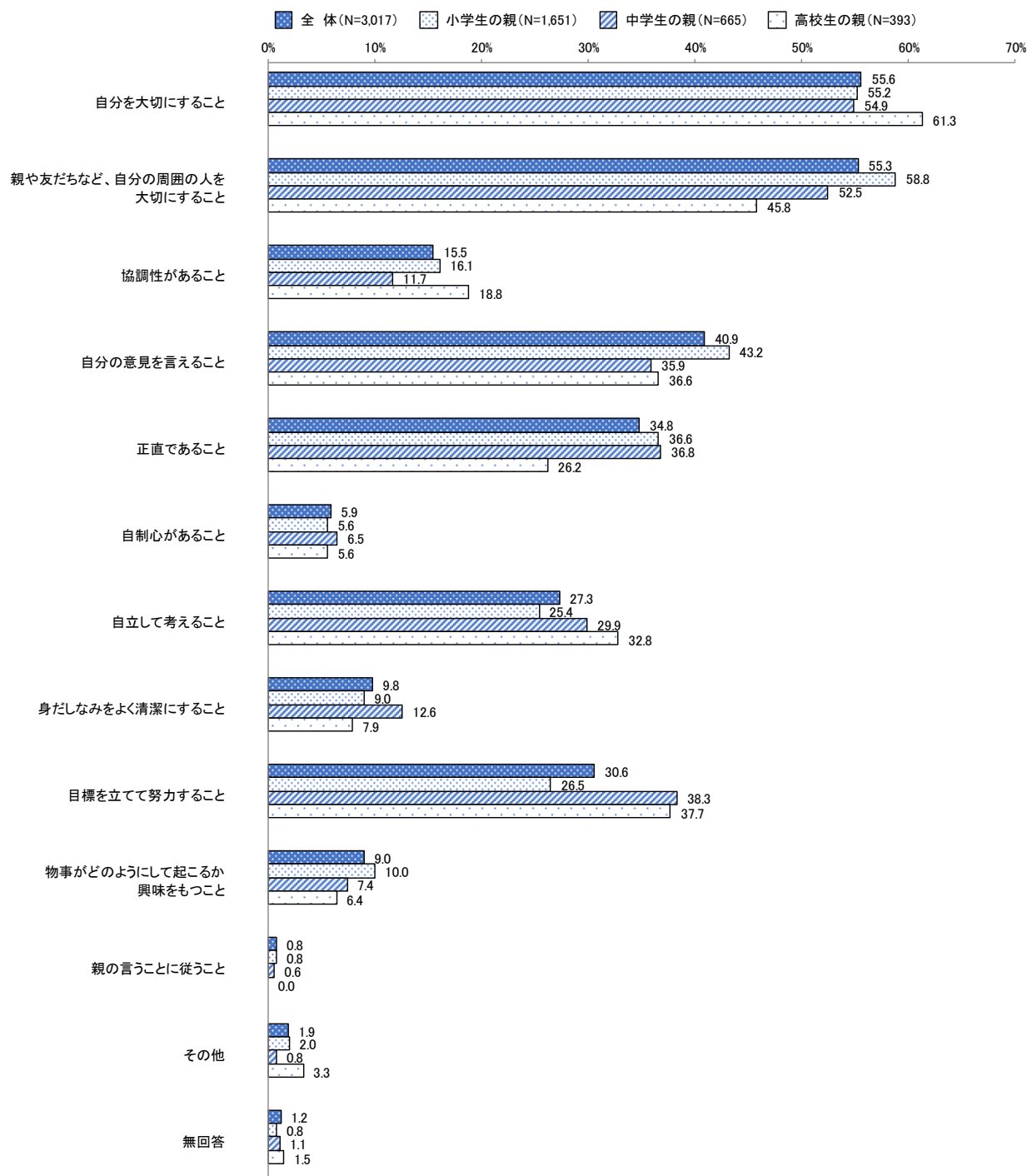


第4章 お子さんの年齢別に行った質問（就学後）

重視しているお子さんの教育について 【就学後 問8】

■あて名のお子さんの教育について、重視していることはありますか。（3つまで）

- ◇ 全体では、「自分を大切にすること」が55.6%と最も多く、次いで「親や友だちなど、自分の周囲の人を大切にすること」が55.3%となっている。
- ◇ 「自分を大切にすること」の割合は、いずれの年代の子どもをもつ親も過半数を占めている。

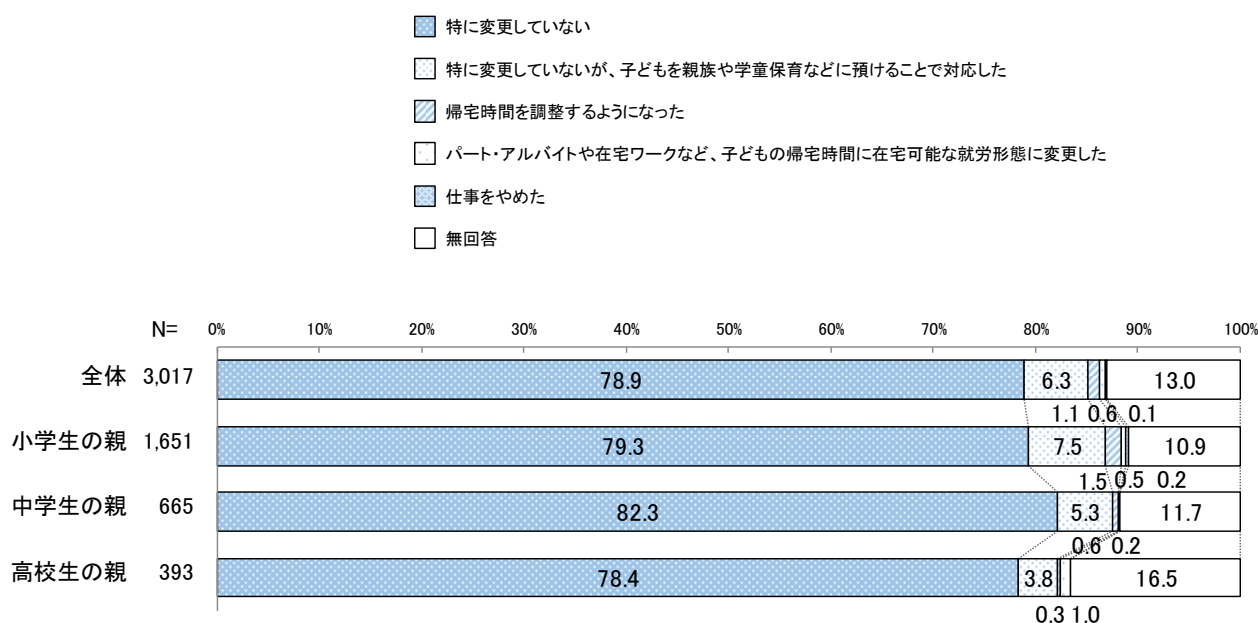


お子さんの入学による就労形態の変化について 【就学後 問 28】

■一番上のお子さんが小学校に入られたことをきっかけに、父親、母親の就労形態などを変更しましたか。(1つ)

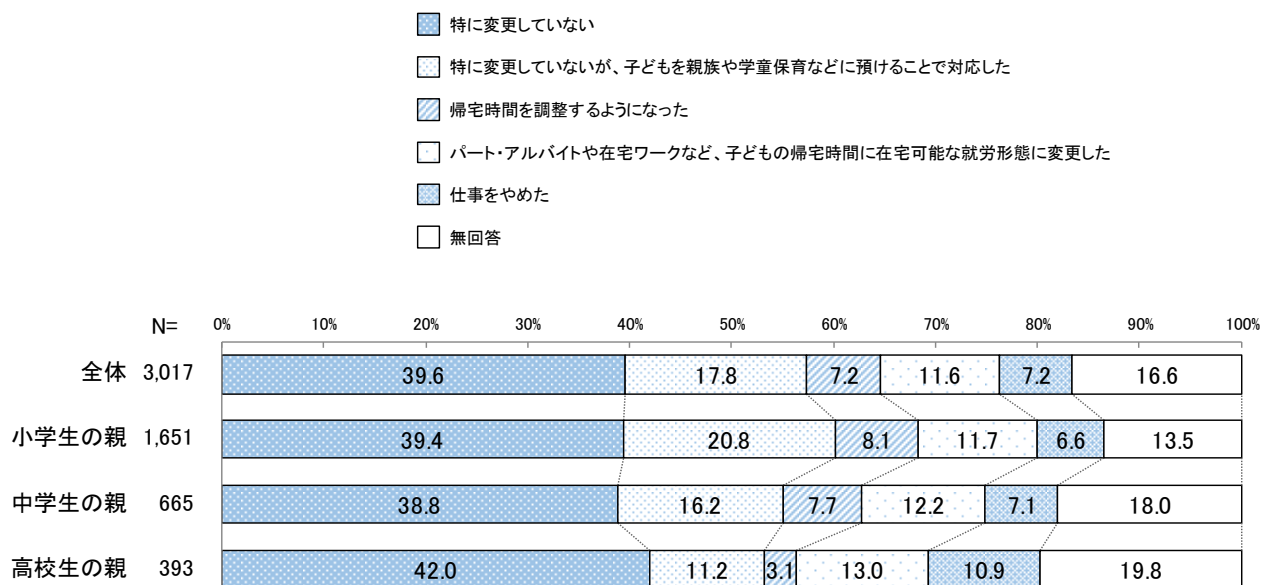
(1) 父親

- ◇ 全体では、「特に変更していない」が 78.9%と最も多く、次いで「特に変更していないが、子どもを親族や学童保育などに預けることで対応した」が 6.3%である。
- ◇ 「中学生の親」「高校生の親」では、「仕事をやめた」と回答した人はいなかった。



(2) 母親

- ◇ 母親の場合、変更していない割合が全体で 57.4%と、父親の場合よりも割合が低くなる。
- ◇ 「パート・アルバイトや在宅ワークなど、子どもの帰宅時間に在宅可能な就労形態に変更した」は、いずれの年代の子どもをもつ母親も 1 割台となっている。



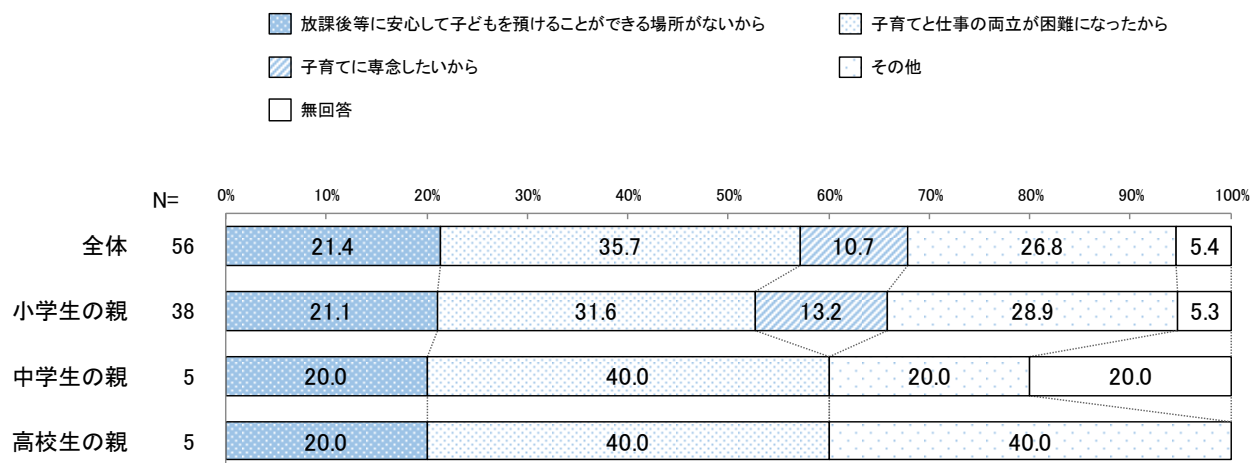
就労形態を変更した理由について 【就学後 問 29】

■就労形態などを変更した理由はなんですか。（1つ）

（１）父親

◇ 全体では、「子育てと仕事の両立が困難になったから」が 35.7%と最も多い。

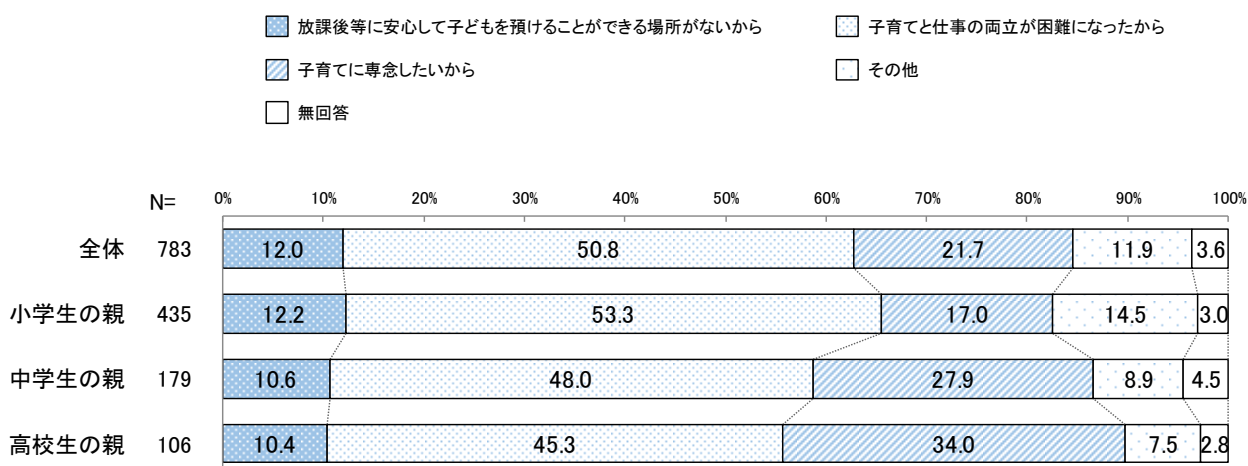
◇ 「中学生の親」と「高校生の親」では、「子育てに専念したいから」と回答した人はいない。



（２）母親

◇ 全体では、「子育てと仕事の両立が困難になったから」が 50.8%と最も多く、次いで「子育てに専念したいから」が 21.7%となっている。

◇ 「子育てに専念したいから」と回答した母親の割合は、子どもの年代が下がるにつれて減少している。



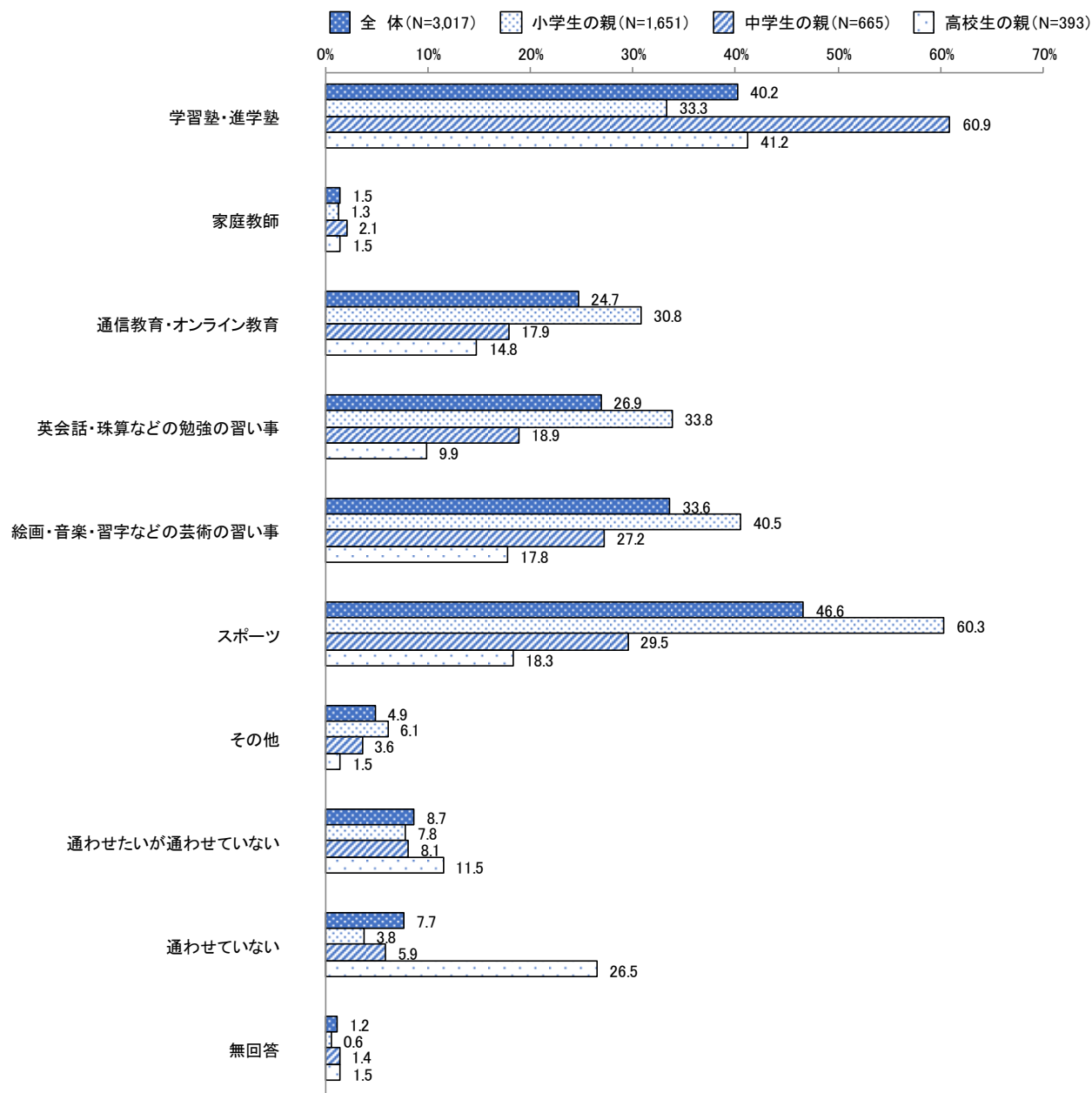
塾・習い事について 【就学後 問 38】

■あなたの世帯では、現在、お子さんは塾や習い事などに通っていますか。

(複数回答)

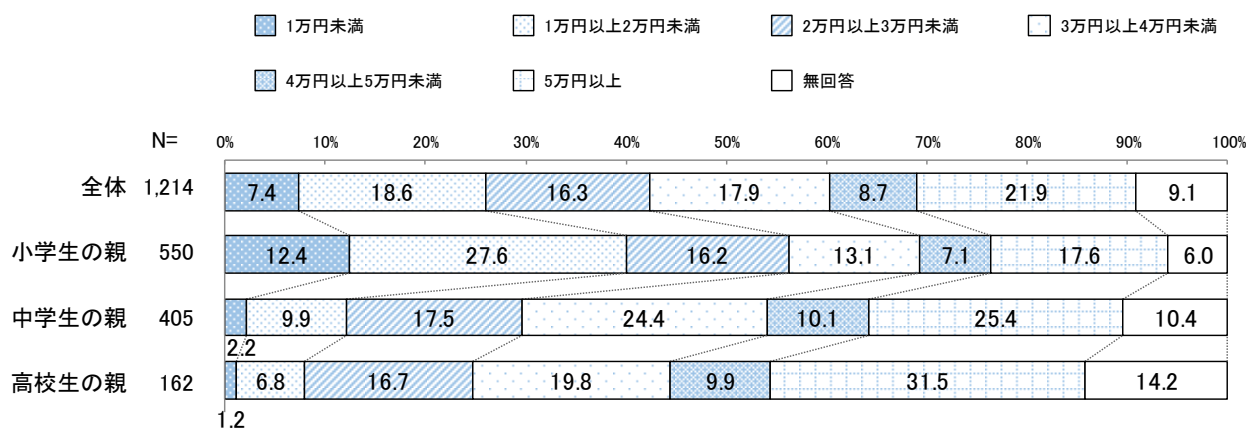
◇ 全体では、「スポーツ」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「学習塾・進学塾」が 40.2%、「絵画・音楽・習字などの芸術の習い事」が 33.6%、「英会話・珠算などの勉強の習い事」が 26.9%となっている。

◇ 小学生は「スポーツ」が 60.3%、中学生は「学習塾・進学塾」が 60.9%と割合が高い。

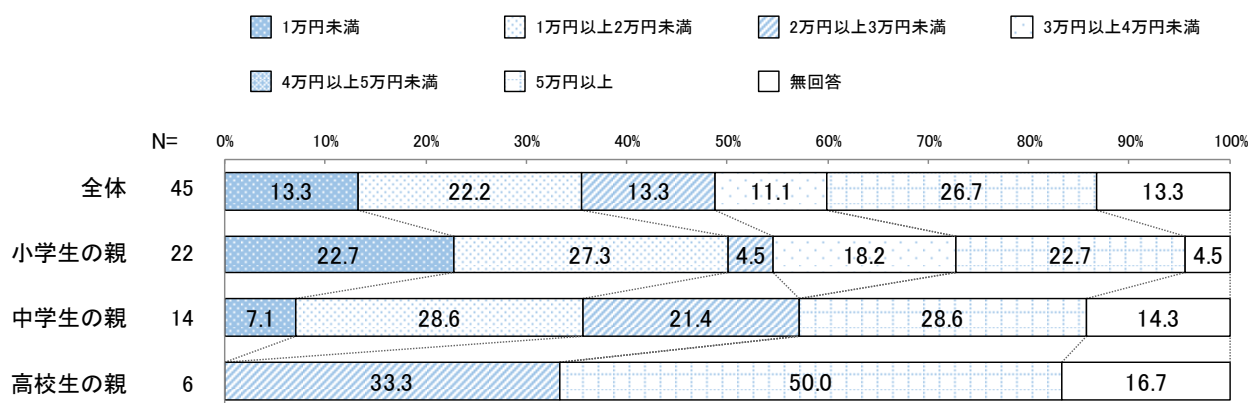


【1 か月にかかる費用】

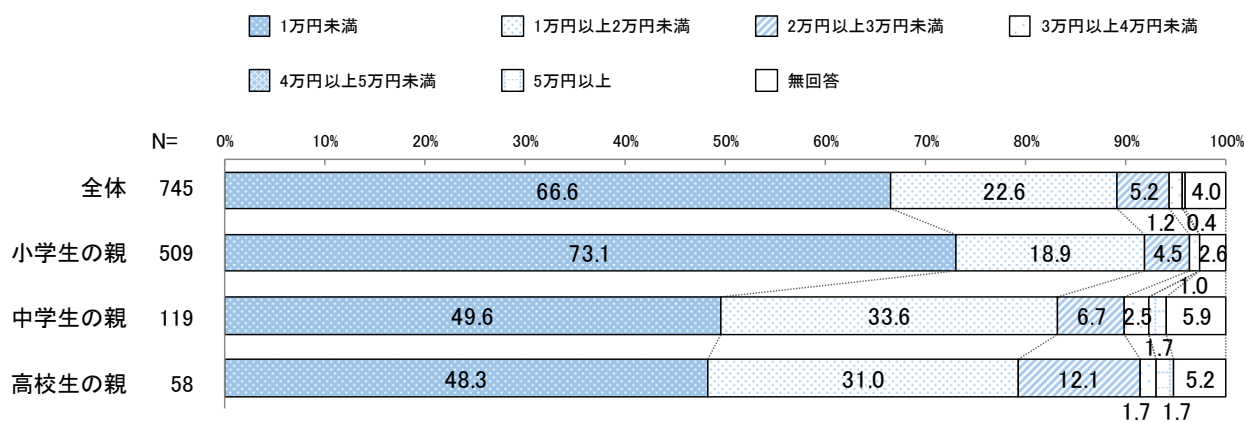
1. 学習塾・進学塾



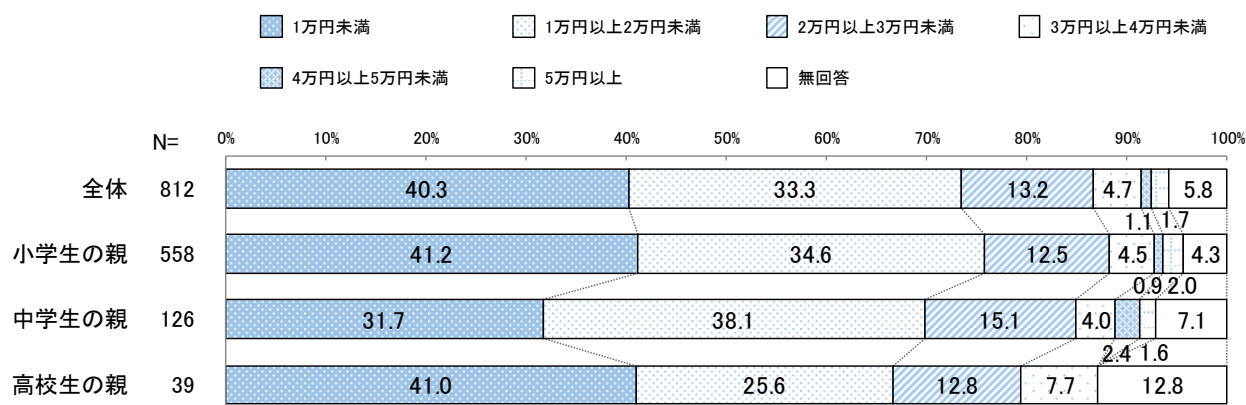
2. 家庭教師



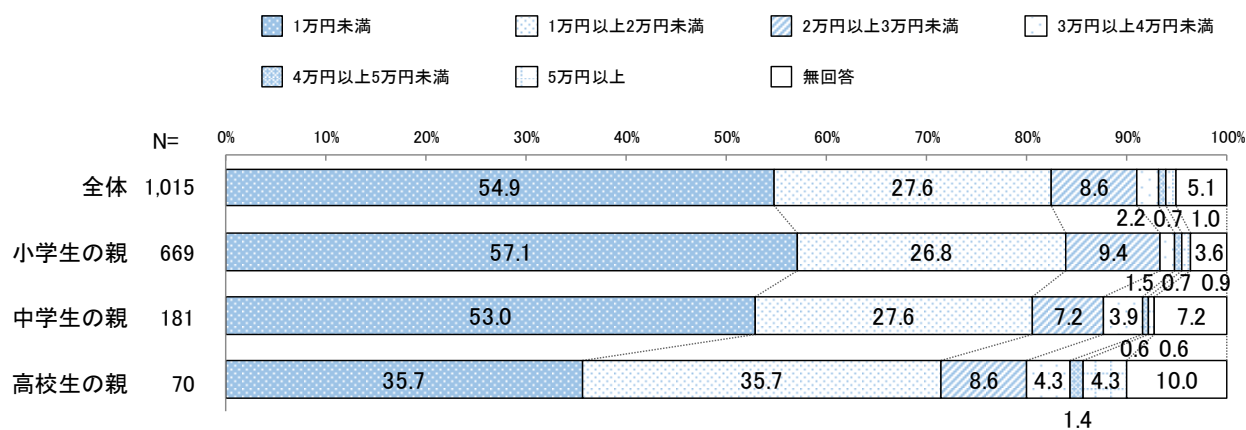
3. 通信教育・オンライン教育



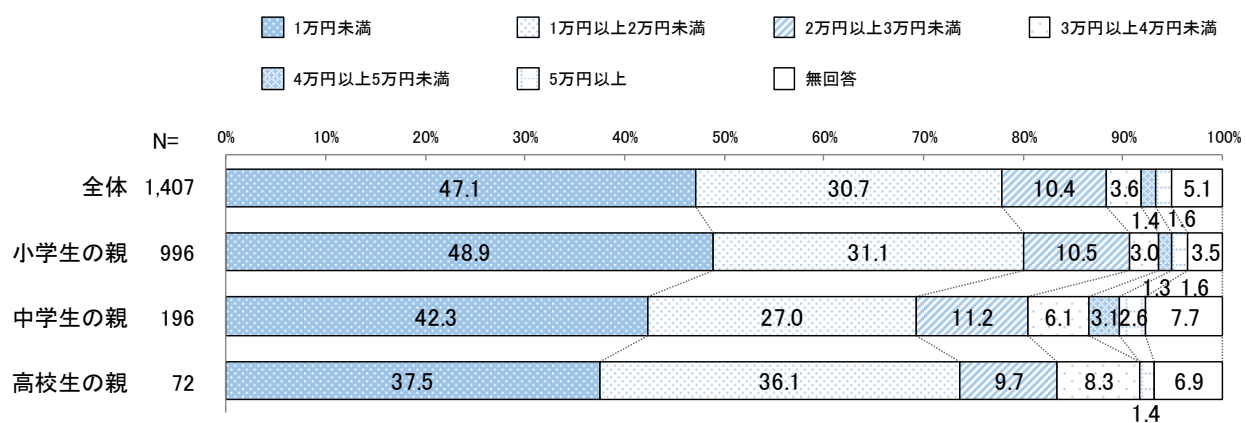
4. 英会話・珠算などの勉強の習い事



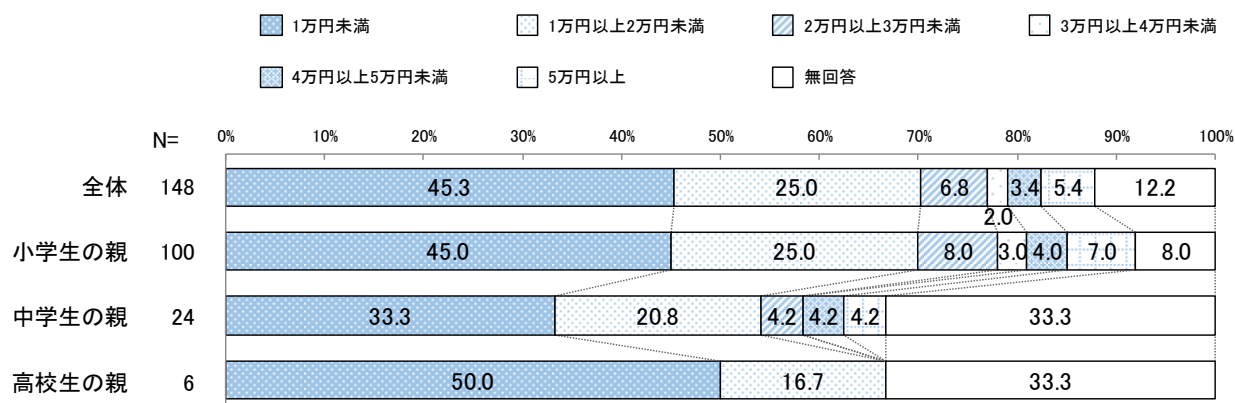
5. 絵画・音楽・習字などの芸術の習い事



6. スポーツ



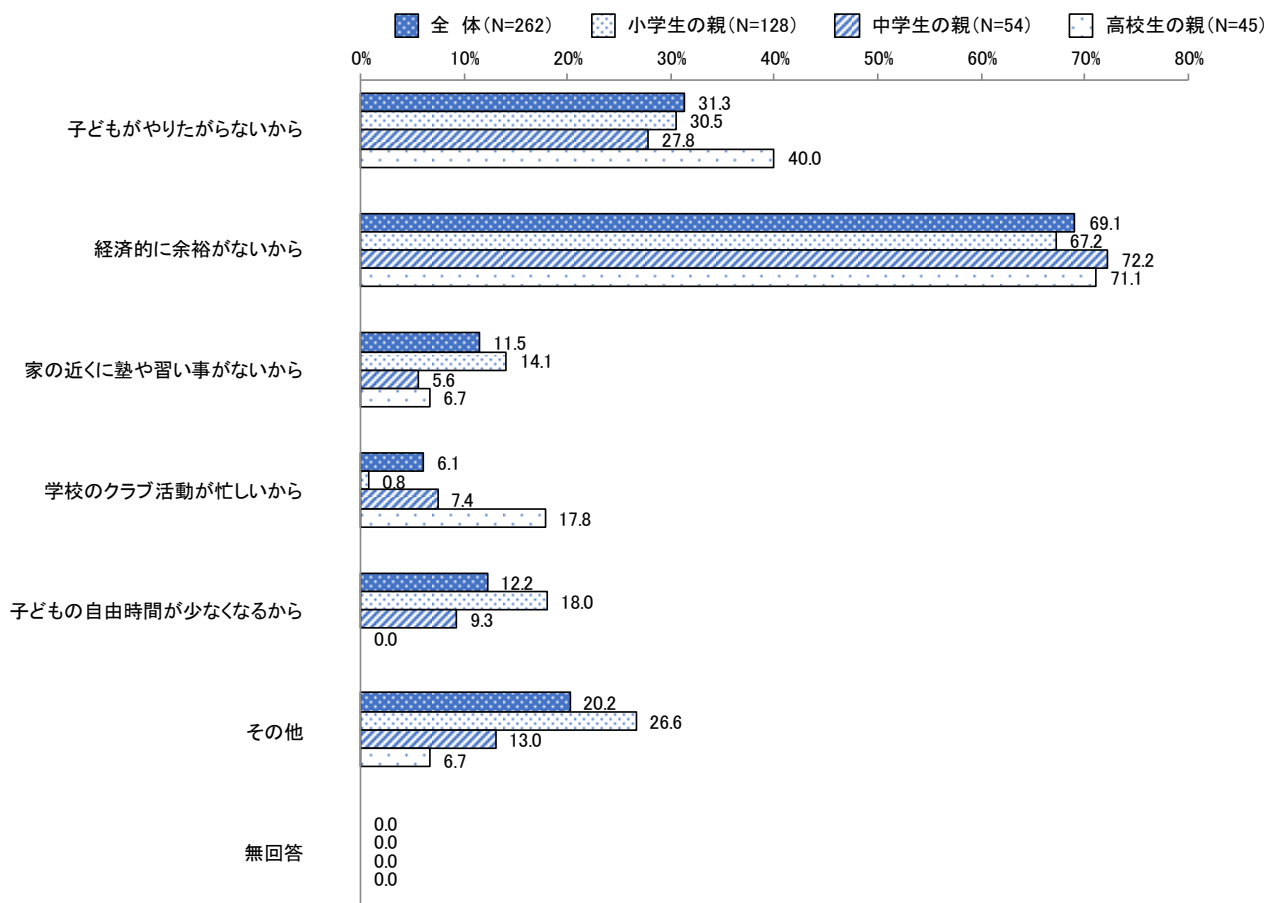
7. その他



塾・習い事に通わせていない理由について 【就学後 問 39】

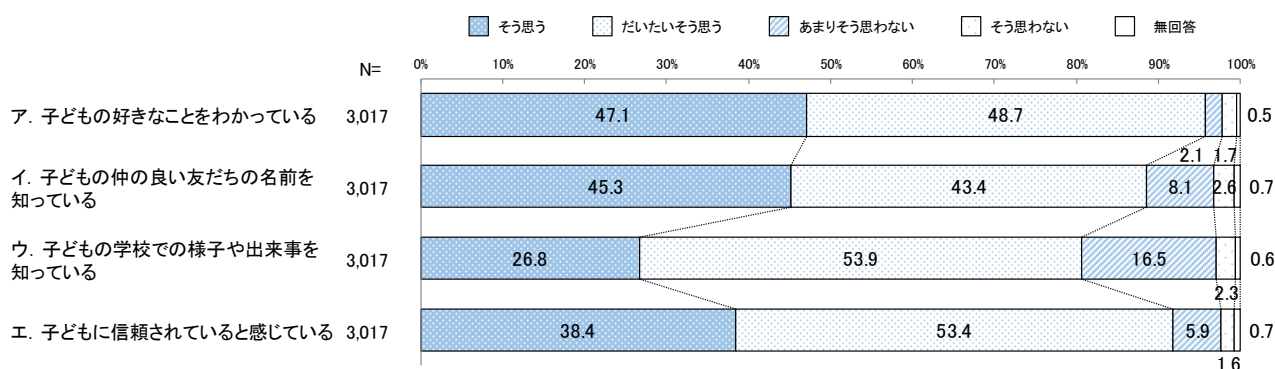
■塾や習い事に通わせたいが通わせていない理由は何ですか。(複数回答)

- ◇ 全体では、「経済的に余裕がないから」が69.1%と最も多く、次いで「子どもがやりたがらないから」が31.3%となっている。
- ◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、「経済的に余裕がないから」と回答した人がもっとも多く6割以上となっている。

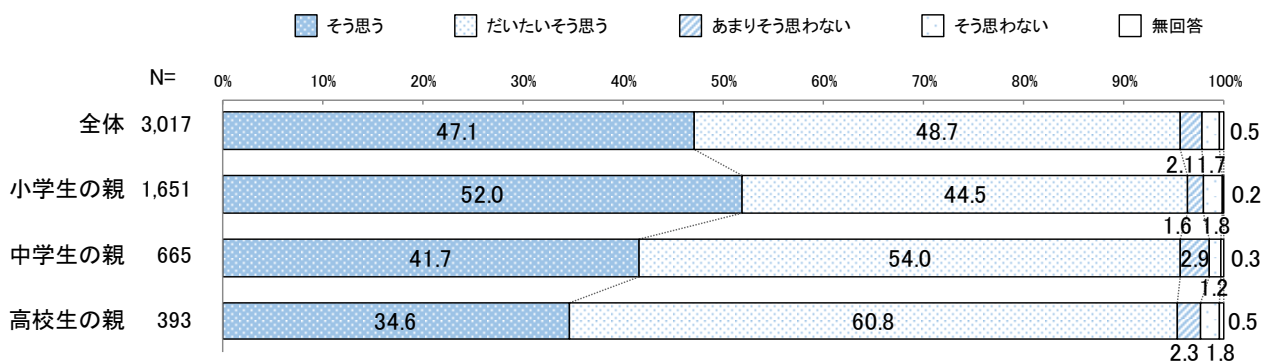


お子さんとの親子関係について 【就学後 問 50】

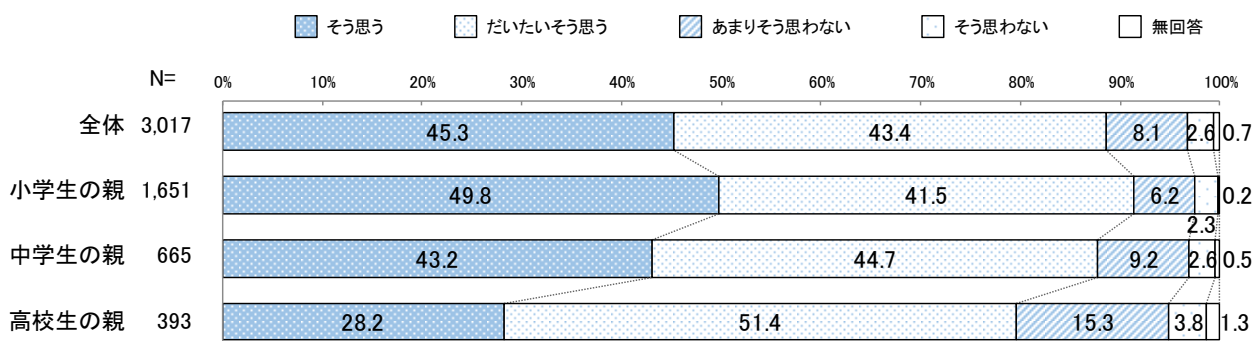
■あて名のお子さんとの関係に関する以下の項目について、あなたはどのように思われますか。(各1つ)



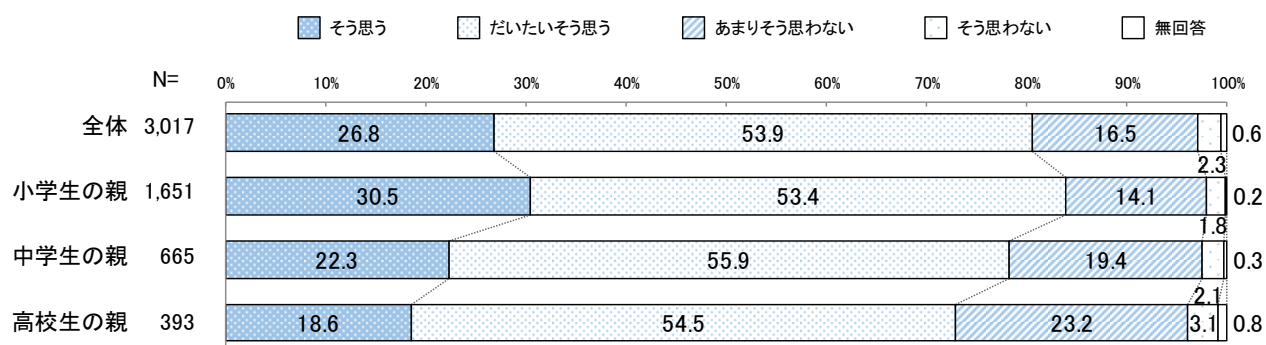
ア. 子どもの好きなことをよくわかっている



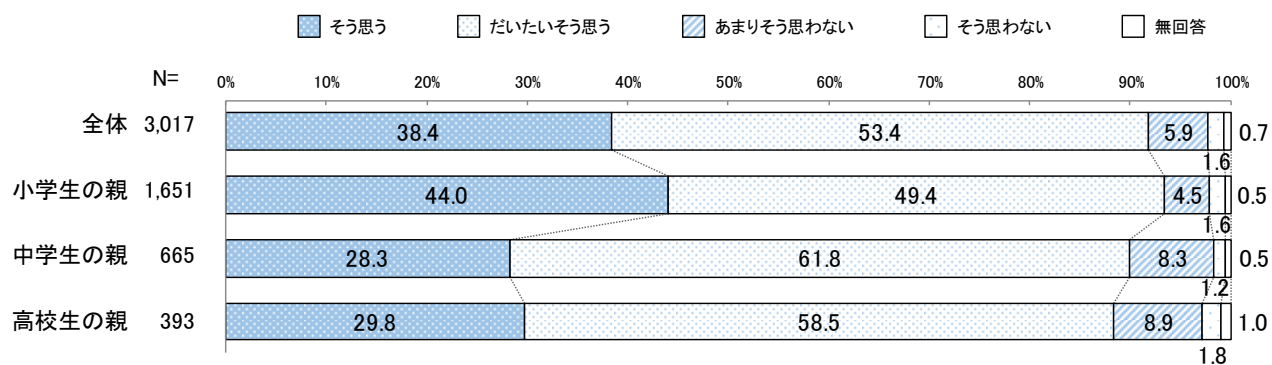
イ. 子どもの仲のいい友だちの名前を知っている



ウ. 子どもの学校での様子や出来事を知っている



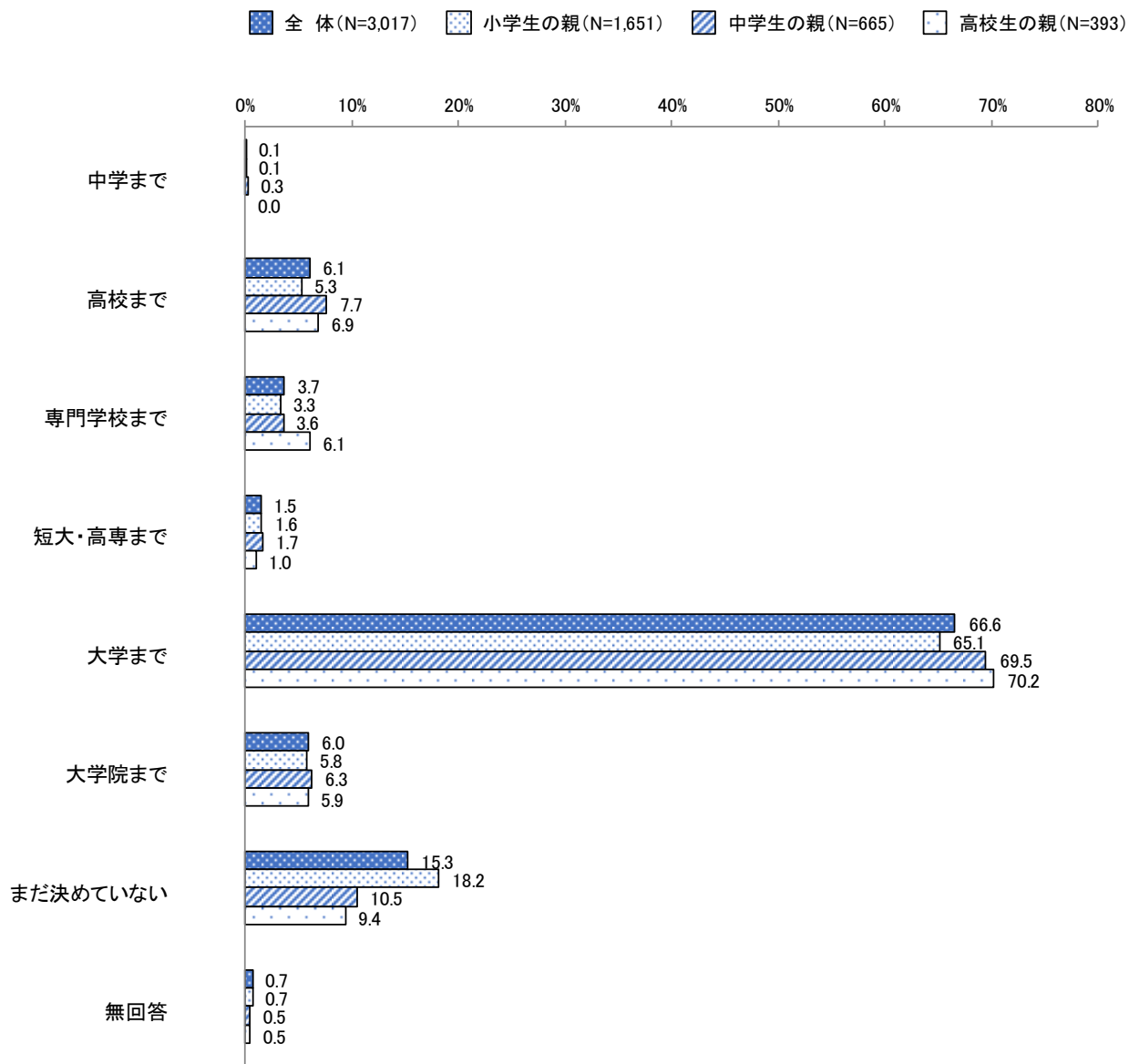
エ. 子どもに信頼されていると感じている



お子さんの進路について 【就学後 問 51】

■あなたは、あて名のお子さんに、最終的にどこまで進学してほしいと考えていますか。(1つ)

- ◇ 全体では、「大学まで」が最も多く 66.6%である。さらに、「大学院まで」の割合 6.0%を 足すと、72.6%が大学以上の進学を望んでいる。
- ◇ 「まだ決めていない」の割合は、「小学生の親」が 18.2%、「中学生の親」が 10.5%、「高校生の親」が 9.4%となっている。

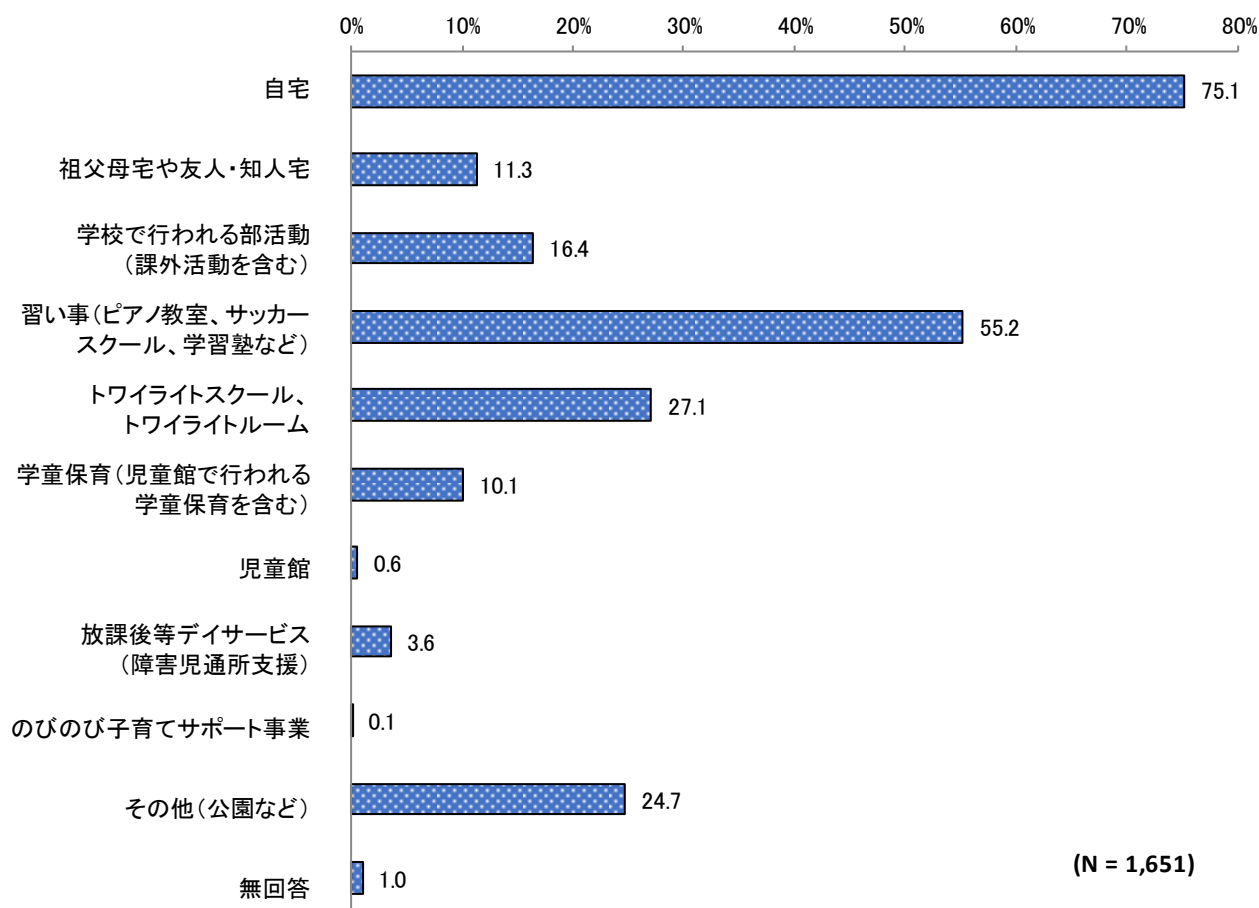


【あて名のお子さんが小学生の保護者のかた】

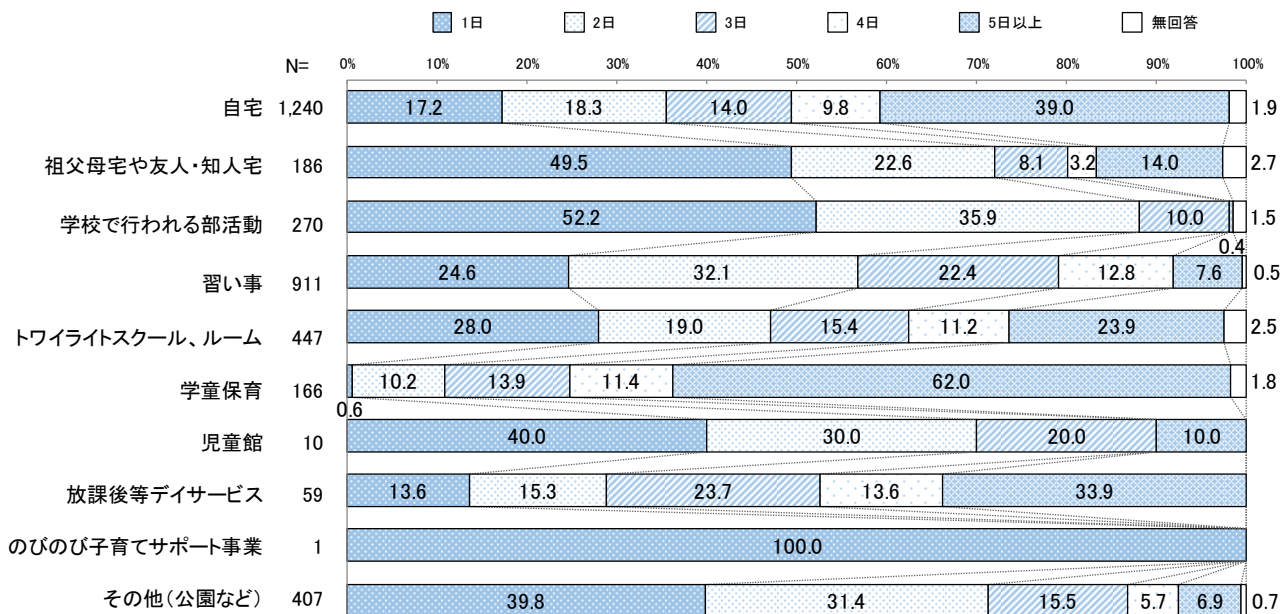
お子さんの放課後の過ごし方について 【就学後 問 52】

■あて名のお子さんは、平日の放課後をどのように過ごしていますか。（複数回答）

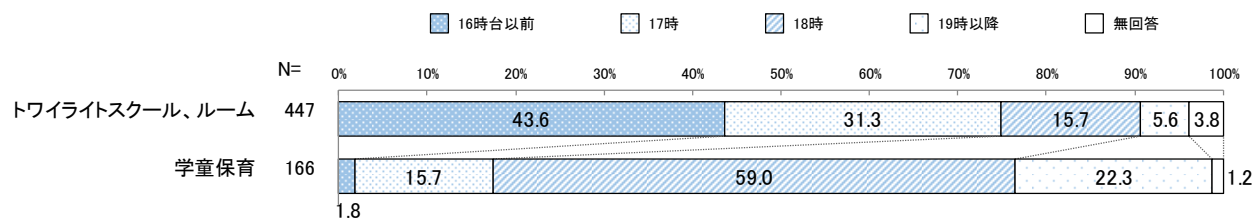
◇「自宅」が75.1%と最も多く、次いで「習い事」が55.2%となっている。



【1週間あたりの日数】



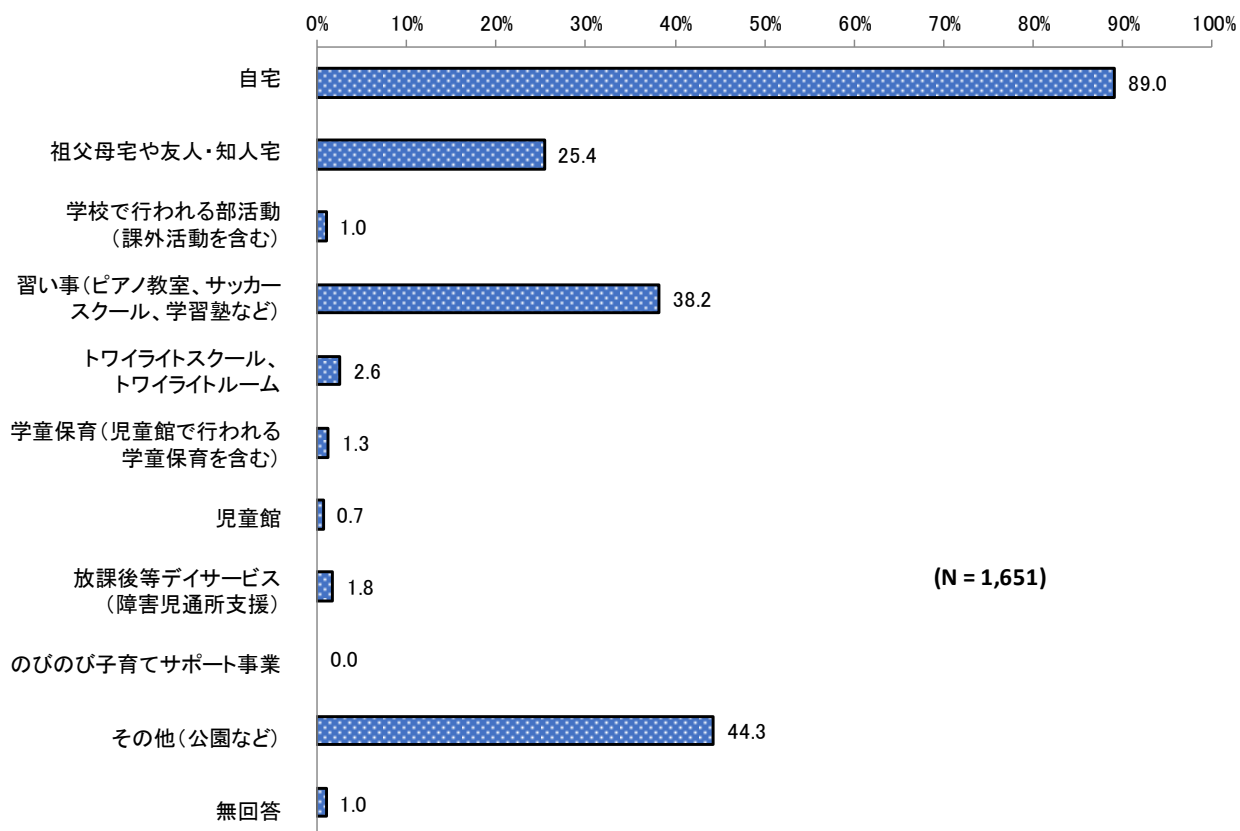
【利用終了時間】（トワイライトスクール、ルーム、学童保育のみ）



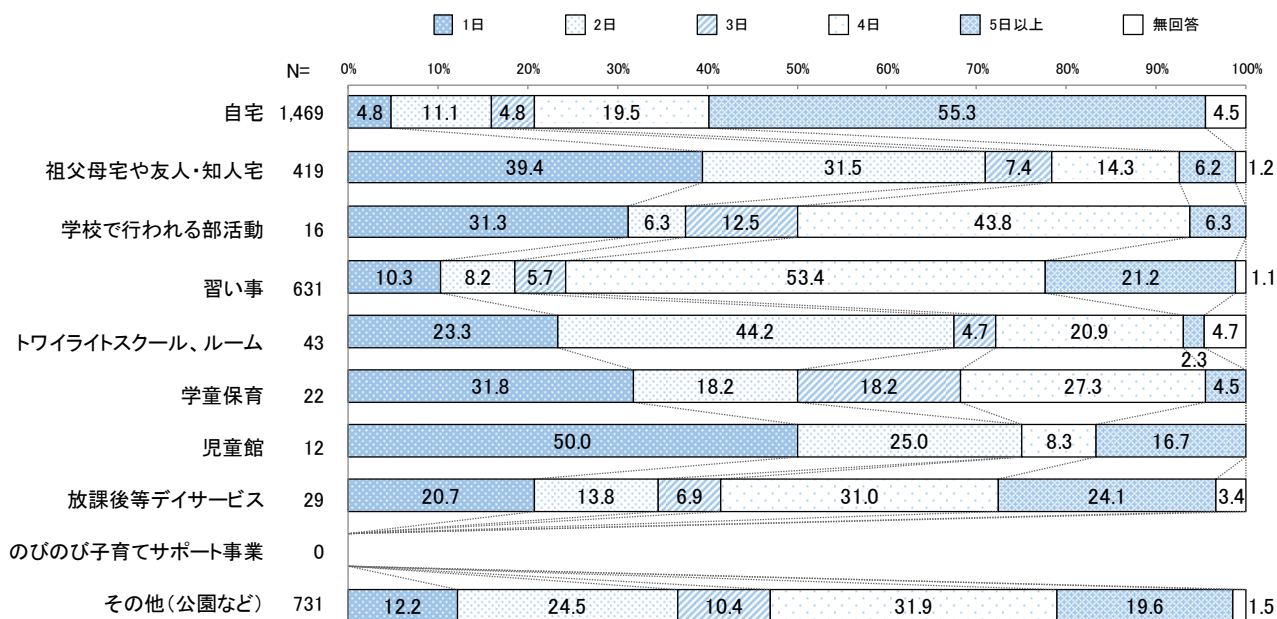
お子さんの休日（学校がない日）の過ごし方について 【就学後 問 53】

■あて名のお子さんは、休日（学校がない日）をどのように過ごしていますか。
（複数回答）

◇ 「自宅」が 89.0%と最も多い。

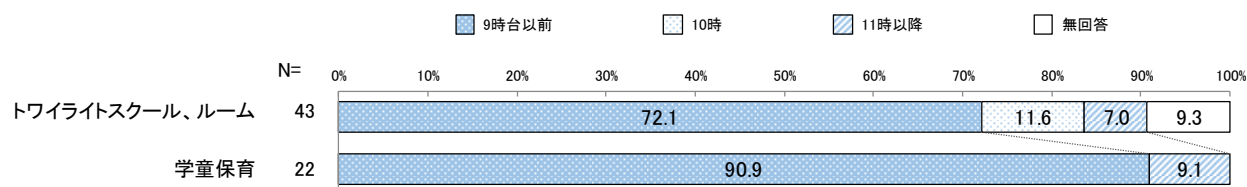


【1 か月あたりの日数】

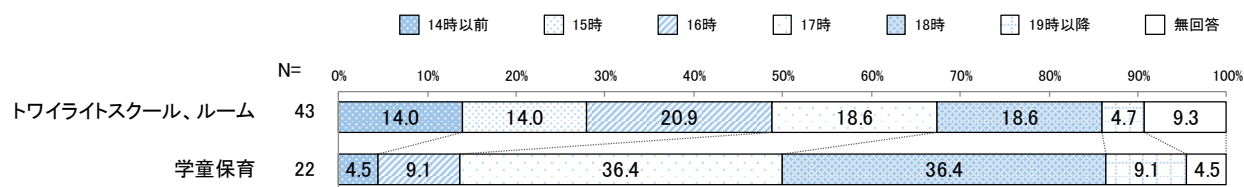


【利用時間】（トワイライトスクール、ルーム、学童保育のみ）

<始まり>



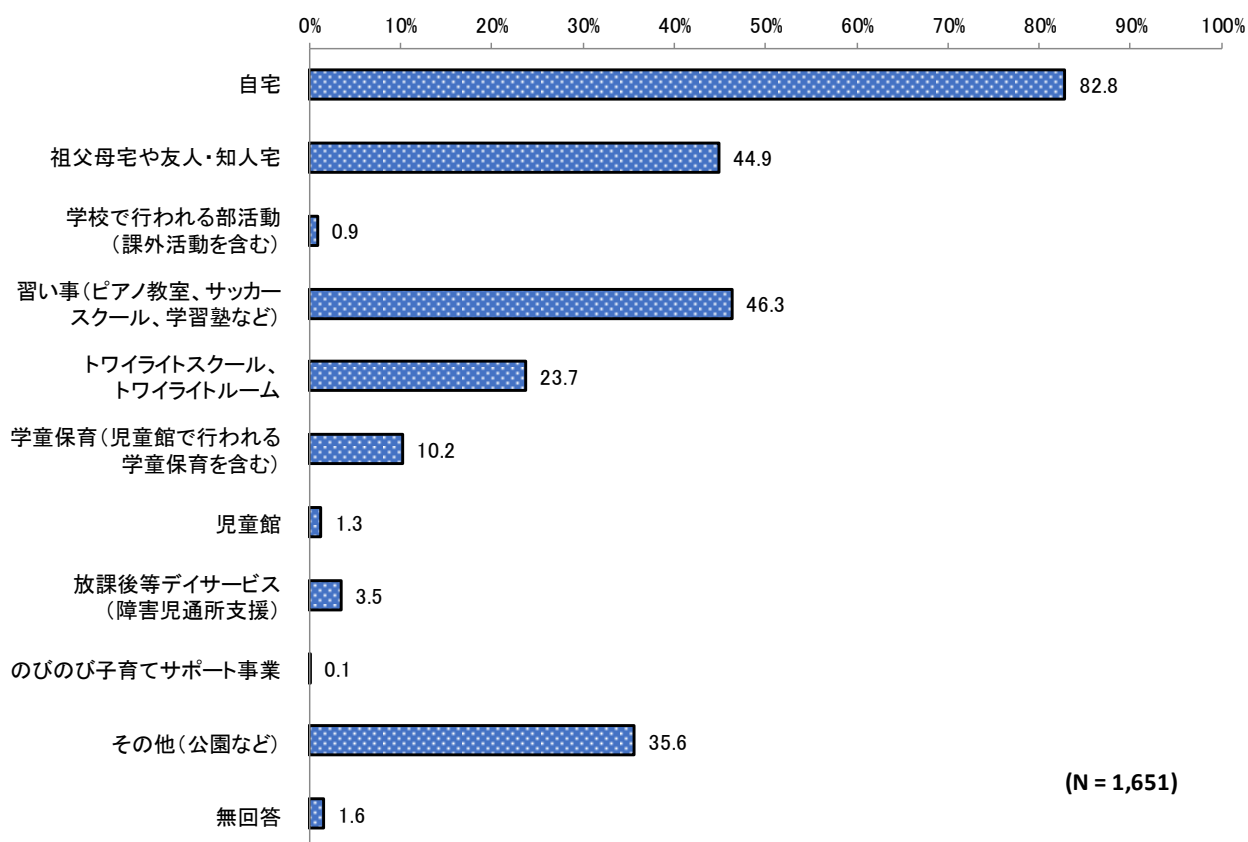
<終わり>



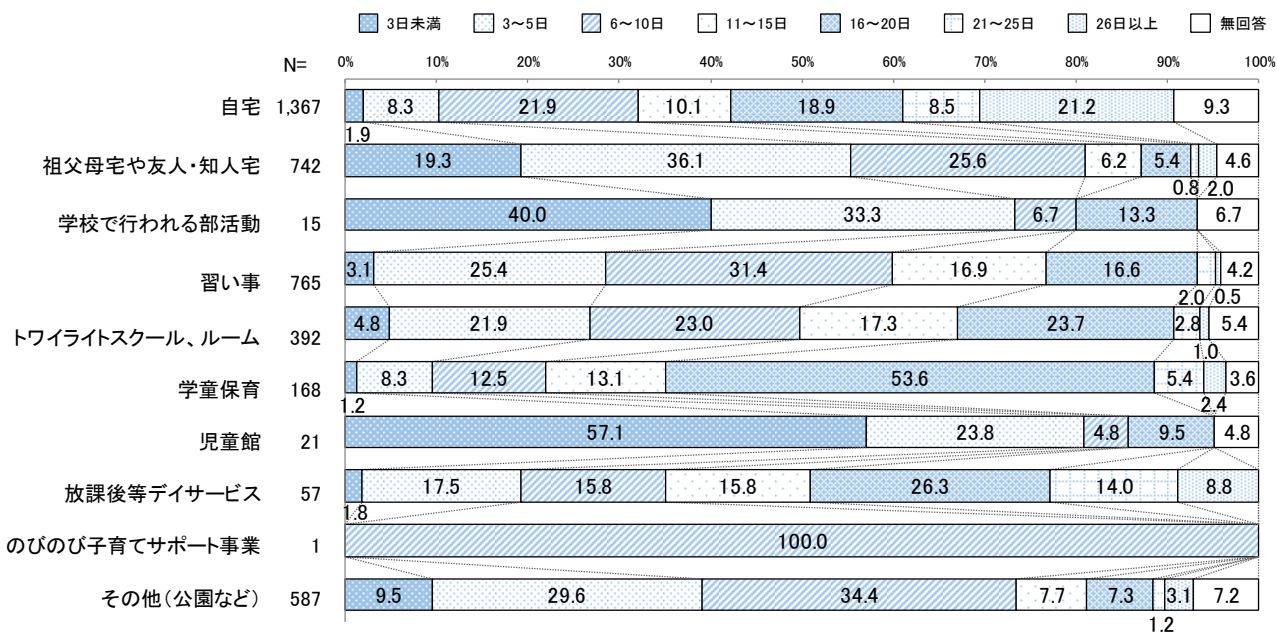
お子さんの長期休業中の過ごし方について 【就学後 問 54】

■あて名のお子さんは、夏休みや冬休みなどの長期休業をどのように過ごしていますか。(複数回答)

◇ 「自宅」が82.8%と最も高く、次いで「習い事」が46.3%となっている。

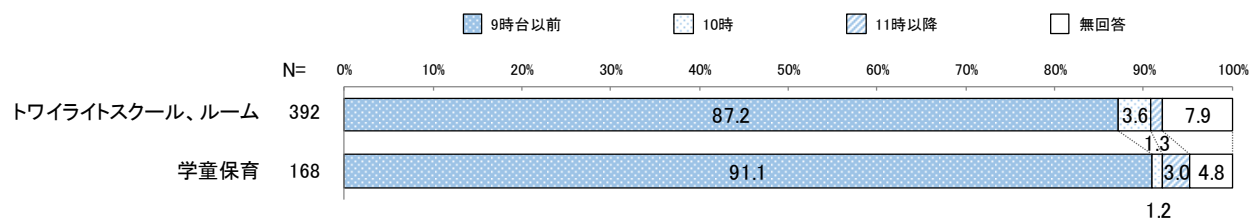


【1 か月あたりの日数】

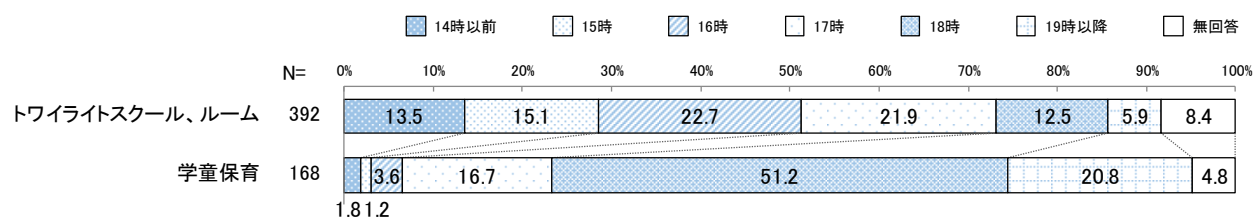


【利用時間】（トワイライトスクール、ルーム、学童保育のみ）

<始まり>



<終わり>



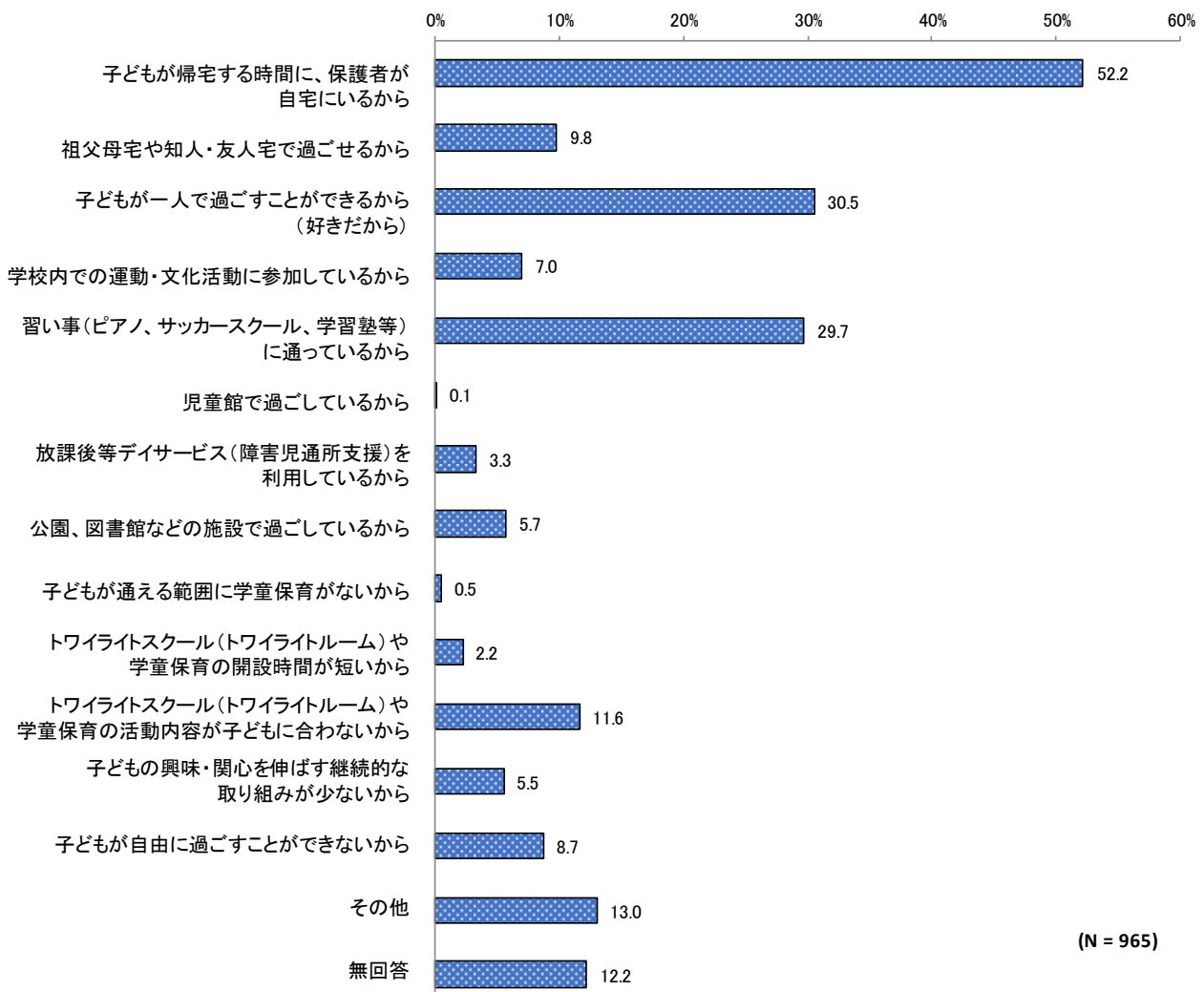
【あて名のお子さんが小学生の保護者のかた】

トワイライトスクール、ルーム・学童保育を利用しない理由について

【就学後 問 55】

■トワイライトスクール、ルームまたは学童保育を現在、利用していない理由は何ですか。（3つまで）

◇ 「子どもが帰宅する時間に、保護者が自宅にいるから」が 52.2%と最も多く、次いで「子どもが一人で過ごすことができるから（好きだから）」が 30.5%となっている。

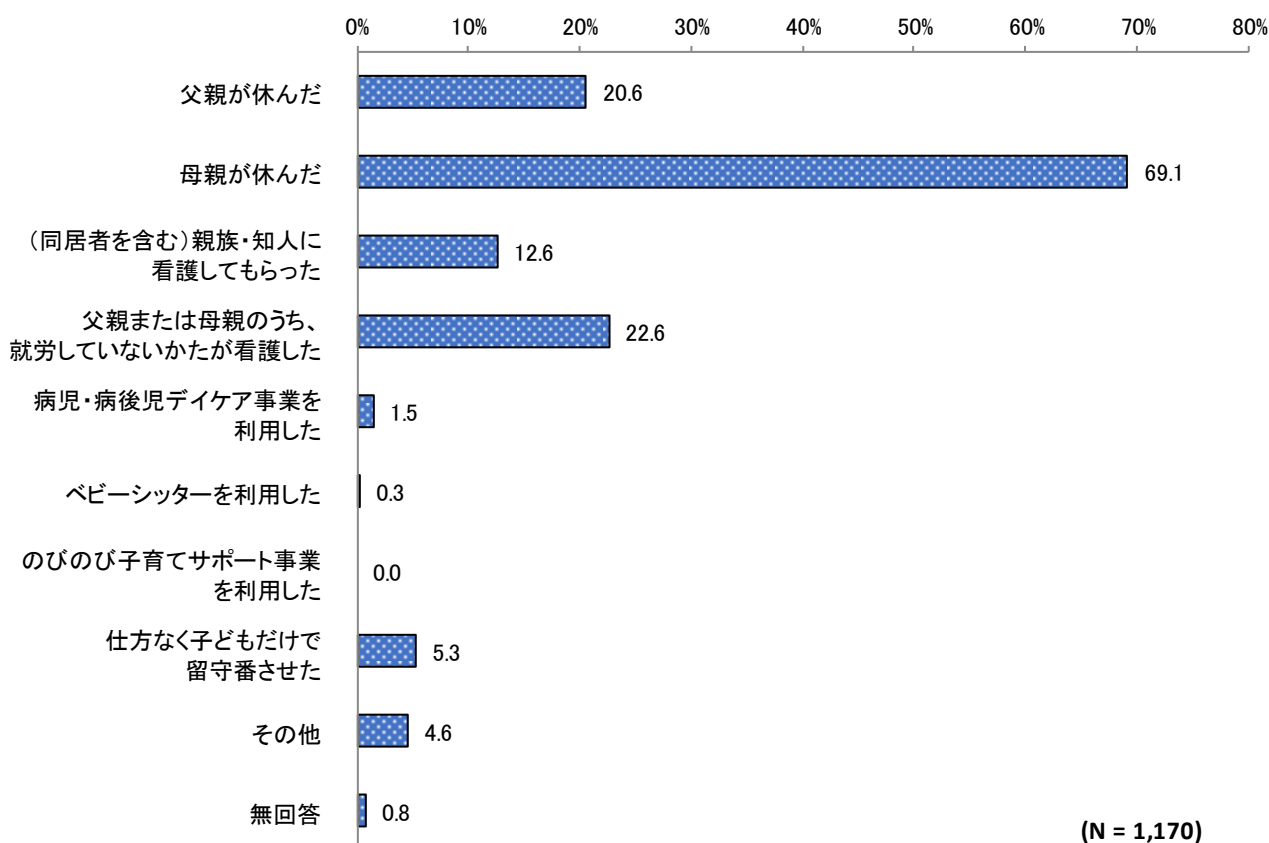


【あて名のお子さんが小学生の保護者のかた】

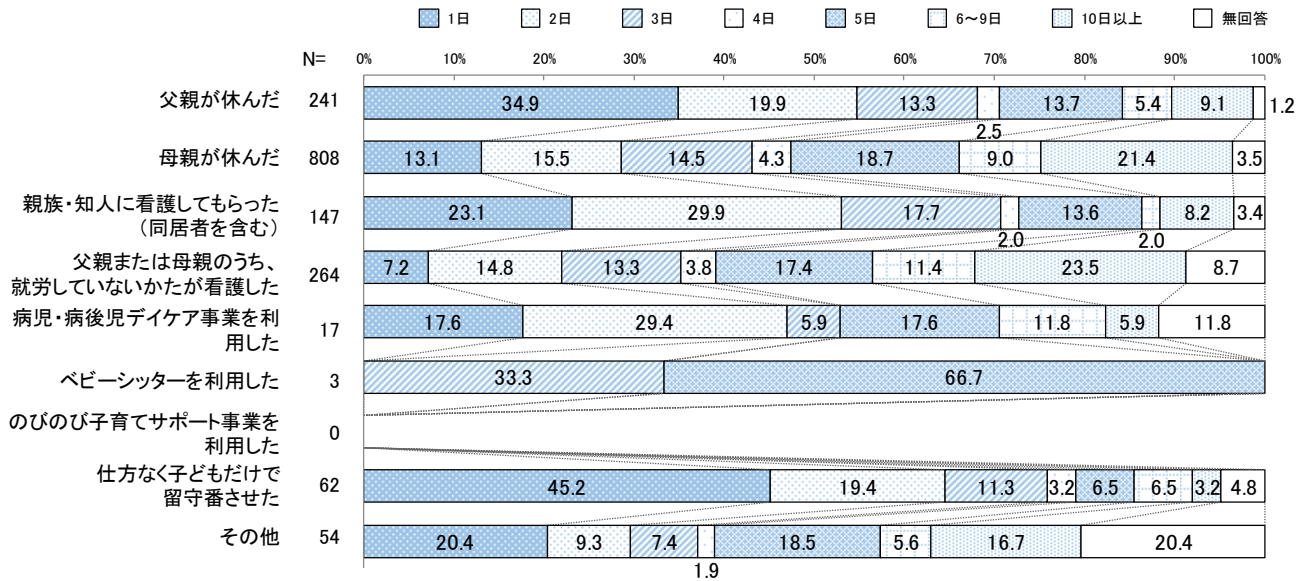
病気やケガ等での休みの対応について 【就学後 問 57】

■この1年間で、あて名のお子さんが病気やケガ等で学校を休まなければならなかった場合、どのように対応しましたか。(複数回答)

◇ 「母親が休んだ」が69.1%と最も多く、次いで「父親または母親のうち、就労していないかたが看護した」が22.6%となっている。



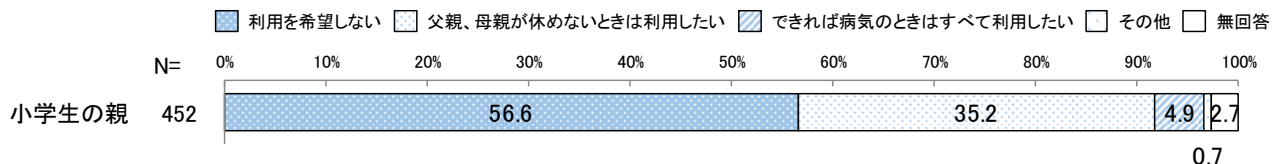
【日数】



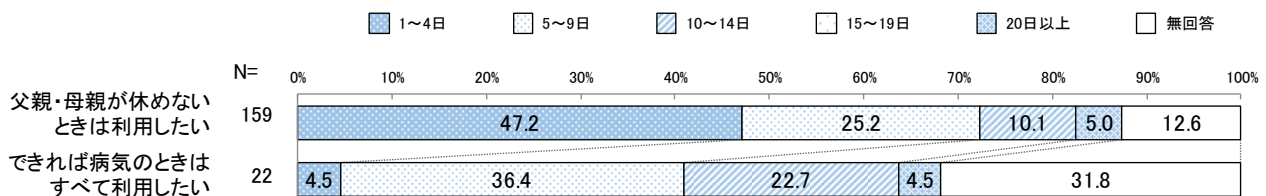
病気やケガ等で休みの場合の保育事業利用希望について 【就学後 問 58】

■あて名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならないときに、できれば病気のお子さんを対象とした保育事業等を利用したいと思いますか。(1つ)

◇ 「利用を希望しない」が 56.6%と最も多く、次いで「父親、母親が休めないときは利用したい」が 35.2%となっている。



【日数】(利用したい場合のみ)



～自由意見～

子ども・子育て支援のあり方や必要だと思われる支援策、環境整備、名古屋市に望むことについてのご意見などを、ご自由にお書きください。

- ◇ 就学前の子の保護者は「経済的負担」についての意見が 25.9%と最も多く、次いで「まちづくり」についての意見が 17.2%であった。
- ◇ 就学後の子の保護者は「経済的負担」についての意見が 27.7%と最も多く、次いで「学校教育」についての意見が 17.5%であった。

表 保護者（就学前・就学後）の意見の概要・件数

	保護者（就学前）		保護者（就学後）	
	件数（件）	構成比（%）	件数（件）	構成比（%）
学校教育	58	3.2	197	17.5
家庭	17	1.0	12	1.1
放課後・子どもの居場所	152	8.5	124	11.0
経済的負担	463	25.9	313	27.7
障害児支援	20	1.1	26	2.3
まちづくり	308	17.2	122	10.8
社会	138	7.7	89	7.9
医療	18	1.1	5	0.4
保育所・幼稚園	213	11.9	25	2.2
子育て支援	164	9.2	57	5.1
行政等	179	9.7	100	8.9
その他	58	3.2	58	5.1
合計	1,788	100.0	1,128	100.0

主な意見は、以下のとおりである。

（１）学校教育（就学前：58件 就学後：197件）

＜就学前＞

- ・小学校ごとの教育の質に差が大きい。
- ・公立中学校への給食導入。
- ・公立小学校が古く、汚い。
- ・小学生がのびのびボール、野球遊びできる場所がないので、校庭開放をしてほしい。

＜就学後＞

- ・不登校の子の居場所作り、進学へ希望の持てない子へのフォロー。制服の自由（制服自体が拒否なため）。居場所作りでは十分な広さを確保し、一人になれる空間も必要。
- ・小・中学生に自転車のヘルメット着用を校則で義務化してほしい。
- ・性教育の拡充。

- ・名古屋の小学校はIT化が遅れていると知った。私がきいたのは大阪のことでしたが、進んでいる地域を参考にどんどん取り入れていってほしいと思いました。

(2) 家庭（就学前：17件 就学後：12件）

<就学前>

- ・父親の帰宅を早くしてほしい。
- ・男性の家事育児についてもっと情報や参加するシステム作りが必要だと感じる。女性の社会進出、仕事との両立は進んでいるのに男性の家事育児スキルは一向に上がらない。社会全体で取り組んでほしい。
- ・出産後のパパママ教室があると良い。子どもの成長時期の特徴などパパの理解がもっと欲しいと思った。

<就学後>

- ・名古屋市の子育ては近くに頼れる親族がいる事を前提にして全てが考えられている。夫すら子育てに頼れない家庭もある事をもっと認識すべき。妻の就労意欲は十分にあるが、子供が病気になった際の預け場所が近くにないので働けない。
- ・子供の授業参観や、急な発熱対応等、平日であつても男性も積極的に子育てに参加する風潮が必要。育児休業だけでなく、子供が大きくなってからも男性に子育てに協力してもらえないと、女性の仕事と子育ての両立は成り立たない。現在の子育て対応はまだまだ女性中心であり、仕事との両立はすごく大変だと感じる。

(3) 放課後・子どもの居場所（就学前：152件 就学後：124件）

<就学前>

- ・小学生が放課後に安心して楽しくすごせる場所の拡充。
- ・小学校のトワイライトを19：00までにしてほしいです。18：00までだと定時に帰っても間に合いません。ぜひお願いします。

<就学後>

- ・子どもの面倒を見てくれる人（教員やデイサービス、学童など）の待遇をよくして質とキャパをあげることで子どもを預けようと思える親もでてきて循環していくと思います。即効性はないので地道な活動、支援が必要でしょう。
- ・子どもが学校へ行けない時期がありました。子も親も苦しかったです。学校以外の居場所が増えるといいです。フリースクールなどは高額なところが多いです。
- ・学区外の子どもでも仲間に入りやすいような取り組みをされているトワイライトや地域活動がもっとあれば助かるのになあと思います。

(4) 経済的負担（就学前：463件 就学後：313件）

＜就学前＞

- ・今の子育て手当、補助金では、子どもを欲しくても増やせば増やしただけ経済的に余裕がなくなるから増やせない。
- ・ひとり親の手当を値上げして下さい。
- ・まわりの環境や家庭の事情にかかわらず、子供が生まれてから義務教育を受ける年齢までは平等に無償の支援（教育、医療、学費など）が必要だと思います。
- ・0～2才の保育料無償化希望。月6万も払っていく生活に苦しかった。
- ・不妊治療の経済的負担、税金、収入が増えたところで税金ばかり上がり子育てにお金がかかり不妊治療までお金がまわらない。名古屋は色々とお金が高すぎる。

＜就学後＞

- ・私立高校の助成が、わずかに収入を上回って受けられないと、不公平に感じる。いっそう収入が少ない方がいいのかと、やるせなくなる。
- ・大学進学希望なので学費の不安が大きいです。
- ・現在最低でも高卒があたり前の時代になっていると思われますので義務教育の中学校までの各種手当枠を高校まで広げた方が良いと思います。
- ・医療費無料はありがたいです。
- ・第三子に対する補助を年の差があってももっと手厚くして欲しい。

(5) 障害児支援（就学前：20件 就学後：26件）

＜就学前＞

- ・施設、保育の現場を含めて、子供の行動が定型発達異常だととても肩身が狭いです。定型発達だと受けられる支援が多いのに、もっと必要とする子供への支援が少なく感じます。
- ・障害がある子供が通いやすい施設が増えるといい。
- ・病気、障害がある子どもの保活は、本当に大変でした。受け入れ先が増えることを願います。又、就学後は長時間の預け先が見つからないと仕事を続けられなくなる可能性が高く、将来的な経済面の不安が出てきます。きょうだいがいるので学童の整備はもちろん、障害児向けの長時間の受け入れ先の整備も望みます。
- ・ASD・ADHD・知的障害・多動症など障害に対する情報が周知されてないと感じます。障害者を持つ親だけでなく、健常児の親や役所全職員にきちんとした知識がもてるようにしてほしいです。

＜就学後＞

- ・軽度知的障害に対する支援の少なさを感じます。
- ・発達障害のグレーゾーンや学校に行きたくない、教室へ入ることができない子供の支援、居場所がもっとできるといいです。また、利用費もお手頃価格にしてもらいたいです。
- ・発達に問題のある子供に対して、支援できる人材を増やしてほしい。学校に話しても対応してくれないので困っている。
- ・障がい児に対してのサポートがかなり受けられて大変感謝しています。絶対に

名古屋から出たくないと思えるほど、多方面のサポートを受けることができます。

(6) まちづくり（就学前：308件 就学後：122件）

<就学前>

- ・歩道がない道路の整備をお願いします。特に飯田街道。車通りが多いのに、歩道がなく危険。
- ・転勤で初めて名古屋へ住んで初の子育てをしています。名古屋駅や他の駅のエレベーターの無いこと、遠いことにびっくりしました。ベビーカーできつく感じました。
- ・公園や地下鉄、公共施設等のトイレをもっときれいに。必要であれば新しくして、子どもから大人まで使いやすくしてほしいです。
- ・夏に公園で遊ばせたいが、遊具が暑すぎて危険。屋根があるといい。無料で遊べる屋内施設（大型遊具有り）が増えてほしい。

<就学後>

- ・歩いていける距離に気軽に遊びにいける広場や公園などをたくさん整備してほしい。
- ・街灯のLED化（夜道が暗い）。
- ・子ども達がボール遊びできる公園が減っていて困っています。
- ・朝、登校時の旗当番など地域でもっと見守っていけることができたらと思う。子育て中は旗当番も大変なので、シルバーさんなどの協力があればありがたい。
- ・不審者情報をよく聞くので、パトロールなどをして子どもが安心して外出できると助かる。歩道をしっかり整備してほしい（線が消えている、草や木が生えている、電柱で通れないなど）。
- ・無料や低価格で、子どもたちが安心して遊ぶことのできる公園、スポーツ施設など、体を動かしたり、遊べる場所、図書館、芸術を楽しく場所など、家と学校以外で子どもたちがスマホ、ゲーム漬けにならず、健全に遊べる場所、成長できる場を作してほしい。

(7) 社会（就学前：138件 就学後：89件）

<就学前>

- ・仕事を続けながらの育児は、そうとう環境にめぐまれていないと難しいと思う。特に正社員は、まだまだ女性が育児という概念が強い。これを取っばらわない限り、女性の負担は増すばかり。自分が産まれ時より女性の負担が増えているように感じます。
- ・仕事を休む際は母親が休む。子どもは、大声出すことも多いが周りが寛容でない。
- ・最低賃金あげて下さい。
- ・子育てをするために会社の就業時間を法的に規定すること。
- ・男性の看護休暇の認知度も上がるとうれしいです。そもそも有休が取りやすければ必要ないですが。

＜就学後＞

- ・看護休暇が未就学児までしかもらえませんが、小学生でも看護は必要なので制度を拡充してほしい。
- ・育休制度をとりやすくするためにも、職場に残って仕事する方たちを支える制度も拡充して欲しい。
- ・子ども関係の職業に従事している方の給料 UP など労働条件の向上が必要だと思います。
- ・子供の有無に関わらず地域全体で子育てをするような社会の構築を望みます。

（８）医療（就学前：18件 就学後：5件）

＜就学前＞

- ・小児科が少ないので増えると助かります。また車を所有していないため通院の際にタクシーを利用しますがタクシーチケットなど補助があると嬉しい。

＜就学後＞

- ・名古屋市の医療無料はよくないと思います。少額でも支払わないとサービスを得ているという気持ちがうすれるし、それに対して病院も「無料だから」と通院をむだに長くすすめている気がします。耳鼻科などで「無料なんだし毎日きなさい」と言われたこともあります。
- ・夜間診療に連れていった時、「子どもを診察できる医師がいない」と受付で言われたことがありました。時間帯なのか、体制なのか、ご事情があるとは思いますが、とても不安になりました。改善してくださると嬉しいです。

（９）保育所・幼稚園（就学前：213件 就学後：25件）

＜就学前＞

- ・日曜日の保育所が欲しい。日曜も普通に仕事なので。
- ・母親が仕事をしていなくても預けれる保育所を増やして欲しいです（下の子を出産して2人育児と家事の両立が大変でした）。身近に頼れる祖父母が高齢のため。
- ・保育士さんの給与を大きくあげて頂きたいです。先生方は日々の仕事に追われてとても大変そうに感じます。保育士さんのゆとりがうまれることで、より良い保育、未来を支える子どもたちの生活が豊かになることと思います。名古屋から全国に、ぜひ発信して下さい！！
- ・自宅に近く、通える所に保育園の空きがない。遠くに行けば空いているが通うには難しく無理。

＜就学後＞

- ・保育園の利用に関する条件を緩和して欲しい。就労以外の理由での利用に厳しすぎる。
- ・一時保育の充実。
- ・子どもを安心して預けられる環境とするためにも、保育士や教員の待遇改善・負担軽減は必須と考える。現在の環境は保育士や教員への負担が大きく、かつ子どもたちの安全や安心にも不安がある。保育士の配置基準の改善、教員の労働時間の改善などへ向けた市からの補助を望む。

(10) 子育て支援（就学前：164 件 就学後：57 件）

<就学前>

- ・乳幼児を連れて気楽に参加できるイベント等がもっとあれば嬉しい。
- ・何度か病児保育を利用しようとしたがほぼ毎回定員に達しており、利用ができません。可能であれば定員が増えるもしくは施設が大きくなればな・・・と思います。
- ・子育てのリフレッシュな時間を設けやすいように、施設の予約がとりやすく、具体的にどのようなことを行っているかを知る機会を増やしてほしいです。
- ・支援センター等が予約なしで気軽に利用できると嬉しい。
- ・親族が遠方の場合、預け先がないことに不安を感じます。働いている方（正社員として）だけでなくもっと様々な働き方に対応できるようにしてほしいです。宜しくお願い致します。
- ・子どもと関わる時間を確保したいので、家事代行が公的サービスとして利用できると嬉しい。

<就学後>

- ・子ども達の将来に、学ぶチャンスやスポーツに取り組む際の土台を平等にチャンスを与えてくれる様な子育て支援を求めます。子ども達の才能は、平等に楽しく努力する権利があると思います。
- ・フルで働きたくても受け皿が少ない。また、施設に預けられたとしても、預け時間が短い。女性に社会進出への意欲があっても現実できていないのが現状なため、対応施設を増やしてほしい。
- ・市が主体となって子供達が発表したり表現したりするイベントなど各方面にアウトプットできるような企画等を発信して欲しいです。
- ・親子で参加できるワークショップ等を増やして欲しい。すべての子供にいろいろな体験をさせてあげたい。

(11) 行政等（就学前：179 件 就学後：100 件）

<就学前>

- ・出産祝金の増額などの一時的な金銭支援ではなく（もちろんそれはそれで嬉しいですが）永続的な支援を考えてくださるととても助かります。
- ・子どもあんしん電話相談について、いつ電話をかけてもつながりません。改善していただけると助かります。
- ・せっかくマイナンバーカード作ったのにコンビニなどで住民票をとれないのを変えてほしい。子づれで役所はキツイ。病院も子供を預けられる場所が増えるといいのに。
- ・ひとり親で不安をかかえている 相談する場所等わかりやすくしてほしい。
- ・市内でも地域により支援に差があるように感じる。難しい面もあると思うが、なるべく統一した状況にしていきたい。
- ・保育施設、学校のデータベースがほしい。特に力を入れていることや行事、年間スケジュールやPTAの活動状況、保護者の評価や口コミなど。地域に知り合いがいないと情報がない。

＜就学後＞

- ・不妊治療をしてから生まれ私達の年齢での子育ては体力的にきびしいです。親の介護もあるため、働くことも難しいです。子育て支援を子育てだけで考えず、色々な状況に対応できる政策をお願いします。
- ・世帯収入で線引きをする経済的支援ばかりではなく、全ての子どもが恩恵を受けられる小中学校の環境整備に税金を使ってほしい。
- ・子供をもっても不安がなく過せるサポートをお願いします。

(12) その他（就学前：58件 就学後：58件）

＜就学前＞

- ・この調査を実施後、どのような意見がありどのような課題が明確になったのか、結果をフィードバックしてください。
- ・子どもが幼い家庭にとって、とても量の多いアンケートだったと思います。
- ・第一子から第三子までの7年間で、保育所が拡充されたり子育てと仕事の両立がしやすくなったり、大きく変化したと感じています。特に要望はありません。
- ・経済的な負担を解決することはもちろんですが、親自身一人の人間として肯定感を持ってないと、子どもを育てたりたくさん産もうとは思わないのかなと思います。結婚が幸せな全てではない時代です。若い世代に結婚やその後の子育て生活に安心感や肯定感がなければ、出産にはつながっていかないと思います。

＜就学後＞

- ・名古屋市はとても住みやすく気に入っています。
- ・このアンケートが多すぎる。
- ・名古屋市は、とても子育てしやすい環境であると思う。